

一般国道9号米子道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 VII

鳥取県西伯郡淀江町

HYAKUTSUKADA I 5

百塚第5遺跡

KONAMI HAZAMADANI I

小波狭間谷遺跡

鳥取県米子市

I ZUMI KAMI KYOUMAE

泉上経前遺跡

1995

財団法人
建設省

鳥取県教育文化財団
倉吉工事事務所

正 誤 表

一般国道9号米子道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ
百塚第5遺跡・小波狭間谷遺跡・泉上経前遺跡

頁	行	誤	正
100	9	柱穴は $\overset{\cdot}{5}$ 個で	柱穴は $\overset{\cdot}{7}$ 個で
118	8	$\overset{\cdot}{C}25$	$\overset{\cdot}{D}22$
118	11	S I 1 $\overset{\cdot}{8}$	S I 1 $\overset{\cdot}{0}$
132	2	$\overset{\cdot}{C}5$	$\overset{\cdot}{D}8$
136	27	$\overset{\cdot}{G}27$	$\overset{\cdot}{E}29$
173	10	埋土は $\overset{\cdot}{7}$ 層に	埋土は $\overset{\cdot}{2}$ 層に
挿表4	SK27	$\overset{\cdot}{C}25$	$\overset{\cdot}{D}22$
挿表4	SK54	$\overset{\cdot}{C}5$	$\overset{\cdot}{D}8$
挿表4	SK66	$\overset{\cdot}{G}27$	$\overset{\cdot}{E}29$

序

鳥取県西部地域の米子市・淀江町周辺は、北に雄大な日本海、南に秀峰大山を控え、美しい自然環境に恵まれた地域であります。さらに、古くから遺跡の宝庫としても知られており、西日本では珍しい縄文時代の櫛が出土した井手勝遺跡、本州では唯一の出土であり九州との関連性が考えられる国重要文化財の「石馬」、切石積石室をもつ国指定史跡の岩屋古墳など古墳時代後期の前方後円墳が集中する向山古墳群、彩色壁画や3基の塔心礎の出土で注目される上淀庵寺跡など、当時の活発な交流を物語る遺物・遺構が数多く存在しております。

当財団では、このような遺跡地帯の一角を平成2年度より一般国道9号米子道路工事に伴い発掘調査を実施してまいりました。平成6年度も鳥取県教育委員会が建設省倉吉工事事務所と協議の上、財団法人鳥取県教育文化財団が委託を受け、西部埋蔵文化財調査事務所が百塚第5遺跡・小波狭間谷遺跡・泉上経前遺跡の発掘調査を実施いたしました。

調査の結果、古墳時代後期を中心とする竪穴住居跡等を多数検出することができ、当時の集落形態の一端をかいまみることができました。特に、竪穴状に掘り込まれた落込みの底面から大量の炭化米が出土したことは、収穫後の米の貯蔵方法を考える上で貴重な資料になるものと思われまふ。これらの資料が今後の調査研究の一助となり、本報告書が多方面にわたって広く活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、今年度は平成2年度より実施してまいりました発掘調査の最終年度に当たります。この数年間の調査に際しまして、多大な御協力をいただきました地元の皆様をはじめ、御指導いただきました方々、その他関係各位に対し心から感謝申し上げます。

平成7年3月

財団法人 鳥取県教育文化財団

理事長 西尾 邑次

序 文

建設省が管理する一般国道9号は、京都市を起点として福知山を経由し、蒲生峠から山陰地方へ入り、日本海に沿って鳥取・島根両県を西走し、山口県下関に至る延長約609kmの路線であり、山陰地方の産業・経済活動の動脈として大きな役割を果たしています。

このうち建設省倉吉工事事務所では、東伯郡泊村から米子市（鳥取・島根県境）までの76.4kmを管理しており、各種の道路整備事業を実施しています。そのうちの一つに西伯郡淀江町及び米子市地内において、将来の国土開発幹線道路として、当面活用できる機能を有する高規格な自動車専用道路である米子道路の整備を進めています。

米子道路は米子市及びその周辺部における一般国道9号の交通混雑を緩和するために計画され、昭和47年から事業に着手し、現在までに米子市尾高～陰田町約8.1km（一部ランプ使用）を供用しています。

現在、西伯郡淀江町今津から米子市赤井手及び米子市陰田町から県境までの間を自動車専用道路として施工中です。

このルートには、多数の古墳・散布地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第57条の3の規定に基づき文化庁長官へ通知した結果、事前に発掘調査を行い記録保存を行うことになりました。

このうち今年度は、「百塚第5遺跡」「泉上経前遺跡」「小波狭間谷遺跡」「尾高所在遺跡」「百塚第7遺跡」の5箇所について財団法人鳥取県教育文化財団と発掘調査委託契約を締結し、鳥取県教育委員会の指導のもとに発掘調査を行いました。

本書は、この調査結果に学術的な考察を加え、「記録」として保存するためにまとめられたものです。この貴重な「記録」が文化財に対する認識と理解を深めるため、並びに教育及び学術研究のために広く活用されることを期待するとともに、建設省の道路事業が文化財保護に深い関心を持ち、記録保存に努力していることを理解いただけることを期待するものであります。

おわりに、事前の協議をはじめ現地での調査から報告書の編集に至るまでご協力をいただいた鳥取県教育委員会及び財団法人鳥取県教育文化財団の関係各位のご尽力に対し感謝いたします。

平成7年3月

建設省 倉吉工事事務所長

濱 谷 武 治

例 言

1. 本報告書は、「一般国道9号米子道路埋蔵文化財発掘調査」に伴い、1994年度に実施された、西伯郡淀江町大字小波字松戸谷に所在する百塚第5遺跡、西伯郡淀江町大字小波字狭間谷に所在する小波狭間谷遺跡、米子市泉字上経前に所在する泉上経前遺跡の埋蔵文化財発掘調査記録である。
2. 発掘調査は、建設省倉吉工事事務所の委託を受け、財団法人鳥取県教育文化財団西部埋蔵文化財調査事務所が行った。
3. 本報告書で使用した方位は真北、標高は海拔標高である。
4. 本報告書に掲載の地形図は、国土地理院発行の5万分の1地形図「米子」の一部、調査区位置図は淀江町発行の5千分の1地形図「淀江町全図」を使用した。
5. 報告書の作成は、調査員、調査補助員の討議に基づいて執筆・編集し、編集担当者は目次に記載した。
挿図のうち、遺構実測は調査員、補助員が行った。
遺構の浄写は鳥取県埋蔵文化財センターおよび西部埋蔵文化財調査事務所、遺物の実測・浄写は鳥取県埋蔵文化財センターで行った。
遺構写真は発掘担当調査員が、遺物写真は原田・谷村が行った。
本書の編集は原田が行った。
6. 出土遺物・図面・スライド等は鳥取県埋蔵文化財センターに保管されており、出土遺物は将来的に淀江町教育委員会、米子市教育委員会に移管する予定である。
7. 古環境研究所に、S I 0 8 出土炭化米の放射性炭素年代測定を依頼した。
8. 現地調査及び報告書作成にあたって、下記の方々に指導助言・協力して頂いた。(五十音順、敬称略)
岩田文章 下岡珠美 下高瑞哉 杉谷愛象 田中千恵子 中原 齊 中山和之 西尾克巳 牧本哲雄
松田 潔 山根武雄

凡 例

- 調査区に10×10mのグリッドを設定した。任意の基準点より南北・東西のラインで10m毎の割り付けを行い、南北ラインをアラビア数字、東西ラインをアルファベットで表し、該当グリッドの北東隅交点を、そのグリッド名とした。
- 本報告書における遺構・遺物の記号は次のように示す。
 SI：竪穴住居跡 SB：掘立柱建物跡 SK：土坑 SX：地下式横穴、竪穴状不明遺構
 SD：溝状遺構 P：ピット
 Po：土器・土製品 S：石器・石製品 F：鉄製品 J：勾玉・双孔円板
- 本報告書における遺構図・遺物実測図は下記の縮尺で掲載した。
 遺構図：1/20、1/40、1/60、1/80、1/200、1/600
 遺物図：1/1、1/2、1/3、1/6
- ピット、土坑の寸法は（長軸×短軸－深さ）cm（m）で表した。
- 遺構挿入図中のセクション・エレベーションの基準線標高は H= の記号で表した。
- 遺構挿入図中で焼土面は 、貼床は 、炭化米は  で表した。
- 土器実測図のうち、須恵器は断面黒塗で、それ以外のは断面白抜きで表した。
- 石器・石製品実測図で研磨面は——、敲打面は-----で示した。
- 土器・土製品観察表中の①～⑧は以下の数値を示す。また、数値後の※は復元値、△は残存値である。
 ①口径 ②器高 ③最大径 ④底部径 ⑤脚径 ⑥長さ ⑦幅 ⑧厚さ
 また、備考欄に記載してある、H-1等の番号は実測者番号であり、遺物に付してある。
- 発掘調査時における遺構番号と本報告書における遺構番号との対比は挿表1の通りである。なお、遺物に記載されてある遺構名は、発掘調査時の遺構名であり、観察表にその取り上げ番号をのせた。遺物には百塚第5遺跡の略号として「HT5」、小波狭間谷遺跡の略号として「KH」、泉上経前遺跡の略号として「IZK」を使用した。

報告書	調査時	報告書	調査時
SI59	SX06	SI61	SX08
SI60	SX07	SI62	SX08

挿表1 遺構番号対照表

目次

序
序文
例言
凡例
目次

第1章 調査の経緯	(原田)	
第1節 発掘調査に至る経緯		1
第2節 発掘調査の経過と方法		1
第3節 調査体制		4
第2章 位置と環境	(谷村)	
第1節 地理的環境		5
第2節 歴史的環境		6
第3章 百塚第5遺跡の調査結果		
第1節 竪穴住居跡	(原田)	12
第2節 掘立柱建物跡	(谷村)	100
第3節 土坑・地下式横穴・竪穴状不明遺構	(原田・谷村・樋口)	106
第4節 溝状遺構	(原田)	141
第5節 ビット群	(谷村)	144
第4章 小波狭間谷遺跡の調査結果	(谷村・樋口)	
第1節 土坑		167
第2節 溝状遺構		168
第3節 ビット		168
第5章 泉上経前遺跡の調査結果	(谷村・樋口)	
第1節 竪穴住居跡		170
第2節 土坑		173
第3節 ビット		174
第6章 まとめ	(原田)	176
付論		
鳥取県百塚第5遺跡出土試料の放射性炭素年代測定結果		179

挿 図 目 次

挿図1	調査区位置図	2	挿図40	SI 2 4 遺物実測図	45
挿図2	百塚第5遺跡・小波狭間谷遺跡・ 泉上経前遺跡位置図	5	挿図41	SI 2 4 P 5 内遺物出土状況図	46・47
挿図3	周辺遺跡分布図	9	挿図42	SI 2 4 遺構図	46・47
挿図4	百塚第5遺跡全体遺構図	10・11	挿図43	SI 2 5～2 9 遺構図(1)	48・49
挿図5	SI 0 1 遺構図	12	挿図44	SI 2 5～2 9 遺構図(2)	50
挿図6	SI 0 1 Po 6・9 出土状況図	13	挿図45	SI 2 5～2 9 遺物実測図	52
挿図7	SI 0 1 遺物実測図	13	挿図46	SI 3 0・3 1 遺物実測図	53
挿図8	SI 0 2 遺物実測図	14	挿図47	SI 3 0・3 1 遺構図	54・55
挿図9	SI 0 2 遺構図	14	挿図48	SI 3 2 遺構図	56・57
挿図10	SI 0 3 遺構図	15	挿図49	SI 3 2 P10内遺物出土状況図	58
挿図11	SI 0 4 遺物実測図	15	挿図50	SI 3 2 遺物実測図	59
挿図12	SI 0 4 遺構図	16	挿図51	SI 3 3 遺構図	59
挿図13	SI 0 5 遺物実測図	17	挿図52	SI 3 3 遺物実測図	60
挿図14	SI 0 5 遺構図	17	挿図53	SI 3 4 遺物実測図	60
挿図15	SI 0 6 遺構図	18	挿図54	SI 3 4 遺構図	61
挿図16	SI 0 7 遺物実測図	18	挿図55	SI 3 5 遺構図	62
挿図17	SI 0 7 遺構図	19	挿図56	SI 3 5 遺物実測図	63
挿図18	SI 0 8 遺構図	20・21	挿図57	SI 3 6 遺物実測図	63
挿図19	SI 0 8 遺物実測図	22	挿図58	SI 3 6 遺構図	64
挿図20	SI 0 9 遺物実測図	23	挿図59	SI 3 7 遺構図	65
挿図21	SI 0 9 遺構図	24・25	挿図60	SI 3 7 遺物実測図	66
挿図22	SI 1 0 遺構図	26	挿図61	SI 3 8 遺物実測図	66
挿図23	SI 1 0 遺物実測図(1)	27	挿図62	SI 3 9 遺構図	67
挿図24	SI 1 0 遺物実測図(2)	28	挿図63	SI 3 8 炭化材出土状況図 および遺構図	68・69
挿図25	SI 1 1 遺物実測図	28	挿図64	SI 4 0 遺構図	70
挿図26	SI 1 1 遺構図	29	挿図65	SI 4 0 遺物実測図	71
挿図27	SI 1 2・1 3 遺物実測図	30	挿図66	SI 4 1・4 2 遺構図	72・73
挿図28	SI 1 2～1 6 遺構図	32・33	挿図67	SI 4 1・4 2 遺物実測図	74
挿図29	SI 1 5・1 6 遺物実測図(1)	34	挿図68	SI 4 3 遺構図	75
挿図30	SI 1 5・1 6 遺物実測図(2)	35	挿図69	SI 4 4 遺構図	76
挿図31	SI 1 7 遺構図	35	挿図70	SI 4 5 遺物実測図	76
挿図32	SI 1 8 遺構図	36	挿図71	SI 4 5 遺構図	77
挿図33	SI 1 7・1 8 遺物実測図	37	挿図72	SI 4 6・5 9・6 0 遺構図	78
挿図34	SI 1 9・2 0 遺構図	38	挿図73	SI 4 7 遺構図	79
挿図35	SI 2 1～2 3 遺構図	40・41	挿図74	SI 4 7 遺物実測図	80
挿図36	SI 2 1 遺物実測図(1)	42	挿図75	SI 4 8 遺構図	81
挿図37	SI 2 1 遺物実測図(2)	43	挿図76	SI 4 8 遺物実測図	82
挿図38	SI 2 2 遺物実測図	44	挿図77	SI 4 9 遺構図	83
挿図39	SI 2 3 遺物実測図	44	挿図78	SI 5 0・5 1 遺構図	84・85

挿図79	SI 5 0 遺物実測図	86	挿図121	SK 2 3 遺構図	117
挿図80	SI 5 1 遺物実測図	86	挿図122	SK 2 4 遺構図	117
挿図81	SI 5 2 遺構図	87	挿図123	SK 2 5 遺構図	118
挿図82	SI 5 3 遺構図	88	挿図124	SK 2 6 遺構図	118
挿図83	SI 5 4 遺物実測図	89	挿図125	SK 2 7 遺構図	118
挿図84	SI 5 4 遺構図	90・91	挿図126	SK 2 8 遺構図	119
挿図85	SI 5 5 遺構図	92	挿図127	SK 2 9 遺構図	119
挿図86	SI 5 6 遺構図	93	挿図128	SK 3 0 遺物実測図	120
挿図87	SI 5 6 遺物実測図	93	挿図129	SK 3 0 遺構図	120
挿図88	SI 5 7 遺構図	94	挿図130	SK 3 1 遺構図	120
挿図89	SI 5 8 遺構図	95	挿図131	SK 3 2 遺構図	121
挿図90	SI 5 9 遺物実測図	96	挿図132	SK 3 3 遺構図	121
挿図91	SI 6 0 遺物実測図	96	挿図133	SK 3 4 遺構図	122
挿図92	SI 6 1・6 2 遺物実測図	97	挿図134	SK 3 5 遺構図	122
挿図93	SI 6 1・6 2 遺構図	98・99	挿図135	SK 3 6 遺構図	123
挿図94	SB 0 1 遺構図	100	挿図136	SK 3 7 遺構図	123
挿図95	SB 0 2 遺構図	101	挿図137	SK 3 8 遺構図	124
挿図96	SB 0 3 遺構図	102	挿図138	SK 3 9 遺構図	124
挿図97	SB 0 5 遺構図	103	挿図139	SK 4 0 遺構図	125
挿図98	SB 0 4 遺構図	104・105	挿図140	SK 4 1 遺構図	125
挿図99	SK 0 1 遺構図	106	挿図141	SK 4 2 遺構図	126
挿図100	SK 0 2 遺構図	106	挿図142	SK 4 3 遺構図	126
挿図101	SK 0 3 遺構図	107	挿図143	SK 4 4 遺構図	127
挿図102	SK 0 4 遺構図	107	挿図144	SK 4 5 遺構図	127
挿図103	SK 0 5 遺構図	108	挿図145	SK 4 6 遺構図	128
挿図104	SK 0 6 遺構図	109	挿図146	SK 4 7 遺構図	128
挿図105	SK 0 7 遺構図	109	挿図147	SK 4 8 遺構図	129
挿図106	SK 0 8 遺構図	110	挿図148	SK 4 9 遺構図	129
挿図107	SK 0 9 遺構図	110	挿図149	SK 5 0 遺構図	130
挿図108	SK 1 0 遺構図	111	挿図150	SK 5 1 遺構図	130
挿図109	SK 1 1 遺構図	111	挿図151	SK 5 2 遺構図	131
挿図110	SK 1 2 遺構図	112	挿図152	SK 5 3 遺構図	131
挿図111	SK 1 3 遺構図	112	挿図153	SK 5 4 遺構図	132
挿図112	SK 1 4 遺構図	113	挿図154	SK 5 5 遺構図	132
挿図113	SK 1 5 遺構図	113	挿図155	SK 5 6・5 7 遺構図	133
挿図114	SK 1 6 遺構図	113	挿図156	SK 5 8 遺構図	133
挿図115	SK 1 7 遺構図	114	挿図157	SK 5 9 遺構図	134
挿図116	SK 1 8 遺構図	114	挿図158	SK 6 0 遺構図	134
挿図117	SK 1 9 遺構図	115	挿図159	SK 6 1 遺物実測図	135
挿図118	SK 2 0 遺構図	115	挿図160	SK 6 1 遺構図	135
挿図119	SK 2 1 遺構図	116	挿図161	SK 6 2 遺構図	135
挿図120	SK 2 2 遺構図	116	挿図162	SK 6 3 遺構図	136

挿図163	SK64遺構図	136
挿図164	SK65遺構図	137
挿図165	SK66遺構図	137
挿図166	SX01遺物実測図	138
挿図167	SX01遺構図	138
挿図168	SX02遺物実測図	139
挿図169	SX03遺物実測図	139
挿図170	SX02遺構図	140
挿図171	SX04遺物実測図	140
挿図172	SX03~05遺構図	141
挿図173	SD01遺構図	142
挿図174	SD01遺物実測図(1)	143
挿図175	SD01遺物実測図(2)	144
挿図176	ピット内遺物実測図	145
挿図177	遺構外遺物実測図(1)	146
挿図178	遺構外遺物実測図(2)	147
挿図179	遺構外遺物実測図(3)	148
挿図180	小波狭間谷遺跡全体遺構図 およびSD01断面図	166

挿図181	SK01遺構図	167
挿図182	SK02遺構図	167
挿図183	SK03遺構図	168
挿図184	SD01・02遺物実測図	168
挿図185	泉上経前遺跡全体遺構図	169
挿図186	SI01遺物実測図	170
挿図187	SI01遺構図	171
挿図188	SI02遺構図	172
挿図189	SI02遺物実測図	172
挿図190	SI03遺構図	173
挿図191	SI03遺物実測図	173
挿図192	SK01遺構図	173
挿図193	SK02遺構図	174
挿図194	SK03遺構図	174
挿図195	百塚第5遺跡時期別 竪穴住居配置図	178

挿 表 目 次

挿表1	遺構番号対照表	凡例
挿表2	百塚第5遺跡竪穴住居跡一覧表	149
挿表3	百塚第5遺跡掘立柱建物跡一覧表	149
挿表4	百塚第5遺跡土坑一覧表	150
挿表5	百塚第5遺跡土器観察表(1)	151
挿表6	百塚第5遺跡土器観察表(2)	152
挿表7	百塚第5遺跡土器観察表(3)	153
挿表8	百塚第5遺跡土器観察表(4)	154
挿表9	百塚第5遺跡土器観察表(5)	155
挿表10	百塚第5遺跡土器観察表(6)	156
挿表11	百塚第5遺跡土器観察表(7)	157
挿表12	百塚第5遺跡土器観察表(8)	158
挿表13	百塚第5遺跡土器観察表(9)	159

挿表14	百塚第5遺跡土器観察表(10)	160
挿表15	百塚第5遺跡土器観察表(11)	161
挿表16	百塚第5遺跡土器観察表(12)	162
挿表17	百塚第5遺跡土器観察表(13)	163
挿表18	百塚第5遺跡土器観察表(14)	164
挿表19	百塚第5遺跡石器・石製品観察表	165
挿表20	百塚第5遺跡・泉上経前遺跡 勾玉・双孔円板・鉄製品観察表	165
挿表21	小波狭間谷遺跡土器観察表	175
挿表22	泉上経前遺跡土器観察表	175

図 版 目 次

百塚第5遺跡

- 図版1 百塚第5遺跡・小波狭間谷遺跡・
泉上経前遺跡調査前(北より)
S I 0 1 Po 6・9出土状況(西より)
S I 0 1完掘状況(南西より)
S I 0 2完掘状況(北より)
- 図版2 S I 0 3完掘状況(北東より)
S I 0 4完掘状況(東より)
S I 0 5完掘状況(西より)
S I 0 6完掘状況(南西より)
- 図版3 S I 0 7完掘状況(北より)
S I 0 8炭化米出土状況(東より)
S I 0 8炭化米出土状況(北より)
S I 0 8炭化米出土状況(西より)
- 図版4 S I 0 8完掘状況(南より)
S I 0 9完掘状況(南西より)
S I 1 1完掘状況(西より)
S I 1 2～1 6検出状況(東より)
- 図版5 S I 1 2完掘状況(北東より)
S I 1 3・1 4完掘状況(東より)
S I 1 5・1 6完掘状況(東より)
S I 1 7完掘状況(北東より)
- 図版6 S I 1 8完掘状況(南東より)
S I 1 9・2 0完掘状況(南より)
S I 2 1～3 1検出状況(南東より)
S I 2 2 J 1出土状況(南より)
- 図版7 S I 2 1・2 2完掘状況(南より)
S I 2 3完掘状況(南より)
S I 2 1～2 3完掘状況(北東より)
S I 2 4検出状況(南より)
- 図版8 S I 2 4 P 5内遺物出土状況(北より)
S I 2 4完掘状況(南西より)
S I 2 5 F 1出土状況(北より)
S I 2 5～2 9完掘状況(南より)
- 図版9 S I 3 0・3 1完掘状況(北西より)
S I 3 2 P 10内遺物出土状況(西より)
S I 3 2完掘状況(東より)
S I 3 3完掘状況(東より)

- 図版10 S I 3 4完掘状況(北より)
S I 3 5完掘状況(南西より)
S I 3 6完掘状況(東より)
S I 3 7完掘状況(西より)
- 図版11 S I 3 8炭化材出土状況(東より)
S I 3 8完掘状況(北より)
S I 3 5・3 7・3 8完掘状況(北より)
S I 3 9完掘状況(南より)
- 図版12 S I 4 0完掘状況(東より)
S I 4 1・4 2完掘状況(北より)
S I 4 3完掘状況(南東より)
S I 4 4完掘状況(東より)
- 図版13 S I 4 5完掘状況(北より)
S I 4 6・5 9・6 0完掘状況(東より)
S I 4 7完掘状況(南東より)
S I 4 8 Po 210出土状況(東より)
- 図版14 S I 4 8・5 8完掘状況(東より)
S I 4 9完掘状況(北西より)
S I 5 0・5 1完掘状況(西より)
S I 5 2完掘状況(南西より)
- 図版15 S I 5 3完掘状況(南西より)
S I 5 4完掘状況(北東より)
S I 5 5完掘状況(南より)
S I 5 6完掘状況(南より)
- 図版16 S I 6 1・6 2完掘状況(南西より)
S B 0 1完掘状況(北より)
S B 0 2完掘状況(北より)
S B 0 3完掘状況(東より)
- 図版17 S B 0 4完掘状況(南西より)
S K 0 1完掘状況(南東より)
S K 0 2完掘状況(南より)
S K 0 3完掘状況(南より)
- 図版18 S K 0 4完掘状況(南より)
S K 0 5完掘状況(南より)
S K 0 6完掘状況(南より)
S K 0 7完掘状況(南より)
- 図版19 S K 0 8完掘状況(南より)
S K 0 9完掘状況(南より)
S K 1 0完掘状況(南西より)
S K 1 1完掘状況(北西より)

- 図版20 SK 1 2 完掘状況 (東より)
SK 1 3 完掘状況 (南より)
SK 1 4 完掘状況 (南東より)
SK 1 5 完掘状況 (北東より)
- 図版21 SK 1 6 完掘状況 (南東より)
SK 1 7 完掘状況 (南東より)
SK 1 8 完掘状況 (北東より)
SK 1 9 完掘状況 (南より)
- 図版22 SK 2 0 完掘状況 (東より)
SK 2 1 完掘状況 (北より)
SK 2 2 完掘状況 (北より)
SK 2 3 完掘状況 (東より)
- 図版23 SK 2 4 完掘状況 (北より)
SK 2 5 完掘状況 (西より)
SK 2 6 完掘状況 (東より)
SK 2 8 完掘状況 (東より)
- 図版24 SK 2 9 完掘状況 (北西より)
SK 3 0 完掘状況 (東より)
SK 3 1 完掘状況 (西より)
SK 3 2 完掘状況 (西より)
- 図版25 SK 3 3 完掘状況 (東より)
SK 3 4 完掘状況 (東より)
SK 3 5 完掘状況 (東より)
SK 3 6 完掘状況 (東より)
- 図版26 SK 3 7 完掘状況 (東より)
SK 3 9 完掘状況 (東より)
SK 4 0 完掘状況 (東より)
SK 4 1 完掘状況 (東より)
- 図版27 SK 4 2 完掘状況 (東より)
SK 4 3 完掘状況 (北東より)
SK 4 4 完掘状況 (東より)
SK 4 5 完掘状況 (西より)
- 図版28 SK 4 6 完掘状況 (北東より)
SK 4 7 完掘状況 (北東より)
SK 4 8 完掘状況 (南西より)
SK 4 9 完掘状況 (西より)
- 図版29 SK 5 0 完掘状況 (南より)
SK 5 1 完掘状況 (南西より)
SK 5 2 完掘状況 (西より)
SK 5 3 完掘状況 (西より)

- 図版30 SK 5 4 完掘状況 (西より)
SK 5 5 完掘状況 (北東より)
SK 5 6 内石出土状況 (西より)
SK 5 6・5 7 完掘状況 (東より)
- 図版31 SK 5 8 完掘状況 (北西より)
SK 5 9 完掘状況 (南より)
SK 6 0 完掘状況 (東より)
SK 6 1 完掘状況 (北より)
- 図版32 SK 6 2 完掘状況 (西より)
SK 6 3 完掘状況 (北より)
SK 6 4 完掘状況 (西より)
SK 6 5 完掘状況 (北より)
- 図版33 SX 0 1 完掘状況 (北東より)
SX 0 2 完掘状況 (北東より)
SX 0 3~0 5 完掘状況 (東より)
SD 0 1 完掘状況 (東より)
- 図版34 百塚第5遺跡調査後 (南上空より)
百塚第5遺跡北部調査後 (上空より)
- 図版35 百塚第5遺跡北部調査後 (上空より)
百塚第5遺跡北部調査後 (上空より)
- 図版36 百塚第5遺跡南部調査後 (上空より)
百塚第5遺跡南部調査後 (上空より)
- 図版37 百塚第5遺跡南部調査後 (上空より)
百塚第5遺跡南部調査後 (上空より)
- 小波狭間谷遺跡・泉上経前遺跡**
- 図版38 SK 0 1 完掘状況 (西より)
SK 0 2 完掘状況 (西より)
SK 0 3 完掘状況 (南より)
SD 0 1 完掘状況 (西より)
- 図版39 SD 0 2 完掘状況 (南西より)
小波狭間谷遺跡調査後 (南西より)
泉上経前遺跡調査前 (南より)
SI 0 1 完掘状況 (北より)
- 図版40 SI 0 2 完掘状況 (北より)
SI 0 3 完掘状況 (西より)
SK 0 1 完掘状況 (北より)
SK 0 2 完掘状況 (西より)

百塚第5遺跡

- 図版41 SI 0 1・0 2・0 4・
0 5・0 7 出土遺物

図版42 SI07~10出土遺物
図版43 SI10・11・15・16出土遺物
図版44 SI15~18・21出土遺物
図版45 SI21・23・24出土遺物
図版46 SI24~33出土遺物
図版47 SI33~38・40・41出土遺物
図版48 SI41・42・45・47・48・
50・51・54出土遺物

図版49 SI54・56・59・60~62、
SK30・61、
SX01~03出土遺物
図版50 SX04、SD01出土遺物
図版51 ビット内、遺構外出土遺物
図版52 石器、鉄器、勾玉、双孔円板、炭化米
図版53 小波狭間谷遺跡・泉上経前遺跡出土遺物

第1章 調査の経緯

第1節 発掘調査に至る経緯

鳥取県西部地域の交通混雑緩和を図るために、一般国道9号米子市道路工事が進められている。この工事のうち、現道9号の淀江町今津から米子市尾高を結ぶルートの計画地内およびその周辺には、古くから条里制が施行された水田地域をはじめ、晩田古墳群・向山古墳群・壺瓶山古墳群・百塚古墳群・尾高古墳群、晩田遺跡・壺瓶山遺跡・百塚遺跡など、数多くの文化財が存在している地域である。

よって道路工事に先立ち、淀江町教育委員会、大山町教育委員会と米子市教育委員会が、計画地内の試掘調査を行った。その結果、計画地内に遺跡が分布していることが確認された。

このことを受けて、建設省中国地方局倉吉工事事務所は、鳥取県教育委員会文化課と協議し、財団法人鳥取県教育文化財団に記録保存のための事前調査を委託した。これにより、西部埋蔵文化財調査事務所が担当し、平成2年度から発掘調査を開始している。当事務所では現在までに、淀江町内の福岡遺跡・井手勝遺跡・今津塚田遺跡・大下畑遺跡、米子市内の尾高御建山遺跡の一部、泉中峰・泉前田遺跡の調査を終了しており、平成6年度は淀江町内の百塚第5遺跡・百塚第7遺跡（8区）・小波狭間谷遺跡、米子市内の泉上経前遺跡・尾高御建山遺跡の調査を実施した。

百塚第5遺跡については、散布地として知られており、また、その周辺に存在する百塚第1遺跡、百塚第4遺跡、百塚第6遺跡などが知られていることから、遺跡が存在することが推定されていた。その後、淀江町教育委員会が米子市道路の路線決定を受けて、昭和63年度に行った試掘調査により、竪穴住居跡、土坑、溝状遺構などが確認された。また、小波狭間谷遺跡は周囲の状況から遺跡の存在が推定されていた。

泉上経前遺跡についても米子市教育委員会が平成元年度に行った試掘調査によりピットが確認された。

以上のことから当事務所では、本年度の4月から百塚第5遺跡10,689㎡、11月から小波狭間谷遺跡297㎡、泉上経前遺跡613㎡の発掘調査を開始した。

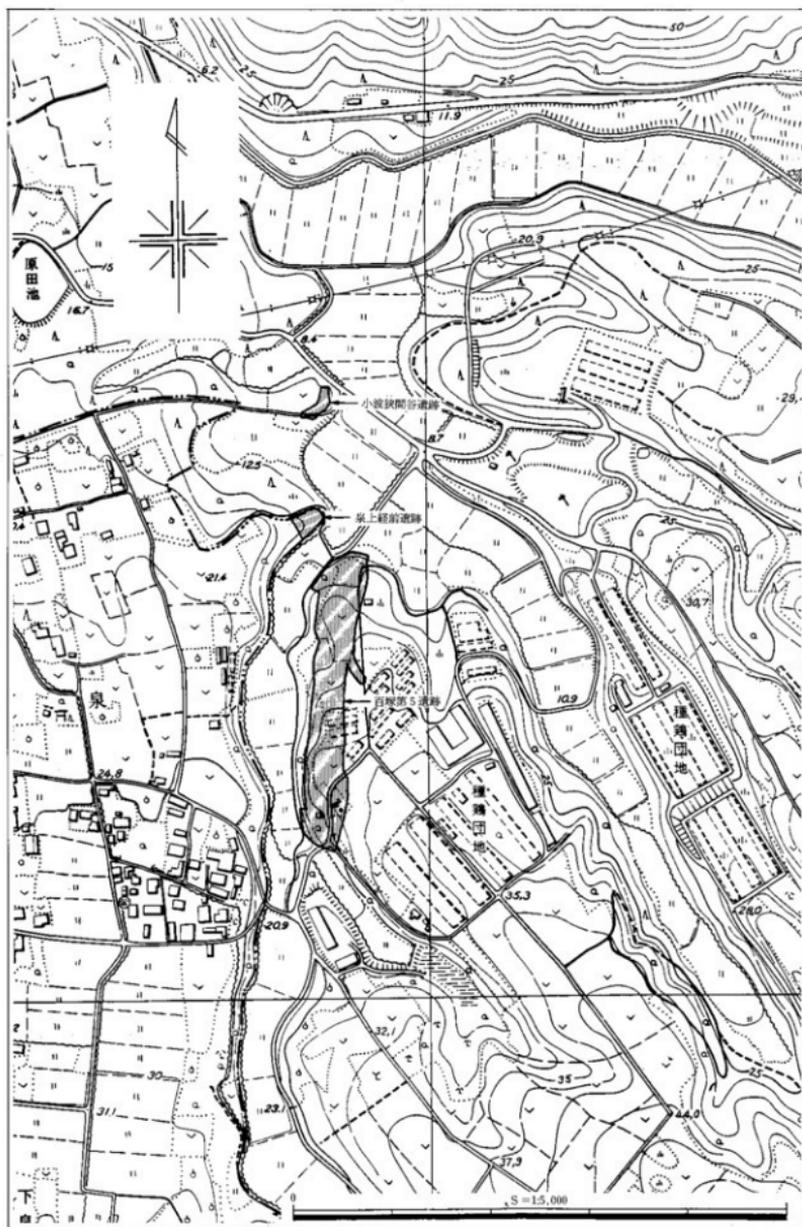
参考文献

1. 『淀江町内遺跡発掘調査報告書』 淀江町教育委員会 1989年
2. 『大山町内遺跡発掘調査報告書』 大山町教育委員会 1990年
3. 『米子市内遺跡発掘調査報告書』 米子市教育委員会 1990年
4. 『米子市内遺跡発掘調査報告書』 米子市教育委員会 1991年
5. 『米子市内遺跡発掘調査報告書』 米子市教育委員会 1992年

第2節 発掘調査の経過と方法

百塚第5遺跡の現地での調査は4月5日から調査準備にかかり、調査地の現況実測、写真撮影を行った。調査地内には、鶏糞場につながる道路が存在しており、道路下にも遺構が依存していることが考えられた。よって、迂回道路を設ける必要があるため、調査地南東部分を先行して調査することとした。また、調査地が南北に長いので廃土搬出を考慮して、まず調査地北側半分の表土削ぎを行い、廃土を調査区外へ搬出し、調査を行った後、南側半分の表土および廃土は、北側調査地の調査終了箇所へ搬出することとした。

調査は4月11日より開始した。まず、試掘調査段階でも地形にかなりの落込みがみられた。調査地中央部やや北よりの谷地形を呈する部分について、谷部の広がり、深さを確認するため、また、調査地西側の急傾斜地およびかなりの削平が予想された調査地北端での遺構の存在を確認するためのトレンチをそれぞれ設定し掘り下げた。その結果、調査地を南北に大きく二分するように幅、深さともに規模の大きな谷地形が存在し、その理土に



挿図1 調査区位置図

は周辺を造成した際のものと考えられる土砂に混在する形で、遺物が含まれていること。西側急傾斜地南側には遺構が存在しないこと。調査地北端では削平されているものの、遺構が依存することがそれぞれ確認された。

トレンチの結果をふまえて、当初計画通り、谷部以北の部分で4月18日より重機による表土剥ぎを開始し、廃土をキャリアダンプにより搬出した。また、これと並行する形で、南東部分の表土剥ぎを人力で行い、調査は6月7日に終了した。調査地北側部分は、谷部からの廃土量が当初計画より大幅に増え、キャリアダンプのみでの搬出が困難となったため、ダンプカーでの廃土搬出に切り換えた。調査地北側部分は7月13日に表土剥ぎを終了し、遺構検出がほぼ終了した7月25日より調査後地形測量を業者委託により開始した。また、7月26日に空撮を行った。調査地南側は7月28日より重機による表土剥ぎを開始し、廃土はキャリアダンプにより、調査の終了した北側谷部を埋め戻す形で行った。調査地南側の表土剥ぎは8月31日に終了した。その後、ほぼ調査の終了した11月15日より調査後地形測量を業者委託により開始し、現地での調査は11月30日をもって終了した。また、調査地全体の空撮を12月1日に行った。

小波狭間谷遺跡、泉上経前遺跡については、11月9日より、泉上経前遺跡の表土剥ぎを重機により開始し、それに引き続いて11月11日より小波狭間谷遺跡の表土剥ぎを開始した。現地での調査は小波狭間谷遺跡は11月25日、泉上経前遺跡は11月30日をもってすべて終了した。

なお、今回の調査で主に百塚第5遺跡においては、遺構・遺物の実測、取り上げに、トータルシステム（遺跡調査システムSITE II）を用いた。この際に基準となる点（基準杭1）（X：-62787.794 Y：-83117.005）から、任意の杭を増設した。また、調査区内における遺構・遺物の位置関係を把握するために、基準杭1をB7杭として、国土座標第V系に対応する10×10mのメッシュを割付け、グリッドを図面上に設定した。グリッド名は、南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットで表し、北東隅交点をグリッド名とした。

調査日誌(抄)

4月11日	発掘調査開始	10月3日	SX02完掘写真
4月18日	百塚第5遺跡表土剥ぎ開始	10月7日	SI41~44掘り下げ
5月6日	E・F8・9グリッド地形測量	11月9日	泉上経前遺跡表土剥ぎ開始
5月10日	SI01・02掘り下げ	11月11日	小波狭間谷遺跡表土剥ぎ開始
5月31日	SI08内炭化米検出	11月12日	百塚第5遺跡現地説明会(約40名参加)
6月10日	SI09検出状況写真	11月16日	泉上経前遺跡SI01掘り下げ
7月11日	SI21~23掘り下げ	11月17日	小波狭間谷遺跡SD01掘り下げ
7月26日	百塚第5遺跡北部空撮	11月25日	小波狭間谷遺跡調査終了
8月11日	SI12~20完掘写真	11月30日	百塚第5遺跡・泉上経前遺跡調査終了
9月22日	SI25~34完掘写真	12月1日	百塚第5遺跡南部空撮

第3節 調査体制

調査主体 財団法人鳥取県教育文化財団

理事長 西尾 邑 次 (鳥取県知事)
 副理事長兼常務理事 入 江 圭 司
 事務局長 若 松 良 雄

財団法人鳥取県教育文化財団 鳥取県埋蔵文化財センター

所 長 大 和 谷 朝 (鳥取県教育委員会文化課長)
 次 長 八 木 谷 昇

庶務係

係 長 梅 山 昭 美 (鳥取県埋蔵文化財センター庶務係長)
 主任事務職員 木 下 利 雄
 事 務 嶋 村 八重子

調査指導係

係 長 田 中 弘 道 (鳥取県埋蔵文化財センター次長)
 文化財主事 久 保 穰二朗 (// 職員)
 // 長 岡 充 展 (// //)
 // 山 桥 雅 美 (// //)

調査担当 財団法人鳥取県教育文化財団 西部埋蔵文化財調査事務所

所 長 松 尾 忠 一
 主任調査員 原 田 雅 弘
 調 査 員 谷 村 憲 一 山 田 真 一
 仲 田 信 一 家 塚 英 詞
 鬼 頭 紀 子
 調査補助員 樋 口 友 枝

調査指導 鳥取県埋蔵文化財センター

調査協力 淀江町 淀江町教育委員会 米子市 米子市教育委員会

発掘作業参加者 (五十音順)

安藤絹恵、石倉信夫、石倉信子、出雲寛治、井上一夫、岩本美保子、大原豊、門脇寿子、門脇美枝子、金田千枝子、金田玲子、川中悦子、越田民代、阪本淳一郎、塩谷公、杉原政子、陶山幸子、陶山静恵、陶山幸子、瀬尾昌子、関とし子、田中喜久枝、田原恭吉、谷ミサ江、徳永蓉子、鳥糞和夫、仲田弘、中原治子、中原八千代、菊永治、菊寿子、野口若江、野口東衛、野口美栄、橋本春子、橋井静恵、花房幸子、原田純子、吹野雪乃、藤村博文、前田ぎん、前田進、前田美代子、松田とし子、松山岩水、澳縫子、村岡美津子、山内玉江、山下章一、山下嬉志子、山本たつ子、山名佐智子、吉原三代子

整理作業参加者 (五十音順)

石橋公子、稲垣美智恵、植木恵子、表明美、金川知恵、狩野仁女、黒見まゆみ、小山菜穂子、佐竹裕子、左藤博、塩谷和子、清水房子、武永裕美、田中和子、田中園子、中原千恵、南條孝子、西村薫子、野崎悦子、福田弥千代、松岡朋子、松本みどり、山添美喜、山本清子、山本久美恵、山本博子、米澤しのぶ、米山麻紀

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

鳥取県

鳥取県は本州の西部、中国地方の北東部に位置し、北は日本海、東は兵庫県、西は島根県、南は岡山県、広島県と接する。中国地方は標高1200mを超える中国山地を境として、日本海に面する山陰地方と、瀬戸内海に面する山陽地方に分けられる。両者の違いは特に冬に顕著である。冬でも比較的晴れて温暖な山陽地方に対して、山陰地方では曇り空が続き雪がかなり積もる。鳥取県はこのような山陰地方に属している。鳥取県は、古代東部は因幡国（現在の鳥取市・気高郡・八頭郡・岩美郡）、西部は伯耆国（現在の倉吉市・東伯郡・西伯郡・米子市・境港市・日野郡）の二国に分かれていた。現在は、鳥取市を中心とする東部、倉吉市を中心とする中部、米子市・境港市などからなる西部に分けられる。各地域とも地勢は山がちで、林野が県総面積の80%近くを占める。それぞれの地域には、千代川（東部）、天神川（中部）、日野川（西部）の泉下を代表する河川が流れ、その下流域には、鳥取平野（東部）、倉吉・北条・羽合平野（中部）、米子平野（西部）が発達している。また各平野の海岸線には、全国的にも有名な鳥取砂丘をはじめとして、河川によって運ばれた多量の砂により大小の砂丘・砂州が発達している。

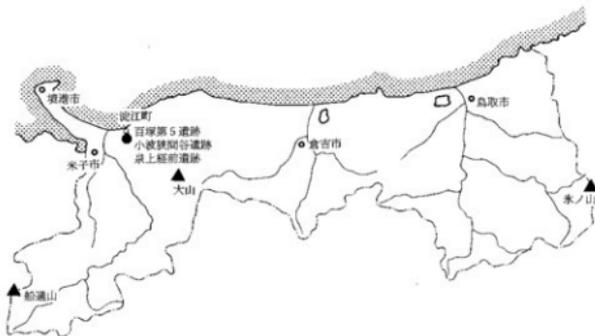
現在、鳥取県は4市を含めた39市町村により構成されており、人口615,660人（平成6年12月1日現在）、東西126km、南北61.85km、面積3506.96km²である。

淀江町

淀江町は、中国山地最高峰を誇る大山（標高1,711m）の北西麓に広がる淀江平野を中心とした日本海に面した町であり、東を大山町、西を米子市に接している。地形を見ると大山町との境界に孝霊山（標高751.4m）、町西部の平野中に壺瓶山（標高113.7m）があり、宇田川水系の作用によりこれらの山麓には段丘が発達している。また、環境庁名水100選に指定された「天の真名井」、因伯の名水「本宮の泉」などの天然の湧き水が豊富なことも淀江町の特徴のひとつになっている。淀江町は、人口9,230人（平成6年12月1日現在）、東西8.2km、南北6.1km、面積25.74km²である。

米子市

米子市は、鳥取県の西部に位置している。地形は、中国山地より流れて日野川によって形成された米子平野、日野川と合流する法勝寺川流域に形成された法勝寺平野などの沖積平野が基本となっているが、東方には大山から続く台地状の山麓が広がっている。海岸部は、弓ヶ浜半島の



挿図2 百塚第5遺跡・小波狭間谷遺跡・泉上経前遺跡位置図

ような砂州が広がり、特徴ある地形を形作っている。米子市は、人口133,607人（平成6年12月1日現在）、面積99.46km²である。

百塚第5遺跡・小波狭間谷遺跡・泉上経前遺跡

百塚第5遺跡は淀江町小波字泉原、小波狭間谷遺跡は淀江町小波字狭間谷、泉上経前遺跡は米子市泉上経前にある。これらの3遺跡とも、米子市と淀江町の境界近くに位置し、大山の山麓から淀江町に向けてのびる台地が米子平野と接する地点にある。地形的には尾根上に位置し、緩やかな斜面を成している。標高は、百塚第5遺跡は15～28m、小波狭間谷遺跡は9～10m、泉上経前遺跡は13～14mを測る。付近には、弥生時代から古墳時代にかけての集落跡や古墳など多数の遺跡が見られる。

第2節 歴史的環境

旧石器 大山山麓一帯を中心としていくつかの旧石器が発見されている。泉中峰遺跡出土のナイフ形石器、**時代** 淀江町小波出土の東山・杉久保型系統の黒曜石製ナイフ形石器、溝口町長山第1遺跡出土の細石刃（マイクロ・ブレイド）などが発見されている。旧石器時代～縄文時代草創期とされる有舌尖頭器は、黒曜石製が淀江町中西尾から、サヌカイト製のものが米子市奈喜良遺跡、会見町諸木遺跡、岸本町貝田原遺跡をはじめ大山町の坊領や荘田地区、名和町の東坪、門前などでも発見されている。しかし、米子市、淀江町に限らず、鳥取県内には旧石器時代の遺構とされるものは発見されていない。

縄文時代 鳥取県内から草創期の土器は発見されていない。しかし、大山山麓で有舌尖頭器が出土していることを考えると、今後この時代の遺構・遺物が発見される可能性も高いであろう。

早期のものは、大山山麓を中心に押型文土器を伴う遺跡が発見されている。米子市の上福万遺跡では多くの土坑や配石墓と考えられる集石が発見されている。土器や石器もたくさん見つかり、早期の拠点的な遺跡となっている。当遺跡に近接する尾高御建山遺跡からも若干の押型文土器が出土している。

前期になると遺跡も増えてくる。前期から中期を中心とする米子市の目久美遺跡からはドングリを蓄えた貯蔵穴がたくさん検出されている。陰田遺跡からは人為的な痕跡の残るたくさんの獣骨が見つかり、淀江町の魁ヶ口遺跡¹⁾からは、爪形文土器、条痕文土器、九州の特徴的な曾畑式土器に類似するものなどが検出されており注目される。

中期に新たに始まる遺跡は、米子市、淀江町ともに見つかっていない。

後期から晩期のものとしては、200基以上の落し穴が発見された米子市の青木遺跡がある。また、淀江町の河原田遺跡からは、磨消縄文土器、沈線文土器、無文土器などがたくさん検出された。井手勝遺跡²⁾では、河川跡から西日本では珍しい朱漆塗りの結縷式節や木胎瓦栓が出土し注目される。

弥生時代 弥生時代の遺跡は、縄文時代の遺跡に比べると確認されているものが多い。

前期の遺跡には、米子市の目久美遺跡、口陰田遺跡、勝田遺跡や淀江町の今津岸の上遺跡³⁾などがある。目久美遺跡は、前期から中期にかけての低湿地遺跡であり、3層の水田跡と多くの木製農具が見つかった。今津岸の上遺跡は、長径約135mと推定されるV字状の環濠をもつ集落跡であり、弥生時代の集落形成を知る上での貴重な遺跡である。

中期の遺跡には、米子市の青木遺跡、福市遺跡、淀江町の晩田遺跡、角田遺跡⁴⁾、福岡遺跡などがある。青木遺跡、福市遺跡は後期以降も続く大規模集落跡である。角田遺跡では、太陽、舟、舟を漕ぐ人、建物2棟、樹木、鹿が描かれた線刻絵画土器が出土した。福岡遺跡では200基以上の粘土探掘坑が見つかった。

後期のものは、米子市の池ノ内遺跡、陰田第1遺跡、尾高浅山遺跡、淀江町の井手扶遺跡、坂ノ上遺跡などがある。池ノ内遺跡では古墳時代後期までの5面の水田層が見つかった。尾高浅山遺跡は、

一部3重の環濠がめぐる集落と四隅突出型墳丘墓が近接して存在する遺跡である。尾高浅山遺跡の近くには、四隅突出型墳丘墓を含む弥生から古墳時代にかけての墳墓群が出土した日下遺跡がある。井手挾遺跡、坂ノ上遺跡は集落跡である。

古墳時代 米子市、淀江町における前期古墳の様相は明確でない。

前期古墳は、米子市では石州府29号墳、日原6号墳などが存在する。数多く存在する方墳は前期のものが多いと考えられており、特徴的である。淀江町内では前期古墳は見つかっていない。

中期のものは、米子市の陸田41号墳、宗像41号墳などが知られている。淀江町では、中期後半の古墳として、上ノ山古墳、向山3号墳が知られているが、近年の発掘調査により井手挾3号墳もこの時期に属することが確認されている。この井手挾3号墳からは、円筒埴輪、形象埴輪が多数出土しており、なかでも形象埴輪の「盾持人」の出土例は西日本では比較的少なく、一括出土については群馬県の保羅田第3遺跡においてのみとされている。後期になると、多くの群集墳が形成される。米子市の尾高古墳群、石州府古墳群、東宗像古墳群、宗像古墳群などの群集墳が米子平野を取り囲むように、淀江町の中岡古墳群、百塚古墳群、向山古墳群などが淀江平野を取り囲むように形成され、向山4号墳、長者ヶ平古墳、岩屋古墳、小枝山12号墳、石馬谷古墳といった大型前方後円墳が築かれている。向山古墳群は独立丘陵上にあり前方後円墳8基と方墳1基からなり、このうち、岩屋古墳は切石積の横穴式石室をもち、人物や水鳥などの形象埴輪が出土した。長者ヶ平古墳⁹⁾は割石小口積みで両袖式を呈し全長10.3mの横穴式石室をもつ。付随する箱式石棺からは県内唯一の金銅製冠が出土している。これらの古墳は6～7世紀にかけて築かれたとされている。

石馬谷古墳出土といわれている石馬は本州で唯一の類例であり、福岡県の岩戸山古墳例との関連性が考えられているものである。終末期の晩田山31号墳では舟形の線刻がある卵石が発見された。

古墳時代の集落跡としては、弥生時代後期から古墳時代前期にわたる百塚第1遺跡¹⁰⁾、井手挾遺跡があり、中期には百塚第1遺跡、百塚第4遺跡、百塚第5遺跡、百塚第6遺跡がある。この時期の百塚第1遺跡は、堅穴住居間に掘立柱建物をもつ集落であることが発掘調査により確認されている。また、後期には、福岡遺跡、百塚第1遺跡、百塚第4遺跡、百塚第5遺跡等がある。

歴史時代 律令制の施行により、現在の鳥取県域は、西側の伯耆国と東側の因幡国という二つの国に編み込まれる。伯耆国は6郡よりなるが、現在の米子市、淀江町は会見郡から汗入郡にかけて該当する。会見郡衙は、圃場整備にともなって調査が行われ、掘立柱建物と焼米が見つかった岸本町の長者屋敷遺跡であろうと考えられている。汗入郡の郡衙と思われる遺跡は見つかっていない。

白鳳時代になると、寺院の建立が始まる。代表する遺跡としては上淀庵寺¹¹⁾をあげることができる。上淀庵寺からは、最近の調査により彩色壁画片が出土した。白鳳期彩色仏教壁画は法隆寺金堂壁画に次いで2例目であり、発掘調査によって出土したのは初めてである。さらに、伽藍配置では南北に瓦積基壇が近接して2塔並び、その北側には基壇はないがもう一つの心礎が見つかり、三つの塔心礎が南北に並ぶ特異な伽藍配置をしていたことが明らかとなった。上淀庵寺の北側には楚配遺跡¹²⁾が存在する。この遺跡は鍛冶場跡と考えられているが、布目瓦、鶺尾瓦、彩釉陶器、石帯などの破片が出土しており、上淀庵寺との関係が注目されている。

中世城館としては、米子市尾高城、河岡城、淀江町小波城、淀江城、稻吉城、香原山城などが文献に現れる。米子市尾高地域は、山陰道と山陽道に抜ける日野道との分岐点に位置し、伯耆西部の交通・流通の要衝であったため、尾高城の争奪をかけて尼子・毛利両氏が幾度も激戦を繰り広げた。尾高城は、大山山麓の入り組んだ谷と丘陵を巧みに利用し、空堀と土塁で守られた八つの主要な郭を連ねる構造である。これに対し、淀江町内にあったとされる城とは碧のようなものであったと考えられているが、未だ正確な位置は特定されておらず不明点が多い。しかし、1333年の後醍醐天皇の隠岐脱出に関連する名和長年と隠岐守護佐々木清高による小波城の攻防戦をはじめとして、「大永の

五月崩れ」として知られる1524年の尼子経久の伯耆への侵入に際しては山名氏方であった淀江城が陥落、1569年には尼子氏と毛利氏による淀江城・稲吉城を巡っての争いなどが起こったことなどが文献に残されている。

江戸時代になると、吉川広家によって築城が始められていた米子城を中村一忠が完成させ、1601年、米子城に中村一忠が移ると尾高城は廃城となる。その後、米子城は鳥取藩の支城として存続したが、明治になって廃城となった。

本地域周辺は、明治9年に鳥根県に編入されたが、明治14年に再編入されて現在に至っている。

註

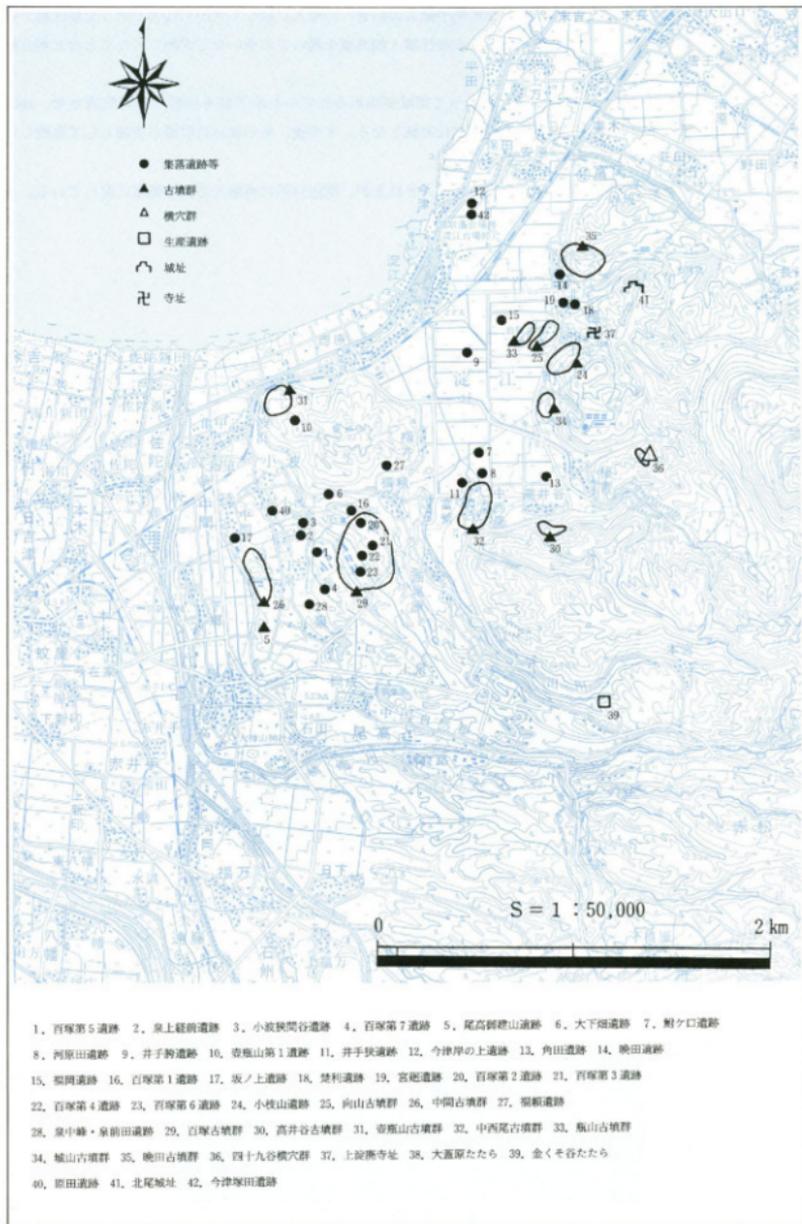
- (1) 『宇田川』 淀江町教育委員会 1981年
- (2) 『井手跡遺跡』 鳥取県教育文化財団 1993年
- (3) 『淀江町内発掘調査報告書Ⅱ』 淀江町教育委員会 1990年
- (4) 『向山古墳群』 淀江町教育委員会 1990年
- (5) 『百塚53・105・106・107号墳、百塚第1遺跡、原田遺跡発掘調査報告書』 淀江町教育委員会 1981年
- (6) 『上淀席寺Ⅲ』 淀江町教育委員会 1993年



写真1 現地説明会風景



写真2 発掘調査参加者



挿図3 周辺遺跡分布図

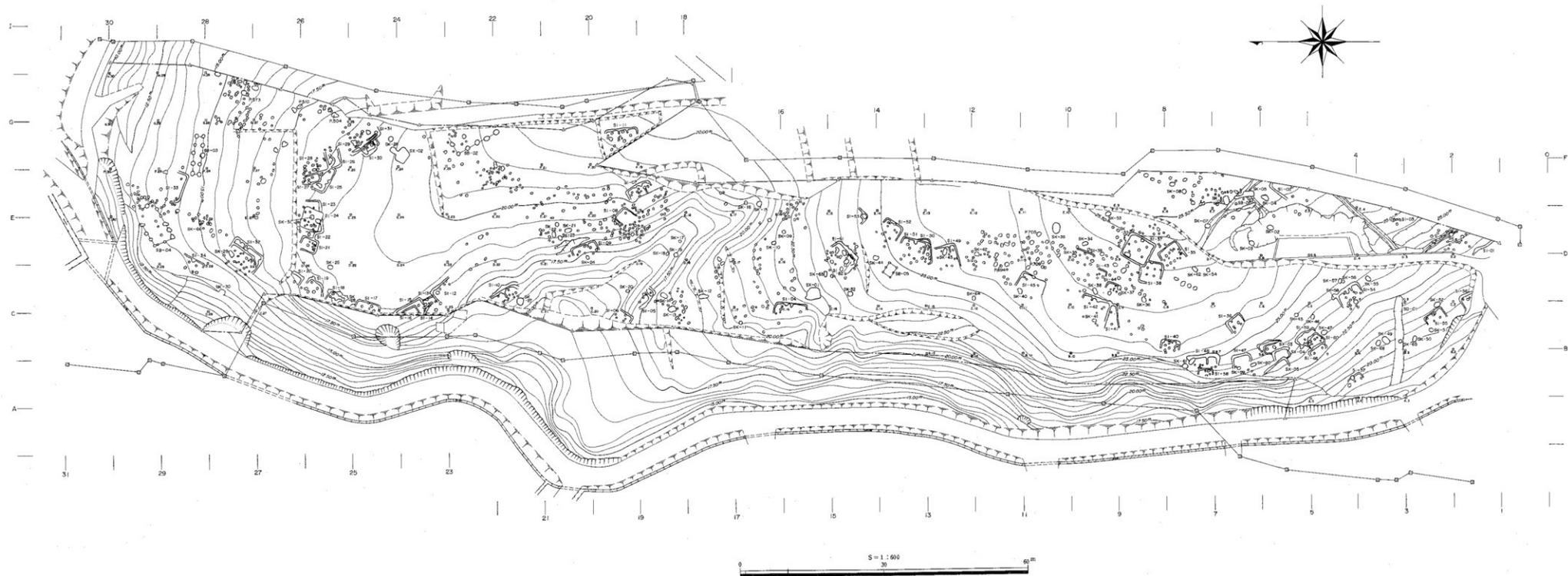


插图4 百塚第5遺跡全体遺構図

第3章 百塚第5遺跡の調査結果

今回の調査では、竪穴住居跡62棟、掘立柱建物跡5棟、土坑66基、地下式横穴1基、竪穴状落込み4基、溝状遺構1条、ピット群を検出した。ここでは各遺構ごとに調査の結果を述べることにする。

第1節 竪穴住居跡

S101 (挿図5、6、7・図版1、41)

位置 E2グリッドにあり、標高23m付近に位置する。

形態 南東は調査区域外となり、西側のほとんどの部分は道路により削平されていたため、わずかしか検出できなかった。

検出できた規模は南北約5.5m、東西約2.3mである。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大58cmを測る。

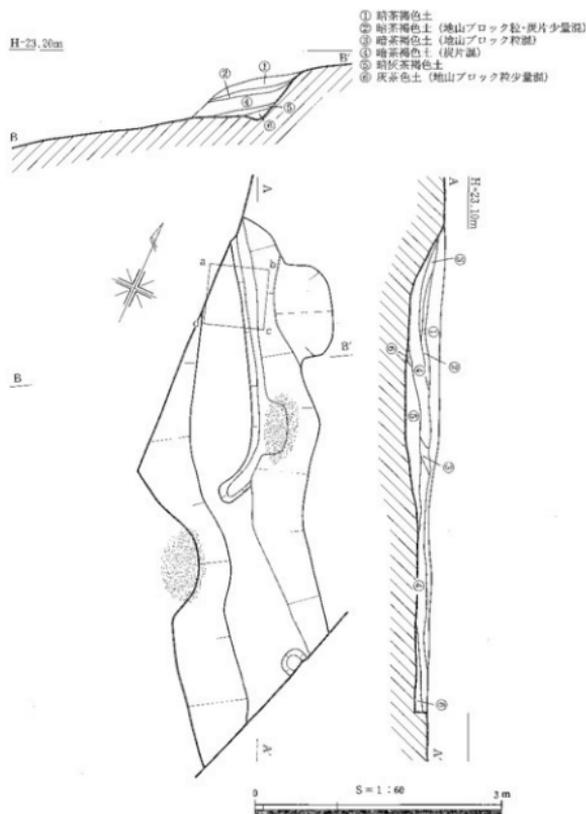
側溝は北東部分のみで幅18~24cm、深さ6~8cmを測るが、一部で幅50cmに拡張される。

主柱穴は検出できなかった。

焼土面 焼土面は拡張された側溝部分と、中央やや南よりの2ヶ所で検出された。その広がり前者で(87×43)cm、後者で(90×54)cmを測る。

埋土 埋土は6層に分層でき、②、④層中には炭片を含んでいる。

遺物 北端で竪Po6、須恵器有蓋高坏Po9が出土した。その他に、土師器壺Po1~4、高坏Po5、須恵器坏蓋Po7・8を図化した。

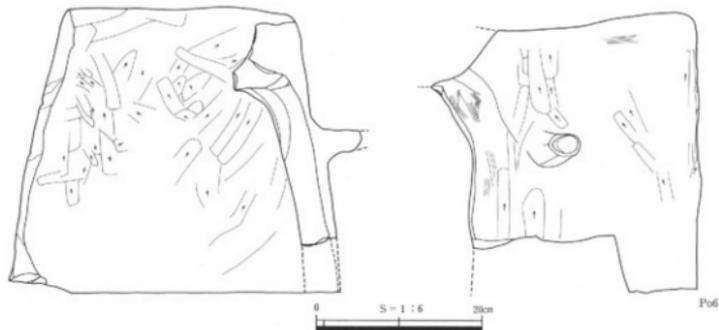
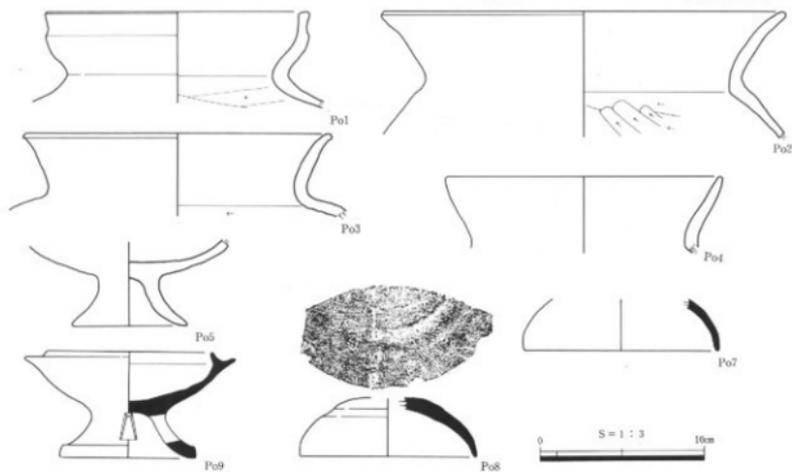


挿図5 S101遺構図

時期 出土した土器より古墳時代後期後葉と考えられる。



挿図6 S101 Po6・9出土状況図



挿図7 S101遺物実測図

S102 (挿図8、9・図版1、41)

位置 F6グリッドにあり、標高27.2~27.7mに位置する。

形態 東側は調査区域外となり、南側は削平されており検出できなかった。平面形は方形を呈するものと考えられる。

検出できた規模は南北約4.8m、東西約3.2mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い北壁で最大40cmを測る。

側溝は幅20~30cm、深さ8~10cmを測る。

支柱穴はP1のみ検出できた。規模は(44×14以上-29)cmを測る。

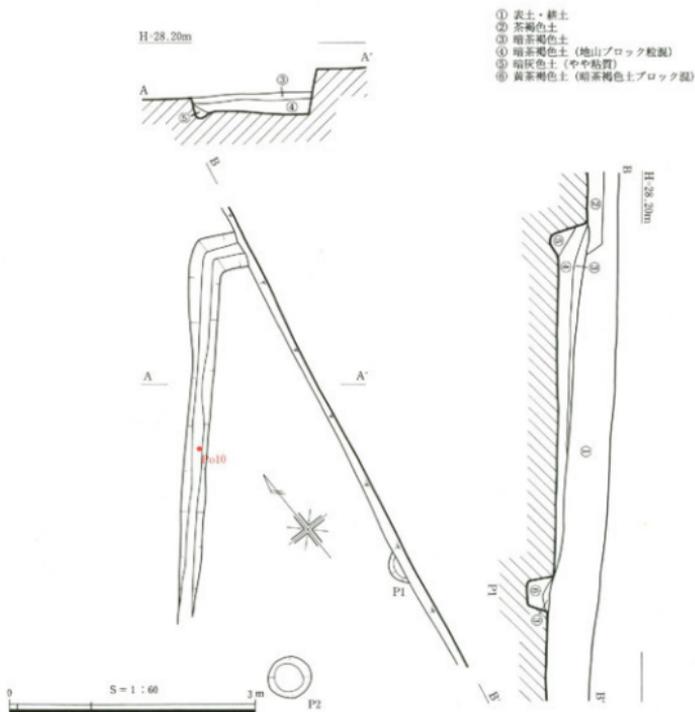
埋土 埋土は3層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 須恵器坏蓋Po10を図化した。

時期 出土した土器より古墳時代後期後葉と考えられる。



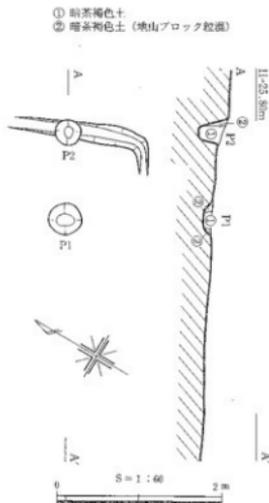
挿図8 S102遺物実測図



挿図9 S102遺構図

S103 (挿図10・図版2)

位置 E4グリッドにあり、標高25.2~25.4mに位置する。
 形態 ほとんど削平されており、側溝の一部と柱穴1個のみの検出にとどまった。検出できた側溝から平面形は方形を呈するものと考えられる。
 規模は残存部分が少なく推定することは不可能である。
 側溝は幅10~16cm、深さ3~5cmを測る。
 主柱穴はP1のみ検出できた。規模は(41×38・10)cmを測る。
 遺物 出土しなかった。
 時期 他の竪穴住居との関係より古墳時代後期と考えられる。



挿図10 S103遺構図

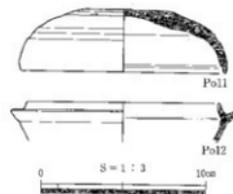
S104 (挿図11、12・図版2、41)

位置 C・D16・17グリッドにあり、標高21.1~21.7mに位置する。
 形態 西側は谷地形となるため、床面が流失しているが、平面形は方形を呈している。
 検出できた規模は南北約6.9m、東西約6.5mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大67cmを測る。
 側溝は南側で幅18~22cm、深さ2~5cmを測り、東壁際には幅50~162cm、深さ10~24cmに掘り込まれている。
 主柱穴はP1・P2の2個が検出できた。規模はP1(65×58-62)cm、P2(62×51-37)cmを測り、柱穴間距離は4.1mである。

特殊 住居東壁際の中央部で特殊ビットP3を検出した。平面形は剛丸長方形を呈し、壁際部分はえぐりように円形に掘り込んでいる。規模は(82×54-41)cmを測る。
 円形に掘り込まれた部分は粘質系の埋土となっており、人為的に埋められたものと考えられる。

埋土 埋土は15層に分層でき、ほぼ自然堆積したものと考えられるが、
 ㊸、㊹、㊺層は粘床の可能性がある。

遺物 須恵器坏蓋Pol1、坏身Pol2を図化した。
 時期 出土した土器より古墳時代後期後葉と考えられる。

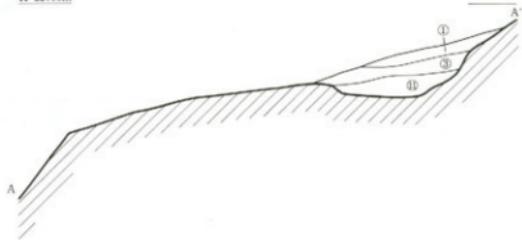


挿図11 S104遺物実測図

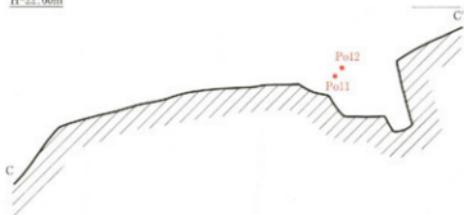
S105 (挿図13、14・図版2、41)

位置 D19グリッドにあり、標高17.7~18.3mに位置する。
 形態 東側は谷部へ流失しており、北側は削平されているが、平面形は方形を呈している。
 検出できた規模は南北約4.9m、東西約3.3mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い南壁で最大31cmを測る。
 側溝は幅18~40cm、深さ4~6cmを測る。
 南側には平面形がほぼ長方形を呈するベッド状の部分が検出された。規模は(1.76×1.04)mを測る。
 主柱穴はP1・P2の2個が検出できた。規模はP1(62×62-57)cm、P2(41×36-46)cmを測り、柱穴間距離は2.1mである。

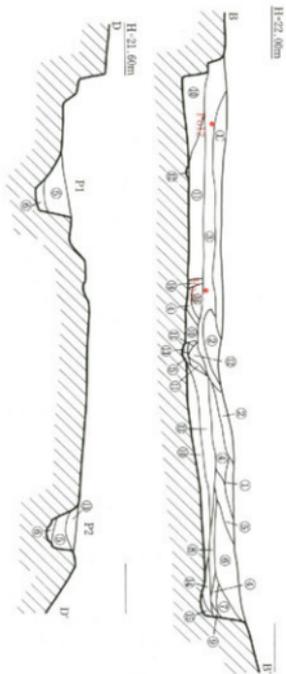
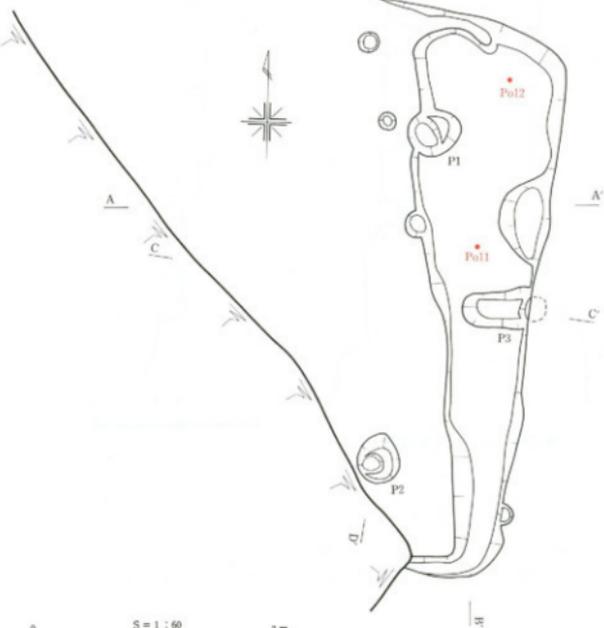
H-22.00m



H-22.00m



- ① 暗赤褐色土 (地山ブロック粒強)
- ② 灰褐色土 (地山ブロック粒強)
- ③ 暗茶褐色土 (地山ブロック粒・炭片少量混)
- ④ 淡灰茶色土
- ⑤ 灰茶色土 (地山ブロック粒少量混)
- ⑥ 高灰色土
- ⑦ 暗灰色土 (地山ブロック粒強)
- ⑧ 黒色土 (地山ブロック粒強)
- ⑨ 灰赤色土 (地山ブロック粒多量混)
- ⑩ 灰黄色土 (暗茶褐色土・ブロック強)
- ⑪ 淡褐色土 (地山ブロック粒強)
- ⑫ 暗茶褐色土
- ⑬ 暗茶褐色土 (地山ブロック粒多量混)
- ⑭ 暗灰色土
- ⑮ 黄灰色土 (地山)
- ⑯ 黄灰色土
- ⑰ 淡褐色土



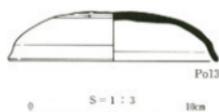
挿図12 S104遺構図

焼土面 P1の東側で楕円形に広がる焼土面を検出した。その広がり
(66×56) cmを測る。

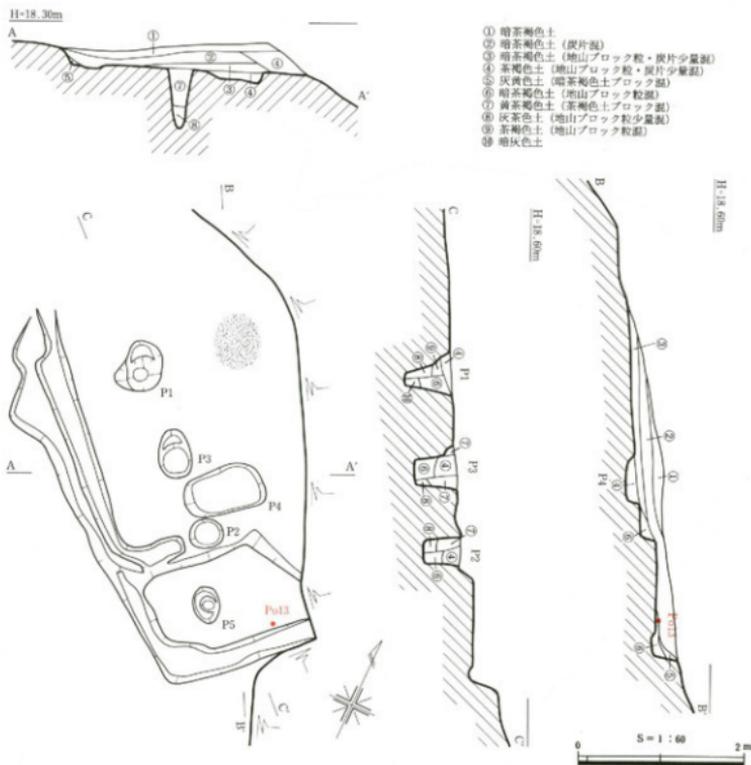
埋土 埋土は6層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。②、③層
中には細かい炭片を含んでいる。

遺物 須恵器坏蓋Po13を図化した。

時期 出土した土器より古墳時代後期後葉と考えられる。



挿図13 S105遺物実測図



挿図14 S105遺構図

S106 (挿図15・図版2)

位置 C20グリッドにあり、標高16.9~17.7mに位置する。

形態 西側は調査区域外となり、北側は谷部へ流失しているが、平面形は方形を呈している。

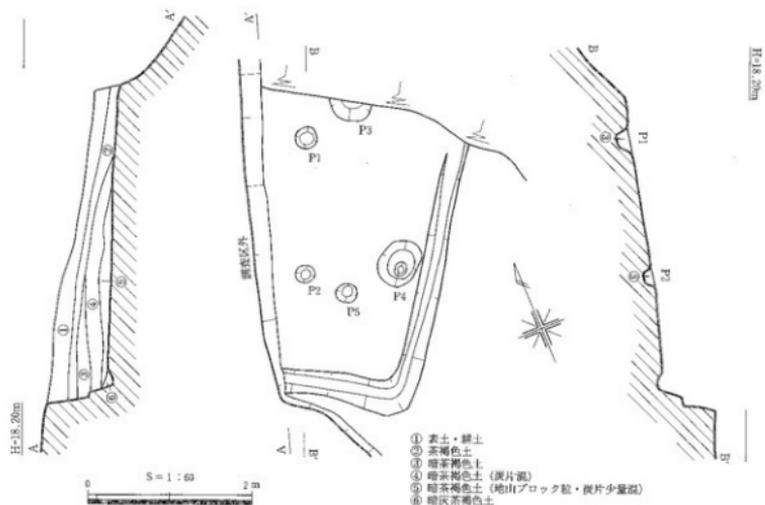
検出できた規模は南北約3.6m、東西2.5mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い南壁で最大30cmを測る。

側溝は幅22~24cm、深さ6~8cmを測る。

主柱穴はP1・P2の2個が検出できた。規模はP1 (29×27-17) cm、P2 (23×23-15) cmを

測り、柱穴間距離は1.65mである。

- 埋土 埋土は3層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。⑤層中には細かい炭片を含んでいる。
 遺物 土師器、須恵器の細片が出土したが、図化できなかった。
 時期 出土した土器より古墳時代後期と考えられる。



挿図15 SIO6遺構図

SIO7 (挿図16、17・図版3、41)

- 位置 F19・20グリッドにあり、標高19.9~20.5mに位置する。
 形態 西側は谷部へ流失しているが、平面形は方形を呈している。
 検出できた規模は南北約5.6m、東西約3mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大58cmを測る。

側溝は東壁際のみで幅12~20cm、深さ8~10cmを測る。

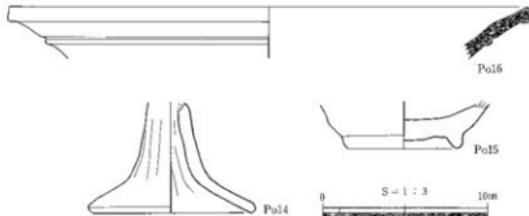
主柱穴はP1~P4の4個で、P1、P2は試掘トレンチ内で検出された。規模はP1 (49×40-64) cm、P2 (70×54-56) cm、P3 (40×32-44) cm、P4 (42×27-42) cmを測り、柱穴間距離はP1-P2間より順に1.86m、1.3m、2.1m、1.3mである。

- 特殊 住居東壁際の中央部で特殊ビットP5を検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は(80×54-54)

ビット cmを測る。埋土は2層で、⑥層は粘質土系となり、人為的に埋められたものと考えられる。

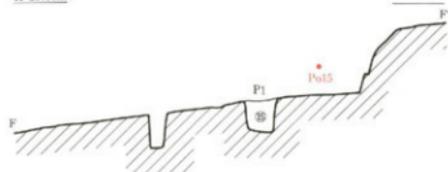
- 埋土 埋土は7層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

- 遺物 土師器高坏脚部

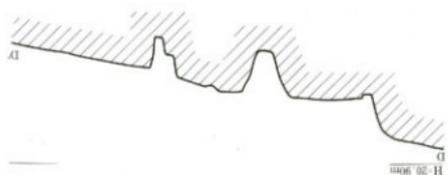
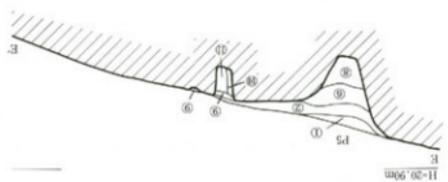
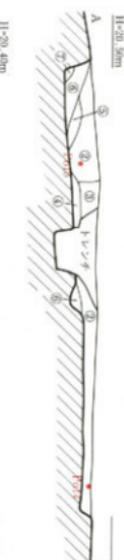
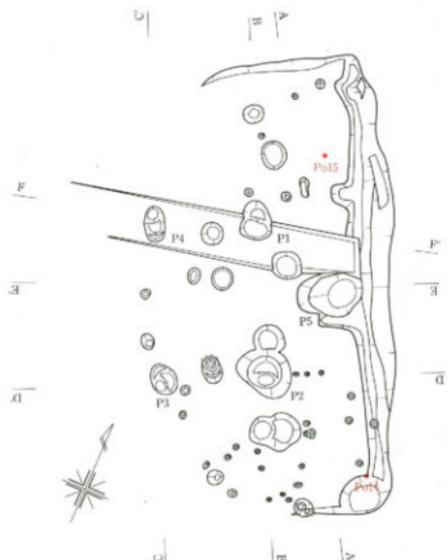
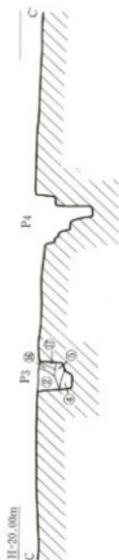


挿図16 SIO7遺物実測図

H-20.90m



- ① 茶褐色土
- ② 暗茶褐色土
- ③ 茶褐色土 (地山ブロック粉面)
- ④ 暗茶褐色土 (地山ブロック粉少量混)
- ⑤ 暗茶褐色土 (地山ブロック粉混)
- ⑥ 暗茶褐色土 (地山ブロック粒・炭片少量混)
- ⑦ 黄褐色土 (地山)
- ⑧ 黒色土 (中や粘質)
- ⑨ 暗灰色土 (地山ブロック粉混)
- ⑩ 灰茶色土 (地山ブロック粉少量混)
- ⑪ 茶灰色土 (地山)
- ⑫ 黒色土 (地山ブロック粉少量混)
- ⑬ 茶褐色土 (地山ブロック粒少量混)
- ⑭ 暗茶褐色土 (地山ブロック粒・炭片少量混)
- ⑮ 灰茶色土 (地山ブロック粒少量混)
- ⑯ 黄褐色土 (地山)



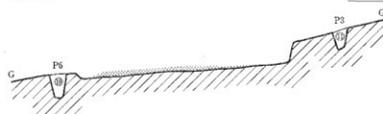
S = 1 : 60



挿図17 S107遺構図

- ① 暗茶褐色土 (地山ブロック散見)
- ② 茶褐色土 (地山ブロック散見)
- ③ 灰茶色土 (地山ブロック散見)
- ④ 暗茶褐色土 (地山ブロック散見)
- ⑤ 暗褐色土 (地山ブロック散見)
- ⑥ 灰茶色土 (地山ブロック散見)
- ⑦ 暗茶褐色土
- ⑧ 茶褐色土 (地山ブロック散見・炭片少量)
- ⑨ 暗茶褐色土 (地山ブロック散見・炭片少量)
- ⑩ 黒色土 (細砂質)
- ⑪ 黒色土 (地山ブロック散見)
- ⑫ 灰茶色土

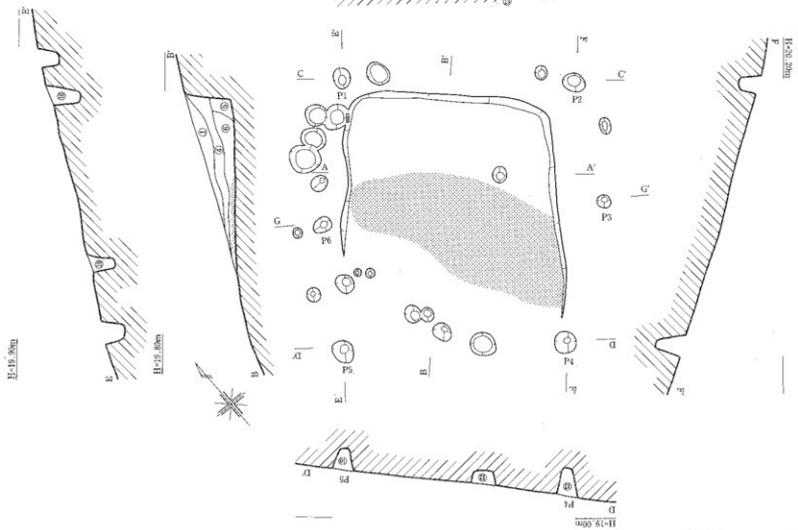
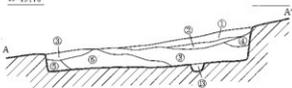
H=19.90m



H=20.20m



H=19.70



挿図18 S108遺構図

Pol4、底部Pol5、須恵器甕Pol6を図化した。

時期 出土した土器より古墳時代後期中葉～後葉と考えられる。

S108 (挿図18、19・図版3、4、42、52)

位置 E・F20グリッドにあり、標高19～19.5mに位置する。

形態 南側は谷部へ流失しているが、平面形は方形を呈している。

検出できた規模は南北、東西とも約3.5mを測り、床面積は約12.3m²である。残存壁高は最も遺存状態の良い北壁で最大80cmを測る。

側溝はないものと考えられる。

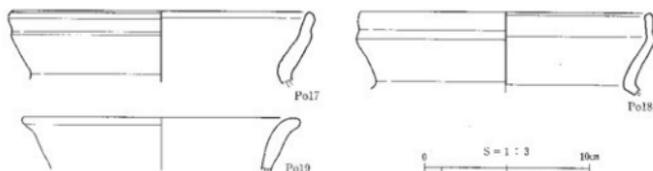
床面からピットを1個検出したが、当遺構に伴うものではないと考えられ、主柱穴は検出できなかった。しかし、方形の落込みを取り囲むようにしてピットが検出され、P1～6については位置的に当遺構に伴うことが考えられる。それぞれの規模はP1(34×27-32)cm、P2(37×29-34)cm、P3(22×22-30)cm、P4(36×36-46)cm、P5(40×32-34)cm、P6(32×24-36)cmを測り、柱穴間距離はP1-P2間より順に3.7m、1.94m、2.3m、3.56m、2.0m、2.3mである。

埋土 埋土は7層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 床面より出土した土師器甕Pol7～19を図化した。また一部流失しているものの、床面南半の約1/3に炭化米が、部分的には礎に付いたままの状態で、最大15cmの厚さに堆積していた。これらの炭化米と床面の間からは何も検出されなかったことから、収穫後、脱穀前の稲穂を床面に直接置いていたことが考えられる。また、埋土中に炭片が見られず、壁面、床面とも焼けたような痕跡が認められなかったことから、この炭化米は、住居とともに焼失したものではないと考えられる。

性格 今回調査した他の竪穴住居跡と比較して、当遺構には床面に側溝、柱穴が見られず、構造的に差異が認められる。よって竪穴住居としてより貯蔵庫的な性格を持つ土坑として考えたい。また、周囲で検出されたP1～P6との関連から、何らかの上部構造を持っていた可能性もある。

時期 出土した土器より古墳時代中期後葉と考えられる。



挿図19 S108 遺物実測図

S109 (挿図20、21・図版4、42)

位置 E20・21グリッドにあり、標高17.5～18.6mに位置する。住居内西側にSK24がある。

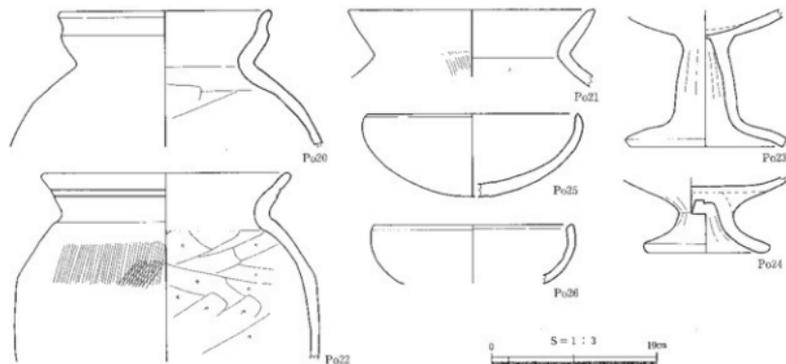
形態 西側は谷部へ流失しているが、平面形は方形を呈している。また北側から東側にかけてテラス状の部分がある。

検出できた規模は、南北約5.6m、東西約3.5mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い南東隅で最大40cmを測る。テラス部分は南北約8m、東西約3.2mを測り、高低差は最大60cmである。

側溝は幅12～20cm、深さ4～8cmを測る。

主柱穴はP1～P3の3個が検出できた。規模はP1(50×41-82)cm、P2(57×37-64)cm、P3(27×24-14)cmを測り、柱穴間距離はP1-P2間2.5m、P2-P3間2.1mである。

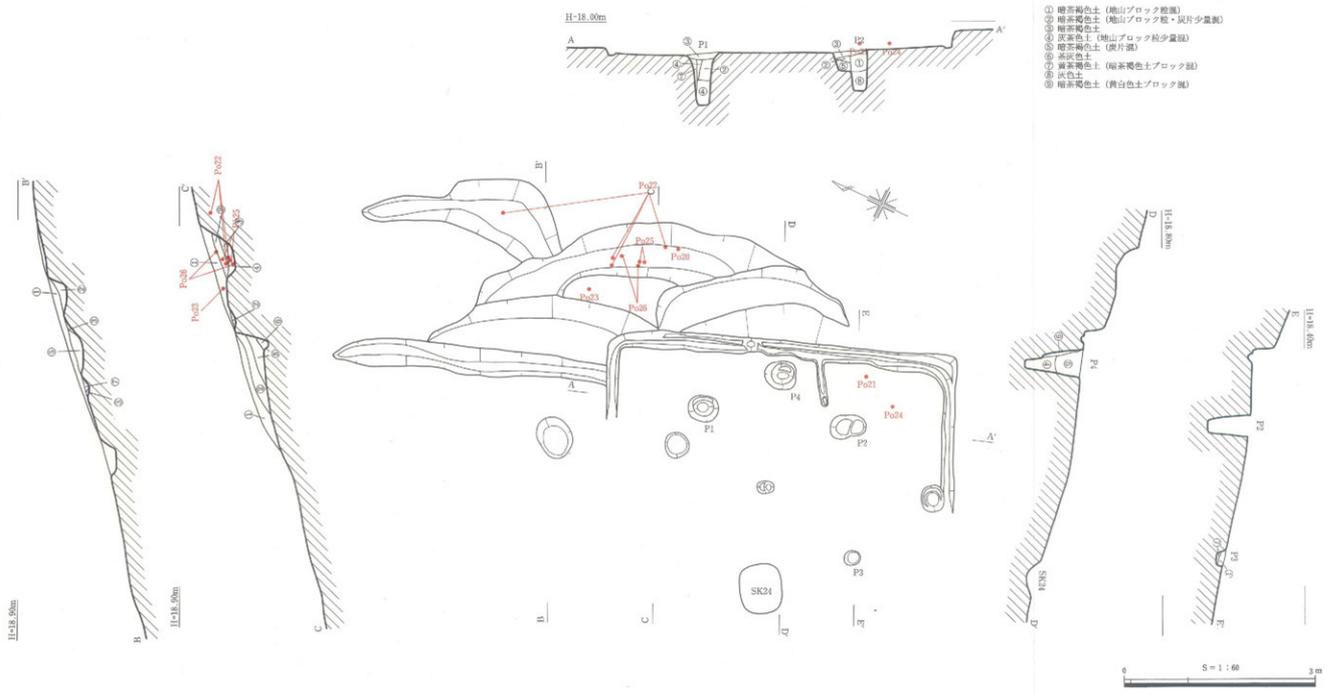
- 特殊** 住居東壁際の中央部で特殊ビットP4を検出した。平面形はほぼ円形を呈し、規模は(50×45-92) cmを測る。埋土は3層に分層できる。このP4の南側で側溝から延びる幅10cm、深さ5~10cmの溝を検出した。
- 埋土** 埋土は4層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物** 住居内およびテラス部分から出土した土師器甕Po20~22、高坏23・24、椀Po25・26を図化した。
- 時期** 出土した土器より古墳時代中期後葉と考えられる。



挿図20 S109 遺物実測図

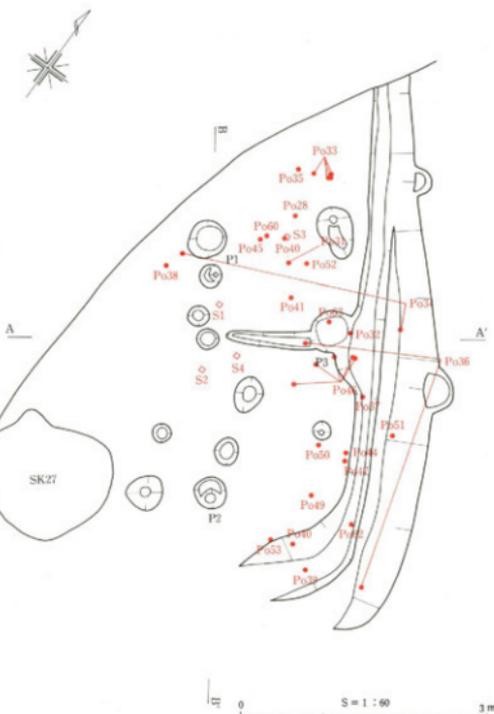
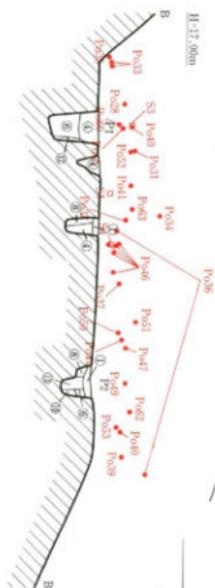
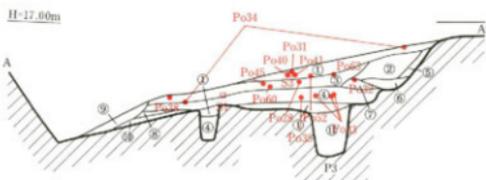
S110 (挿図22、23、24・図版42、52)

- 位置** D22グリッドにあり、標高16~16.8mに位置する。住居内南西側にSK27がある。
- 形態** 西側は調査区域外となり、南側は谷部に流失しているが、平面形は方形を呈するものと考えられる。検出できた規模は南北約6.8m、東西約5.3mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大60cmを測る。
- 側溝は南東側で流失した際に攪乱されており原型をとどめていないが、幅20~28cm、深さ2~5cmを測る。
- 主柱穴はP1・P2の2個が検出できた。規模はP1(48×45-61)cm、P2(40×36-36)cmを測り、柱穴間距離は3.2mである。
- 特殊** 住居東壁際中央部で特殊ビットP3を検出した。平面形は円形を呈し、規模は(52×50-54)cmをビットで測る。埋土はやや粘質土系の埋土1層で、人為的に埋められたものと考えられる。また、P3の西側から住居中央部へ向けて延びる幅10~22cm、深さ10cmの溝を検出した。
- 埋土** 埋土は7層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。③層中には細かい炭片を含んでいる。
- 遺物** 埋土中から多量の遺物が出土した。ここでは弥生土器甕Po27、底部Po28・29、土師器甕Po30~32、甕Po33~42、小型丸底甕Po43・44、高坏45~48、脚部Po49、脚台部Po50、手捏ね土器Po51、甕Po52、須恵器杯蓋Po53~57、坏身Po58、高坏Po59~62、土製品Po63、砥石S1~4を図化した。
- 時期** 出土した土器より古墳時代後期前葉~中葉と考えられる。



挿図21 S109遺構図

- ① 暗茶褐色土
- ② 暗灰茶褐色土
- ③ 暗茶褐色土 (地山ブロック粒・炭片少量混)
- ④ 暗茶褐色土 (地山ブロック粒混)
- ⑤ 茶褐色土 (地山ブロック粒混)
- ⑥ 暗茶褐色土 (地山ブロック粒少量混)
- ⑦ 暗灰茶褐色土 (地山ブロック粒少量混)
- ⑧ 灰茶色土 (地山ブロック粒少量混)
- ⑨ 暗灰色土
- ⑩ 赤灰色土
- ⑪ 暗灰色土 (やや粘質)
- ⑫ 暗茶褐色土 (暗茶褐色土ブロック混)
- ⑬ 黒色土



挿図22 S110遺構図

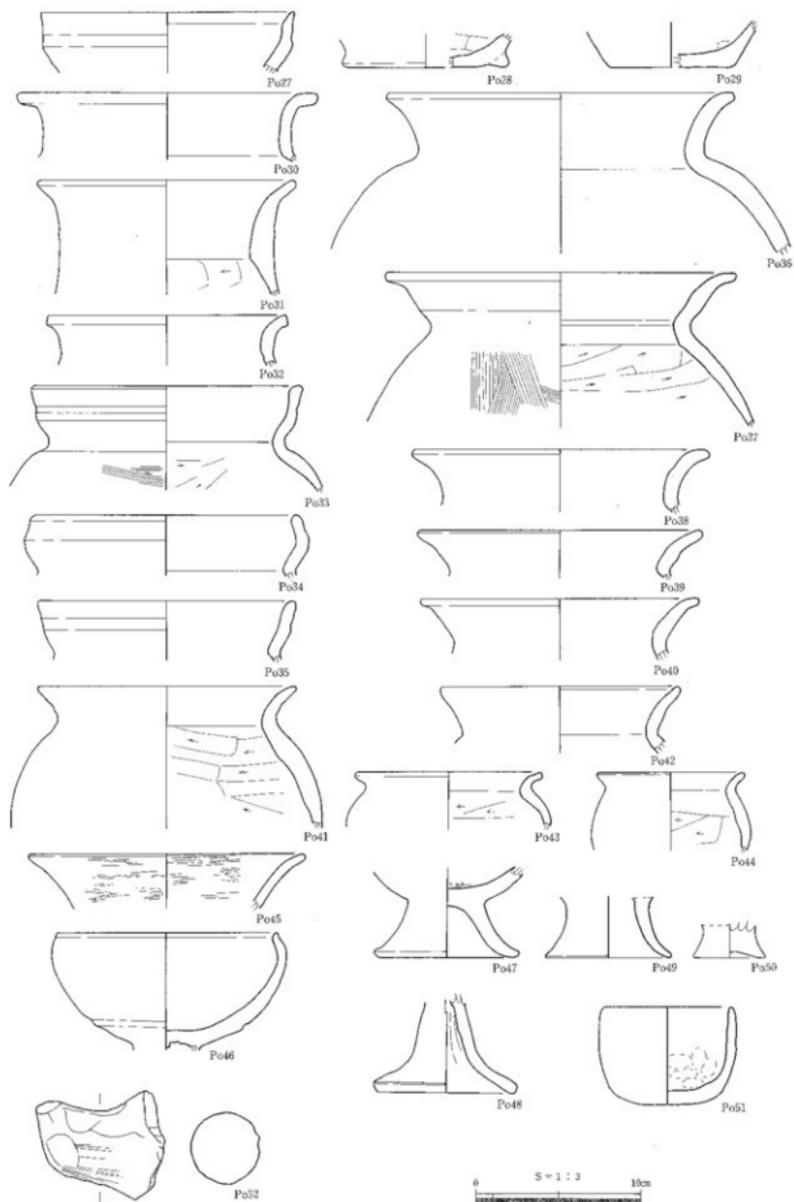
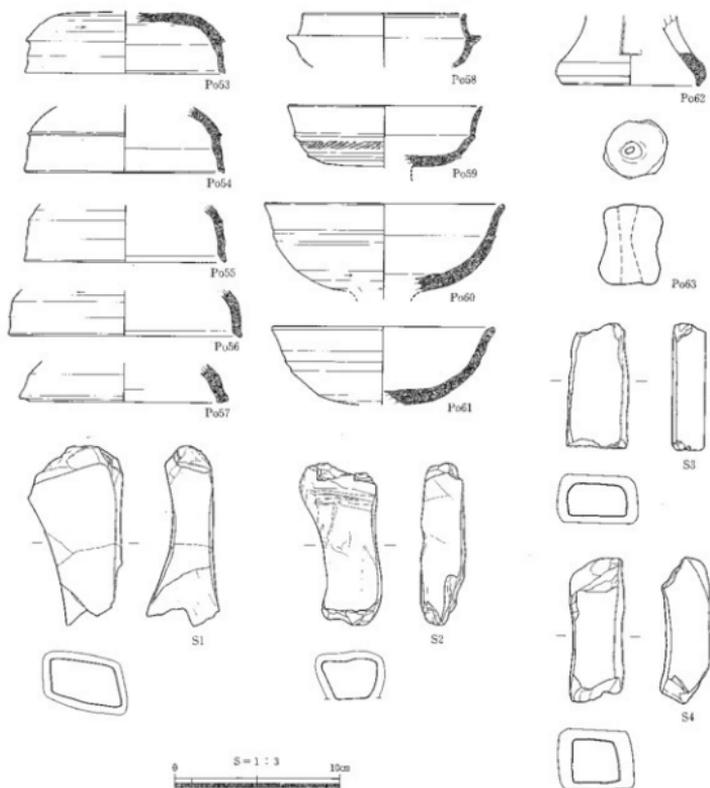


插图23 S110 遺物実測図(1)



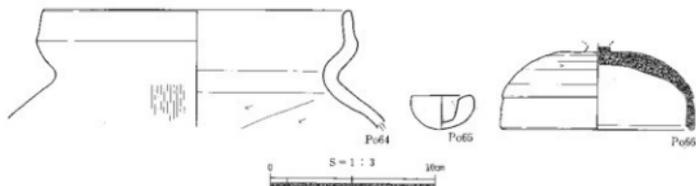
挿図24 S I I 0 遺物実測図②

S I I 1 (挿図25、26・図版4、43)

位置 G20グリッドにあり、標高22~22.5mに位置する。

形態 西側は調査区域外となり、北側は削平されているが、平面形は方形を呈する。南側は方形を呈する浅い土坑状の落込みにより切られている。

検出できた規模は南北約6.7m、東西約4.5mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大16cmを測る。



挿図25 S I I 1 遺物実測図

側溝は幅14~30cm、深さ5~8cmを測り、東側の一部では住居壁面をえぐるように掘り込まれている。

支柱穴はP1・P2の2個が検出できた。規模はP1(93×62-77)cm、P2(58×56-90)cmを測り、柱穴間距離は3.6mである。P1から北側に向けて、幅20cm、深さ5cmの溝を検出した。

中央 中央ピットはP3で平面形は円形、断面形は浅い皿状を呈する。規模は(58×56-6)cmを測る。

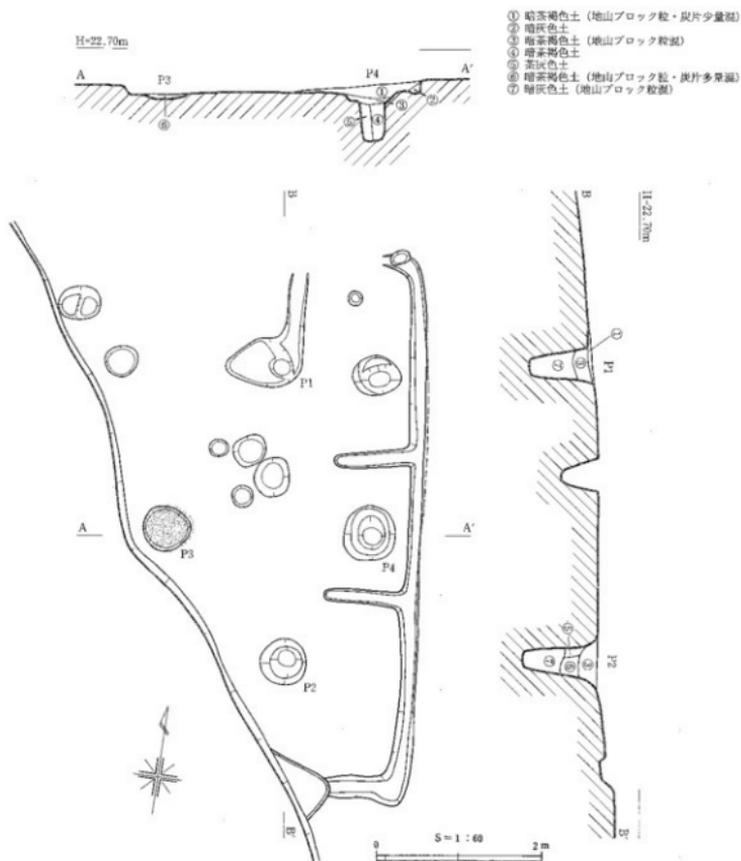
ピット 埋土は暗茶褐色土1層で、埋土中に炭片を多量に含んでいる。

焼土面 P3の周囲および底面に沿う形で焼土面を検出した。

特殊 住居東壁際中央部で特殊ピットP4を検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は(68×62-57)cm

ピットを測る。また、P4の南北両脇で側溝から延びる幅14~20cm、深さ9~12cmの溝を検出した。

埋土 埋土は2層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。①層中には細かい炭片を含んでいる。



挿図26 S111遺構図

- 遺物 土師器甕Po64、手捏ね土器Po65、須恵器环蓋Po66を図化した。
 時期 出土した土器より古墳時代後期中葉と考えられる。

S I 1 2 (挿図27、28・図版4、5)

位置 D23・24グリッドにあり、標高18.4~18.9mに位置する。北西側でS I 1 3と切り合い、S I 1 4~1 6ともほぼ同じ位置関係にある。

形態 西側は調査区域外となり、南側は谷部へ流失しているが、平面形は方形を呈すると考えられる。検出できた規模は南北約5.2m、東西約2.8mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大50cmを測る。

側溝は幅20~30cm、深さ6~8cmを測る。

主柱穴はP 1・P 2の2個が検出できた。規模はP 1 (84×76-33) cm、P 2 (34×32-16) cmを測り、柱穴間距離は3mである。

埋土 埋土は4層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 甕Po67を図化した。この他に土師器、須恵器細片が出土した。

時期 出土した土器より古墳時代後期前葉~中葉と考えられる。

S I 1 3 (挿図27、28・図版4、5)

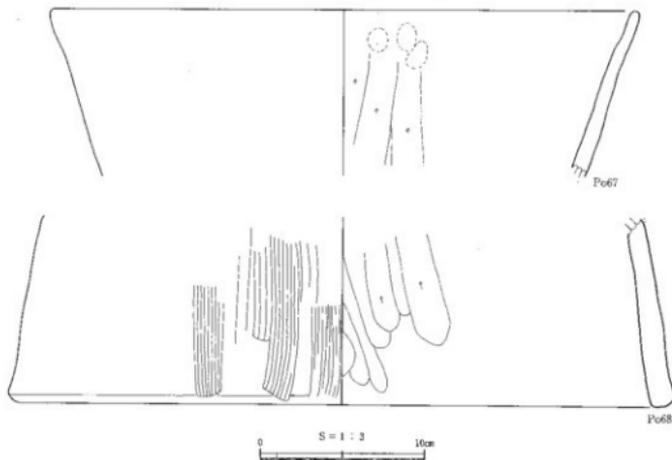
位置 D24グリッドにあり、標高18.4~18.9mに位置する。S I 1 2・1 4・1 5とそれぞれ切り合う。

形態 S I 1 2・1 4・1 5と切り合い、西側は調査区域外となるため、ほとんど原型をとどめておらず、平面形は不明であるが方形を呈するものと考えられる。検出できた規模は南北約2.5m、東西約3.2mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大16cmを測る。

側溝は認められなかった。

主柱穴はP 3・P 4の2個が検出できた。規模はP 3 (34×34-37) cm、P 4 (49×35-55) cmを測り、柱穴間距離は2.7mである。

埋土 埋土は3層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。



挿図27 S I 1 2・1 3 遺物実測図

遺物 埴輪の基部と考えられるPo68を図化した。この他に土師器細片が出土した。
時期 出土した土器および住居の切り合い関係より古墳時代中期と考えられる。

S I 1 4 (挿図28・図版4、5)

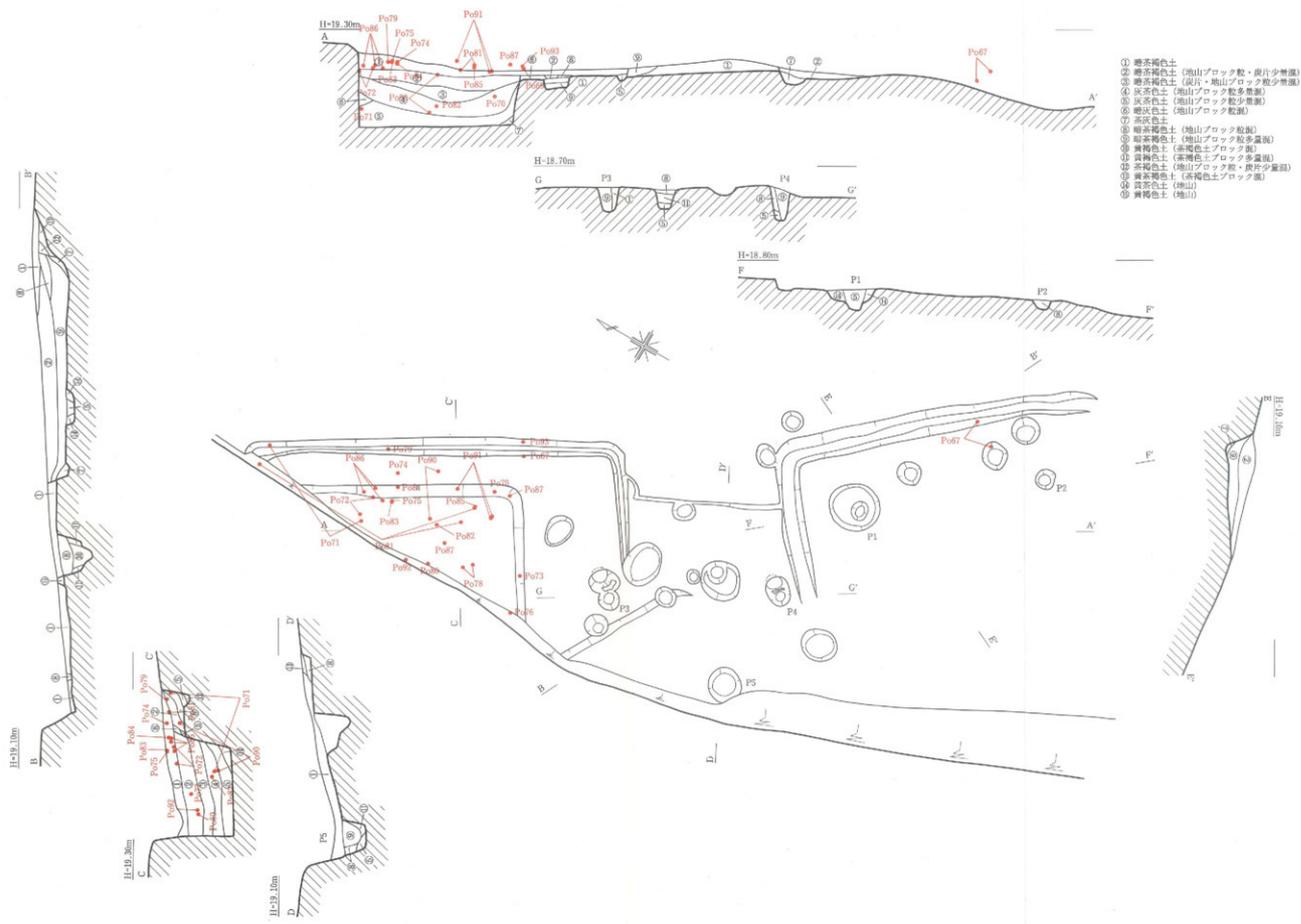
位置 C・D24グリッドにあり、標高18.4～18.9mに位置する。S I 1 3・1 5とそれぞれ切り合う。
形態 ほとんど原型をとどめておらず、平面形は不明であるが方形を呈するものと考えられる。検出できた規模は南北約2.2m、東西約2mを測る。残存壁高は東壁で最大8cmを測る。
側溝は認められなかった。
主柱穴はP 5のみ検出できた。規模は(56×52-35)cmを測る。
埋土 埋土は1層である。
遺物 S I 1 4に伴うと考えられる遺物は出土しなかった。
時期 住居の切り合い関係より古墳時代中期と考えられる。

S I 1 5・1 6 (挿図28、29、30・図版4、5、43、44)

位置 C・D24グリッドにあり、標高18.4～18.9mに位置する。S I 1 3・1 4とそれぞれ切り合う。S I 1 6はS I 1 5内に掘り込まれている。
形態 西側は調査区域外となるが、平面形はいずれも方形を呈する。検出できた規模はS I 1 5で南北約6m、東西約3.5mを測る。S I 1 6は南北約3.5m、東西約2.2mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁でS I 1 5は最大45cm、S I 1 6は最大75cmを測る。
側溝はS I 1 5で幅12～20cm、深さ8～12cmを測るが、S I 1 6では認められなかった。
主柱穴はS I 1 5・1 6とも検出できなかった。
埋土 埋土はS I 1 5で5層に、S I 1 6で7層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。②、③層中には細かい炭片を含んでいる。
遺物 埋土中から多量の遺物が出土した。ここでは弥生土器底部Po69、土師器壺Po70、甕Po71～84、小型丸底壺Po85、高坏Po86～88、碗Po89・90、脚部Po91、手捏ね土器Po92、須恵器有蓋高坏Po93、脚部Po94を図化した。
時期 出土した土器および住居の切り合い関係よりS I 1 5は古墳時代後期前葉、S I 1 6は古墳時代後期中葉と考えられる。

S I 1 7 (挿図31、33・図版5、44)

位置 D25グリッドにあり、標高19m付近に位置する。S I 1 8と隣接し、SK 2 6と切り合う。
形態 西側は調査区域外となるが、平面形は方形を呈する。検出できた規模は南北約5.1m、東西約1.9mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大60cmを測る。
側溝は幅10～24cm、深さ4～12cmを測る。
主柱穴はP 1・P 2の2個が検出できた。規模はP 1(49×42-65)cm、P 2(48×39以上-82)cmを測り、柱穴間距離は2.6mである。
焼土面 検出できた住居の南北両端で広い範囲にわたる焼土面を検出した。南端の焼土面はその周囲がやや青白く変色していた。また、これら焼土面上で炭化材が若干出土しており、埋まった側溝部分にも焼土がおよんでいることから、当住居は焼失したものと考えられる。
特殊 ビット 住居東壁際中央部で特殊ビットP 3を検出した。平面形はほぼ円形を呈し、テラス状に浅く掘り込まれた隙を更に細長く掘り下げている。規模は(35×35-36)cmを測る。埋土は暗茶褐色土1層で側溝を掘る前に掘り込んだものを人為的に埋め戻したことが窺える。



- ① 赤茶褐色土
- ② 赤茶褐色土 (地山ブロック較・段付少量)
- ③ 赤茶褐色土 (段付・地山ブロック較少量)
- ④ 灰白色土 (地山ブロック較多)
- ⑤ 灰白色土 (地山ブロック較少量)
- ⑥ 赤褐色土 (地山ブロック較多)
- ⑦ 赤褐色土 (地山ブロック較多)
- ⑧ 赤褐色土 (地山ブロック較多)
- ⑨ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ⑩ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ⑪ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ⑫ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ⑬ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ⑭ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ⑮ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ⑯ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ⑰ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ⑱ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ⑲ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ⑳ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㉑ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㉒ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㉓ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㉔ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㉕ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㉖ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㉗ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㉘ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㉙ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㉚ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㉛ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㉜ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㉝ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㉞ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㉟ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㊱ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㊲ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㊳ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㊴ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㊵ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㊶ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㊷ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㊸ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㊹ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㊺ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㊻ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㊼ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㊽ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㊾ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)
- ㊿ 赤褐色土 (赤褐色土ブロック較多)

挿図28 S I 1 2 ~ 1 6 遺構図

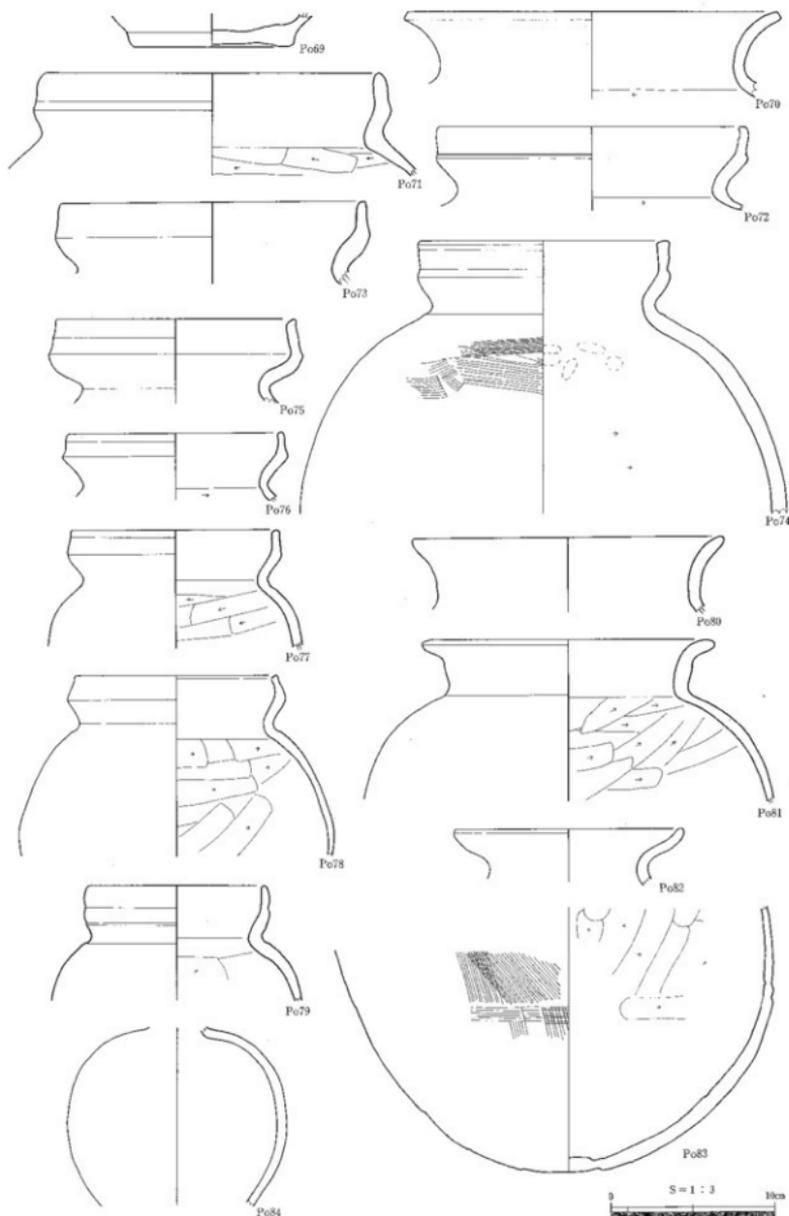
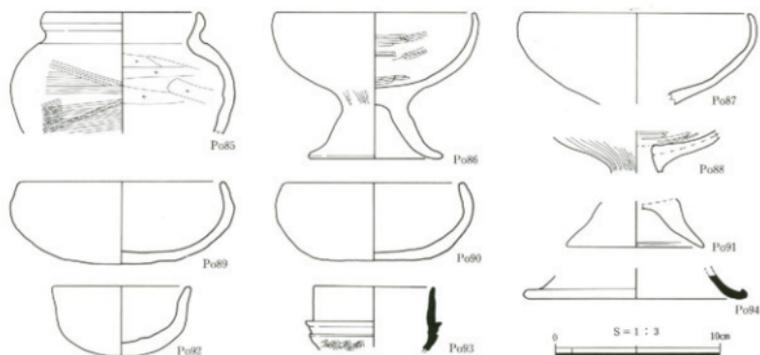
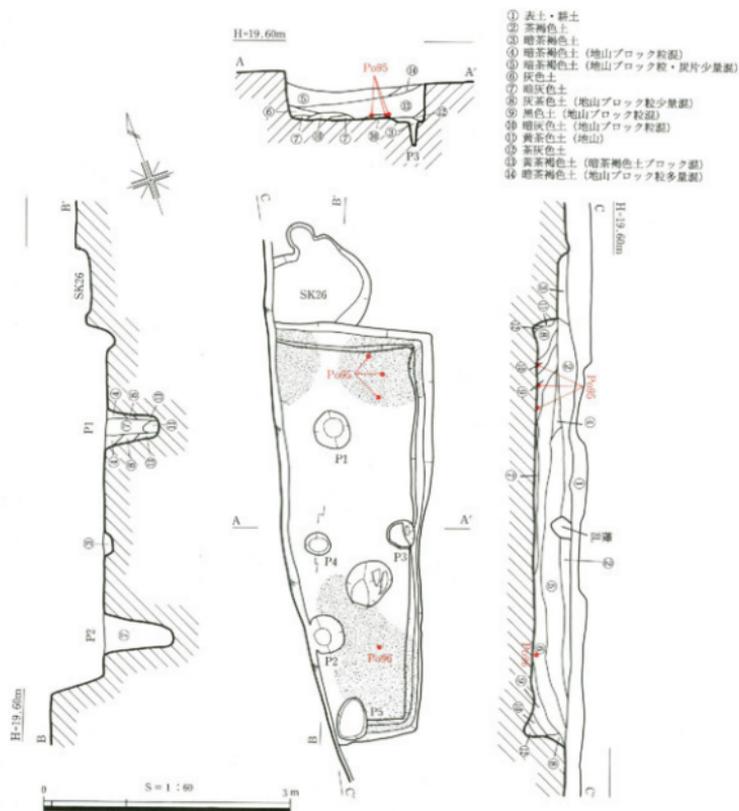


插图29 S115·16 遺物実測図(1)



挿図30 S I 15・16 遺物実測図(2)



挿図31 S I 17 遺構図

- 埋 土 埋土は9層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺 物 土師器壺Po95、椀Po96を図化した。
- 時 期 出土した土器より古墳時代中期後葉と考えられる。

S I 1 8 (挿図32、33・図版6、44)

位 置 D26グリッドにあり、標高19m付近に位置する。S I 1 7・19と隣接する。

形 態 西側は調査区域外となり、ピットと切り合っているが、平面形は方形を呈する。検出できた規模は南北約3.7m、東西約2mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大30cmを測る。

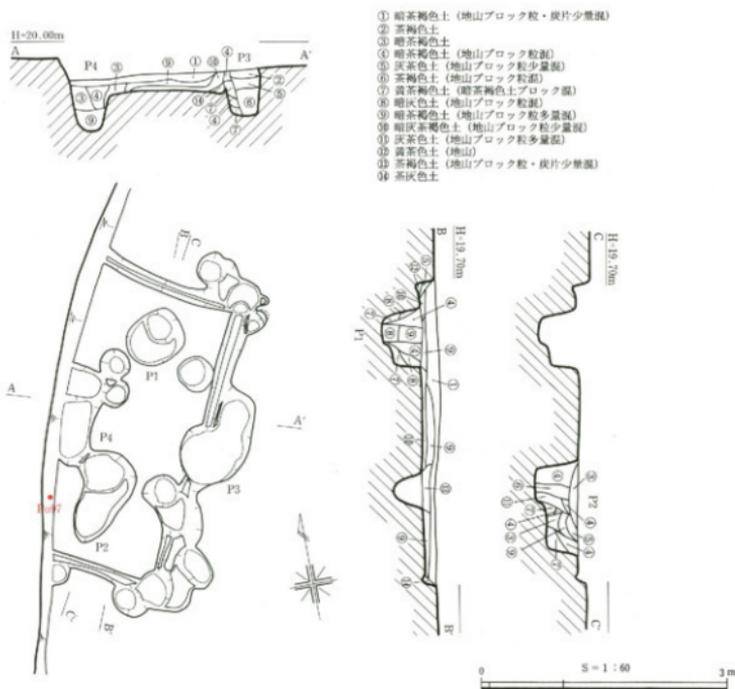
側溝は幅10~20cm、深さ2~4cmを測る。

主柱穴はP1・P2の2個が検出できた。規模はP1(72×62-50)cm、P2(115×72-52)cmを測り、柱穴間距離は1.9mである。

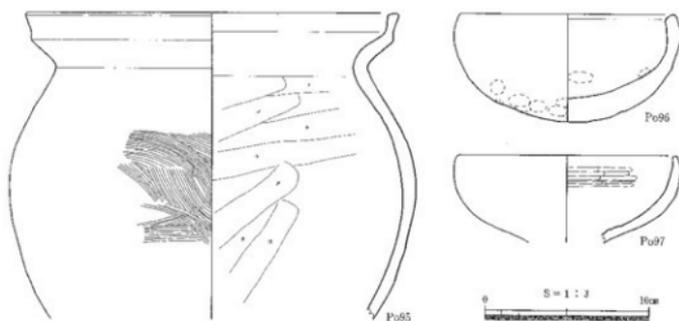
埋 土 埋土は6層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺 物 土師器高坏Po97を図化した。

時 期 出土した遺物より古墳時代中期後葉と考えられる。



挿図32 S I 1 8遺構図



挿図33 S117・18遺物実測図

S119 (挿図34・図版6)

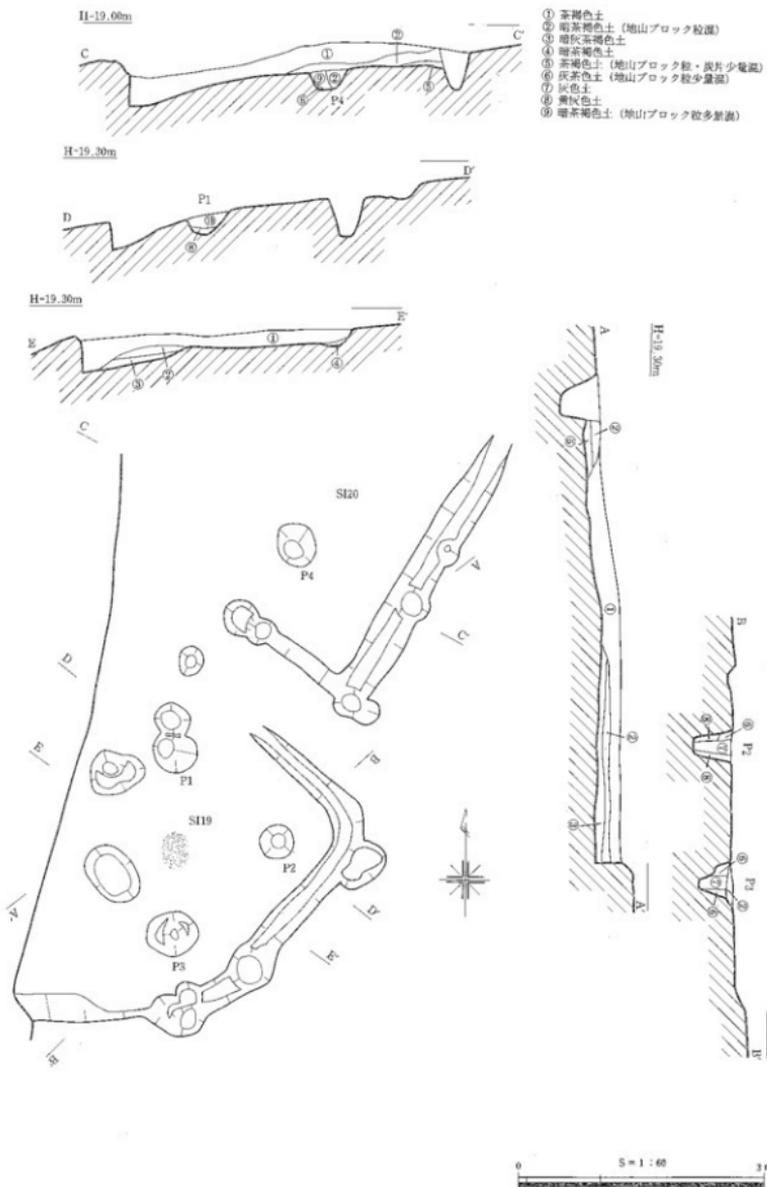
- 位置 D26グリッドにあり、標高18.7~19mに位置する。S118・20と隣接する。
- 形態 西側は調査区域外となり、南側は攪乱されているが平面形は方形を呈するものと考えられる。検出できた規模は南北約3.7m、東西約3.2mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大20cmを測る。
- 側溝は幅20cm、深さ4~6cmを測る。
- 支柱穴はP1~P3の3個が検出できた。規模はP1(56×50-32)cm、P2(42×42-45)cm、P3(64×54-43)cmを測り、柱穴間距離はP1-P2間より順に1.8m、1.7mである。
- 焼土面 住居のほぼ中央と考えられる位置で楕円形に広がる焼土面を検出した。規模は(44×32)cmを測る。
- 埋土 埋土は4層に分層でき、②・③層は貼床と考えられる。
- 遺物 土師器、須恵器の細片が出土したが図化できなかった。
- 時期 出土した土器および周囲の住居との関係より古墳時代後期と考えられる。

S120 (挿図34・図版6)

- 位置 D27グリッドにあり、標高18.4~18.8mに位置する。S119と隣接する。
- 形態 西側は調査区域外となり、北側は流失しているが、平面形は方形を呈するものと考えられる。検出できた規模は南北約3.8m、東西約2.3mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大28cmを測る。
- 側溝は東側で検出でき、幅24~28cm、深さ4~6cmを測る。
- 支柱穴はP4のみ検出できた。規模は(58×48-24)cmを測る。
- 埋土 埋土は3層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 土師器、須恵器の細片が出土したが図化できなかった。
- 時期 出土した土器および周囲の住居との関係より古墳時代後期と考えられる。

S121 (挿図35、36、37・図版6、7、44、45)

- 位置 E27グリッドにあり、標高18.5~19.1mに位置する。S122と切り合い、S123と隣接する。
- 形態 北側のコーナーのみ削平されているが、ほぼ全体を検出できた。平面形は長方形を呈し、規模は南北約3.9m、東西約3mを測り、床面積は約11.7m²である。残存壁高は最も遺存状態の良い南壁で最大54cmを測る。



挿図34 SI 19・20遺構図

側溝は幅10~20cm、深さ4~6cmを測る。

主柱穴と考えられるピットは検出できなかった。

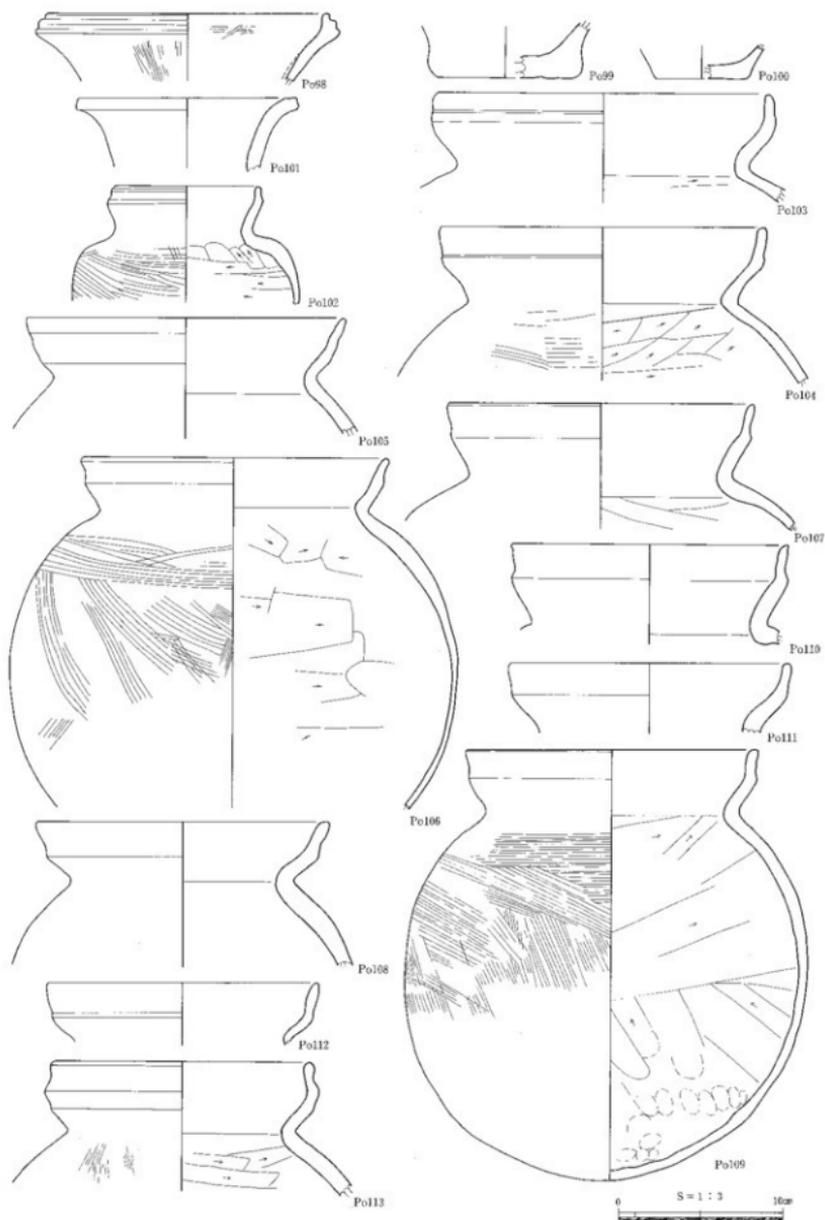
- 中央ピット 中央ピットはP1で平面形は楕円形を呈する。規模は(56×42-10)cmを測る。暗茶褐色土1層で、炭片と焼土ブロックを多量に含んでいる。
- 焼土面 P1の周囲および底面に沿う形で焼土面を検出した。
- 特殊ピット 住居南側で特殊ピットP2を検出した。平面形は北側が楕円形をなす、双円形を呈する。規模は(94×50-52)cmを測る。埋土は5層に分層できる。また、P2の東西両脇で側溝から延びる幅8~16cm、深さ4~6cmの溝を検出した。
- 埋土 埋土は6層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。③・④層中には細かい炭片を含んでいる。
- 遺物 埋土中より多量の遺物が出土した。ここでは弥生土器壺Po98、底部Po99・100、土師器壺Po101・102、甕Po103~116、長頸壺Po117、高坏Po118~124、脚付椀Po125、椀Po126~128、甕Po129、須恵器坏蓋Po130・131、坏身Po132を図化した。
- 時期 出土した土器および住居の切り合い関係より古墳時代後期前葉と考えられる。

S I 2 2 (挿図35、38・図版6、7)

- 位置 E27グリッドにあり、標高18.5~19.1mに位置する。S I 2 1・2 3とそれぞれ切り合う。
- 形態 S I 2 1・2 3に切られており、北側は削平されているためほとんど原型をとどめていないが、平面形は方形を呈するものと考えられる。検出できた規模は南北約4m、東西約1.6mである。残存壁高は最も遺存状態の良い南壁で最大42cmを測る。
- 側溝は幅20~28cm、深さ8~10cmを測る。
- 主柱穴はP3・P4の2個が検出できた。規模はP3(49×44-85)cm、P4(68×66-72)cmを測り、柱穴間距離は1.85mである。
- 特殊ピット 住居南壁際のS I 2 3と切り合う部分でP5を検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は(50×38-24)cmを測る。位置的にS I 2 2に伴う特殊ピットと考えられる。
- 埋土 埋土は5層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 土師器壺Po133、朝顔形埴輪の一部と考えられるPo134を図化した。
- 時期 出土した土器および住居の切り合い関係より古墳時代中期中葉~後葉と考えられる。

S I 2 3 (挿図35、39・図版6、7、45、52)

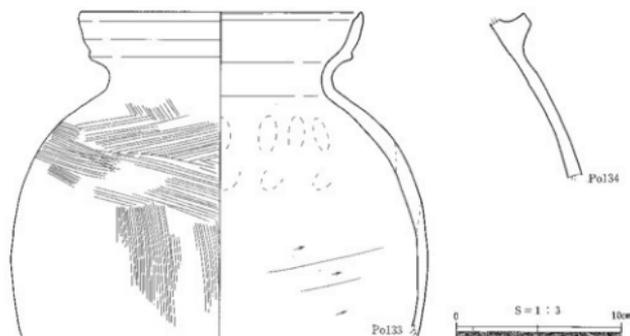
- 位置 E・F27グリッドにあり、標高18.5~19.1mに位置する。S I 2 2と切り合い、S I 2 5~2 9と隣接する。
- 形態 北側は削平されているが、平面形は方形を呈している。検出できた規模は南北約5.3m、東西約6.9mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い南壁で最大52cmを測る。
- 側溝は南側のみで、深さ20~40cm、深さ6~10cmを測るが、ほぼ中央部では幅60cmに拡張されており、他の住居でみられる特殊ピットを意識していることが考えられる。
- 主柱穴はP6~P9の4個で、規模はP6(40×32-20)cm、P7(42×40-23)cm、P8(35×30-23)cm、P9(40×34-24)cmを測り、柱穴間距離はP6-P7間から順に3.75m、2.05m、3.75m、2.1mである。
- 貼床 住居の南半で貼床を検出した。この貼床は土層断面中の⑬・⑭層にあたる。
- 埋土 埋土は11層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。⑬層中には細かい炭片を含んでいる。
- 遺物 土師器壺Po135、甕Po136、須恵器坏身Po137~139、甕Po140、メノウ製の勾玉J1を図化した。
- 時期 出土した土器および住居の切り合い関係より古墳時代後期中葉と考えられる。



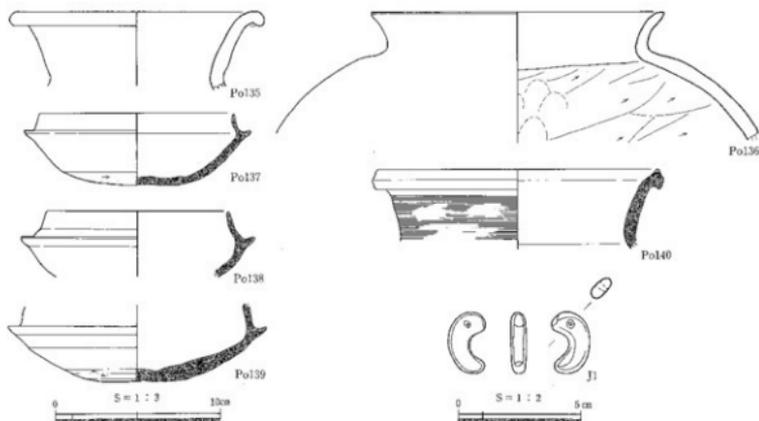
挿図36 S 1 2 1 遺物実測図(1)



插图37 S1211 遗物实测图(2)



挿図38 S I 2 2 遺物実測図



挿図39 S I 2 3 遺物実測図

S I 2 4 (挿図40、41、42・図版6、7、8、45、46)

位置 E・F27グリッドにあり、標高18.5~19.1mに位置する。S I 2 3の貼床除去後に検出した。また床面でSK31を検出した。

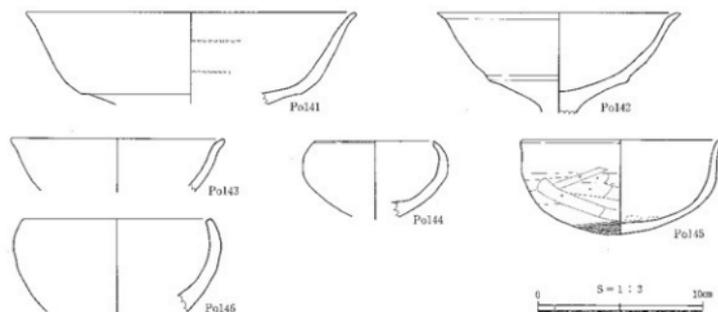
形態 平面形は方形を呈す。規模は南北約4.1m、東西約4.4mを測り、床面積は約18m²である。残存壁高は最も遺存状態の良い南壁で最大50cmを測る。

側溝は認められなかった。

支柱穴はP1・P2の2個が検出できた。規模はP1(23×22-10)cm、P2(27×27-10)cmを測り、柱穴間距離は2.85mである。なお、P3、P4はS I 2 2の支柱穴と考えられるもので、規模はP3(27×23-35)cm、P4(32×30-51)cmを測り、柱穴間距離は2.1mである。またS I 2 2 P3-S I 2 4 P3間は2.6m、S I 2 2 P4-S I 2 4 P4間は2.65mを測る。

焼土面 P2の西側で楕円形に広がる焼土面を検出した。規模は(48×36)cmを測る。

- 特殊** 住居南側の中央部で壁際から掘り込まれる特殊ピットP5を検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は(126×102-64)cmを測る。形態的、規模的に見てもピットよりも土坑に近いものである。埋土は4層に分層でき、①層中には炭片が含まれている。この土坑内から土師器高坏Po142・144、碗Po145の他、土師器細片が出土している。
- 埋土** 埋土は3層に分層でき、①、③層中には炭化米がわずかではあるが含まれている。
- 遺物** P5内出土遺物の他に、土師器高坏Po141・143、碗Po146を図化した。またP4とP5の間で炭化米がややまとまって出土した。
- 時期** 出土した土器および住居の切り合い関係より古墳時代中期中葉～後葉と考えられる。



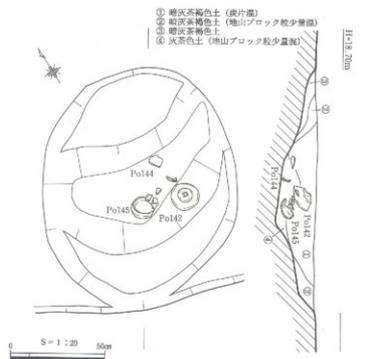
挿図40 S124 遺物実測図

S125 (挿図43、44、45・図版6、8、46、52)

- 位置** F26・27グリッドにあり、標高18.5～18.8mに位置する。S126～29と切り合う。
- 形態** 多数の住居と切り合っているが、平面形は方形を呈する。検出できた規模は南北約3m、東西約5.9mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い南壁で最大30cmを測る。
側溝は幅16～26cm、深さ4～14cmを測る。
主柱穴はP1～P4の4個で、規模はP1(64×44-20)cm、P2(37×37-14)cm、P3(46×40-40)cm、P4(90以上×78-59)cmを測り、柱穴間距離はP1-P2間から順に3.7m、2.9m、3.7m、2.9mである。
- 埋土** 埋土は4層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物** 須恵器坏身Po147、磁石S5、鋤先F1を図化した。
- 時期** 出土した土器および住居の切り合い関係より古墳時代後期中葉と考えられる。

S126 (挿図43、44、45・図版6、8、46)

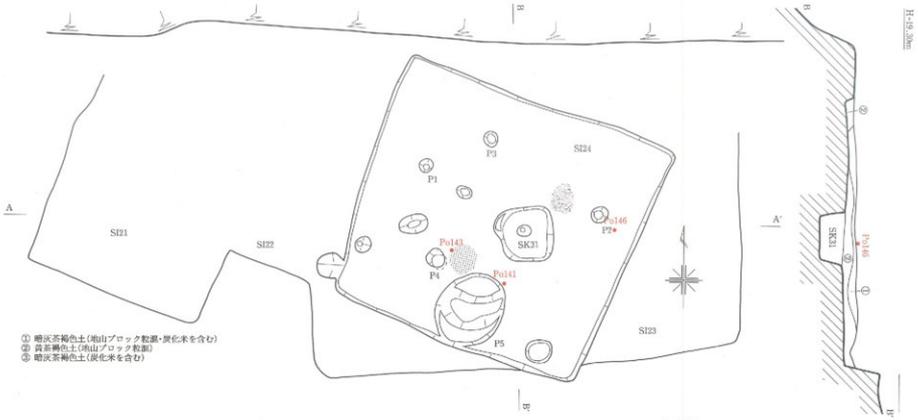
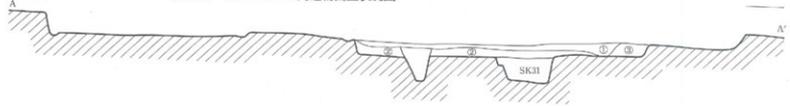
- 位置** G26グリッドにあり、標高18.5～18.8mに位置する。S125・27～29と切り合う。
- 形態** 多数の住居と切り合い、東側は削平されているが、平面形は方形を呈すると考えられる。検出できた規模は南北約2.3m、東西約3.8mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い南壁で最大20cmを測る。
側溝は幅16～20cm、深さ6～8cmを測る。
主柱穴はP5～P7の3個が検出できた。当初は4本の柱で構築されていたであろうが、残り1個のピットは削平されており検出できなかった。検出できたピットの規模はP5(40×34-52)cm、P6(58×50-42)cm、P7(31×31-14)cmを測り、柱穴間距離はP6-P7間2.4m、P7-P5間2.9mである。



- ① 暗灰茶褐色土 (表片礫)
- ② 暗灰茶褐色土 (埋山ブロック粒少層)
- ③ 暗灰茶褐色土
- ④ 灰茶土 (埋山ブロック粒少層)

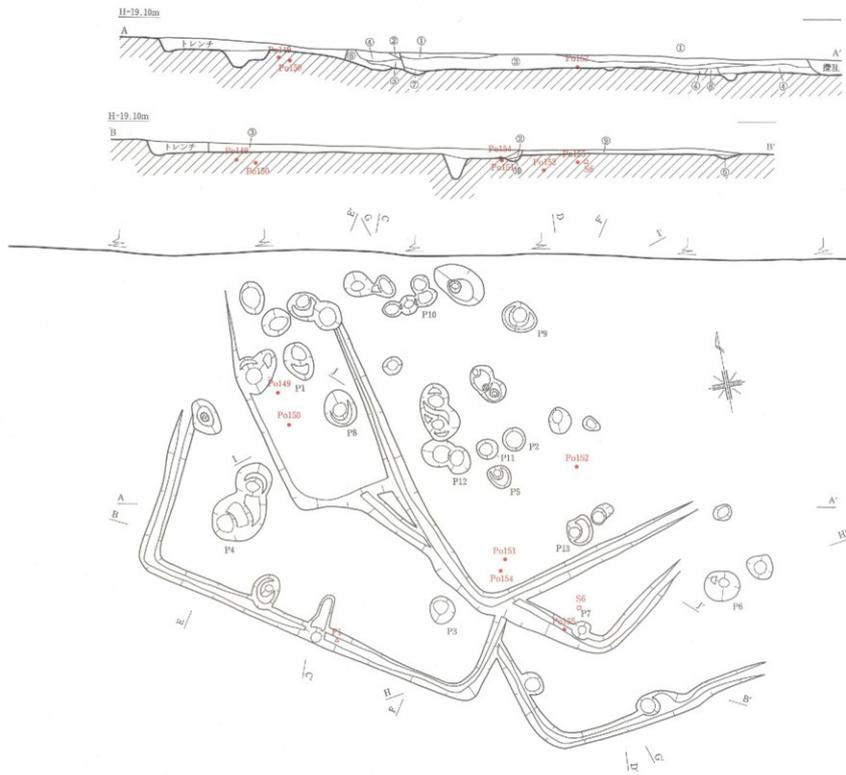
H-19.30m

挿図41 S124P5内遺物出土状況図

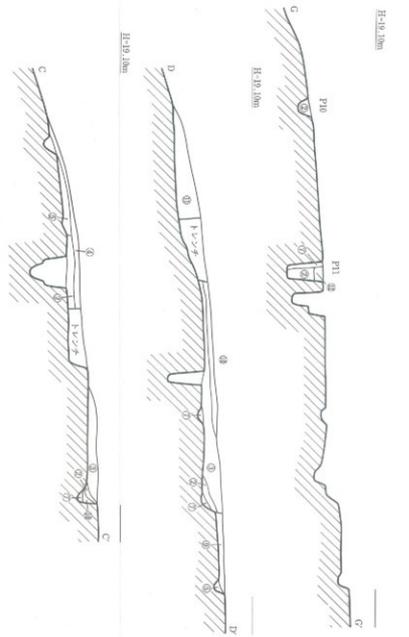


- ① 暗灰茶褐色土 (埋山ブロック粒・炭化米を含む)
- ② 暗灰茶褐色土 (埋山ブロック粒)
- ③ 暗灰茶褐色土 (炭化米を含む)

挿図42 S124遺構図



- ① 灰茶色土 (堆山ブロック較少量混)
- ② 暗赤褐色土 (堆山ブロック粒混)
- ③ 暗赤褐色土 (燻竹混)
- ④ 暗赤褐色土 (堆山ブロック粒・炭片少量混)
- ⑤ 赤茶色土
- ⑥ 黄褐色土 (灰茶色土ブロック多量混)
- ⑦ 暗赤褐色土
- ⑧ 黄褐色土 (堆山)
- ⑨ 暗赤褐色土
- ⑩ 灰茶色土 (堆山ブロック較少量混)
- ⑪ 赤褐色土
- ⑫ 暗赤褐色土 (堆山ブロック較多量混)
- ⑬ 暗赤褐色土 (黄白色土ブロック混)



挿図43 S125~29 遺構図(1)

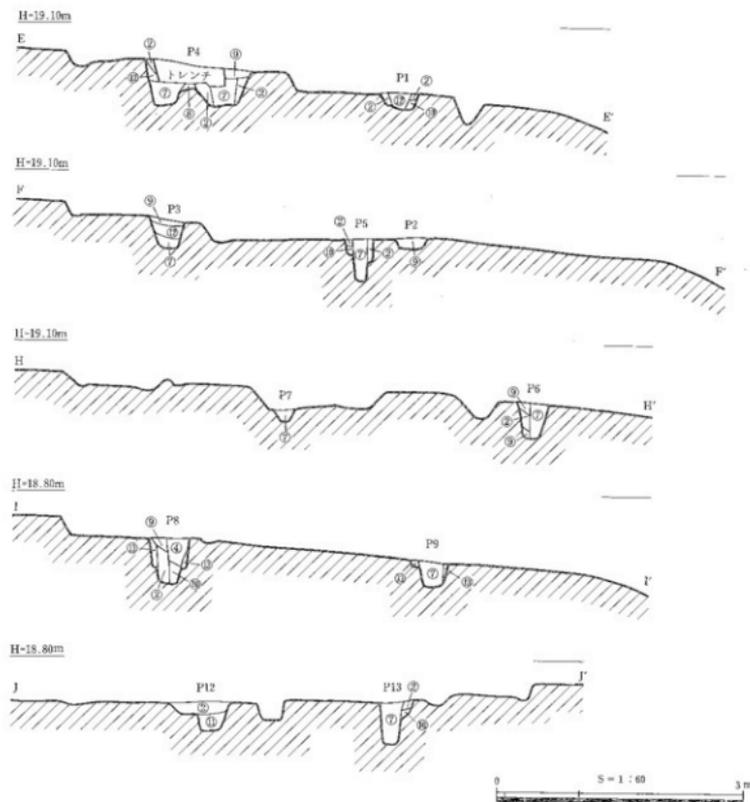
- 埋 土 埋土は2層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
 遺 物 土師器碗Po148を図化した。
 時 期 出土した土器および住居の切り合い関係より古墳時代中期後葉～後期前葉と考えられる。

S I 2 7 (挿図43、44、45・図版6、8、46)

位 置 F27グリッドにあり、標高18.5～18.8mに位置する。S I 2 5・2 6・2 8・2 9とそれぞれ切り合う。

形 態 多数の住居と切り合い、北側は削平されているが、平面形は方形を呈すると考えられる。検出できた規模は南北約3.7m、東西約1.7mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い南壁で最大34cmを測る。側溝は認められなかった。

主柱穴はP 8・P 9の2個が検出できた。規模はP 8 (60×50-57) cm、P 9 (56×47-30) cmを測り、柱穴間距離は3.2mである。



挿図44 S I 2 5 ~ 2 9 遺構図(2)

- 埋土 埋土は2層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
 遺物 土師器壺Po149・150を図化した。
 時期 出土した土器および住居の切り合い関係より古墳時代後期後葉と考えられる。

S I 2 8 (挿図43、44、45・図版6、8、46)

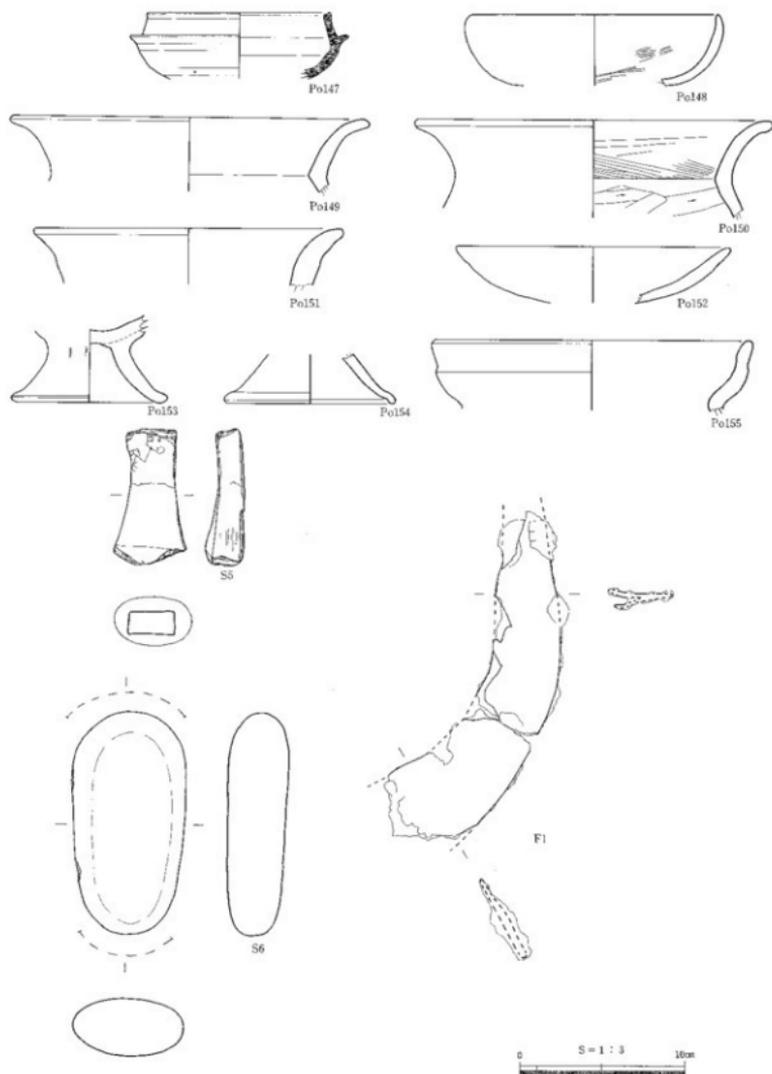
- 位置 F・G26・27グリッドにあり、標高18.5～18.8mに位置する。S I 2 5～2 7・2 9と切り合う。
 形態 多数の住居と切り合い、北および東側は削平されているが、平面形は方形を呈すると考えられる。
 検出できた規模は南北約6.1m、東西約4mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い南壁で最大20cmを測る。
 側溝は幅14～20cm、深さ4～8cmを測る。
 主柱穴はP10・P11の2個が検出できた。規模はP10(32×24以上—22)cm、P11(34×32—57)を測り、柱穴間距離は2.65mである。
 埋土 埋土は2層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
 遺物 土師器壺Po151、高坏Po152、脚部153・154を図化した。
 時期 出土した土器および住居の切り合い関係より古墳時代後期後葉～末と考えられる。

S I 2 9 (挿図43、44、45・図版6、8、46、52)

- 位置 F・G26グリッドにあり、標高18.5～18.8mに位置する。S I 2 5～2 8と切り合う。
 形態 多数の住居と切り合い、北および東側は削平されているため、ほとんど検出できなかったが、平面形は方形を呈すると考えられる。検出できた規模は南北約2.2m、東西約4.5mを測る。残存壁高は最も残りの良い南壁で最大24cmを測る。
 側溝は幅16～24cm、深さ4～9cmを測る。
 主柱穴はP12・P13の2個が検出できた。規模はP12(46×38—36)cm、P13(48×40—52)cmを測り、柱穴間距離は2.2mである。
 埋土 埋土は3層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
 遺物 土師器壺Po155、敲石S6を図化した。
 時期 出土した土器および住居の切り合い関係より古墳時代中期中葉～後葉と考えられる。

S I 3 0 (挿図46、47・図版6、9、46)

- 位置 G25・26グリッドにあり、標高18.9～19.2mに位置する。S I 3 1と切り合う。
 形態 建て替えが行われており、S I 3 1と切り合うが平面形は建て替え前、建て替え後とも方形を呈する。検出できた規模は建て替え前で南北約2.9m、東西約2m。建て替え後で南北約3.4m、東西約2.3mを測る。残存壁高はいずれも最も遺存状態の良い西壁で最大24cmを測る。
 側溝はいずれも幅16～28cm、深さ6～10cmを測る。
 主柱穴は建て替え前がP1・P2、建て替え後がP1・P3の2個で、規模はP1(50×38—16)cm、P2(37×36—12)cm、P3(36×28—10)cmを測り、柱穴間距離はP1—P2間1.2m、P1—P3間2mである。
 建て替え後の住居はP3をほぼ中心として、平面形が隅丸方形を呈する土坑状に掘りくぼめられている。規模は(218×115—29)cmを測る。この埋土中より土師器壺Po156～158が出土している。
 埋土 埋土は建て替え前、建て替え後も自然堆積したものと考えられる。
 遺物 土師器壺の他に甔Po159、須恵器Po160を図化した。
 時期 出土した土器より建て替え前、建て替え後とも古墳時代後期前葉～中葉と考えられる。



挿図45 S125~29 遺物実測図

S I 3 1 (挿図46、47・図版6、9、46)

位置 G25・26グリッドにあり、標高18.7~19.1mに位置する。S I 3 0と切り合う。
 形態 東側が削平されているが、平面形は方形を呈すると考えられる。検出できた規模は南北約7.7m、東西約5.5mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い南壁で最大28cmを測る。

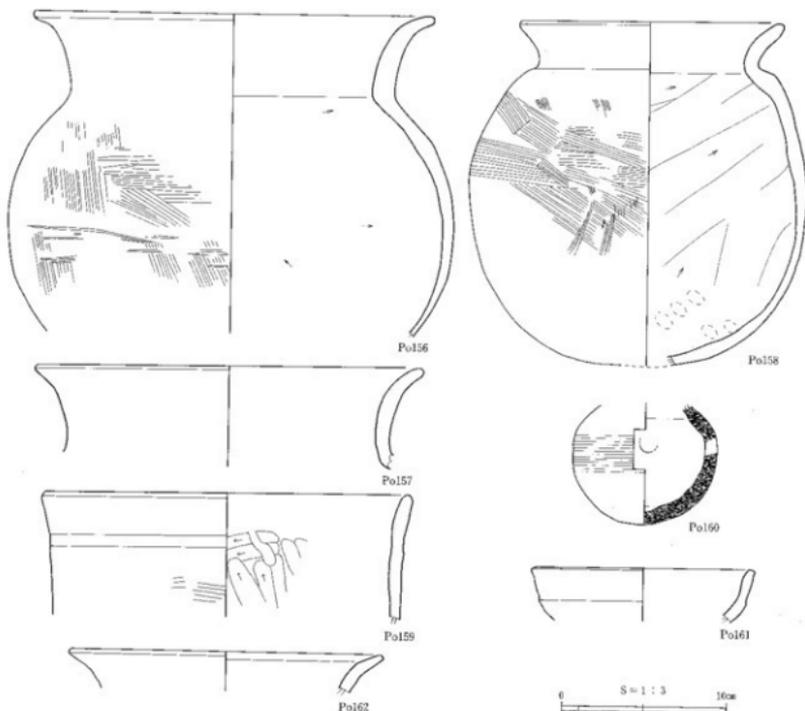
壁際で側溝は認められなかったが、住居床面西側で側溝と考えられる幅20~30cm、深さ5~6cmの溝を検出した。また北側でも幅38~50cm、深さ4~10cmの溝を検出している。

主柱穴はP 4~P 7の4個が検出できた。検出状況から当住居は建て替えられたものと考えられ、P 4・P 5とP 6・P 7の柱穴を用いた2時期に及んでいる。ピットの規模はP 4 (75×66以上-58) cm、P 5 (56×50-62) cm、P 6 (45×40以上-42) cm、P 7 (69×52-55) cmを測り、柱穴間距離はP 4-P 5間、P 6-P 7間とも3.5mである。

埋土 埋土は5層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 土師器甕Po161・162を図化した。

時期 出土した土器および住居の切り合い関係より古墳時代後期後葉と考えられる。

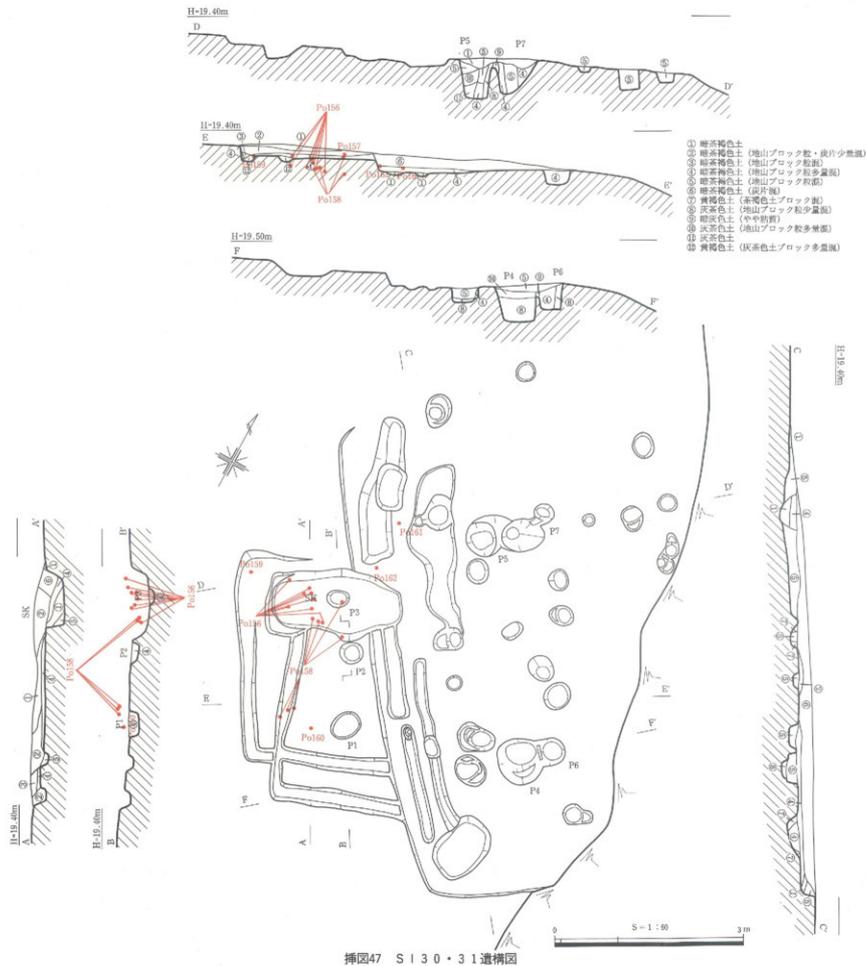


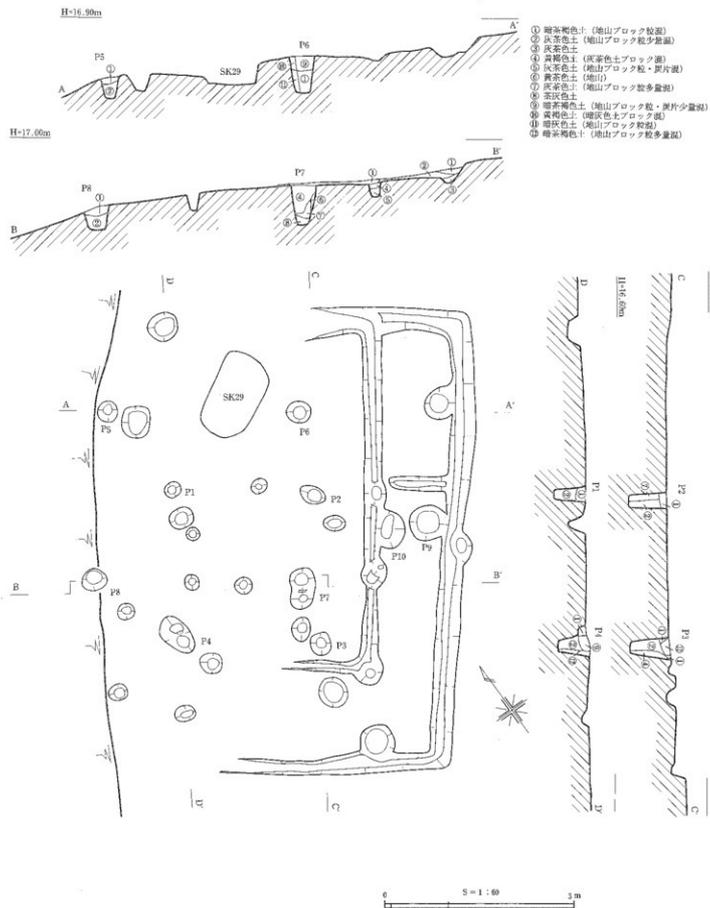
挿図46 S I 3 0・3 1遺物実測図

S I 3 2 (挿図48、49、50・図版9、46、52)

位置 D・E27・28グリッドにあり、標高16.3~16.7mに位置する。住居内にSK29がある。

形態 検出状況および土層断面から、当住居は建て替えに伴い縮小したものと考えられる。平面形は、西





挿図48 S132遺構図

側が流失しているが、いずれも方形を呈するものと考えられる。検出できた規模は建て替え前で南北約7.4m、東西約6m。建て替え後で南北約5.8m、東西約4.6mを測る。残存壁高はいずれも最も遺存状態の良い東壁で、それぞれ最大32cm、12cmを測る。

側溝は幅が建て替え前で20~26cm、建て替え後で14~22cm、深さはいずれも6~10cmを測る。

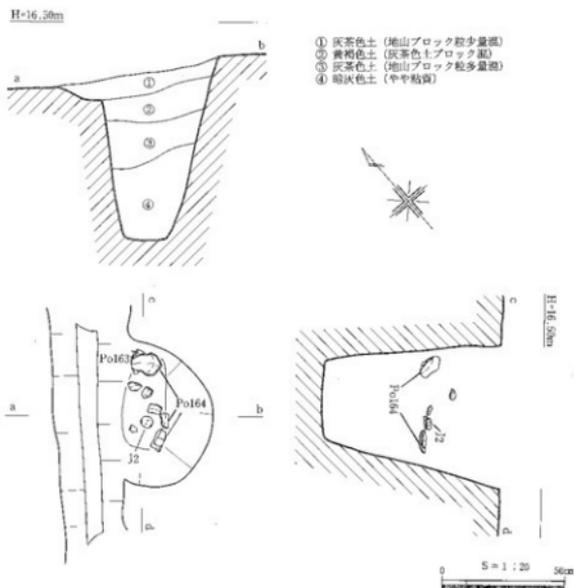
主柱穴は建て替え前でP1~P4の4個。建て替え後でP5~P8の4個がそれぞれ検出できた。規模はP1(27×24-50)cm、P2(43×29-62)cm、P3(35×32-63)cm、P4(69×39-51)cm、P5(33×32-39)cm、P6(40×36-58)cm、P7(40×36以上-60)cm、P8(40×34-38)cmを測り、柱穴間距離はP1-P2間およびP5-P6間から順に2.3m、2.3m、2.2m、2.4m、3.1m、2.7m、3.3m、2.7mをそれぞれ測る。

特殊 建て替え前住居の東壁際中央部で特殊ビットP9を検出した。平面形はほぼ円形を呈し、規模はビット(60×58-19)cmを測る。埋土は灰色系の埋土2層に分層できた。また、P9の北側で幅22cm、深さ6cmの溝を検出した。P9の西では建て替え後の住居に伴うと考えられるP10を検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は(58×48-68)cmを測る。埋土は灰色系の埋土4層に分層でき、最下層は粘質系の埋土となる。このP10内から土師器小型丸底壺Po163、椀Po164、滑石製双孔円板J2が出土した。

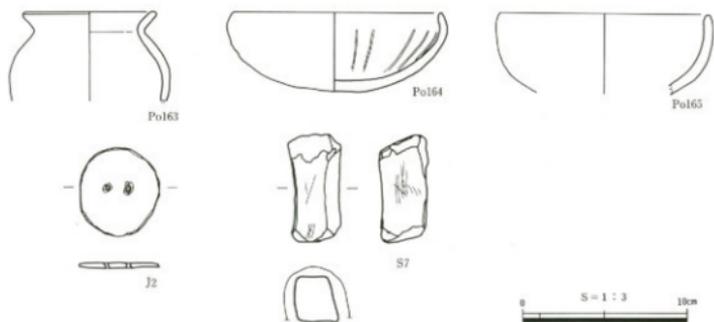
埋土 埋土は3層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 P10内から出土したものの他に土師器椀Po165、砥石S7を図化した。

時期 出土した土器より建て替え前は古墳時代中期中葉、建て替え後は古墳時代中期後葉と考えられる。



挿図49 S132P10内遺物出土状況図

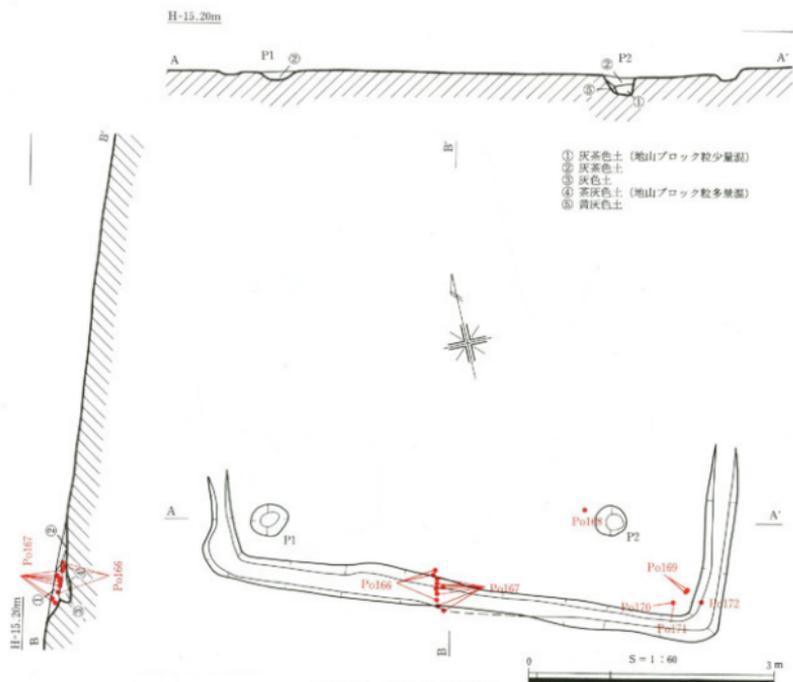


挿図50 S132遺物実測図

S133 (挿図51、52・図版9、46、47)

位置 F29グリッドにあり、標高14.5~14.8mに位置する。SB03・04と隣接する。

形態 北側のほとんどを削平されているが、平面形は方形を呈するものと考えられる。検出できた規模は南北約2.5m、東西約6.4mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い南壁で最大25cmを測る。



挿図51 S133遺構図

側溝は幅20～42、深さ5～8cmを測る。

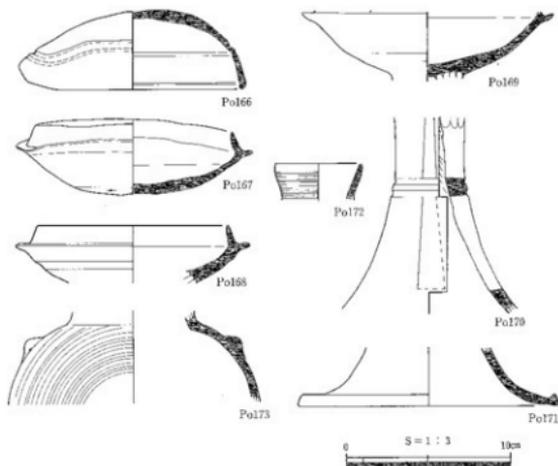
支柱穴はP1・P

2の2個が検出できた。規模はP1(46×40-10)cm、P2(38×37-22)cmを測り、柱穴間距離は4.2mである。

埋土 埋土は4層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 須恵器坏蓋Po166、坏身Po167・168、高坏Po169～171、壺Po172、提瓶Po173を図化した。

時期 出土した土器より古墳時代後期後葉と考えられる。



挿図52 S133 遺物実測図

S134 (挿図53、54・図版10、47)

位置 D・E29グリッドにあり、標高14.3～14.5mに位置する。

形態 ほとんど削平されているが平面形は長方形を呈すると考えられる。検出できた規模は南北約4.9m、東西約3.6mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大10cmを測る。

側溝は認められなかった。

支柱穴はP1～P4の4個が検出できた。規模はP1(36×30-22)、P2(46×33-39)cm、P3(36×33-44)cm、P4(39×35-29)cmを測り、柱穴間距離はP1-P2間から順に1.4m、1.75m、1.4m、1.8mである。

焼土面 住居のほぼ中央と考えられる位置で、いびつな円形に広がる焼土面を検出した。その範囲は(31×31)cmを測る。

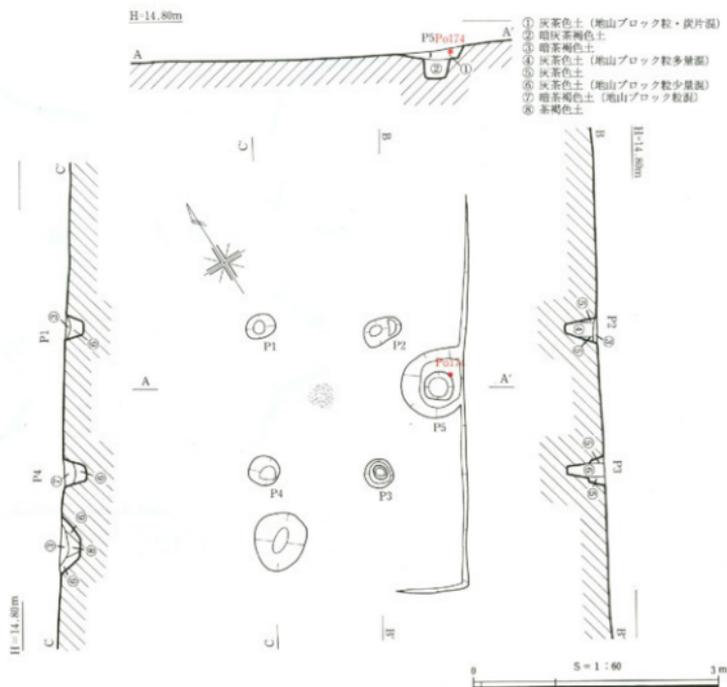
特殊 住居東壁際の中央部で特殊ビットP5を検出した。平面形は円形を呈し、規模は(85×74-33)cmビットを測る。埋土は2層に分層でき、人為的に埋められたものと考えられる。

遺物 土師器壺Po174を図化した。

時期 出土した土器より古墳時代後期前葉～中葉と考えられる。



挿図53 S134 遺物実測図



挿図54 S134遺構図

S135 (挿図55、56・図版10、11、47)

位置 D・E8・9グリッドにあり、標高27~27.2mに位置する。S137・38と隣接する。

形態 西側は削平されているが平面形は方形を呈する。検出できた規模は南北約4.9m、東西約4.2mを測り、床面積は約20.6㎡である。残存壁高は最も遺存状態の良い南壁で最大18cmを測る。

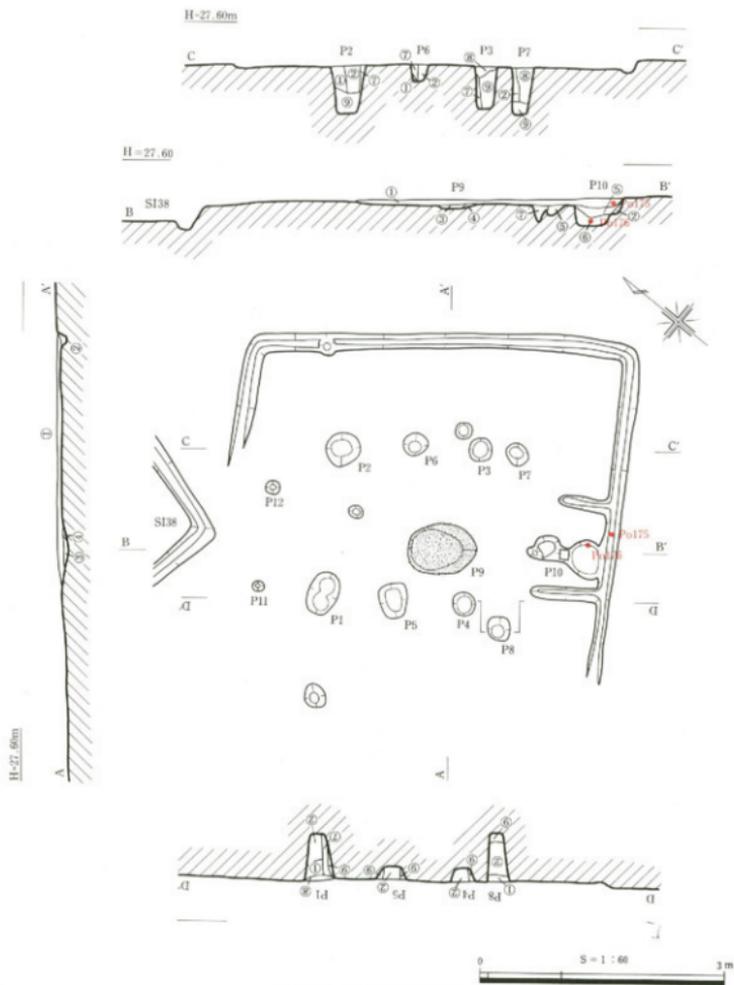
側溝は幅14~22cm、深さ3~7cmを測る。

主柱穴はP1~P4の4個が検出できた。規模はP1 (53×36-58) cm、P2 (44×42-58) cm、P3 (28×28-52) cm、P4 (28×28-17) cmを測り、柱穴間距離はP1-P2間から順に1.9m、1.7m、1.9m、1.7mである。また、P5~8の位置関係から当住居は建て替えられたものと考えられ、これらのピットは建て替え前の主柱穴であろう。規模はP5 (42×36-17) cm、P6 (31×28-21) cm、P7 (28×28-58) cm、P8 (34×31-58) cmを測り、柱穴間距離はP5-P6間から順に1.9m、1.25m、2.2m、1.35mである。

住居床面北側で検出できたP11・12は住居に伴う何らかの施設であることが考えられ、規模はP11 (14×14-45) cm、P12 (18×18-25) cmを測り、P11-P12間の距離は1.25mである。

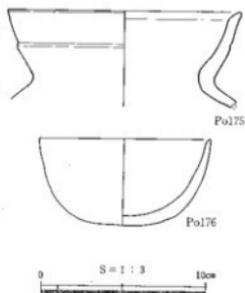
中央ピット 中央ピットはP9で平面形は楕円形を呈する。規模は(82×62-5) cmを測る。埋土は灰色系の埋土2層に分層できた。

- ① 灰茶色土 (地山ブロック粒・皮片混)
- ② 灰茶色土 (地山ブロック粒少量混)
- ③ 灰色土
- ④ 暗灰色土
- ⑤ 赤灰色土 (地山ブロック粒少量・皮片混)
- ⑥ 赤褐色粘質土 (地山ブロック粒少量混)
- ⑦ 黄褐色土 (灰茶色土ブロック混)
- ⑧ 灰茶色土
- ⑨ 灰茶色土 (地山ブロック粒多量混)



挿図55 S135遺構図

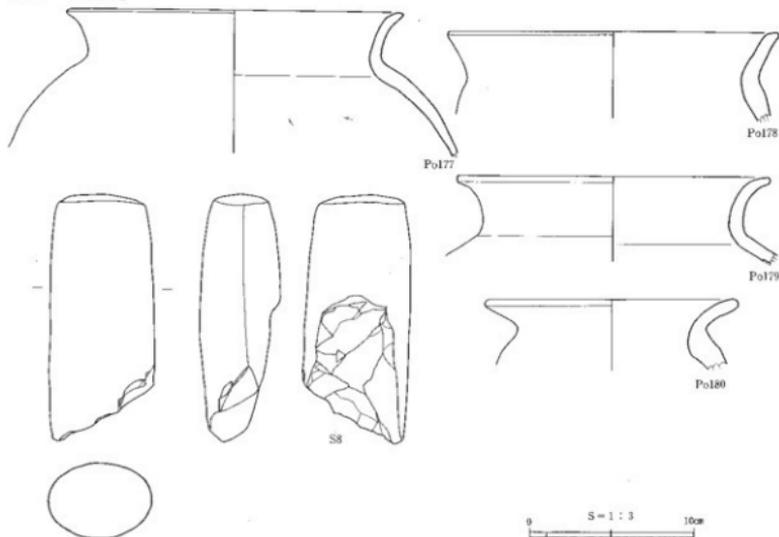
- 焼土面 P 9の周囲および底面に沿う形で焼土面を検出した。
- 特殊 住居南壁際中央部で特殊ビットP10を検出した。平面形は鍵穴状
- ビット を呈し、規模は(96×48-26)cmを測る。埋土は4層に分層でき、人為的に埋められたものと考えられる。また、P10の東西両脇で幅14~16cm、深さ5cm程度の溝を検出した。
- 埋土 埋土は2層に分層でき、①層中には細かい炭片を含んでいる。
- 遺物 土師器壺Po175、椀Po176を図化した。
- 時期 出土した土器および周囲の住居との関係より古墳時代中期後葉と
考えられる。



挿図56 S I 3 5 遺物実測図

S I 3 6 (挿図57、58・図版10、47、52)

- 位置 C 7グリッドにあり、標高25.7~26mに位置する。
- 形態 西側は流失しているが平面形は方形を呈する。検出できた規模は南北約3.7m、東西約2.5mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大45cmを測る。
- 側溝は幅15~25cm、深さ5~13cmを測り、東側の1ヶ所では床面中央部へ向けて延びている。
- 主柱穴はP 1・P 2の2個で、規模はP 1 (39×38-77) cm、P 2 (31×31-69) cmを測り、柱穴間距離は1.6mである。P 3・P 4についても当住居の主柱穴であることが考えられ、規模はP 3 (39×36-64) cm、P 4 (69×68-93) cmを測り、柱穴間距離は1mである。P 1~P 4の位置関係から当住居は建て替えに伴い拡張されたものと考えられる。
- 中央 P 3とP 4の間で中央ビットP 5を検出した。平面形は隅丸長方形をなし規模は(70×45-8) cm
- ビット を測る。



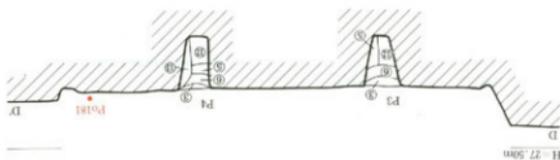
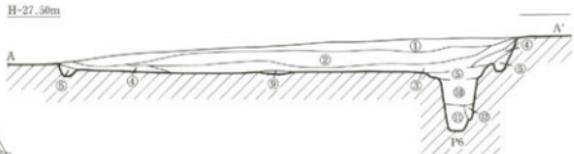
挿図57 S I 3 6 遺物実測図

H-27.50m



- ① 暗茶褐色土 (地山ブロック粒・炭片少量混)
- ② 灰茶色土 (地山ブロック粒・炭片混)
- ③ 淡茶色土 (地山ブロック粒少量混)
- ④ 暗灰茶褐色土 (地山ブロック粒少量混)
- ⑤ 灰茶色土
- ⑥ 灰茶色土 (河山ブロック粒少量混)
- ⑦ 高灰土 (地山ブロック粒少量混)
- ⑧ 暗茶褐色土 (地山ブロック粒少量混)
- ⑨ 暗灰色土 (焼土ブロック混)
- ⑩ 暗灰茶褐色土
- ⑪ 黄褐色土 (灰茶色土ブロック少量混)
- ⑫ 暗灰色土 (やが粘質)
- ⑬ 黄褐色土 (灰茶色土ブロック混)
- ⑭ 淡灰土 (地山ブロック粒・焼土ブロック・炭片混)

H-27.56m



挿図59 S I 3 7 遺構図

側溝は幅14~20cm、深さ4~10cmを測る。

主柱穴はP 1~P 4で、規模はP 1 (45×40-64) cm、P 2 (43×43-64) cm、P 3 (47×45-63) cm、P 4 (41×39-64) cmを測り、柱穴間距離はP 1-P 2間から順に2.3m、2.25m、2.25m、2.35mである。

また、住居北側のほぼ中央部でP 8 (33×32-73) cmを検出した。

中央
ビット 中央ビットはP 5で、平面形はほぼ円形を呈し、規模は(66×65-8) cmを測る。埋土は暗灰色土1層で、焼土ブロックを含んでいる。

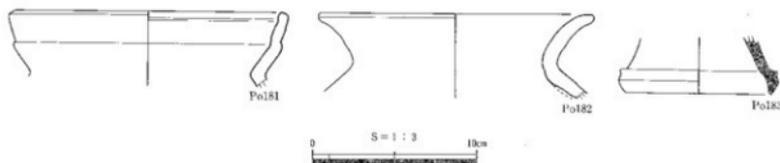
焼土面 P 5の周囲および底面に沿う形で焼土面を検出した。

特殊
ビット 住居東壁際中央部で特殊ビットP 6を検出した。平面形は円形を呈し、規模は(78×69-72) cmを測る。埋土は4層に分層でき、人為的に埋められたものと考えられる。またP 1の西側で土坑状のP 7を検出した。平面形は長方形を呈し、規模は(140×72-11) cmを測る。埋土は淡い灰色土1層で、焼土ブロック、炭片を含んでいる。

埋土 埋土は7層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。②層中には細かい炭片を含んでいる。

遺物 土師器壺Po181・182、須恵器脚部Po183を図化した。

時期 出土した土器および住居の切り合い関係より古墳時代中期後葉~後期前葉と考えられる。



挿図60 S I 3 7 遺物実測図

S I 3 8 (挿図61、63・図版11、47)

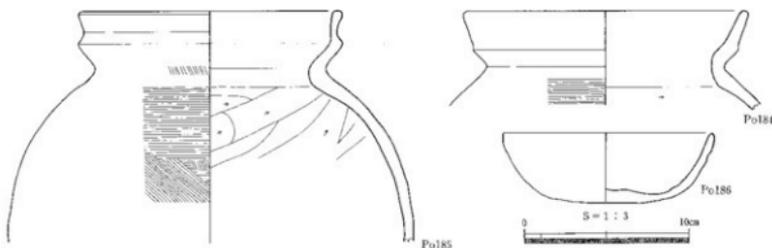
位置 D 9グリッドにあり、標高26.7~27.3mに位置する。S I 3 7と切り合い、S I 3 5と隣接する。

形態 東側の一部を削平されているが、平面形は方形を呈する。検出できた規模は南北、東西とも約4.7mを測り、床面積は約22m²である。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大30cmを測る。

側溝は幅14~20cm、深さ4~9cmを測る。

主柱穴はP 1~P 4の4個で、規模はP 1 (33×32-38) cm、P 2 (34×28-43) cm、P 3 (30×26-58) cm、P 4 (26×26-37) cmを測り、柱穴間距離はP 1-P 2間から順に1.3m、1.5m、1.3m、1.5mである。

また、住居東側のほぼ中央部でP 5 (26×26-31) cmを検出した。

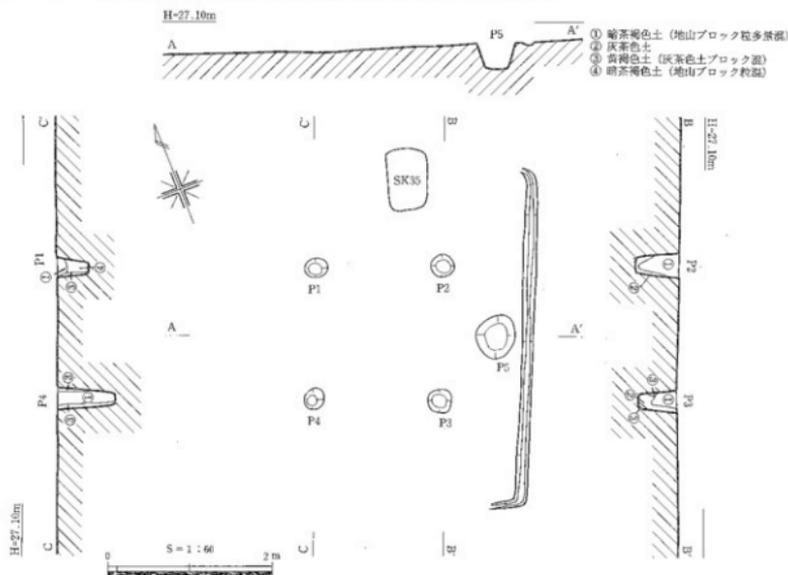


挿図61 S I 3 8 遺物実測図

- 焼土面 住居床面のほぼ中央部で楕円形に広がる焼土面を検出した。その範囲は(64×32)cmを測る。
- 炭化材 住居の南東側を中心に床面からやや浮いた位置で構造材と考えられる炭化材を検出した。このことから、当住居は焼失したものと考えられる。検出された炭化材は板状を呈するものが多く、壁側から中央部へ向けて倒れたものと考えられる。
- 埋土 埋土は3層に分層でき、②・③層中には焼土ブロックと炭片を多量に含んでいる。
- 遺物 土師器甕Po184・185、椀Po186を図化した。
- 時期 出土した土器および住居の切り合い関係より古墳時代中期中葉～後葉と考えられる。

S I 3 9 (挿図62・図版11)

- 位置 D・E10グリッドにあり、標高26.8m付近に位置する。S I 4 3 と隣接し、住居内でS K 3 5 を検出した。
- 形態 ほとんど削平されており、東側の側溝と主柱穴、特殊ビットのみの検出であったが、平面形は方形を呈すると考えられる。検出できた規模は南北約4.2mを測り、東西は東側側溝と主柱穴との位置関係から約4mを測るものと考えられる。
- 側溝は幅8～16cm、深さ4cmを測る。
- 主柱穴はP 1～P 4の4個で、規模はP 1 (29×25—38) cm、P 2 (29×28—53) cm、P 3 (30×29—48) cm、P 4 (28×26—69) cmを測り、柱穴間距離はP 1—P 2間から順に1.6m、1.65m、1.55m、1.6mである。
- 特殊 ビット 住居東壁際中央部で特殊ビットP 5を検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は(55×49—30) cmを測る。
- 遺物 出土しなかった。
- 時期 周囲の住居との関係より古墳時代中期中葉～後葉と考えられる。



側溝は幅11~16cm、深さ4~8cmを測る。

主柱穴はP 1~P 4の4個で、規模はP 1 (38×33-64) cm、P 2 (46×44-82) cm、P 3 (52×42-50) cm、P 4 (42×35-62) cmを測り、柱穴間距離はP 1-P 2間から順に1.4m、1.8m、1.2m、2.0mである。また、P 3の東側で側溝へつながる幅13~20cm、深さ6~8cmの溝を検出した。

住居北東および南東隅でP 5・6を検出した。規模はP 5 (74×64-54) cm、P 6 (58×54-50) cmを測る。

中央ピットはP 7で平面形は楕円形を呈する。規模は (58×52-11) cmを測る。埋土は茶灰色土1層である。

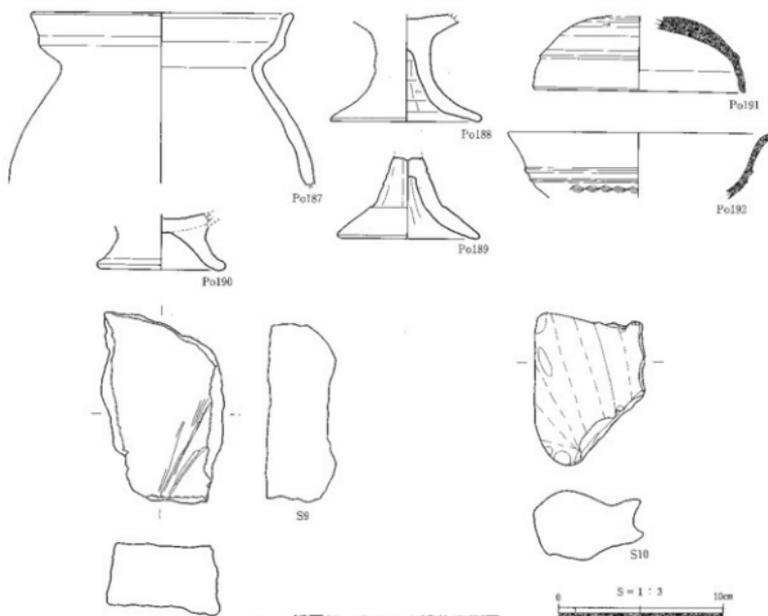
焼土面 P 7底面の北側から西に向けて円形に広がる焼土面を検出した。その範囲は (37×34) cmを測る。また、P 1の北東部でも (16×16) cmの円形に広がる焼土面を検出した。

特殊ピット 住居東壁際のほぼ中央部で特殊ピットP 8を検出した。平面形は鍵穴状を呈し、規模は (68×58-73) cmを測る。埋土は2層に分層できた。

埋土 埋土は11層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 土師器壺Po187、高坏Po188・189、脚部Po190、須恵器杯蓋Po191、高坏Po192、磁石S 9、石皿S10を図化した。

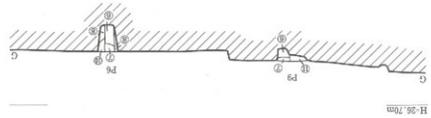
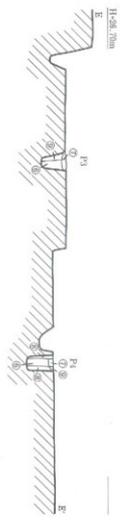
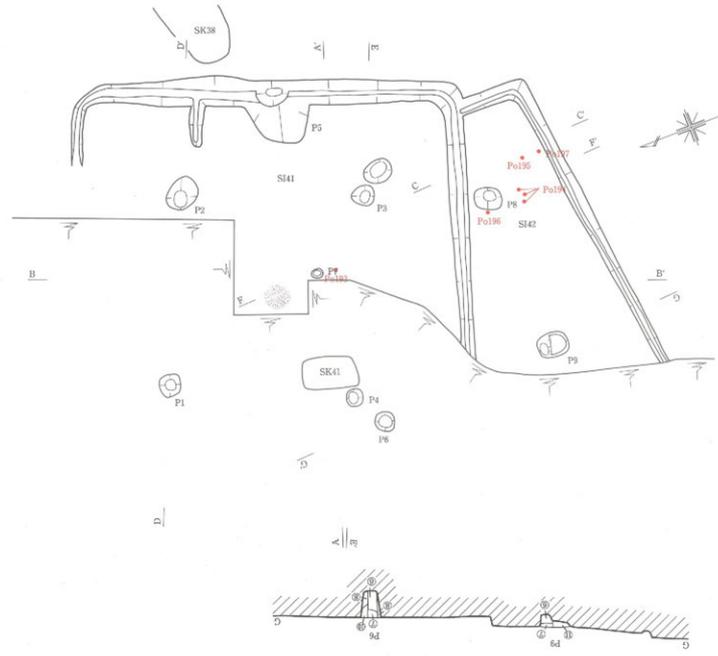
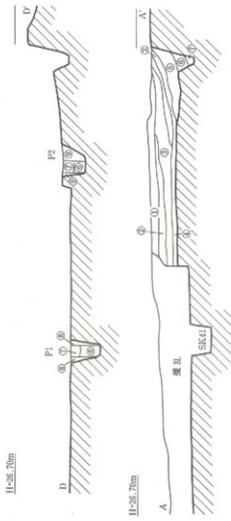
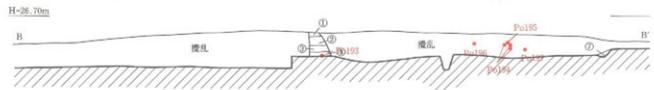
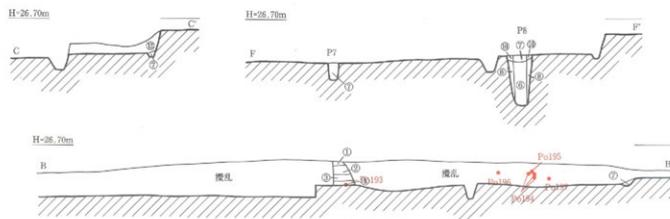
時期 出土した土器より古墳時代後期中葉と考えられる。



挿図65 S I 4 0 遺物実測図

S I 4 1・4 2 (挿図66、67・図版12、47、48)

位置 C・D10グリッドにあり、標高26.2~26.5mに位置する。互いに切り合い関係にあり、S I 4 3・4 4、SK 3 8と隣接し、S I 4 1内でSK 4 1を検出した。



- ① 赤茶褐色土 (地山ブロック状)
- ② 赤茶褐色土 (地山ブロック状多量)
- ③ 赤茶褐色土 (地山ブロック状・灰質少量)
- ④ 赤茶褐色土 (地山ブロック状少量)
- ⑤ 灰茶褐色土 (地山ブロック状多量)
- ⑥ 灰茶褐色土 (地山ブロック状少量)
- ⑦ 灰茶褐色土 (灰茶褐色土)
- ⑧ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ⑨ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ⑩ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ⑪ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ⑫ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ⑬ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ⑭ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ⑮ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ⑯ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ⑰ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ⑱ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ⑲ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ⑳ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㉑ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㉒ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㉓ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㉔ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㉕ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㉖ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㉗ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㉘ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㉙ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㉚ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㉛ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㉜ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㉝ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㉞ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㉟ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㊱ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㊲ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㊳ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㊴ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㊵ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㊶ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㊷ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㊸ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㊹ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㊺ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㊻ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㊼ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㊽ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㊾ 赤褐色土 (灰茶褐色土)
- ㊿ 赤褐色土 (灰茶褐色土)

挿図66 S I 4 1 ・ 4 2 遺構図

形態 S I 4 1・4 2とも西側は大きく削平されており、S I 4 2はS I 4 1によって切られることによりわずかしかが検出できなかったが、平面形はいずれも方形を呈すると考えられる。検出できた規模はS I 4 1で南北約6.3m、東西約3.8m。S I 4 2で南北約2.7m、東西約5.1mをそれぞれ測る。残存壁高はそれぞれ最も遺存状態の良い東壁で68cmと46cmを測る。

側溝はS I 4 1で幅16～30cm、深さ10～26cm。S I 4 2で幅12～14cm、深さ4～8cmをそれぞれ測る。

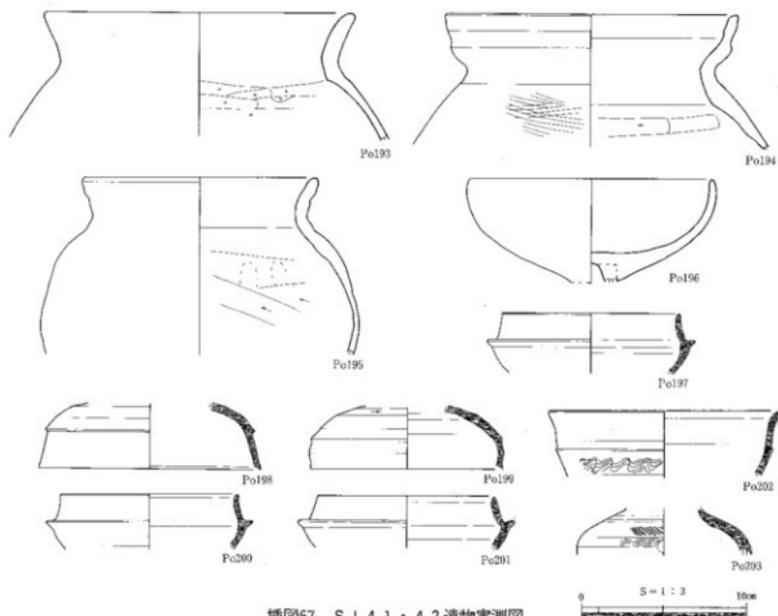
主柱穴はS I 4 1がP 1～P 4、S I 4 2がP 6～P 9のそれぞれ4個であるが、P 1・P 4・P 6は攪乱が及んでいない深さまで掘り下げることにより検出している。規模はP 1 (40×38—47) cm、P 2 (56×48—37) cm、P 3 (36×33—40) cm、P 4 (28×27—43) cm、P 6 (32×32—44) cm、P 7 (18×15—29) cm、P 8 (44×36—80) cm、P 9 (49×40—20) cmを測る。柱穴間距離はP 1—P 2間、P 6—P 7間から順に3m、2.9m、3.2m、2.9mと、2.6m、3m、2.6m、2.8mをそれぞれ測る。

焼土面 S I 4 1の床面はほぼ中央部で円形に広がる焼土面を検出した。その範囲は(42×38) cmを測る。

特殊 S I 4 1東壁際中央部で特殊ビットP 5を検出した。平面形はいびつな楕円形を呈し、規模は(10ビット 2×90—76)を測る。埋土は茶褐色粘質土1層で、人為的に埋められたものと考えられる。またP 5の北側で幅16～22cm、深さ10cmの溝を検出した。

埋土 埋土はS I 4 1で7層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。④層中には細かい炭片を含んでいる。S I 4 2では焼土ブロック層が堆積しており、このことから焼失したものと考えられる。

遺物 S I 4 1に伴うものとして土師器壺Po193、S I 4 2に伴うものとして土師器壺Po194・195、高坏Po196、須恵器坏身Po197を図化した。また埋土中から出土した須恵器坏蓋Po198・199、坏身Po196、須恵器坏身Po197を図化した。また埋土中から出土した須恵器坏蓋Po198・199、坏身



挿図67 S I 4 1・4 2 遺物実測図

Po200・201、高坏Po202、Po203を併せて図化した。

時期 出土した遺物および切り合い関係よりS I 4 1は古墳時代後期後葉、S I 4 2は古墳時代後期中葉と考えられる。

S I 4 3 (挿図68・図版12)

位置 D10グリッドにあり標高26.7m付近に位置する。S I 3 7～3 9・4 1・4 2・4 4とそれぞれ隣接する。

形態 ほとんど削平されておりわずかしか検出できなかったが、平面形は方形を呈すると考えられる。検出できた規模は南北、東西とも約2.1mを測る。

側溝は幅6～14cm、深さ5～7cmを測る。

主柱穴はP 1・P 2の2個で、規模はP 1 (30×28—26) cm、P 2 (33×28—28) cmを測り、柱穴

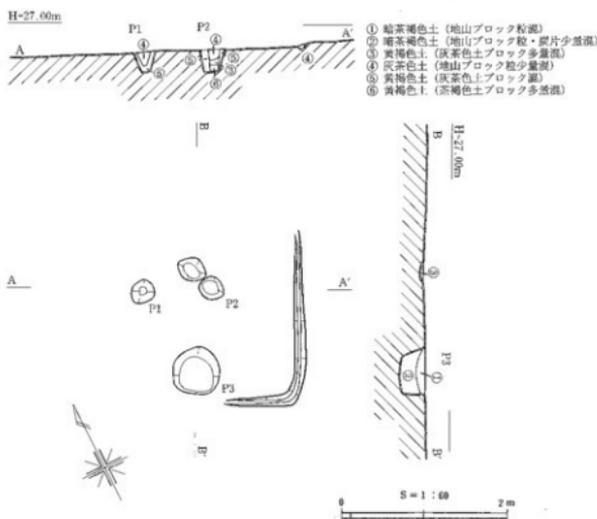
間距離は0.85mである。

特殊 住居南壁際で特殊
ピット ピットP 3を検出した。

平面形は円形を呈し、規模は(58×57—30) cmを測る。埋土は2層に分層でき、②層中には炭片を含んでいる。

遺物 土師器細片が出土したが、図化できなかった。

時期 出土した土器および岡田の住居との関係より古墳時代中期中葉～後葉と考えられる。



挿図68 S I 4 3 遺構図

S I 4 4 (挿図69・図版12)

位置 D10グリッドにあり、標高27m付近に位置する。S I 3 7・3 8、S I 4 1～4 3と隣接し、住居内でSK 3 7を検出した。

形態 ほとんど削平されておりわずかしか検出できなかったが、平面形は方形を呈すると考えられる。検出できた規模は南北約2.6m、東西約1.7mを測る。

側溝は幅12～23cm、深さ4～6cmを測る。

主柱穴はP 1・P 2の2個で、規模はP 1 (45×43—50) cm、P 2 (28×24—32) cmを測り、柱穴間距離は1.4mである。

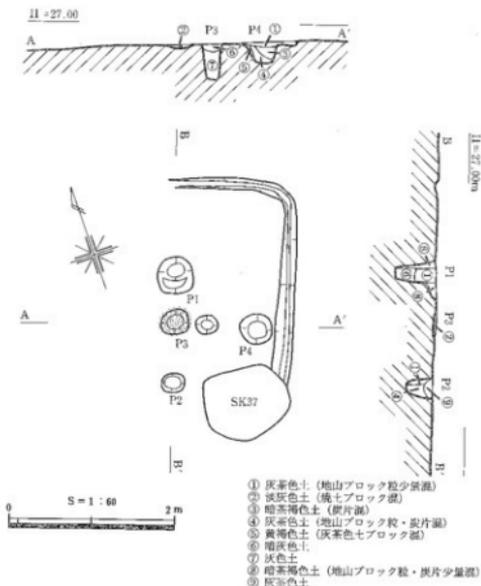
中央 ビットはP3で、平面形は円形を呈す。規模は(35×31-5) cmを測る。埋土は淡い灰色土1層で、焼土ブロックを含んでいる。

焼土面 P3の周囲および底面に沿う形で焼土面を検出した。

特殊 住居東壁際の中央部と考えられる位置で、特殊ビットP4を検出した。平面形は円形を呈し、規模は(38×38-23) cmを測る。③・④層には炭片を含んでいる。

遺物 土師器細片が出土したが図化できなかった。

時期 出土した土器および周囲の住居との関係より古墳時代中期中葉～後葉と考えられる。



- ① 灰青色土 (地山ブロック粒少量混)
- ② 淡灰色土 (焼土ブロック混)
- ③ 暗茶褐色土 (炭片混)
- ④ 灰青色土 (地山ブロック粒・炭片混)
- ⑤ 黄褐色土 (灰青色セブロック混)
- ⑥ 暗灰色土
- ⑦ 灰青色土
- ⑧ 暗茶褐色土 (地山ブロック粒・炭片少量混)
- ⑨ 灰青色土

S145 (挿図70、71・図版13、48)

挿図69 S144遺構図

位置 D11・12グリッドにあり、標高25.9～26.2mに位置する。住居内でSK40を検出した。

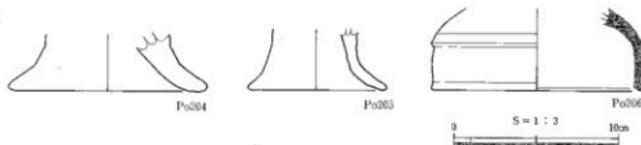
形態 西側は流失しており、覆土をかなり受けているが、平面形は方形を呈すると考えられる。検出できた規模は南北、東西とも約4.3mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大26cmを測る。側溝は幅14cm、深さ5cmを測り、北側ではP2に向けて延びる溝を検出した。

主柱穴はP1～P4で、規模はP1(39×38-59) cm、P2(48×37-46) cm、P3(44×38-42) cm、P4(39×36-55) cmを測り、柱穴間距離はP1-P2間から順に2.75m、2.9m、2.9m、2.75mである。なお、P1はSK40内で検出された。

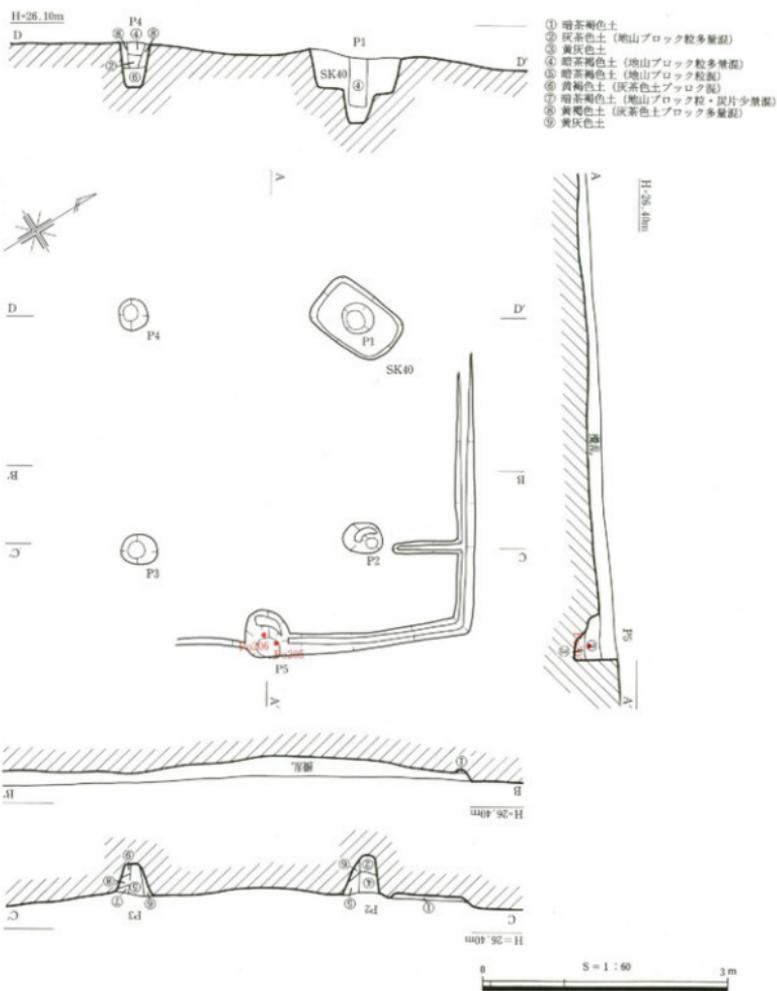
特殊 住居東壁際のほぼ中央部と考えられる位置で、特殊ビットP5を検出した。平面形は円形を呈し、ビット規模は(56×54-30) cmを測る。埋土は2層で、③層上面から土師器脚部Po205、須恵器坏身Po206が出土した。

遺物 P5内から出土した土師の他に土師器脚部Po204を図化した。

時期 出土した土器より古墳時代後期中葉と考えられる。



挿図70 S145遺物実測図



S146 (挿図72・図版13)

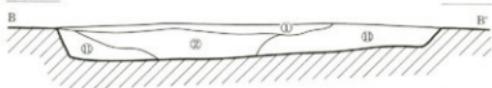
位置 B・C5・6グリッドにあり、標高22.7~23mに位置する。S160と切り合う。

形態 西側は流失しているが、平面形は方形を呈するものと考えられる。検出できた規模は南北約3.9m、東西約2.7mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い北壁で最大33cmを測る。

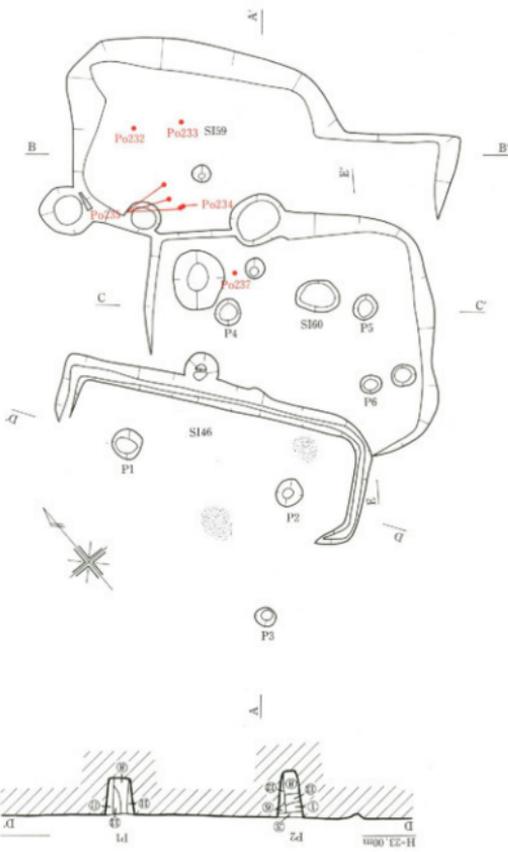
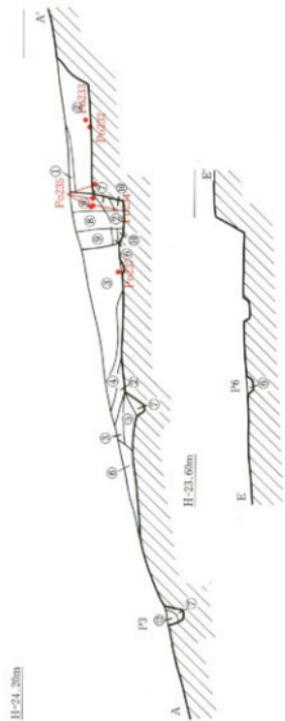
側溝は幅14~16cm、深さ5~10cmを測る。

- ① 暗茶褐色土 (地山ブロック粒・皮片少量混)
- ② 暗茶褐色土 (地山ブロック粒多量混)
- ③ 暗茶褐色土 (地山ブロック粒混)
- ④ 暗灰色土 (地山ブロック粒混)
- ⑤ 暗灰色土 (地山ブロック粒混)
- ⑥ 灰茶色土 (地山ブロック粒混)
- ⑦ 灰茶色土 (地山ブロック粒少量混)
- ⑧ 灰茶色土 (地山ブロック粒多量混)
- ⑨ 暗茶褐色土 (暗茶褐色土ブロック混)
- ⑩ 茶褐色土 (地山ブロック粒多量混)
- ⑪ 青褐色土 (灰茶色土ブロック混)
- ⑫ 灰茶色土 (地山ブロック粒少量混)
- ⑬ 灰茶色土 (地山ブロック粒多量混)

H-24.00m



H-23.60m



H-24.30m



挿図72 SI46・59・60遺構図

支柱穴はP1～P3の3個が検出できた。規模はP1(36×34-44)cm、P2(35×33-57)cm、P3(27×24-20)cmを測り、支柱間距離はP1-P2間から順に2.1m、1.5mである。

焼土面 住居床面のほぼ中央部と考えられる位置で、楕円形に広がる焼土面を検出した。範囲は(47×38)cmを測る。また掘り下げ中に南東隅で検出できた焼土面はS160に伴うものと考えられる。

埋土 埋土は4層に分层でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 土器細片が出土したが図化できなかった。

時期 出土した土器および住居の切り合い関係より古墳時代中期と考えられる。

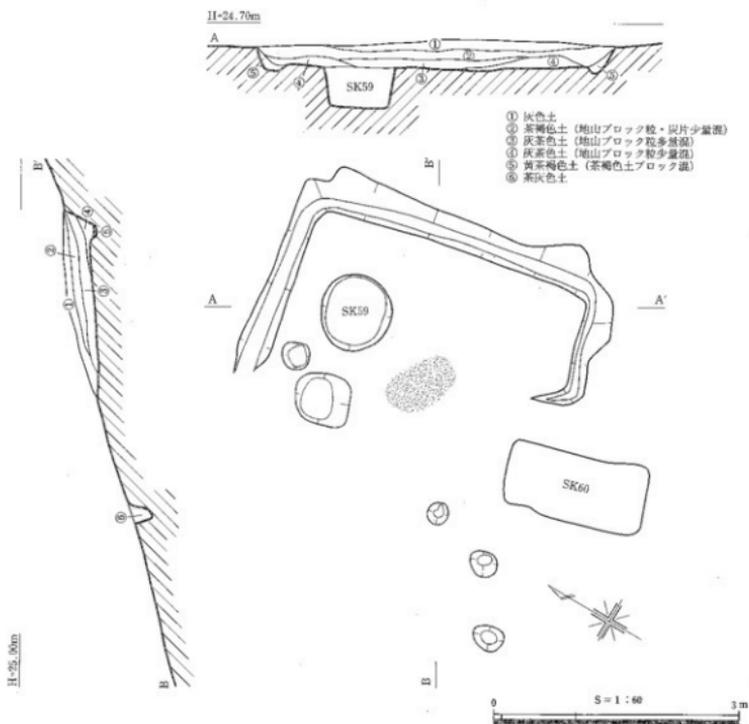
S147 (挿図73、74・図版13、48)

位置 B7グリッドにあり、標高24～24.7mに位置する。S148・58、SX03～5と隣接する。また床面でSK59を検出した。

形態 西側は流失しているが、平面形は方形を呈する。検出できた規模は南北約4.1m、東西約2.7mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大44cmを測る。

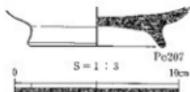
側溝は幅15～32cm、深さ7～9cmを測る。

支柱穴と考えられるピットは検出できなかった。



挿図73 S147遺構図

- 焼土面 住居床面のほぼ中央部と考えられる位置で、隅丸長方形に広がる焼土面を検出した。範囲は(86×50)cmを測る。
- 埋土 埋土は5層に分層でき自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 須恵器高台付坏Po207を図化した。
- 時期 出土した土器より古墳時代末～7世紀代と考えられる。



挿図74 S147 遺物実測図

S148 (挿図75、76・図版13、14、48)

- 位置 B7・8グリッドにあり、標高24.7～25.5mに位置する。S158と切り合い、S140・47、SK61と隣接する。
- 形態 西側は流失し、調査区域外となるが、平面形は方形を呈すると考えられる。検出できた規模は南北約6.5m、東西約3.4mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大74cmを測る。側溝は幅14～20cm、深さ5～7cmを測り、東側の一部は床面中央へ向けて延びている。主柱穴はP1・2の2個が検出できた。規模はP1(32×30～80)cm、P2(42×33～67)cmを測り、柱穴間距離は2.7mである。
- 焼土面 P1の西側で楕円形に広がる焼土面を検出した。範囲は(50×34)cmを測る。
- 特殊 住居床面の北東隅で特殊ピットP3を検出した。規模的に土坑に近いもので、平面形は不整な長方形を呈し、規模は(163×92～39)cmを測る。
- 埋土 埋土は13層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 土師器御部Po208、須恵器甕Po209・210、甕Po211を図化した。
- 時期 出土した土器より古墳時代後期中葉～後葉と考えられる。

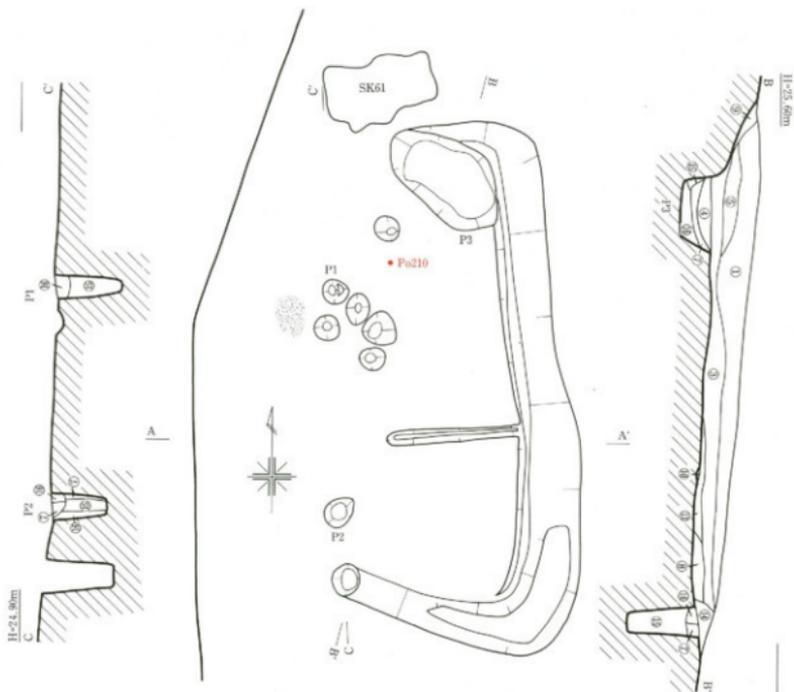
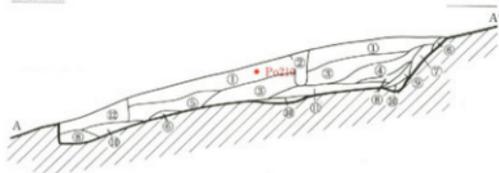
S149 (挿図77・図版14)

- 位置 D・E13グリッドにあり、標高25.4～25.7mに位置する。S150・51と隣接する。床面でSK43を検出した。
- 形態 全体を削平されているが、平面形は方形を呈し、検出できた規模は南北約4.5m、東西約5.1mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大26cmを測る。側溝は幅14～28cm、深さ5～7cmを測り、東側の一部ではP3に向けて延びている。主柱穴はP1～P4で、規模はP1(33×30～45)cm、P2(36×27～46)cm、P3(37×35～70)cm、P4(36×33～45)cmを測り、柱穴間距離はP1～P2間から順に2.55m、2.55m、2.5m、2.45mである。
- 焼土面 住居床面のほぼ中央部で楕円形に広がる焼土面を検出した。範囲は(50×43)cmを測る。
- 埋土 埋土は3層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 土師器細片が出土したが図化できなかった。
- 時期 出土した土器および周囲の住居との関係より古墳時代中期中葉～後葉と考えられる。

S150 (挿図78、79・図版14、48)

- 位置 D・E13・14グリッドにあり、標高25.2～25.5mに位置する。S151と切り合い、S149・52、SB05と隣接する。
- 形態 S151と切り合い、全体を削平されているが、平面形は方形を呈し、検出できた規模は南北約4.8m、東西約5.1mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大12cmを測る。側溝は幅14～18cm、深さ3～5cmを測る。主柱穴はP1～P4の4個で、規模はP1(36×33～43)cm、P2(49×46～67)cm、P3(41×

H:25.80m



- ① 茶灰色土 (地山ブロック粒少量・皮片混)
- ② 灰色土
- ③ 茶褐色土 (地山ブロック粒混)
- ④ 暗茶褐色土 (赤茶褐色土ブロック多量混)
- ⑤ 茶灰色土 (地山ブロック粒少量混)
- ⑥ 青褐色土 (灰茶色土ブロック混)
- ⑦ 灰茶色土 (地山ブロック粒少量混)
- ⑧ 黄茶褐色土 (茶褐色土ブロック混)
- ⑨ 茶褐色土
- ⑩ 赤灰色土
- ⑪ 黄灰褐色土
- ⑫ 表土・耕土
- ⑬ 茶褐色土 (地山ブロック粒多量混)
- ⑭ 暗灰茶褐色土
- ⑮ 灰茶色土
- ⑯ 灰茶色土 (地山ブロック粒多量混)

挿図75 S148遺構図

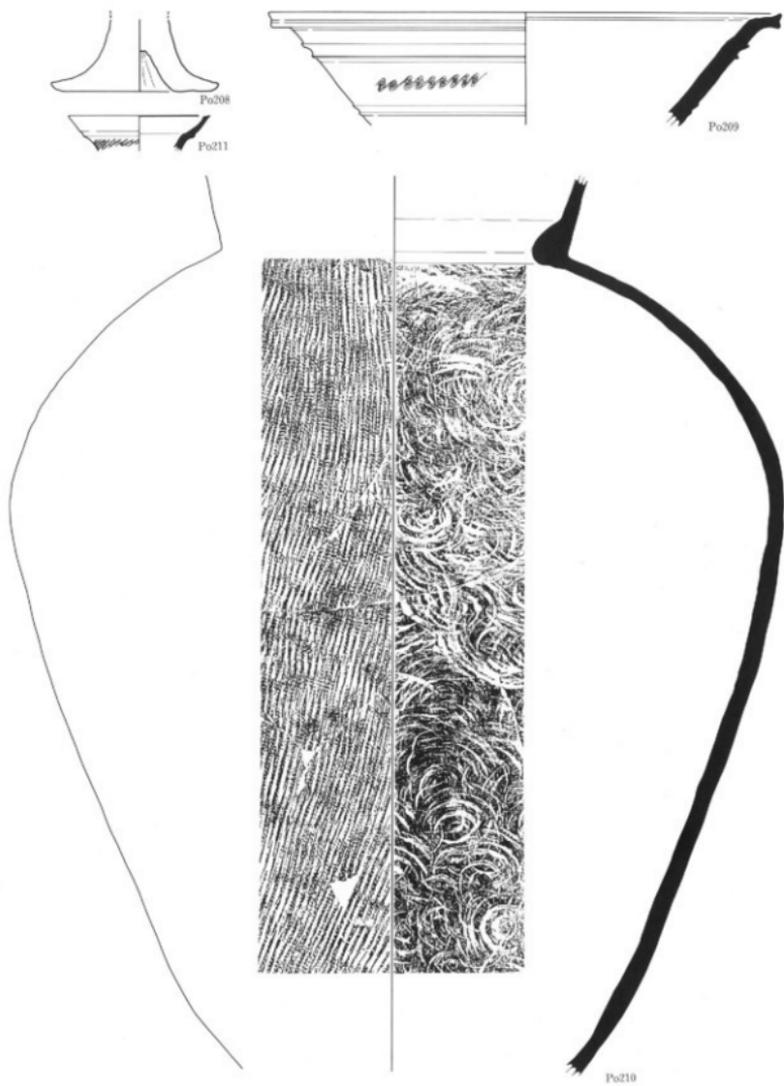
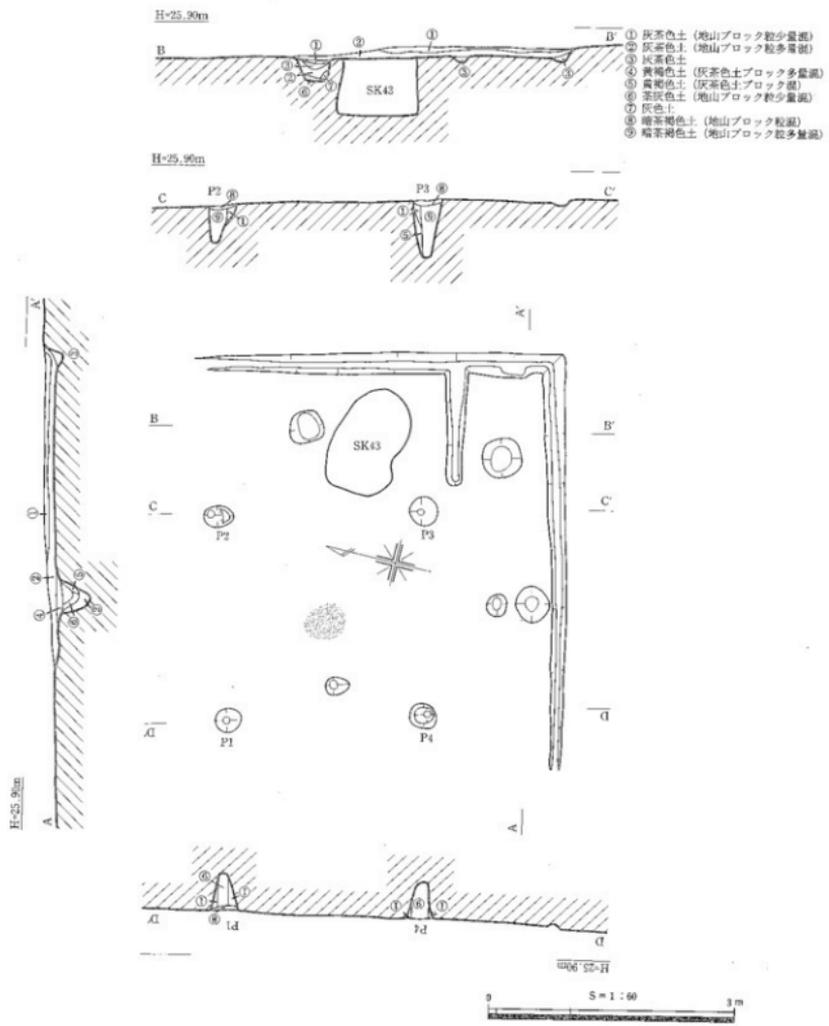


插图76 S148 遗物实测图



挿図77 S149遺構図

40-66) cm, P 4 (32×32-65) cmを測り、柱穴間距離はP 1-P 2間から順に3.1m, 2.9m, 3.1m, 2.9mである。

- 埋 土 検出できた時点での埋土は1層であった。
 遺 物 須恵器坏身Po212を図化した。
 時 期 出土した土器より古墳時代後期前葉と考えられる。



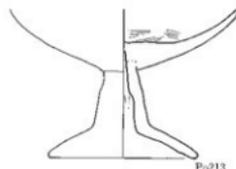
挿図79 S I 5 0 遺物実測図

S I 5 1 (挿図78・図版14, 48)

- 位 置 D・E13・14グリッドにあり、標高25.2~25.5mに位置する。S I 5 0と切り合い、S I 4 9・5 2、S B 0 5と隣接する。
 形 態 全体を削平されているが、平面形は方形を呈する。検出できた規模は南北約5.9m、東西約4.5mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大12cmを測る。
 側溝は幅11~20cm、深さ5~10cmを測る。
 主柱穴はP 5~P 8の4個で、規模はP 5 (42×39-48) cm, P 6 (66×50-58) cm, P 7 (44×40-59) cm, P 8 (36×33-37) cmを測り、柱穴間距離はP 5-P 6間から順に2.5m, 3.0m, 2.7 m, 3.0mである。
 住居南側は側溝で区画された幅46~50cmのベッド状の部分が検出された。

- 特殊 ビット 住居東壁際中央部で特殊ビットP 9を検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は(84×78-48) cmを測る。埋土は4層に分層でき、土師器高坏Po213・214が出土した。

- 埋 土 埋土は4層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
 遺 物 P 9内から出土した土器の他にも土師器片が出土したが図化できなかった。
 時 期 出土した土器より古墳時代後期中葉と考えられる。



S I 5 2 (挿図81・図版14)

- 位 置 E14グリッドにあり、標高25.2m付近に位置する。S I 5 0・5 1・5 3・6 0・6 1、S B 0 5と隣接する。

- 形 態 西側は削平されているが、平面形は方形を呈する。検出できた規模は南北約4.5m、東西約3.4mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大10cmを測る。

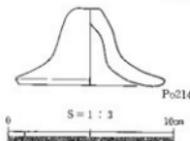
側溝は幅13~26cm、深さ5~9cmを測る。また、東側ではP 2に向けて延びる幅9~11cm、深さ4cmの溝を検出した。

主柱穴はP 1~P 4の4個で、規模はP 1 (36×27-38) cm, P 2 (37×33-32) cm, P 3 (33×32-57) cm, P 4 (33×29-44) cmを測り、柱穴間距離はP 1-P 2間から順に1.9m, 1.8m, 1.95 m, 1.7mである。

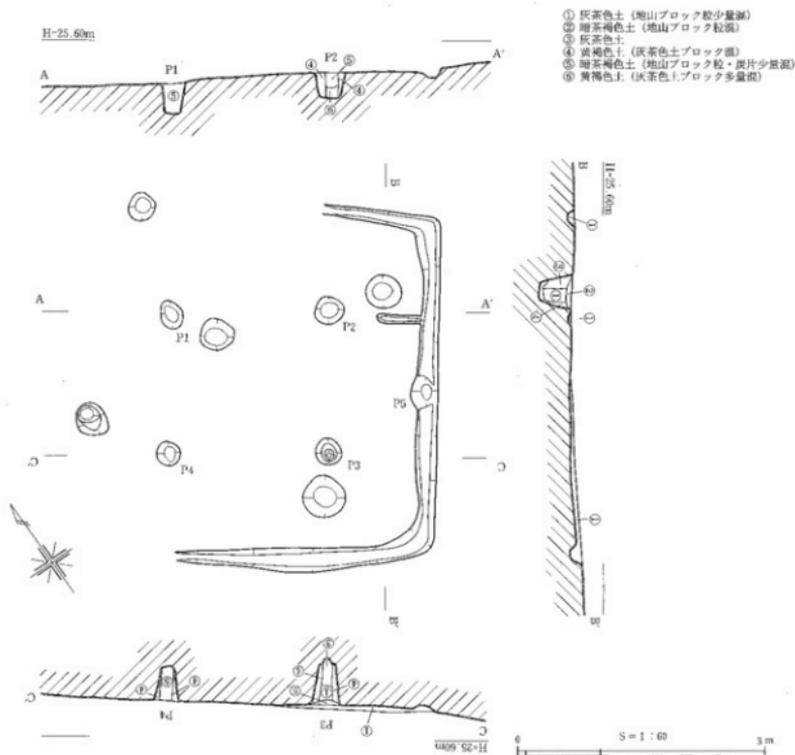
- 特殊 ビット 住居東壁際中央部で特殊ビットP 5を検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は(41×32-33) cmを測る。埋土は暗茶褐色土1層で、細かい炭片を含んでいる。

- 遺 物 土師器細片が出土したが図化できなかった。

- 時 期 出土した土器および周囲の住居との関係より古墳時代中期後葉~後期前葉と考えられる。



挿図80 S I 5 1 遺物実測図



挿図81 S152遺構図

S153 (挿図82・図版15)

位置 E・F15グリッドにあり、標高24.7~25mに位置する。S152・61・62と隣接する。

形態 ほとんど削平されており、わずかしか検出できなかったが、平面形は方形を呈すると考えられる。

検出できた規模は南北約2.8m、東西約2.2mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大20cmを測る。

側溝は幅14~22cm、深さ6cmを測る。

住居南隅で(90×80)cmを測るベッド状の部分を検出した。

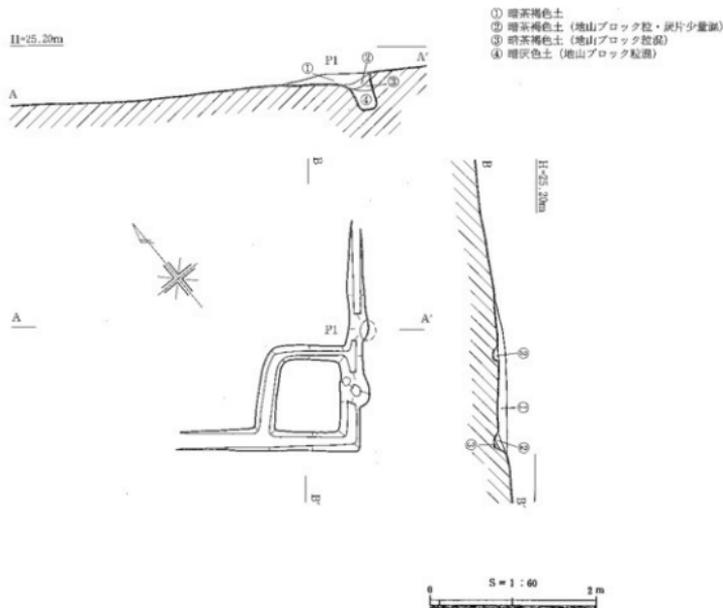
主柱穴は検出できなかった。

特殊 ビットは住居東壁際をえぐり込むように掘り込む特殊ビットP1を検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は(35×26-30)cmを測る。埋土は暗灰色土1層である。

埋土 埋土は3層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 出土しなかった。

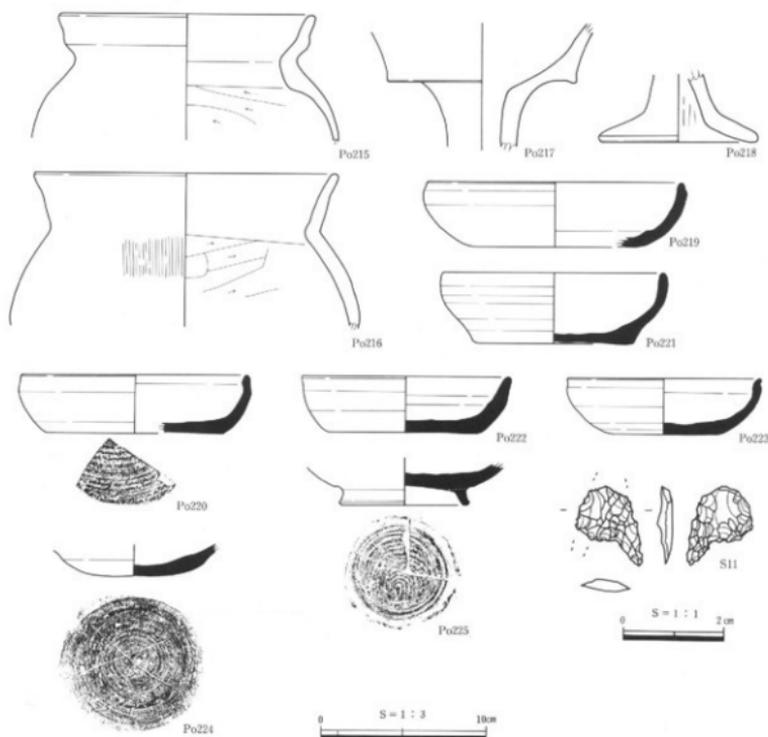
時期 周囲の住居との関係より古墳時代中期後葉~後期前葉と考えられる。



挿図82 S153遺構図

S154 (挿図83、84・図版15、48、49、52)

- 位置** C・D4・5グリッドにあり、標高23.3~24.1mに位置する。SK58と切り合う。
- 形態** 西側は流失しているが、平面形は方形を呈する。検出できた規模は南北約5.2m、東西約4mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大90cmを測る。側溝は幅10~24cm、深さ8~10cmを測る。主柱穴はP1~P4の4個で、規模はP1 (29×29-40) cm、P2 (35×32-69) cm、P3 (36×35-48) cm、P4 (38×31-53) cmを測り、柱穴間距離はP1-P2間から順に1.9m、2.05m、1.9m、2.4mである。
- 焼土面** 住居東側のP5上と南壁際で焼土面を検出した。これらの焼土面は床面より浮いた位置で検出しており、焼土面上で炭化材が若干出土している。このことから当住居は焼失したものと考えられる。
- 特殊ピット** 住居東壁際中央部で特殊ピットP5を検出した。平面形は双円形を呈し、規模は(82×75-68) cmを測る。埴土は5層に分層できた。また、P5の南北両脇で幅10~14cm、深さ5~8cmの溝を検出した。
- 埋土** 埋土は8層に分層でき、②・⑦層中には炭片、⑨層中には焼土ブロックを含んでいる。
- 遺物** 土師器壺Po215・216、器台Po217、脚部Po218、須恵器環Po219~224、高台付杯Po225、石鏝S11を図化した。
- 時期** 出土した土器より古墳時代末~7世紀代と考えられる。



挿図83 S154遺物実測図

S155 (挿図85・図版15)

位置 C3グリッドにあり、標高20.4~21mに位置する。S156と隣接し、床面上でSK51を検出した。

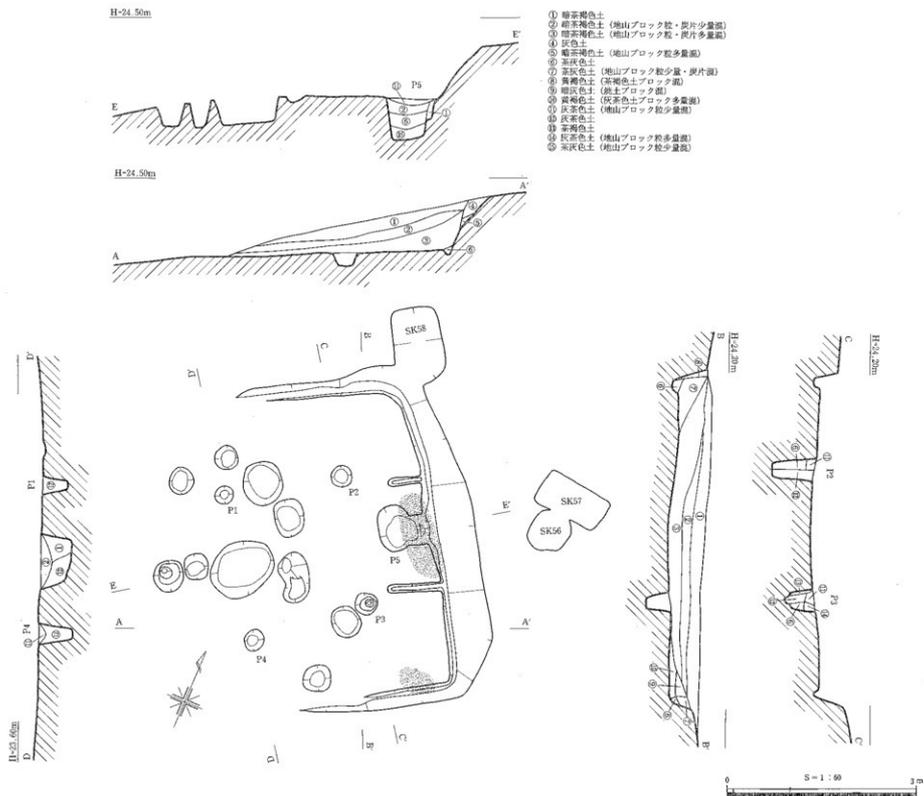
形態 西側は流失しているが、平面形は方形を呈する。検出できた規模は南北約4.4m、東西約2.6mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大42cmを測る。

側溝は幅10~24cm、深さ4~6cmを測る。

主柱穴はP1・P2の2個で、規模はP1(28×24~53)cm、P2(26×23~35)cmを測り、柱穴間距離は1.5mである。

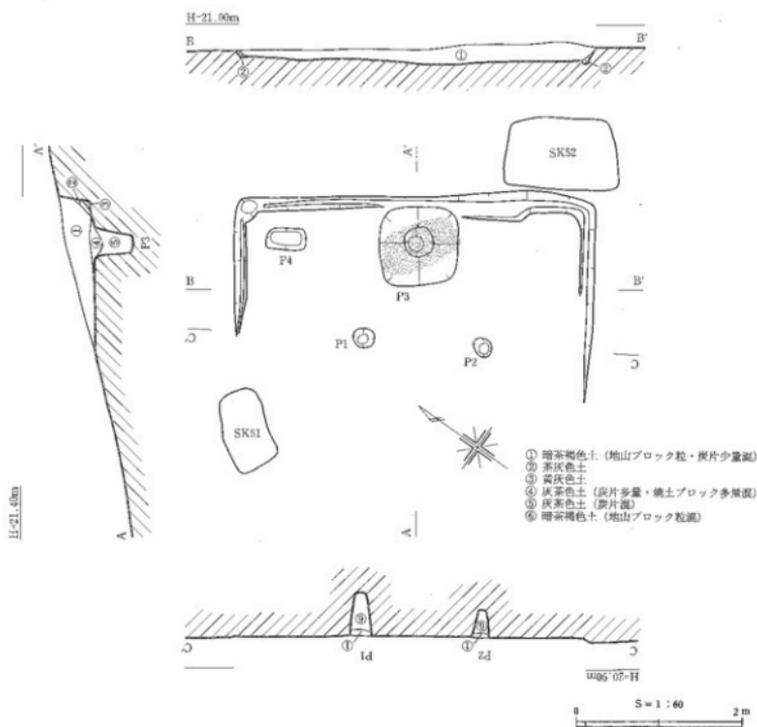
焼土面 P3上面で隅丸長方形に広がる焼土面を検出した。その範囲は(115×58)cmを測る。また、この焼土面上および周囲で炭化材が出土していることから、当住居は焼失したものと考えられる。

特殊 住居東壁際中央部で特殊ピットP3を検出した。平面形は隅丸方形を呈し、規模は(98×98~46)cmを測る。埋土は2層に分層でき、いずれも炭片を含んでいる。また、④層中には焼土ブロックも含まれる。住居床面北隅では長方形を呈するP4を検出した。規模は(52×27~28)cmを測り、埋土は暗茶褐色土1層で細かい炭片を含んでいる。



挿図84 S154遺構図

- 埋土 埋土は3層に分層でき、①層中には炭片を含んでいる。
 遺物 土師器細片が出土したが図化できなかった。
 時期 出土した土器より古墳時代中期後葉～後期前葉と考えられる。



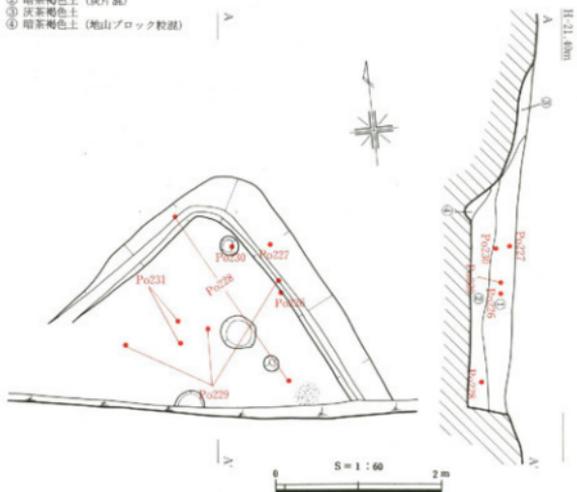
挿図85 S155遺構図

S156 (挿図86、87・図版15、49)

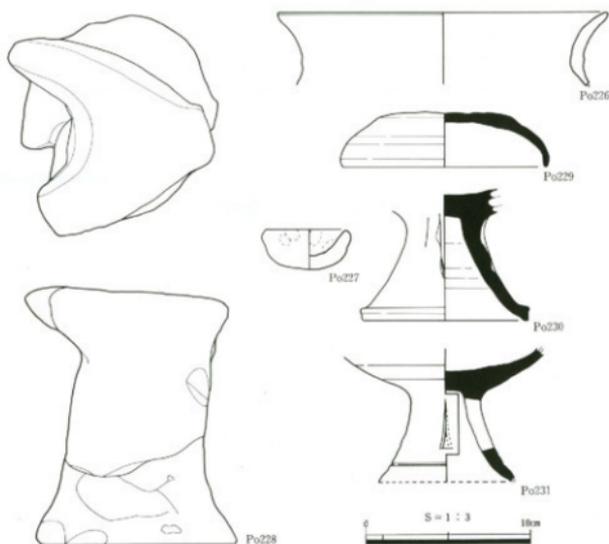
- 位置 C・D2グリッドにあり、標高20.1～20.8mに位置する。S155と隣接する。
- 形態 南側は調査区域外となりわずかししか検出できなかったが、平面形は方形を呈すると考えられる。検出できた規模は南北約3.5m、東西約3mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大66cmを測る。
- 側溝は幅12～18cm、深さ6～10cmを測る。
- 主柱穴と考えられるピットは検出できなかった。
- 焼土面 床面東隅で円形に広がる焼土面を検出した。範囲は(30×28以上)cmを測る。
- 埋土 埋土は4層に分層でき、①・②層中には炭片を含んでいる。
- 遺物 土師器壺Po226、手捏ね土器Po227、獣形支脚Po228、須恵器环蓋Po229、高坏Po230・231を図化した。

時期 出土した土器より古墳時代後期中葉～後葉と考えられる。

- ① 暗茶褐色土 (地山ブロック状・灰片少量混)
- ② 暗茶褐色土 (灰片混)
- ③ 灰茶褐色土
- ④ 暗茶褐色土 (地山ブロック状混)



挿図86 S156遺構図



挿図87 S156遺物実測図

S 1 5 7 (挿図88)

位置 B 5 グリッドにあり、標高19.6~20mに位置する。

形態 西側のほとんどを流失しており、わずかししか検出できなかったが、平面形は方形を呈すると考えられる。検出できた規模は南北約3.2m、1.5mを測り、残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大12cmを測る。

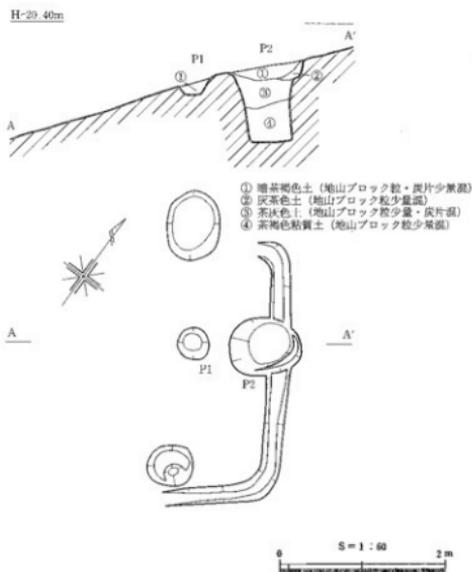
側溝は幅15~24cm、深さ3~6cmを測る。

主柱穴はP 1のみ検出できた。規模は(42×38-20)cmを測る。

特殊 住居東壁際中央部で
ビット 特殊ビットP 2を検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は(88×72-86)cmを測る。埋土は4層に分類でき、①・③層中には炭片を含んでいる。また、④層は粘質土で人為的に埋められたことが考えられる。

遺物 出土しなかった。

時期 周囲の住居との関係より古墳時代後期と考えられる。



挿図88 S 1 5 7 遺構図

S 1 5 8 (挿図89・図版14)

位置 B 8 グリッドにあり、標高23.9~24.4mに位置する。S I 4 8 内で検出し、S I 4 0・4 7 と隣接する。

形態 西側は調査区域外となるが、平面形は方形を呈する。検出できた規模は南北約3.2m、東西約1.5mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大68cmを測る。

側溝は幅8~14cm、深さ5~7cmを測る。

主柱穴と考えられるビットは検出できなかった。

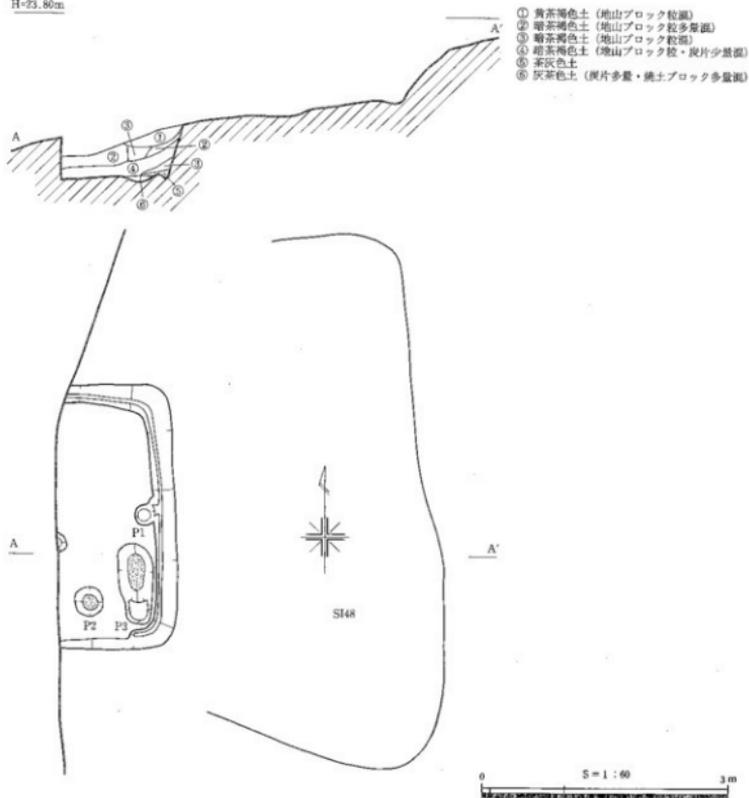
特殊 住居東壁際中央部と床面南端で特殊ビットP 1~P 3を検出した。P 1・P 2はそれぞれ円形を呈し、P 3は隅丸長方形を呈する。規模はP 1 (27×25-21) cm、P 2 (33×33-5) cm、P 3 (97×42-7) cmを測る。埋土はいずれも1層だが、P 2・P 3は埋土中に炭片と焼土ブロックを含んでいる。

埋土 埋土は6層に分類でき、自然堆積したものと考えられる。④層中には細かい炭片を含んでいる。

遺物 土器器細片が出土したが、図化できなかった。

時期 出土した土器および住居の切り合い関係より古墳時代中期と考えられる。

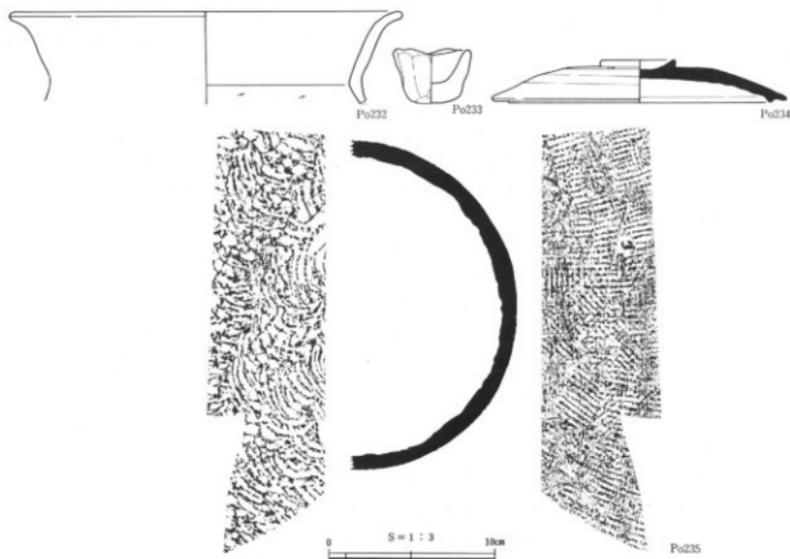
H=23.80m



挿図89 S158遺構図

S159 (挿図72、90・図版13、49)

- 位置 C5・6グリッドにあり、標高23.2~23.8mに位置する。S160と切り合い、S146、SX03~05と隣接する。
- 形態 南側は攪乱されているが、平面形は長方形を呈すると考えられる。検出できた規模は南北約3.4m、東西約2.5mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い北壁で最大42cmを測る。
 側溝、支柱穴ともに検出できなかった。
- 埋土 埋土は3層に分層でき、②層中には細かい炭片を含んでいる。
- 遺物 土師器甕Po232、手握ね土器Po233、須恵器蓋Po234、横瓶Po235を図化した。
- 時期 出土した土器より古墳時代末~7世紀代と考えられる。



挿図90 S159遺物実測図

S160 (挿図72、91・図版13、49)

位置 C5・6グリッドにあり、標高23~23.2mに位置する。S146・59と切り合い、SX03~05と隣接する。

形態 平面形は長方形を呈する。検出できた規模は南北約3.5m、東西約2.9mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大36cmを測る。

側溝は認められなかった。

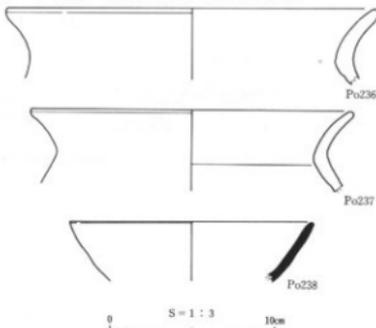
支柱穴はP4~P6の3個が検出できた。規模はP4(31×31-11)cm、P5(32×28-8)cm、P6(26×21-8)cmを測り、柱穴間距離はP4-P5間から順に1.7m、0.95mである。

焼土面 S146掘り下げ中に当住居に伴うと考えられる焼土面を検出した。平面形は楕円形に広がり、その範囲は(35×30)cmを測る。

埋土 埋土は5層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。②層中には細かい炭片を含んでいる。

遺物 土師器甕Po236・237、須恵器高坏Po238を図化した。

時期 出土した土器および住居の切り合い関係より古墳時代後期後葉と考えられる。



挿図91 S160遺物実測図

SI 61・62 (挿図92、93・図版16、49)

位置 D・E15・16グリッドにあり、標高23.8~24.2mに位置する。SI 04・52・53、SB 05と隣接する。

形態 SI 61は、そのほとんどの部分をSI 62に切られているためわずしか検出できず、SI 62もかなり削平をうけているが、いずれも平面形は方形を呈すると考えられる。検出できた規模はSI 61が、その柱穴の位置から南北、東西とも約4.7mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い南壁で最大12cmを測る。SI 62は南北約5m、東西約6.1mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い南壁で最大24cmを測る。

側溝はSI 61で幅16~22cm、深さ4~6cm。SI 62で幅18~26cm、深さ5~8cmを測る。

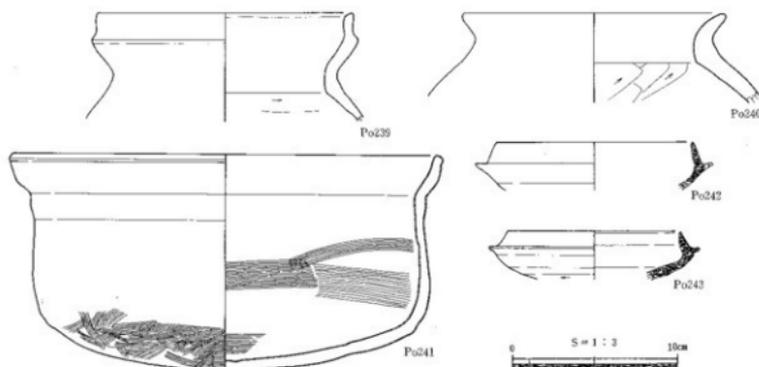
主柱穴はSI 61がP 1~P 4の4個で、規模はP 1 (77×75~54) cm、P 2 (74×70~51) cm、P 3 (45以上×36以上~24) cm、P 4 (32×28~24) cmを測り、柱穴間距離はP 1-P 2間から順に2.6m、2.8m、2.3m、3.3mである。SI 62はP 5~P 7の3個が検出でき、規模はP 5 (50×42~25) cm、P 6 (63以上×57~40) cm、P 7 (55以上×47~40) cmを測り、柱穴間距離はP 5-P 6間から順に2.8m、3.3mである。

焼土面 SI 62のほぼ中央部と考えられる位置で楕円形に広がる焼土面を検出した。範囲は(60×54) cmを測る。

埋土 埋土はほとんど攪乱されているため明らかにはできないが、いずれも自然堆積したものと考えられる。SI 62の最下層と考えられる⑤層中には、炭片を含んでいる。

遺物 土師器甕Po239・240、土鍋Po241、須恵器坏身Po242・243を図化した。

時期 出土した土器および切り合い関係よりSI 61は古墳時代後期前葉~中葉、SI 62は古墳時代後期後葉と考えられる。

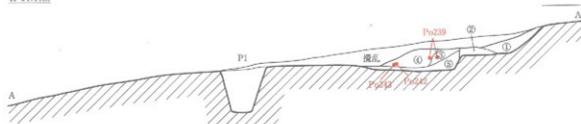


挿図92 SI 61・62遺物実測図

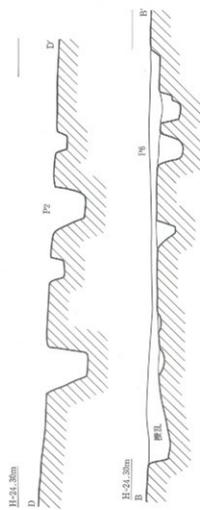
H-24.36m



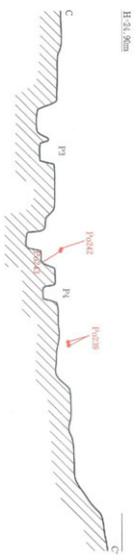
H-24.90m



- ① 淡褐色土
- ② 黄褐色土 (灰青色土ブロック製)
- ③ 緑褐色土
- ④ 暗赤褐色土 (埴山ブロック較多)
- ⑤ 暗茶褐色土 (埴山ブロック較・炭片少量混)



H-24.80m



挿図93 S161・62 遺構図

第2節 掘立柱建物跡

今回確認できた掘立柱建物跡は5棟であった。調査地内には多数のピットが存在しており、中には掘立柱建物跡の柱穴となり得るものも存在しているであろうが、対応するピットが見られなかったため、ここでは明らかに確認できたもののみを報告する。

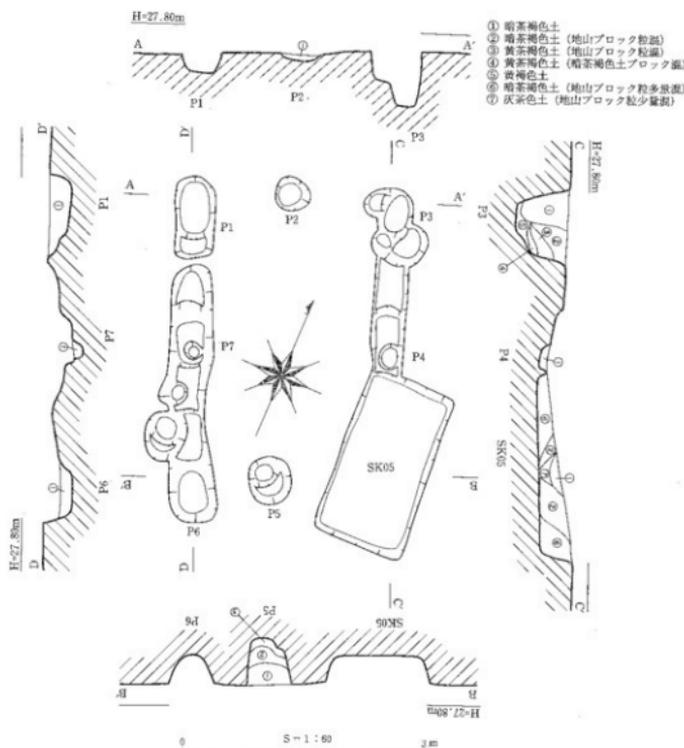
SB01 (挿図94・図版16)

位置 E7グリッドにあり、標高27.4~27.6mに位置する。調査区域内の南東部の斜面上に位置し、SK05と切り合う。

形態 桁行部に(2.30×0.42)m、(4.24×0.50)mを測る2条の溝を持つ布掘り型と考えられる。梁行2間、桁行3間で、梁行長1.84~2.7m、桁行長2.2~4.0mを測る。主軸方向はN-22°-Wである。柱穴は5個で、南東端の柱穴はSK05の為に消失している。それぞれの規模は、P1(100×50×25)cm、P2(40×42×8)cm、P3(95×40×62)cm、P4(33×26×8)cm、P5(50×58×56)cm、P6(75×56×12)cm、P7(70×54×24)cmを測る。柱穴間距離はP1-P2間から順に0.74m、0.68m、0.94m、1.18m、0.64mである。

遺物 P6から黒曜石剝片、土師器壺胴部片が出土したが図化できなかった。

時期 周囲の竪穴住居跡および出土遺物より古墳時代と考えられる。



挿図94 SB01遺構図

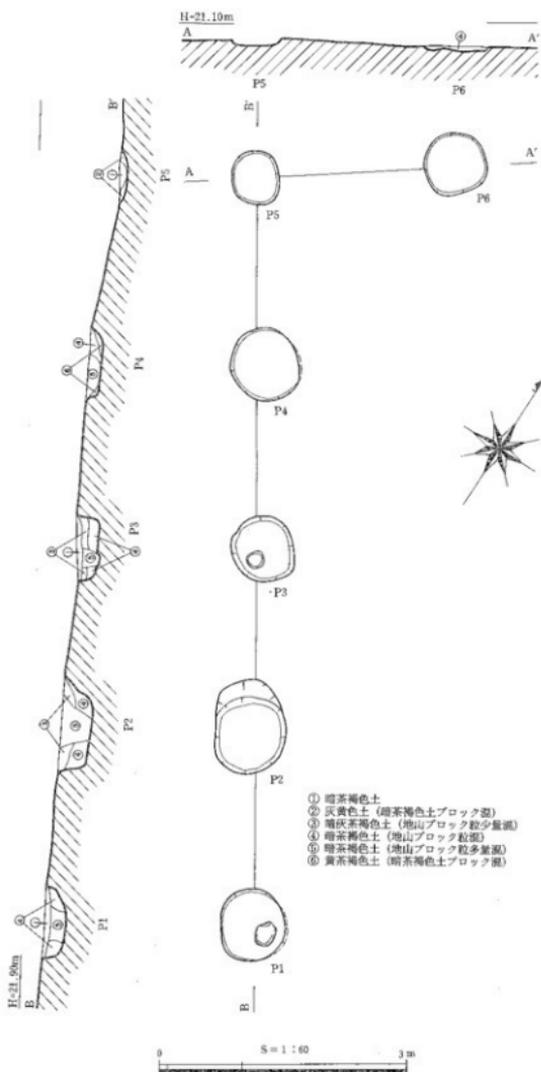
SB02 (挿図95・図版16)

位置 F23・G23グリッドにあり、標高20.9~21.7mに位置する。東側は調査区域外となるため、全体を検出できなかった。また、かなり削平されていることがうかがえる。

形態 梁行1間以上、桁行4間以上で、梁行長2.40m以上、桁行長9.20m以上を測る。主軸方向は、N-34°-Wである。柱穴は6個検出できた。それぞれの規模は、P1 (88×76×27) cm、P2 (113×86×34) cm、P3 (80×75×25) cm、P4 (90×83×15) cm、P5 (65×56×10) cm、P6 (76×76×2) cmを測る。柱穴間距離はP1-P2間から順に1.42m、1.22m、1.46m、1.54m、1.76mである。

遺物 P1、P2、P3、P4から土師器片、P2、P4、P6から須恵器片が出土したが図化できなかった。

時期 出土した遺物より古墳時代と考えられる。



挿図95 SB02遺構図

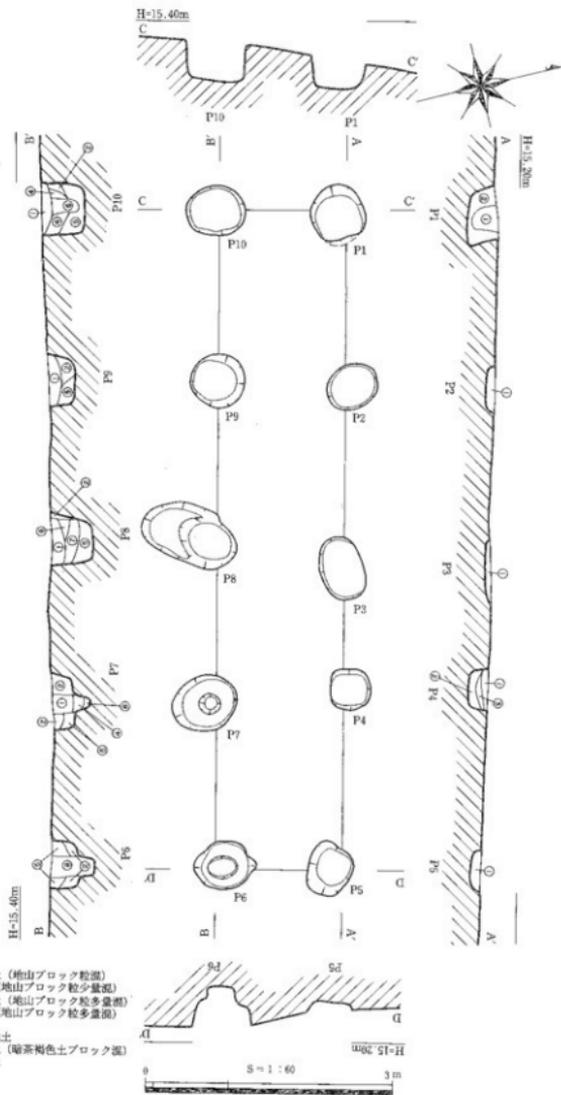
SB03 (挿図96・図版16)

位置 F29・G29グリッドにあり、標高14.8~15.2mに位置する。調査区域北側の舌状丘陵で検出された。

形態 梁行1間、桁行4間で、梁行長1.60m、桁行長8.00mを測る。主軸方向はN-76°-Wである。柱穴は10個検出できた。それぞれの規模は、P1 (68×65×38) cm、P2 (55×60×10) cm、P3 (74×55×2) cm、P4 (48×48×24) cm、P5 (68×58×12) cm、P6 (60×72×52) cm、P7 (70×80×45) cm、P8 (60×75×50) cm、P9 (64×64×32) cm、P10 (60×72×52) cmを測る。柱穴間距離はP1-P2間から順に、1.50m、1.58m、0.85m、1.72m、0.68m、1.38m、1.30m、1.30m、1.46m、0.80mである。

遺物 P4、P5、P8、P9から土師器片が出土したが図化できなかった。

時期 周囲の竪穴住居跡および出土遺物より古墳時代と考えられる。



挿図96 SB03遺構図

SB04 (挿図98・図版17)

位置 E30グリッドにあり、標高13.3~14.3mに位置する。調査区域北側の舌状丘陵の先端部に検出された。

形態 梁行2間、桁行5間で、梁行長3.20m~4.30m、桁行長5.00m~8.40mを測る。主軸方向は、N-60°-Eである。柱穴は14個で、P10は現代のものと思われる溝に切られている。また、存在していたと推定される最北の柱穴は、崩落のため消失したと考えられる。それぞれの規模は、P1 (60×55×25) cm、P2 (60×60×46) cm、P3 (60×78×42) cm、P4 (55×88×45) cm、P5 (42×34×8) cm、P6 (74×40×35) cm、P7 (40×48×35) cm、P8 (50×58×54) cm、P9 (64×64×70) cm、P10 (68×55×66) cm、P11 (78×70×80) cm、P12 (96×64×64) cm、P13 (80×60×50) cm、P14 (45×45×32) cmを測る。柱穴間距離はP1-P2間から順に1.00m、0.90m、0.80m、0.94m、0.35m、0.10m、1.30m、1.00m、1.00m、1.20m、0.70m、0.70m、1.60m、1.70mである。

遺物 出土しなかった。

時期 周囲の竪穴住居跡および散乱していた出土遺物より古墳時代と考えられる。

SB05 (挿図97)

位置 D14グリッドにあり、標高24.8~25.2mに位置する。

形態 梁行1間、桁行2間で、梁行長1.90m、桁行長2.40m~2.50mを測る。主軸方向はN-52°-Wである。柱穴は6個検出できた。それぞれの規模は、P1 (25×25×25) cm、P2 (25×26×32) cm、P3 (34×28×20) cm、P4 (30×32×32) cm、P5 (24×24×8) cm、P6 (20×20×18) cmを測る。

柱穴間距離はP

1-P2間から

順に0.88m、1.

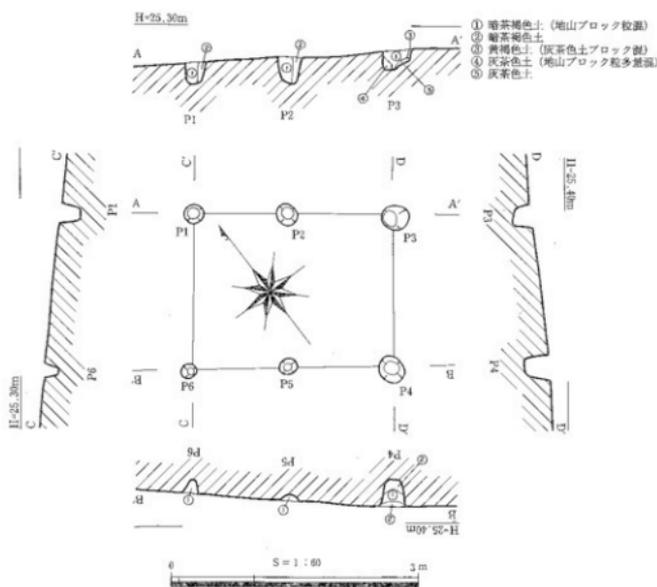
00m、1.50m、

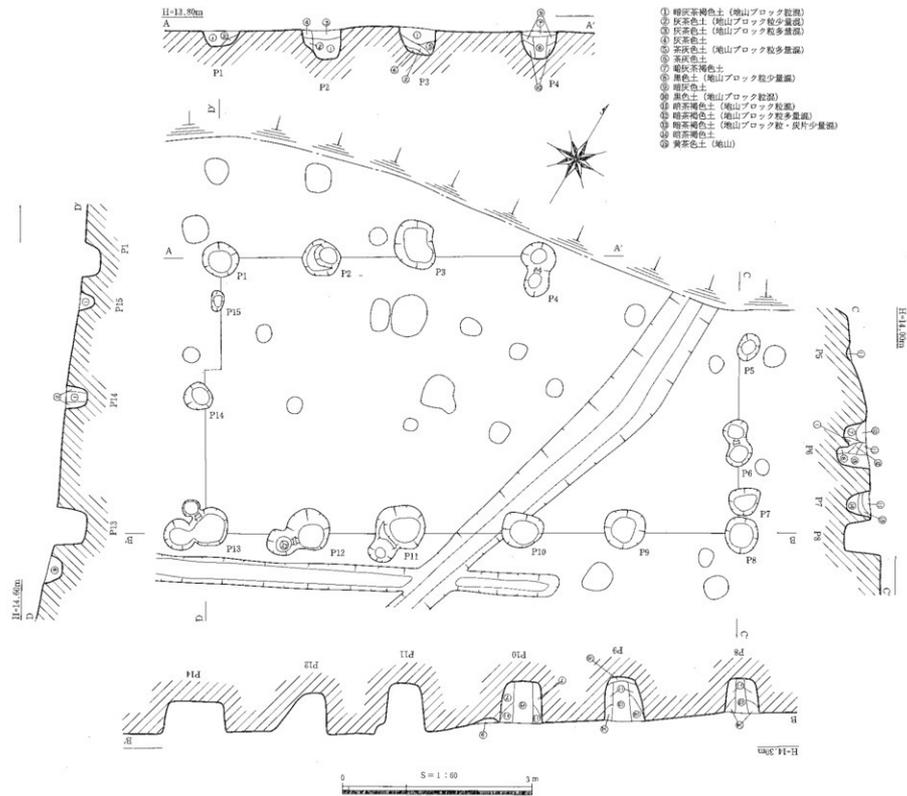
1.00m、1.00

m、1.70mである。

遺物 出土しなかった。

時期 周囲の竪穴住居跡より古墳時代と考えられる。





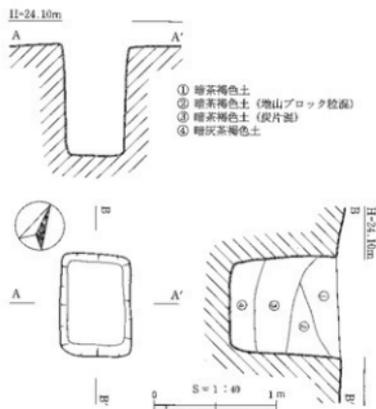
挿図98 SB04 遺構図

第3節 土坑・地下式横穴・竪穴状不明遺構

今回の調査で検出した土坑は66基を数える。そのほとんどは底面に小ピットを持つ、いわゆる落し穴状のものであった。これら土坑の他に地下式横穴1基、性格不明の竪穴状遺構を4基検出した。

SK01 (挿図99・図版17)

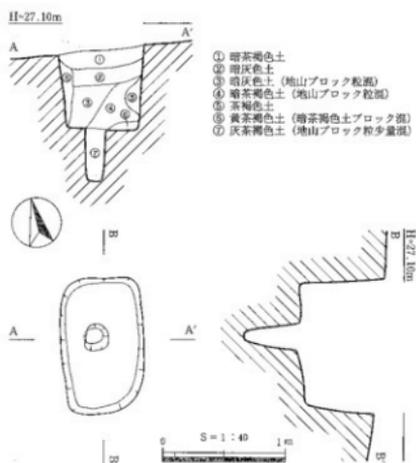
- 位置 E3グリッドにあり、標高23.9mに位置する。
 形態 平面形、底面形、断面形とも長方形を呈する。規模は(0.84×0.56-0.88)mを測る。
 埋土 埋土は4層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
 遺物 出土しなかった。
 性格 不明である。
 時期 不明である。



挿図99 SK01遺構図

SK02 (挿図100・図版17)

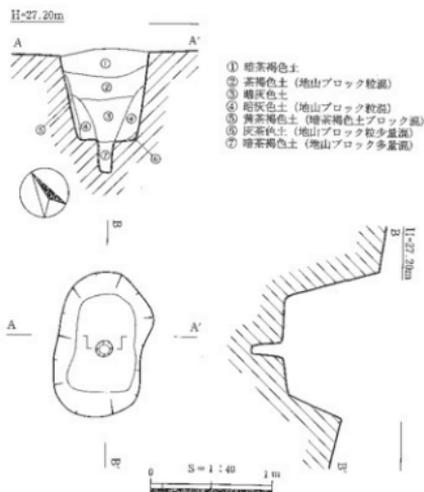
- 位置 E6グリッドにあり、標高26.9-27mに位置する。
 形態 平面形、底面形いずれも隅丸長方形を呈し、断面形は長方形の漏斗状を呈する。規模は(1.10×0.67-0.67)mを測り、底面で(21×20-44)cmの小ピットを検出した。
 埋土 埋土は7層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
 遺物 縄文土器片が出土した。
 性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。
 時期 出土した土器より縄文時代と考えられる。



挿図100 SK02遺構図

SK 03 (挿図101・図版17)

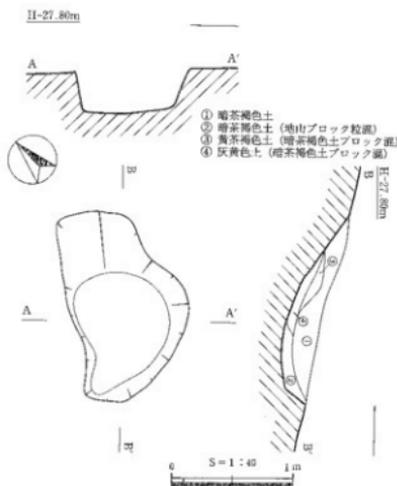
- 位置 E 7 グリッドにあり、標高26.7~27 mに位置する。
- 形態 平面形、底面形いずれも楕円形を呈し、断面形は漏斗状を呈する。規模は(1.20×0.70~0.75) mを測り、底面で(14×14~26) cmの小ピットを検出した。
- 埋土 埋土は7層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 出土しなかった。
- 性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。
- 時期 形態より縄文時代と考えられる。



挿図101 SK 03 遺構図

SK 04 (挿図102・図版18)

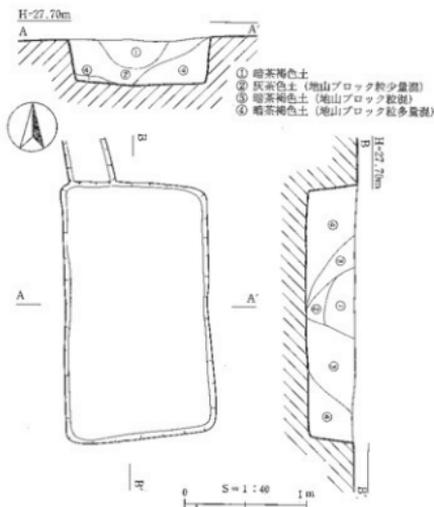
- 位置 E 6 グリッドにあり、標高27.2~27.6 mに位置する。
- 形態 平面形、底面形いずれも不定形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は(1.56×0.94~0.34) mを測る。
- 埋土 埋土は4層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 出土しなかった。
- 性格 不明である。
- 時期 不明である。



挿図102 SK 04 遺構図

SK05 (挿図103・図版18)

- 位置 E7グリッドにあり、標高27.6mに位置する。
- 形態 平面形、底面形、断面形とも長方形を呈する。SB01と切り合い、規模は(2.14×1.15-0.38)mを測る。
- 埋土 埋土は4層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 出土しなかった。
- 性格 不明である。
- 時期 不明である。



挿図103 SK05遺構図

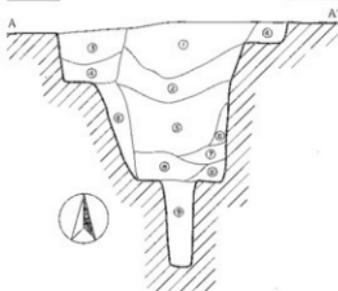
SK06 (挿図104・図版18)

- 位置 E7グリッドにあり、標高27.6mに位置する。
- 形態 平面形、底面形いずれも不定形を呈する。断面形は、漏斗状を呈する。東側部分でピットを切り、西側部分をピットにより切られている。規模は(1.90×1.36-1.30)mを測り、底面で(30×24-70)cmの小ピットを検出した。
- 埋土 埋土は9層に分層でき、③、④は東西のピットの埋土、他の埋土は土坑のもので、ともに自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 縄文土器片、黒曜石、土師器片が出土した。
- 性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。
- 時期 出土した土器より縄文時代と考えられる。

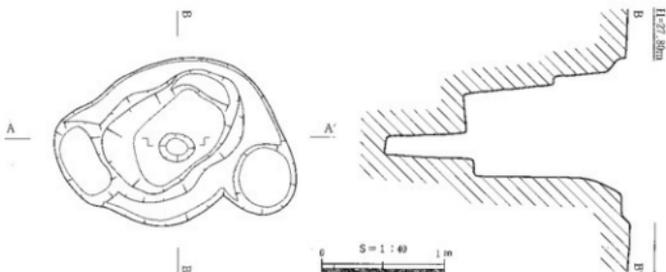
SK07 (挿図105・図版18)

- 位置 E7グリッドにあり、標高27.3-27.4mに位置する。
- 形態 平面形、底面形いずれも隅丸長方形を呈し、底面の中央に杭の固定土があったと考えられる二つのピットを持つ。断面形は、長方形の漏斗状を呈する。規模は(1.14×0.95-1.08)mを測り、底面ピットは、(35×20-52)cmを測る。
- 埋土 埋土は9層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 出土しなかった。
- 性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。
- 時期 形態より縄文時代と考えられる。

H-27.80m

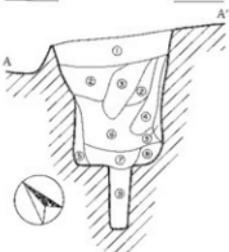


- ① 暗茶褐色土 (炭片混)
- ② 暗茶褐色土 (地山ブロック粒・炭片少量混)
- ③ 暗茶褐色土 (地山ブロック粒混)
- ④ 暗茶褐色土 (地山ブロック粒多量混)
- ⑤ 灰色土 (地山ブロック粒少量混)
- ⑥ 暗灰色土 (地山ブロック粒混)
- ⑦ 灰茶色土 (地山ブロック粒多量混)
- ⑧ 暗灰色土 (やや粘質)
- ⑨ 暗灰色土

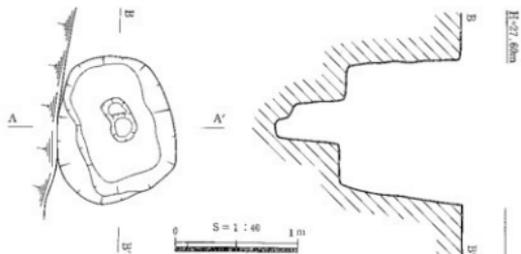


挿図104 SK 06 遺構図

H-27.60m



- ① 暗茶褐色土
- ② 暗茶褐色土 (地山ブロック粒・炭片少量混)
- ③ 暗茶褐色土 (地山)
- ④ 暗茶褐色土 (地山ブロック粒混)
- ⑤ 暗茶褐色土 (暗茶褐色土ブロック混)
- ⑥ 暗灰色土
- ⑦ 暗灰色土 (地山ブロック粒混)
- ⑧ 灰色土
- ⑨ 暗茶褐色土 (地山ブロック粒多量混)



挿図105 SK 07 遺構図

SK08 (挿図106・図版19)

位置 F8グリッドにあり、標高27.7mに位置する。

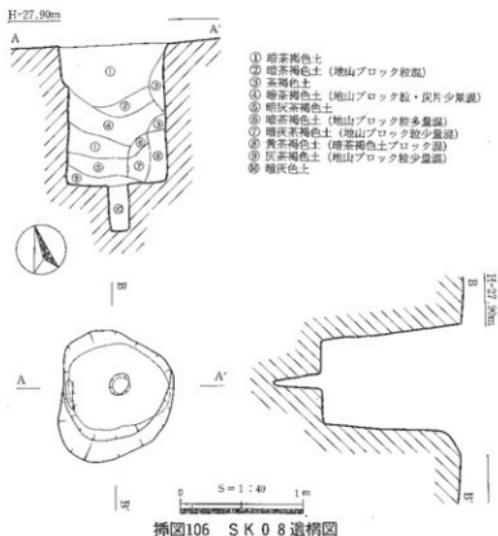
形態 平面形、底面形いずれも円形を呈し、断面形は、長方形の漏斗状を呈する。規模は(1.80×0.90-1.12)mを測り、底面で(15×15-36)cmの小ピットを検出した。

埋土 埋土は10層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 出土しなかった。

性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。

時期 形態より縄文時代と考えられる。



挿図106 SK08遺構図

SK09 (挿図107・図版19)

位置 E16グリッドにあり、標高22.6~22.7mに位置する。

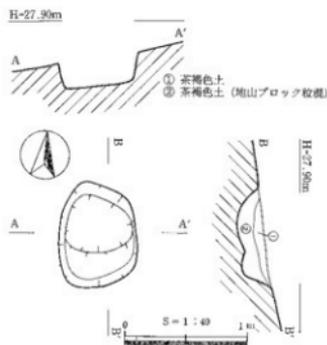
形態 平面形は楕円形を呈し、底面形は不定形を呈する。底面は、南側がテラス状をなし、北側はピット状に落ち込む。断面形は逆台形を呈する。規模は(0.80×0.62-0.20)mを測る。

埋土 埋土は2層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 出土しなかった。

性格 不明である。

時期 不明である。



挿図107 SK09遺構図

SK10 (挿図108・図版19)

位置 D16グリッドにあり、標高22.2~22.3mに位置する。

形態 平面形、底面形いずれも長方形を呈し、底面中央に、杭の固定材と考えられる握り拳大の石5個を詰めたピットを持つ。断面形は漏斗状を呈する。規模は(0.90×0.64-0.25)mを測り、底面ピットは(30×26-12)cmを測る。

埋土 埋土は4層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 握り拳大の石5個が出土した。

性 格 形態より落し穴的な性格が考えられる。

時 期 形態より縄文時代と考えられる。

SK 1 1 (挿図109・図版19)

位 置 C17グリッドにあり、標高19~20.3mに位置する。

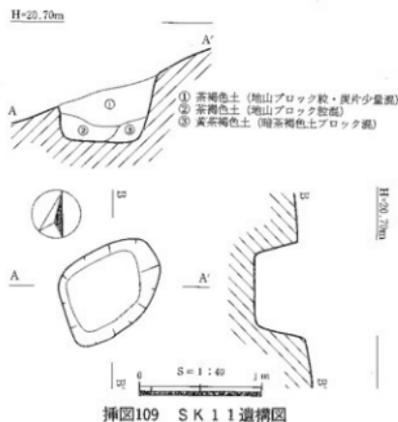
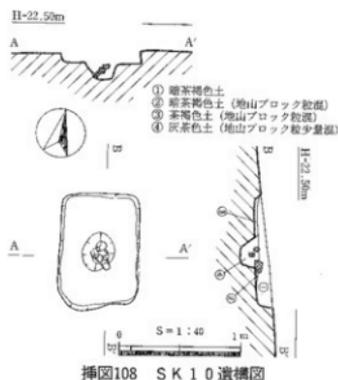
形 態 平面形、底面形いずれもいびつな方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は(0.90×0.70-0.40)mを測る。

埋 土 埋土は3層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺 物 出土しなかった。

性 格 不明である。

時 期 不明である。



SK 1 2 (挿図110・図版20)

位 置 C18グリッドにあり、標高19.3~19.8mに位置する。

形 態 平面形、底面形いずれも長方形を呈し、断面形は皿状を呈する。規模は(2.48×0.80-0.22)mを測る。

埋 土 埋土は2層に分層でき、①は埋め戻しと考えられる。

遺 物 草食性の動物の歯を検出した。

性 格 動物の死骸を埋めた穴と考えられる。

時 期 不明である。

SK 1 3 (挿図111・図版20)

位 置 C19グリッドにあり、標高18.5~18.6mに位置する。

形 態 平面形、底面形いずれも楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は(1.68×1.10-0.35)

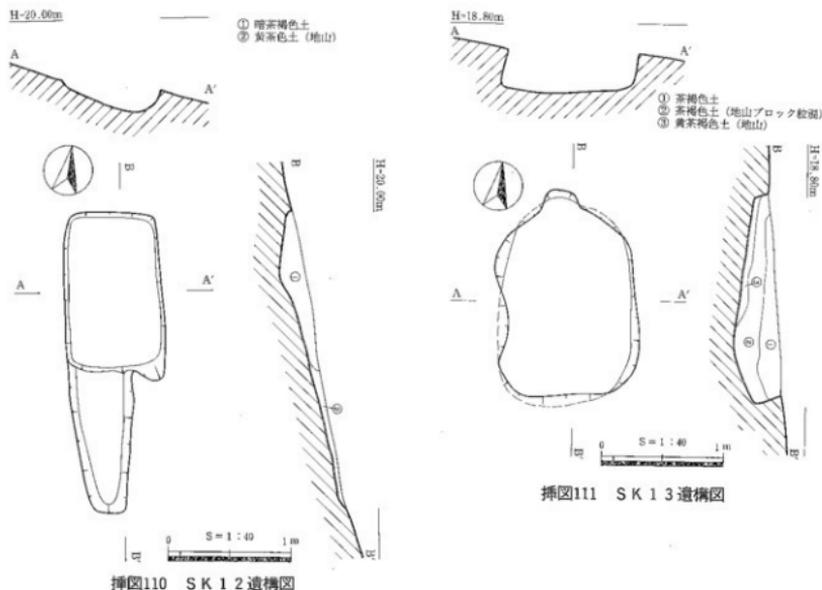
mを測る。

埋 土 埋土は3層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺 物 土師器片、須恵器片が出土した。

性 格 不明である。

時 期 出土した土器より古墳時代と考えられる。



挿図111 SK 13 遺構図

挿図110 SK 12 遺構図

SK 14 (挿図112・図版20)

位 置 C19グリッドにあり、標高18.6mに位置する。

形 態 平面形、底面形いずれも楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は(1.74×1.00-0.30)mを測る。

埋 土 埋土は2層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺 物 土師器片が出土した。

性 格 不明である。

時 期 出土した土器より古墳時代と考えられる。

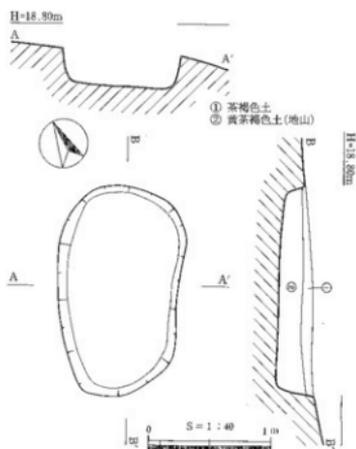
SK 15 (挿図113・図版20)

位 置 E17グリッドにあり、標高20.2~20.4mに位置する。

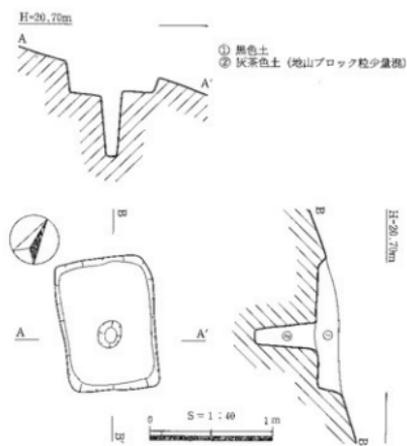
形 態 平面形、底面形いずれも長方形を呈し、断面形は漏斗状を呈する。規模は、(1.08×0.75-0.20)

mを測り、底面で(24×20-48)cmの小ピットを検出した。

- 埋土 埋土は2層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
 遺物 土師器片、須恵器片が出土した。
 性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。
 時期 形態より縄文時代と考えられる。



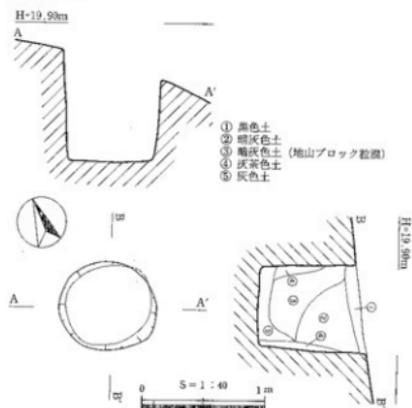
挿図112 SK 14 遺構図



挿図113 SK 15 遺構図

SK 16 (挿図114・図版21)

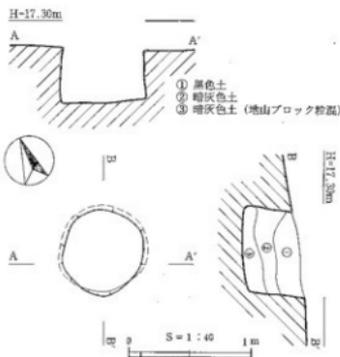
- 位置 E17グリッドにあり、標高19.5~19.7mに位置する。
 形態 平面形、底面形いずれも円形を呈し、断面形は長方形を呈する。規模は(0.72×0.80-0.85)mを測る。
 埋土 埋土は5層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
 遺物 出土しなかった。
 性格 不明である。
 時期 不明である。



挿図114 SK 16 遺構図

SK 17 (挿図115・図版21)

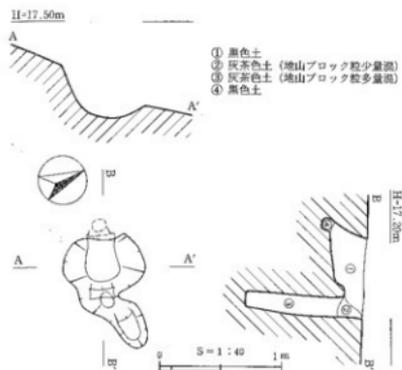
- 位置 E19グリッドにあり、標高17~17.2mに位置する。
- 形態 平面形、底面形いずれも円形を呈し、断面形は長方形を呈する。規模は(0.70×0.70-0.45)mを測る。
- 埋土 埋土は3層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 出土しなかった。
- 性格 不明である。
- 時期 不明である。



挿図115 SK 17遺構図

SK 18 (挿図116・図版21)

- 位置 D19グリッドにあり、標高16.8~17.2mに位置する。
- 形態 平面形、底面形、断面形とも不定形を呈し、東側はピット状に深く落ち込む。規模は(0.65×0.94-0.26)mを測る。
- 埋土 埋土は4層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 出土しなかった。
- 性格 不明である。
- 時期 不明である。



挿図116 SK 18遺構図

SK 19 (挿図117・図版21)

- 位置 D19グリッドにあり、標高17.7~18.3mに位置する。
- 形態 平面形、底面形いずれも楕円形を呈し、断面形は袋状を呈する。規模は(0.76×0.80-0.90)mを測る。
- 埋土 埋土は8層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 土師器片、須恵器片が出土した。

性格 貯蔵穴と考えられる。
 時期 出土した土器より古墳時代と考えられる。

SK 20 (挿図118・図版22)

位置 C20グリッドにあり、標高16~16.6mに位置する。

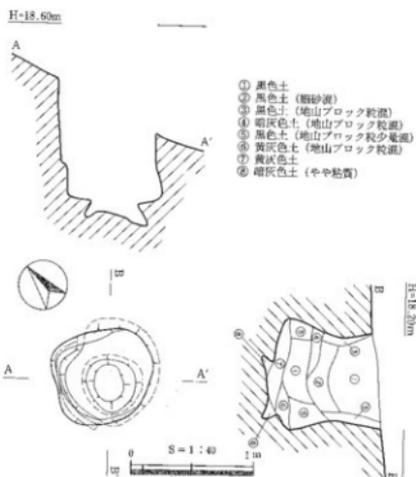
形態 平面形、底面形いずれも円形を呈し、断面形は袋状を呈する。規模は(0.90×0.74-1.04)mを測る。

埋土 埋土は9層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

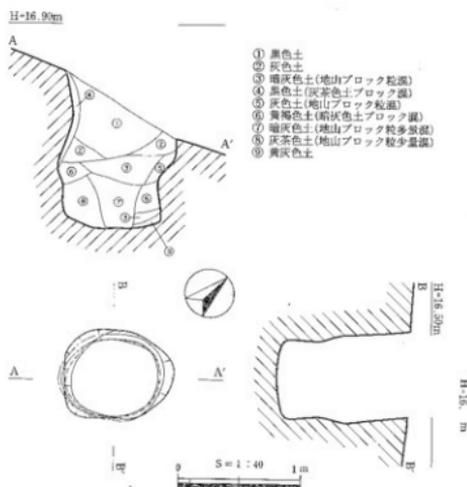
遺物 出土しなかった。

性格 貯蔵穴と考えられる。

時期 不明である。



挿図117 SK 19 遺構図



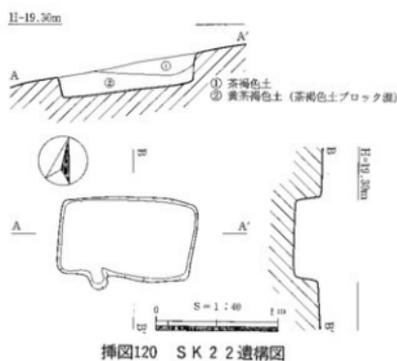
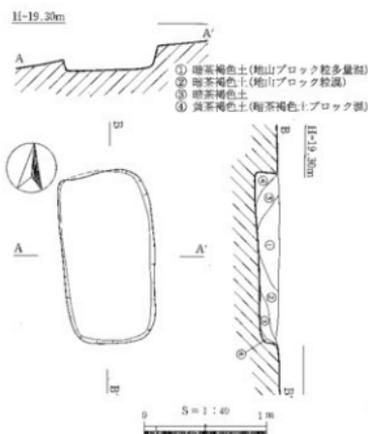
挿図118 SK 20 遺構図

SK 2 1 (挿図119・図版22)

- 位置 E21グリッドにあり、標高19～19.1mに位置する。
 形態 平面形、底面形、断面形とも長方形を呈する。規模は(1.42×0.75-0.28)mを測る。
 埋土 埋土は4層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
 遺物 出土しなかった。
 性格 不明である。
 時期 不明である。

SK 2 2 (挿図120・図版22)

- 位置 E21グリッドにあり、標高18.9～19.1mに位置する。
 形態 平面形、底面形、断面形とも長方形を呈する。規模は(1.10×0.60-0.20)mを測る。
 埋土 埋土は2層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
 遺物 出土しなかった。
 性格 不明である。
 時期 不明である。



SK 2 3 (挿図121・図版22)

- 位置 E21グリッドにあり、標高18.5～18.7mに位置する。
 形態 平面形、底面形いずれも不定形を呈し、断面形は長方形を呈する。規模は(1.00×0.75-0.52)mを測る。
 埋土 埋土は3層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
 遺物 出土しなかった。
 性格 不明である。

時期 不明である。

SK 2 4 (挿図122・図版23)

位置 D21グリッドにあり、標高16.7~16.9 mに位置する。

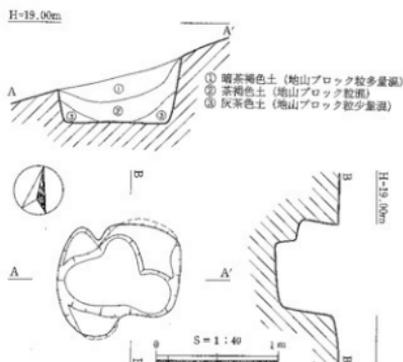
形態 平面形、底面形いずれもいびつな円形を呈し、断面形はいびつな長方形を呈する。規模は(0.80×0.68-0.70) mを測る。

埋土 埋土は5層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

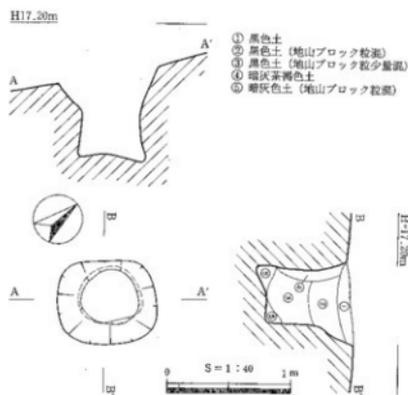
遺物 出土しなかった。

性格 不明である。

時期 不明である。



挿図121 SK 2 3 遺構図



挿図122 SK 2 4 遺構図

SK 2 5 (挿図123・図版23)

位置 D26グリッドにあり、標高19.3mに位置する。

形態 平面形、底面形いずれも円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は(1.04×1.04-0.25) mを測る。

埋土 埋土は4層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 出土しなかった。

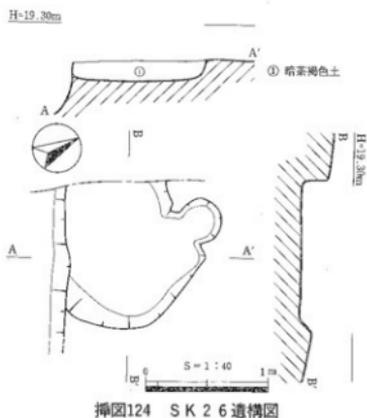
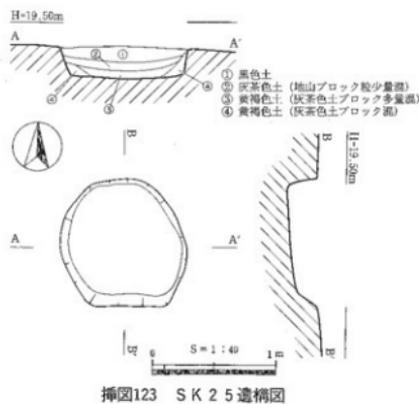
性格 不明である。

時期 不明である。

SK 2 6 (挿図124・図版23)

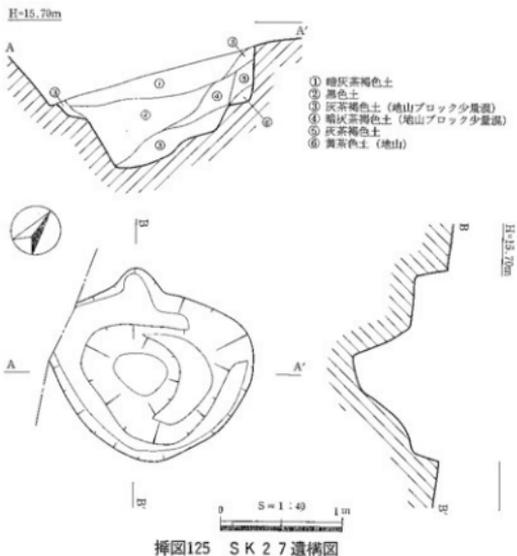
位置 C25グリッドにあり、標高19~19.1mに位置する。

- 形態 平面形、底面形いずれも不定形を呈し、南側でS I 17と切り合う。断面形は皿状を呈する。規模は(1.22×1.10-0.15)mを測る。
- 埋土 埋土は1層のみで、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 土師器片、須恵器片が出土した。
- 性格 不明である。
- 時期 出土した土器より古墳時代後期と考えられる。



SK 27 (挿図125)

- 位置 C25グリッドにあり、標高15~15.5mに位置する。
- 形態 平面形は、S I 18と切り合いびつな円形を呈し、底面はテラスが回り中央がピット状に落ち込む。断面形は逆梯状を呈する。規模は(1.64×1.38-0.70)mを測る。
- 埋土 埋土は6層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 出土しなかった。
- 性格 不明である。
- 時期 不明である。



SK 2 8 (挿図126・図版23)

位置 G25グリッドにあり、標高19.2~19.4mに位置する。

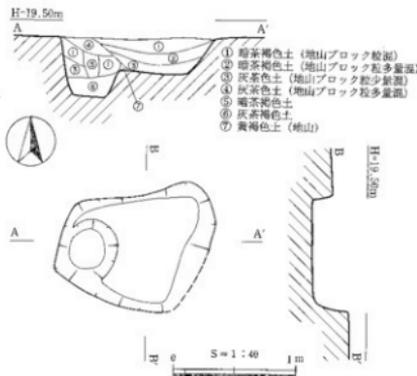
形態 平面形はいびつな楕円形を呈し、底面の東側はテラス状となり、西側の切り合うピットに落ち込む。断面形は、階段状を呈する。規模は(1.24×0.96~0.46)mを測る。

埋土 埋土は7層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 土師器片、須臾器片が出土した。

性格 不明である。

時期 出土した土器より古墳時代後期と考えられる。



挿図126 SK 2 8 遺構図

SK 2 9 (挿図127・図版24)

位置 D28グリッドにあり、標高15.9~16.2mに位置する。

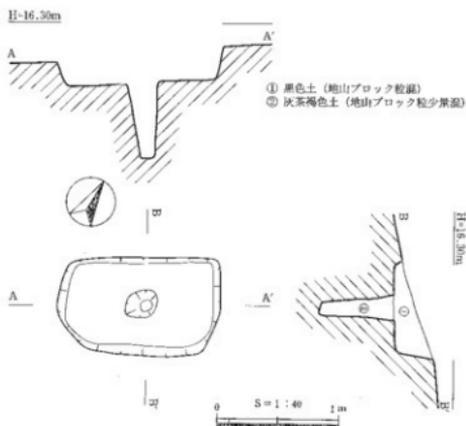
形態 平面形、底面形いずれもいびつな長方形を呈し、断面形は漏斗状を呈する。規模は(1.22×1.10~0.15)mを測り、底面で(26×22~62)cmの小ピットを検出した。

埋土 埋土は2層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 出土しなかった。

性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。

時期 形態より縄文時代と考えられる。



挿図127 SK 2 9 遺構図

SK 3 0 (挿図128、129・図版24、49)

位置 C28グリッドにあり、標高14.1~14.5mに位置する。

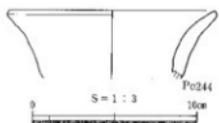
形態 平面形、底面形いずれも楕円形と推定される。断面形は逆台形を呈する。規模は(1.30×0.92-0.20)mを測る。

埋土 埋土は1層のみで、自然堆積したものと考えられる。

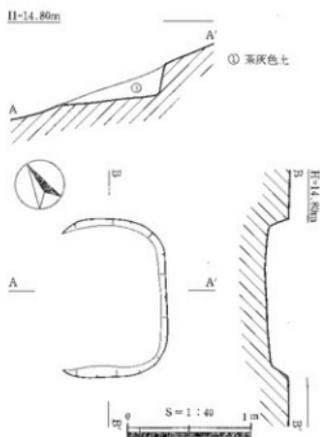
遺物 土師器片が出土しており、土師器壺口縁部P0244を図化した。

性格 不明である。

時期 出土した土器より古墳時代後期と考えられる。



挿図128 SK 3 0 遺物実測図



挿図129 SK 3 0 遺構図

SK 3 1 (挿図130・図版24)

位置 E27グリッドにあり、標高18.4mに位置し、S124の床面で検出した。

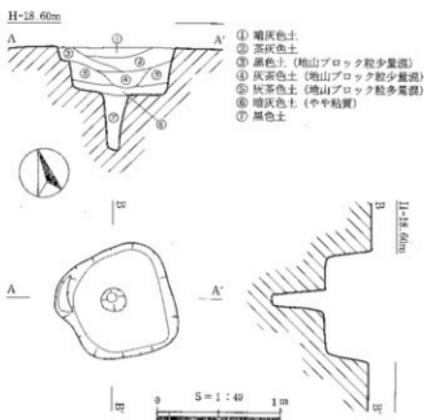
形態 平面形、底面形いずれも隅丸方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は(0.96×0.91-0.25)mを測り、底面で(20×20-45)cmの小ピットを検出した。

埋土 埋土は7層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 S124にともなう土師器片が出土した。

性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。

時期 形態より縄文時代と考えられる。



挿図130 SK 3 1 遺構図

SK 3 2 (挿図131・図版24)

位置 C15グリッドにあり、標高23.8~23.9mに位置する。

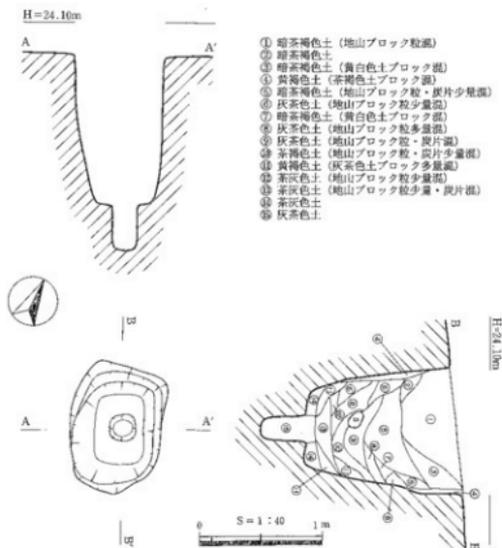
形態 平面形、底面形いずれも隅丸長方形を呈し、断面形は漏斗状を呈する。規模は(1.04×0.75-1.22)mを測り、底面で(22×22-35)cmの小ピットを検出した。

埋土 埋土は15層に分層でき、⑩は杭痕跡、他の層は自然堆積したものと考えられる。

遺物 出土しなかった。

性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。

時期 形態より縄文時代と考えられる。



SK 33 (挿図132・図版25)

位置 E9グリッドにあり、南側をSI37に切られている。標高27.2~27.3mに位置する。

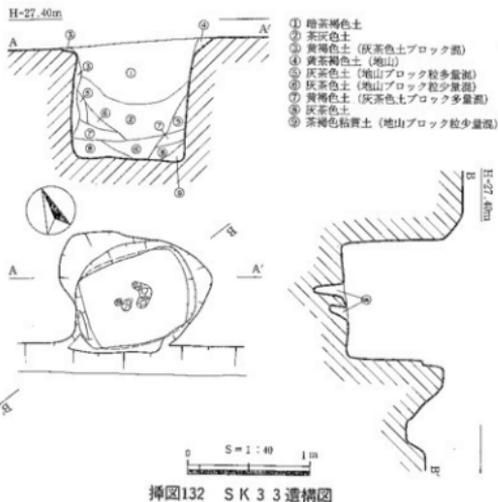
形態 平面形、底面形いずれもいびつな方形を呈し、底面に杭を直接突き刺したと思われる杭痕跡を五つ持つ。断面形は長方形を呈する。規模は(1.12×1.00-0.95)mを測る。

埋土 埋土は9層に分層でき、⑧は杭痕跡、他の層は自然堆積したものと考えられる。

遺物 出土しなかった。

性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。

時期 形態より縄文時代と考えられる。



SK 3 4 (押図133・図版25)

位置 D10グリッドにあり、標高26.9mに位置する。

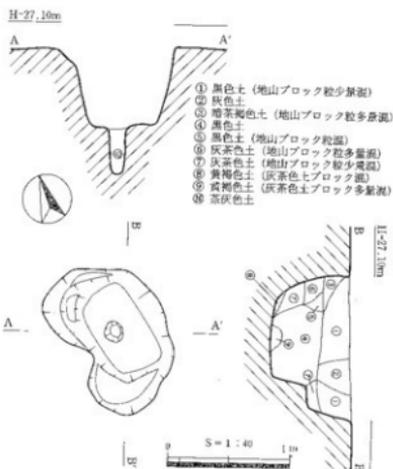
形態 平面形は不定形、底面形は長方形を呈し、断面形は漏斗状を呈する。規模は(1.25×0.65-0.65)mを測り、底面で(16×15-36)cmの小ピットを検出した。

埋土 埋土は10層に分層でき、⑨は杭の固定土、⑩は杭痕跡、他の層は自然堆積したものと考えられる。

遺物 土師器片が出土した。

性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。

時期 形態より縄文時代と考えられる。



押図133 SK 3 4 遺構図

SK 3 5 (押図134・図版25)

位置 D10グリッドにあり、標高26.6~26.8mに位置する。

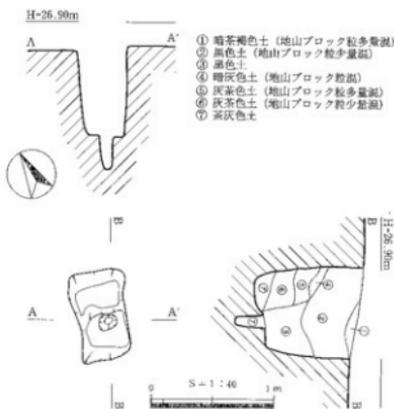
形態 平面形、底面形いずれも長方形を呈し、断面形は漏斗状を呈する。規模は(0.72×0.38-0.72)mを測り、底面で(15×12-24)cmの小ピットを検出した。

埋土 埋土は7層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 出土しなかった。

性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。

時期 形態より縄文時代と考えられる。



押図134 SK 3 5 遺構図

SK 3 6 (押図135・図版25)

位置 C 9グリッドにあり、標高26.6mに位置する。

形態 平面形、底面形いずれも隅丸方形を呈し、断面形は長方形の漏斗状を呈する。規模は(1.10×0.88-0.85)mを測り、底面で(30×28-30)cmの小ピットを検出した。

埋土 埋土は6層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 出土しなかった。
 性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。
 時期 形態より縄文時代と考えられる。

S K 3 7 (挿図136・図版26)

位置 D 9グリッドにあり、S I 4 4と切り合う。標高26.6~26.7mに位置する。

形態 平面形はいびつな円形を呈し、底面は隅丸方形を呈する。断面形は漏斗状を呈する。規模は(1.00×1.00-0.94) mを測り、底面で(45×70-42) cmの小ピットを検出した。

埋土 埋土は6層に分層でき、④は杭痕跡、⑥は杭の固定土、他の層は自然堆積したものと考えられる。

遺物 出土しなかった。
 性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。
 時期 形態より縄文時代と考えられる。

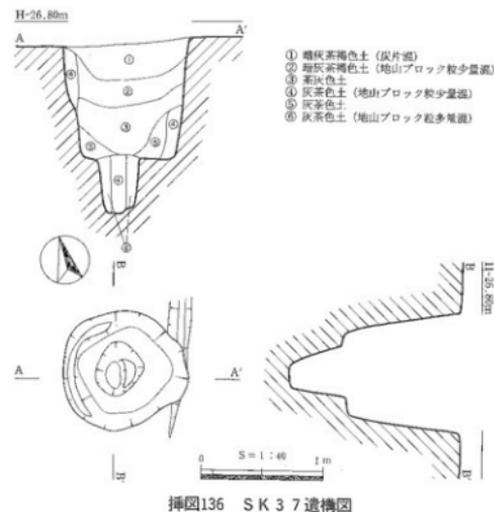
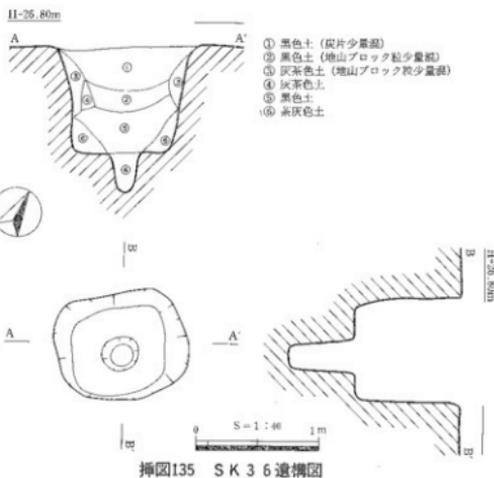
S K 3 8 (挿図137)

位置 C 10グリッドにあり、標高26.5~26.6mに位置する。

形態 平面形は不定形を呈し、底面は東西両側がテラス状をなす。断面形は皿状を呈する。規模は(1.60×0.90-0.20) mを測る。

埋土 埋土は4層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 出土しなかった。
 性格 不明である。
 時期 不明である。



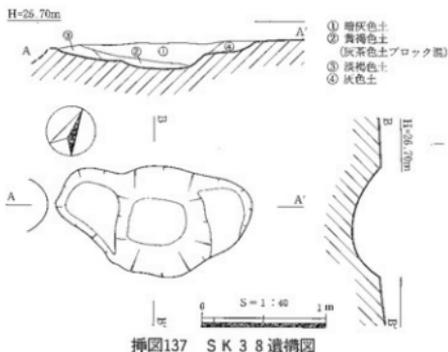
SK 3 9 (挿図138・図版26)

位置 E11グリッドにあり、標高27.3~27.5mに位置する。

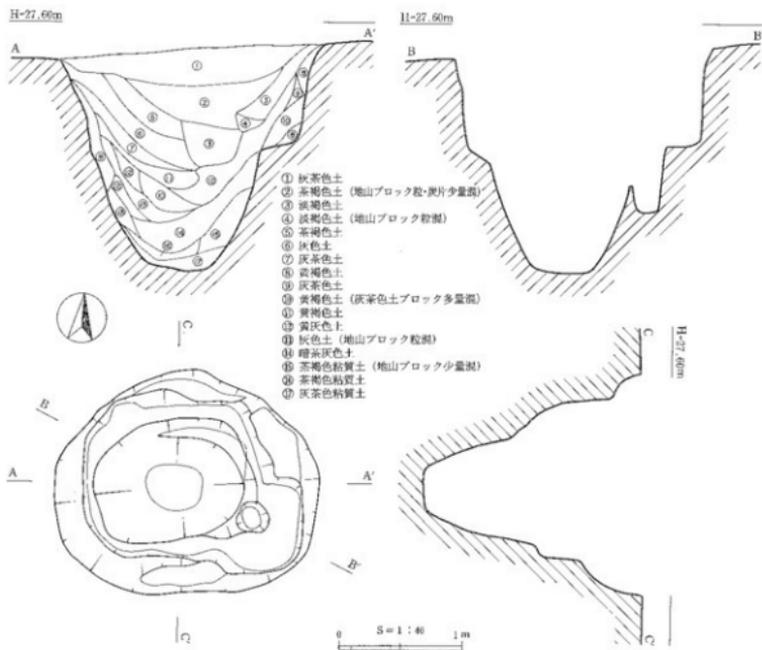
形態 2時期にわたるものと考えられる。前期と考えられるものは、平面形、底面形いずれも隅丸長方形を呈すると考えられ、断面形は逆梯状をなす。検出できた規模は(0.85×0.85~0.80)mを測り、底面で(27×25~52)cmの小ピットを検出した。後期と考えられるものは、平面形、底面形いずれも楕円形を呈し、断面形は逆梯状をなす。検出できた規模は(2.15×1.80~1.84)mを測る。

埋土 埋土は17層に分層でき、前期と考えられるものの埋土は⑧、⑨、⑩、あとの埋土は後期のもので、ともに自然堆積したものと考えられる。

遺物 土師器片が出土した。



挿図137 SK 3 8 遺構図



挿図138 SK 3 9 遺構図

性 格 形態、規模からともに落し穴と考えられる。

時 期 ともに縄文時代と考えられる。

SK 4 0 (挿図139・図版26)

位 置 C11グリッドにあり、標高25.7~25.8mに位置する。

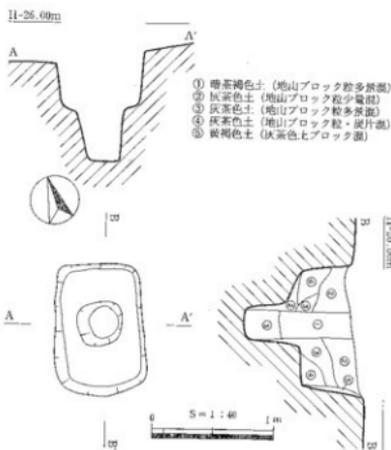
形 態 平面形、底面形いずれも長方形を呈し、断面形は長方形の漏斗状を呈する。S I 4 5のP 1と切り合う。規模は(1.08×0.72-0.44) mを測り、底面で(35×36-40) cmの小ピットを検出した。

埋 土 埋土は5層に分層でき、①、③は杭痕跡、②は杭の固定土、他の層は自然堆積したものと考えられる。

遺 物 出土しなかった。

性 格 形態より落し穴的な性格が考えられる。

時 期 形態より縄文時代と考えられる。



SK 4 1 (挿図140・図版26)

位 置 C10グリッドにあり、標高25.9mに位置する。

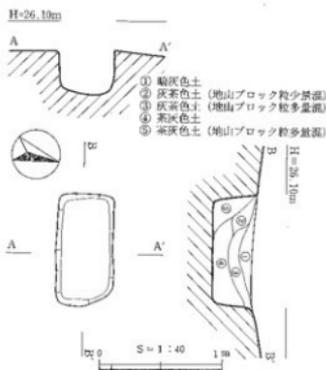
形 態 平面形、底面形、断面形とも長方形を呈する。S I 4 1床面で検出した。規模は(0.92×0.45-0.30) mを測る。

埋 土 埋土は5層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺 物 出土しなかった。

性 格 不明である。

時 期 不明である。



SK 4 2 (挿図141・図版27)

位 置 D12グリッドにあり、標高25.8mに位置する。

形 態 平面形、底面形いずれも長方形を呈し、断面形は長方形の漏斗状を呈する。規模は(0.92×0.60-0.45) mを測り、底面で(14×16-46) cmの小ピットを検出した。

埋 土 埋土は3層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺 物 出土しなかった。

性 格 形態より落し穴的な性格が考えられる。

時 期 形態より縄文時代と考えられる。

SK 4 3 (挿図142・図版27)

位 置 D13グリッドにあり、標高25.5mに位置する。

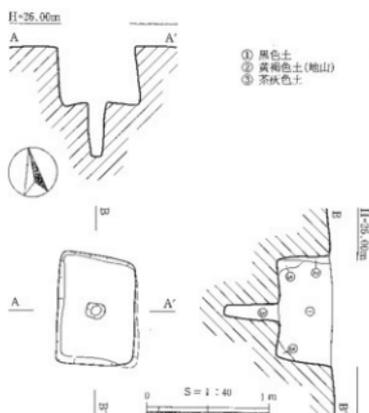
形態 平面形、底面形いずれも楕円形を呈し、断面形は台形の漏斗状を呈する。規模は(1.34×0.85-0.75) mを測り、底面で(20×20-44) cmの小ピットを検出した。

埋土 埋土は10層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

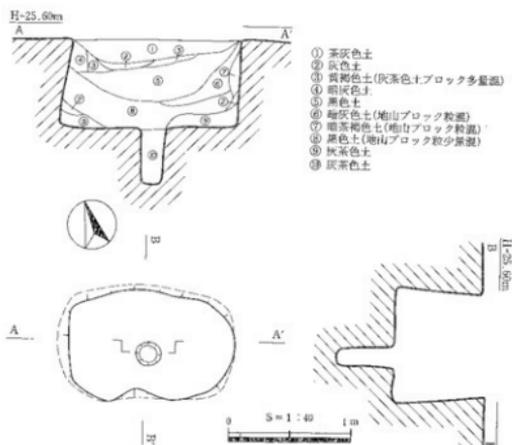
遺物 出土しなかった。

性格 形態より落し穴的な性格と考えられる。

時期 形態より縄文時代と考えられる。



挿図141 SK 4 2 遺構図



挿図142 SK 4 3 遺構図

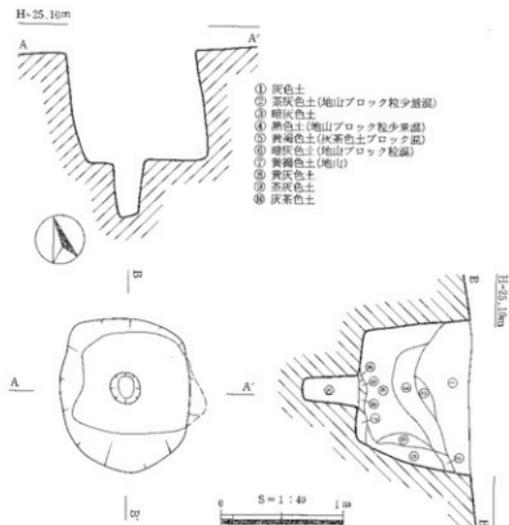
SK 4 4 (挿図143・図版27)

位置 D14グリッドにあり、標高24.9mに位置する。

形態 平面形、底面形いずれもいびつな方形を呈し、断面形は逆台形の漏斗状を呈する。規模は(1.25×1.06-0.90) mを測り、底面で(24×24-46) cmの小ピットを検出した。

埋土 埋土は10層に分層でき、⑩は杭痕跡、⑧、⑨は杭の固定土、他の層は自然堆積したものと考えられる。

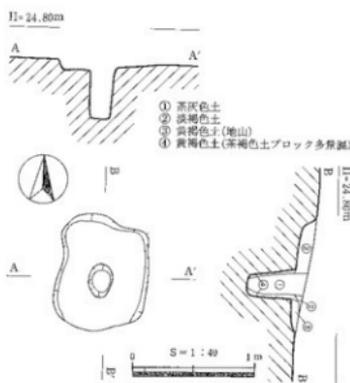
遺物 出土しなかった。
 性格 形態より落し穴的な性格
 が考えられる。
 時期 形態より縄文時代と考
 えられる。



挿図143 SK 4 4 遺構図

SK 4 5 (挿図144・図版27)

位置 C 6 グリッドにあり、標高24.5~24.7mに位置する。
 形態 平面形、底面形いずれもいびつな方形を呈し、断面形は漏斗状を呈する。規模は(0.94×0.75-0.10)mを測り、底面で(26×20-40)cmの小ピットを検出した。
 埋土 埋土は4層に分層でき、①は杭痕跡、④は杭の固定土、他の層は自然堆積したものと考えられる。
 遺物 出土しなかった。
 性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。
 時期 形態より縄文時代と考えられる。



挿図144 SK 4 5 遺構図

SK 4 6 (挿図145・図版28)

位置 C 5 グリッドにあり、標高23.8~24.3mに位置する。
 形態 平面形は円形を呈し、底面は北側がテラス状になっている。断面形は逆梯状を呈する。規模は(1.10×1.00-0.20)mを測る。
 埋土 埋土は3層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
 遺物 土師器片が出土した。

性格 不明である。
 時期 古墳時代と考えられる。

SK 4 7 (挿図146・図版28)

位置 C 5 グリッドにあり、標高23.1~23.4mに位置する。

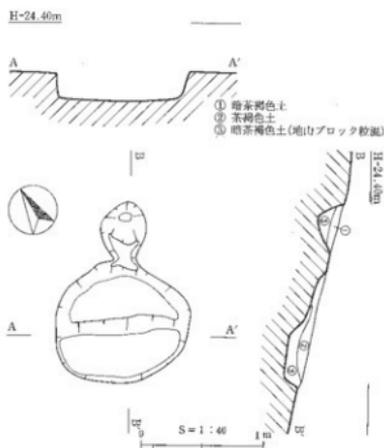
形態 平面形、底面形いずれも不定形を呈し、断面形は長方形の漏斗状を呈する。規模は(1.32×1.02~1.20) mを測り、底面で(30×25~64) cmの小ピットを検出した。

埋土 埋土は7層に分類でき、自然堆積したものと考えられる。

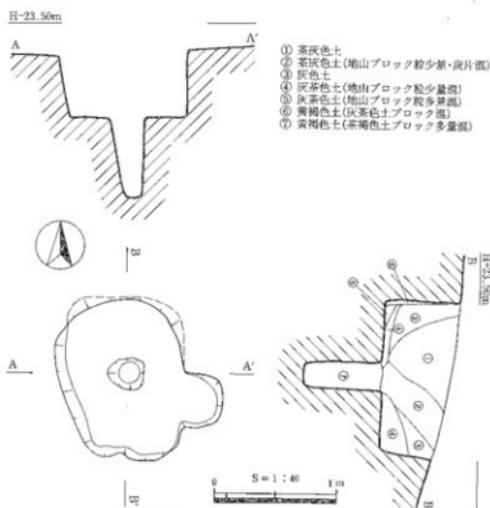
遺物 出土しなかった。

性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。

時期 形態より縄文時代と考えられる。



挿図145 SK 4 6 遺構図



挿図146 SK 4 7 遺構図

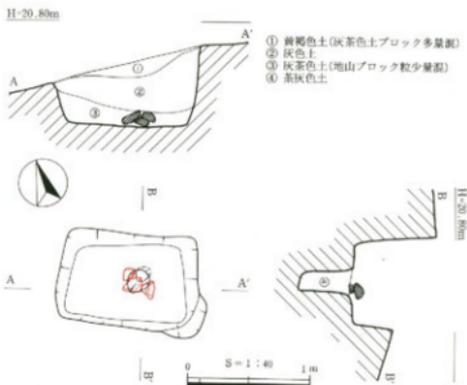
SK 4 8 (挿図147・図版28)

位置 B 4 グリッドにあり、標高20.3~20.7mに位置する。

形態 平面形、底面形いずれもいびつな長方形を呈し、断面形は長方形の漏斗状を呈する。規模は(1.15×0.78~0.60) mを測り、底面で杭の固定用と考えられる石を配した(20×20~40) cmの小ピット

を検出した。

- 埋土 埋土は4層に分層でき、
④は杭痕跡、他の層は自然
堆積したものと考えられる。
- 遺物 握り拳大の石3個が出土
した。
- 性格 形態より落し穴的な性格
が考えられる。
- 時期 形態より縄文時代と考え
られる。



挿図147 SK 48遺構図

SK 49 (挿図148・図版28)

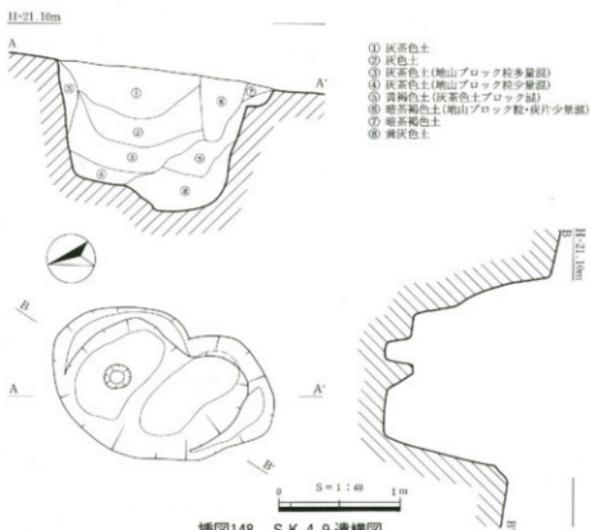
- 位置 C 4 グリッドにあり、標
高20.6~20.8mに位置す
る。

形態 平面形は不定形を呈し、底面を2面有し、北側底面に小ピットを持つ。断面形も不定形を呈し、2基の土坑が切り合うのが窺われる。規模は(1.75×1.22-1.12)mを測り、底面の小ピットは(20×20-22)cmを測る。

埋土 埋土は8層に分層でき、⑤、⑧は前期の土坑の埋土、①~④、⑥、⑦は後に構築された土坑の埋土で、ともに自然堆積したものと考えられる。

遺物 出土しなかった。

- 性格 形態よりと
もに落し穴的
な性格が考え
られる。
- 時期 形態よりと
もに縄文時代
と考えられ
る。



挿図148 SK 49遺構図

SK 5 0 (挿図149・図版29)

位置 C 3 グリッドにあり、標高 20.2~20.3m に位置する。

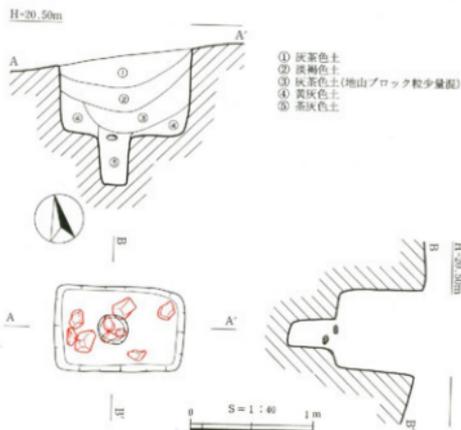
形態 平面形、底面形いずれも長方形を呈し、底面に杭の固定用と考えられる石を配した小ピットを持つ。断面形は長方形の漏斗状を呈する。規模は (1.06×0.72-0.70) m を測り、底面の小ピットは (24×24-40) cm を測る。

埋土 埋土は5層に分層でき、⑤は杭痕跡、他の層は自然堆積したものと考えられる。

遺物 握り拳大の石9個が出土した。

性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。

時期 形態より縄文時代と考えられる。



挿図149 SK 5 0 遺構図

SK 5 1 (挿図150・図版29)

位置 C 3 グリッドにあり、標高19~20.3m に位置する。

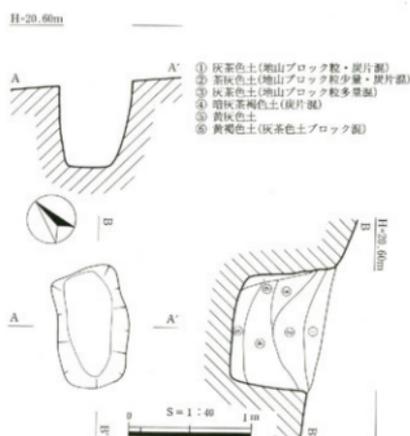
形態 平面形、底面形いずれも隅丸長方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は (1.00×0.56-0.60) m を測る。

埋土 埋土は6層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 出土しなかった。

性格 底面ピット等は検出できなかったが、規模、形態とも、他の落し穴と考えられる土坑と類似しており、当土坑も落し穴的な性格が考えられる。

時期 縄文時代と考えられる。



挿図150 SK 5 1 遺構図

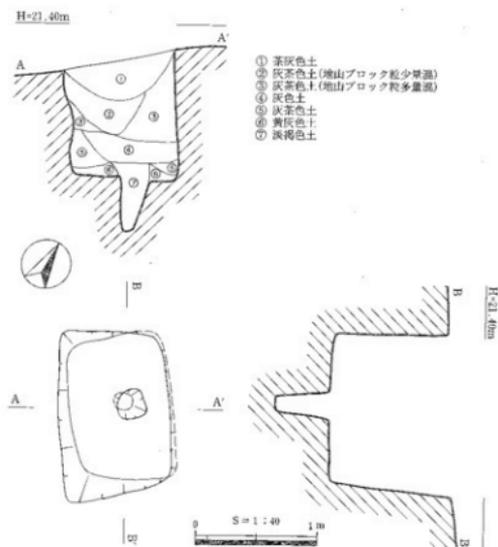
SK 5 2 (挿図151・図版29)

位置 C 3 グリッドにあり、標高20.7~21.1m に位置する。

形態 平面形、底面形いずれも長方形を呈し、断面形は長方形の漏斗状を呈する。規模は (1.30×0.90-0.95) m を測り、底面で (25×25-42) cm の小ピットを検出した。

埋土 埋土は7層に分層でき、⑦は杭痕跡、他の層は自然堆積したものと考えられる。

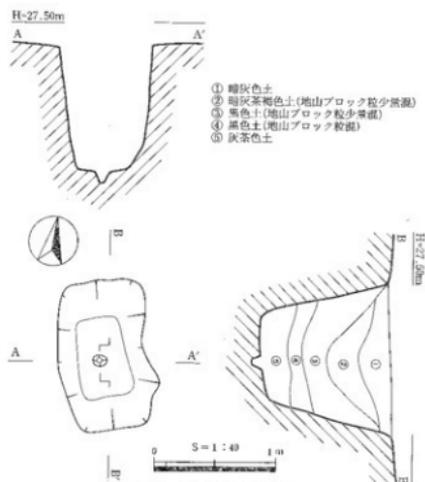
- 遺物 出土しなかった。
 性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。
 時期 形態より縄文時代と考えられる。



挿図151 SK 5 2 遺構図

SK 5 3 (挿図152・図版29)

- 位置 E 9 グリッドにあり、標高27.4mに位置する。
 形態 平面形、底面形いずれも隅丸長方形を呈し、断面形は逆台形の漏斗状を呈する。規模は (1.22×0.70-1.06) m を測り、底面で (8×12-10) cm の小ピットを検出した。
 埋土 埋土は5層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
 遺物 出土しなかった。
 性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。
 時期 形態より縄文時代と考えられる。



挿図152 SK 5 3 遺構図

SK 5 4 (挿図153・図版30)

位置 C 5 グリッドにあり、標高27mに位置する。

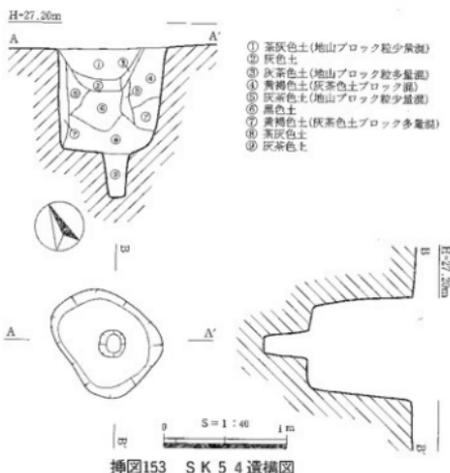
形態 平面形、底面形いずれもいびつな楕円形を呈し、断面形は長方形の漏斗状を呈する。規模は(0.90×0.70-0.86)mを測り、底面で(22×20-35)cmの小ピットを検出した。

埋土 埋土は9層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 出土しなかった。

性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。

時期 形態より縄文時代と考えられる。



挿図153 SK 5 4 遺構図

SK 5 5 (挿図154・図版30)

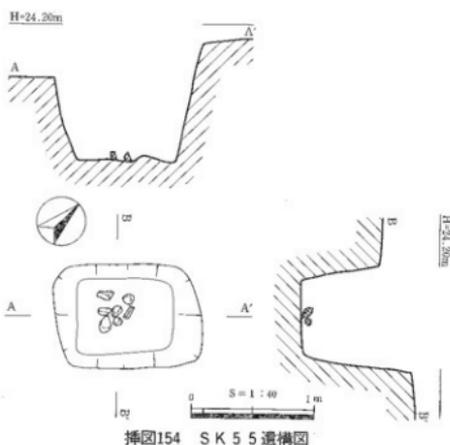
位置 D 4 グリッドにあり、標高23.8~24.1mに位置する。

形態 平面形、底面形いずれも隅丸方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は(1.18×0.84-0.80)mを測る。

遺物 握り拳大の石7個が出土した。

性格 不明である。

時期 不明である。



挿図154 SK 5 5 遺構図

SK 5 6 (挿図155・図版30)

位置 D 5 グリッドにあり、SK 5 7 と切り合い、標高24.3~24.4mに位置する。

形態 平面形、底面形いずれも円形を呈する。土坑内には6~8cmの円礫104個を人為的に並べていた。規模は(0.62×0.68-0.15)mを測る。

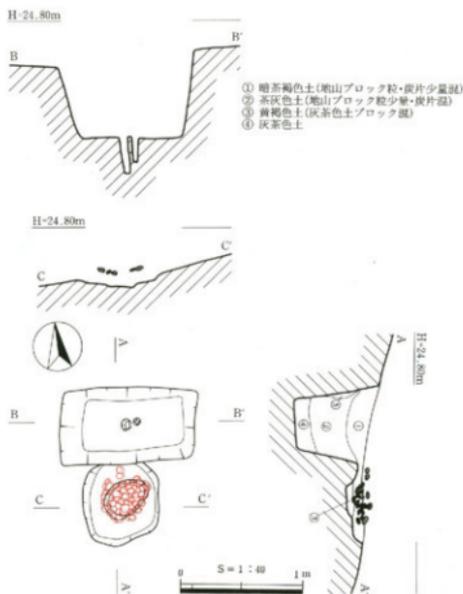
埋土 埋土は2層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 6~8cmの礫104個が出土した。

性格 祭祀的な性格が考えられる。
 時期 不明である。

SK 57 (挿図155・図版30)

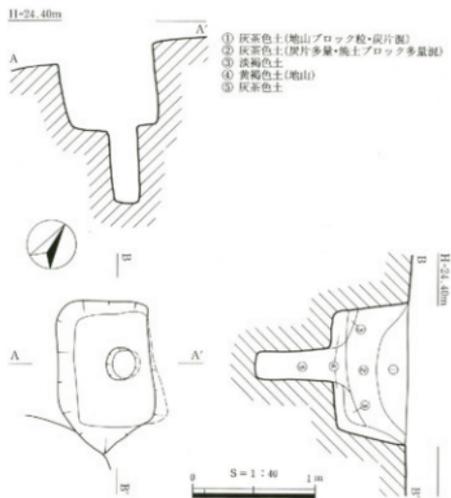
位置 D5グリッドにあり、SK56と切り合い、標高24.4~24.5mに位置する。
 形態 平面形、底面形いずれも長方形を呈し、底面に直接杭を突き刺したと思われる杭痕跡を二つ持つ。断面形は逆台形を呈する。規模は(1.10×0.64~0.70)mを測る。
 埋土 埋土は4層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
 遺物 出土しなかった。
 性格 形態から落し穴的な性格が考えられる。
 時期 不明である。



挿図155 SK 56・57 遺構図

SK 58 (挿図156・図版31)

位置 C5グリッドにあり、SI54と切り合い、標高24.1~24.3mに位置する。
 形態 平面形、底面形いずれもいびつな隅丸長方形を呈し、断面形は長方形の漏斗状を呈する。規模は(1.15×0.75~0.62)mを測り、底面で(25×25~62)cmの小ピットを検出した。
 埋土 埋土は5層に分層でき、⑤は杭痕跡、③は杭の固定土、他の層は自然堆積したものと考えられる。
 遺物 出土しなかった。
 性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。
 時期 形態より縄文時代と考えられる。



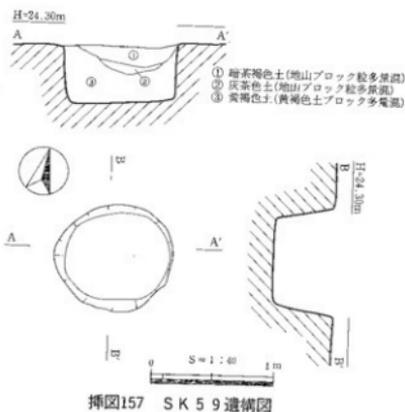
挿図156 SK 58 遺構図

SK 59 (挿図157・図版31)

- 位置 B 7グリッドにあり、標高24.2mに位置する。
 形態 平面形、底面形いずれも円形を呈し、断面形は長方形を呈する。規模は (0.86×0.94-0.45) mを測る。
 埋土 埋土は3層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
 遺物 出土しなかった。
 性格 不明である。
 時期 不明である。

SK 60 (挿図158・図版31)

- 位置 B 7グリッドにあり、標高23.7~24mに位置する。
 形態 平面形、底面形、断面形とも長方形を呈する。規模は (1.74×0.84-0.16) mを測る。
 埋土 埋土は1層のみで、自然堆積したものと考えられる。
 遺物 出土しなかった。
 性格 不明である。
 時期 不明である。



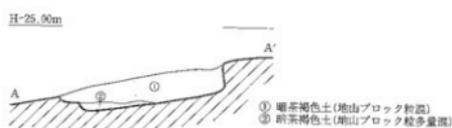
SK 61 (挿図159、160・図版31、49)

- 位置 B 8グリッドにあり、標高24.4~24.7mに位置する。
 形態 平面形、底面形いずれも不定形を呈し、断面形は皿状を呈する。規模は (1.35×0.84-0.24) mを測る。
 埋土 埋土は2層に分層でき、S I 4 8の構築に関係すると思われる。

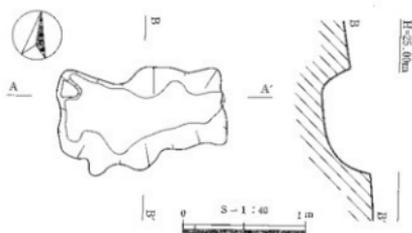
遺物 須恵器片が出土しており、須恵器坏蓋 P0245を図化した。
 性格 不明である。
 時期 出土した土器より古墳時代後期と考えられる。



挿図159 SK 6 1 遺物実測図



① 暗茶褐色土(地山ブロック状固)
 ② 暗茶褐色土(地山ブロック状少量混)



挿図160 SK 6 1 遺構図

SK 6 2 (挿図161・図版32)

位置 D 8グリッドにあり、標高 27mに位置する。

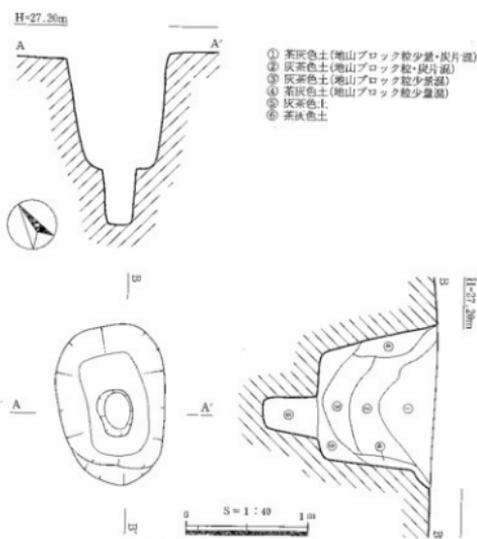
形態 平面形、底面形いずれもいびつな隅丸方形を呈し、断面形は逆台形の漏斗状を呈する。規模は(1.34×0.85-0.96)mを測り、底面で(38×30-45)cmの小ピットを検出した。

埋土 埋土は6層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 出土しなかった。

性格 形態より落し穴のな性格と考えられる。

時期 形態より縄文時代と考えられる。



① 赤灰色土(地山ブロック状少量混・灰片混)
 ② 灰赤色土(地山ブロック状・灰片混)
 ③ 灰赤色土(地山ブロック状少量混)
 ④ 黄灰色土(地山ブロック状少量混)
 ⑤ 灰赤色土
 ⑥ 赤灰色土

挿図161 SK 6 2 遺構図

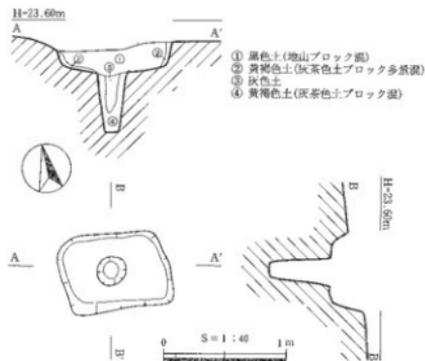
SK 6 3 (挿図162・図版32)

位置 D 15グリッドにあり、標高23.3~23.5mに位置する。

形態 平面形、底面形いずれも長方形を呈し、断面形は漏斗状を呈する。規模は(0.90×0.65-0.22)mを測り、底面で(24×24-46)cmの小ピットを検出した。

埋土 埋土は4層に分層でき、③は杭痕跡、④は杭の固定土、他の層は自然堆積したものと考えられる。

遺物 出土しなかった。
 性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。
 時期 形態より縄文時代と考えられる。



挿図162 SK 6 3 遺構図

SK 6 4 (挿図163・図版32)

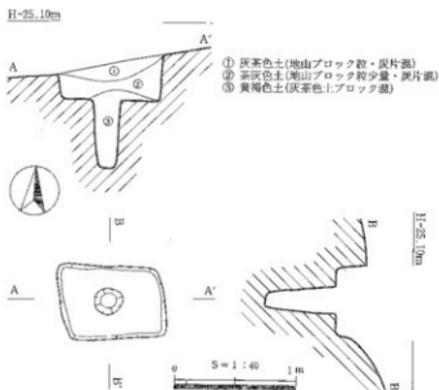
位置 C12グリッドにあり、標高24.7~24.9mに位置する。

形態 平面形、底面形いずれも長方形を呈し、断面形は長方形の漏斗状を呈する。規模は(0.85×0.58-0.32)mを測り、底面で(24×24-60)cmの小ピットを検出した。

埋土 埋土は3層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 出土しなかった。
 性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。

時期 形態より縄文時代と考えられる。



挿図163 SK 6 4 遺構図

SK 6 5 (挿図164・図版32)

位置 B4グリッドの、SD01内にあり、標高20.1~20.3mに位置する。

形態 平面形、底面形いずれも隅丸方形を呈し、断面形は皿状を呈する。規模は(0.90×0.88-0.14)mを測る。また、底面、壁面はいずれも焼土化していた。

埋土 埋土は1層のみで自然堆積したものと考えられる。

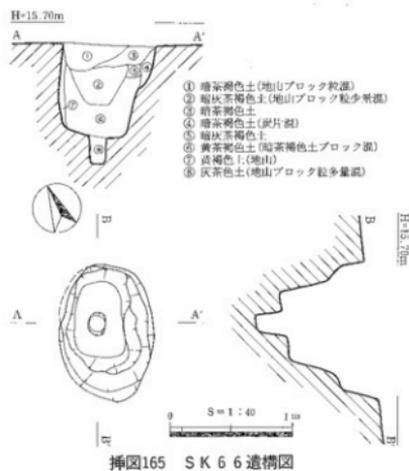
遺物 出土しなかった。
 性格 SD01にともなう祭祀的な性格が考えられる。

時期 古墳時代後期と考えられる。

SK 6 6 (挿図165)

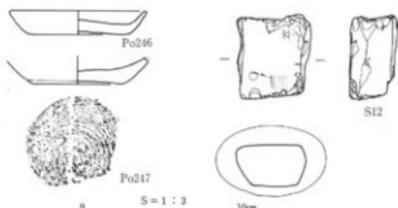
位置 G27グリッドにあり、標高15.4~15.5mに位置する。

- 形態 平面形は楕円形、底面形は隅丸長方形を呈し、断面形は逆梯状を呈する。規模は(1.10×0.80-0.75)mを測り、底面で(18×14-21)cmの小ピットを検出した。
- 埋土 埋土は8層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 出土しなかった。
- 性格 形態より落とし穴的な性格が考えられる。
- 時期 形態より縄文時代と考えられる。

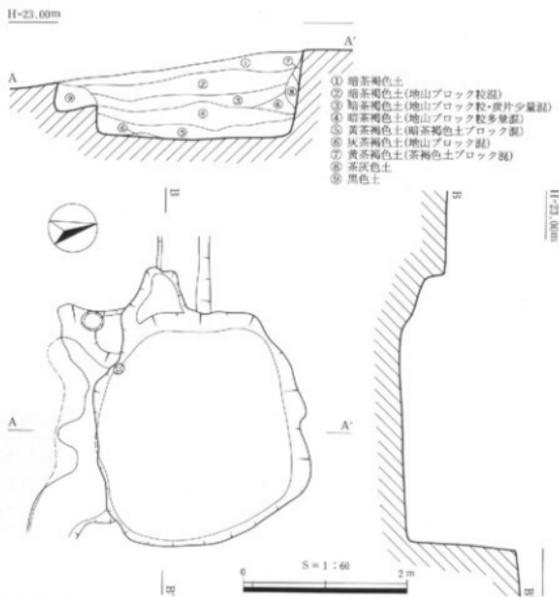


SX01 (挿図166、167・図版33、49、52)

- 位置 D16グリッドにあり、標高22~22.8mに位置する。S104・61・62と隣接する。
- 形態 南側は擾乱されており、西側はテラス状となるが、平面形は隅丸方形を呈する。検出できた規模は南北約2.5m、東西約2.8mを測り、残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大1.36mを測る。
- 埋土 埋土は9層に分層でき、⑥~⑧層は壁が崩落した際のものと考えられる。③層中には炭片を含んでいる。
- 遺物 土師質土器皿Po246、坏底部Po247、砥石S12を図化した。
- 性格 不明である。
- 時期 出土した土器より中世と考えられる。



挿図166 SX01遺物実測図



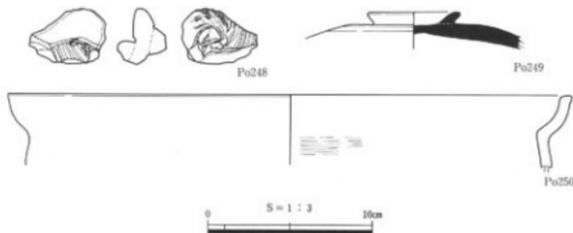
挿図167 SX01遺構図

SX02 (挿図168、170・図版33、49)

- 位置 G24・25グリッドにあり、標高19.3~19.7mに位置する。
- 形態 天井部は崩落しており、その際に西側周辺部の地盤も玄室内へ流れ込んだと考えられる。竪穴および羨道は断面が階段状をなし、検出できた規模は(1.36×0.97)m、深さは竪穴部で0.46m、羨道部で1.16mをそれぞれ測る。玄室床面の規模は南北2.04~2.15m、東西2.54~2.93mを測る。残存壁高

は最も遺存状態の良い東壁で最大1.86mを測る。

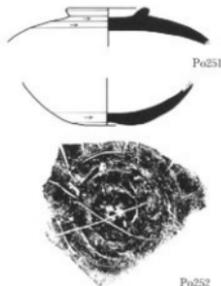
- 埋土 埋土は19層に分層できた。⑤層は地山で狭道天井部の名残と考えられる。⑥、⑦、⑩、⑫、⑬層は地山ブロック粒を多量に含んでおり、天井部が崩落した際に流れ込んだものと考えられ、遺物はこれらの層上で出土している。
- 遺物 埋土中より出土した縄文土器片Po248、須恵器蓋Po249、土師質土鍋Po250を図化した。また図化できなかったが常滑焼と考えられる甕胴片が出土している。
- 性格 形態より地下式横穴と考えられる。
- 時期 時期決定に関わる遺物は出土しなかったが、百塚第5遺跡の北に位置する「大下畑遺跡」で、今回検出したものと、規模・形態とも酷似した鎌倉時代前半と考えられる地下式横穴を検出しており、SX02についても、同様の時期であると考えられる。



挿図168 SX02遺物実測図

SX03 (挿図169、172・図版33、49)

- 位置 B・C6・7グリッドにあり、標高24.2~24.6mに位置する。SX04と切り合い、SI46・47・59・60、SX05と隣接する。
- 形態 東側を「J」状にカットし、その内側を長方形に掘り込んでいる。検出できた規模は南北約4.1m、東西約2mを測り、残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大15cmを測る。
- 埋土 埋土は4層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 須恵器蓋Po251、底部Po252を図化した。
- 性格 不明である。
- 時期 出土した土器より7世紀代と考えられる。

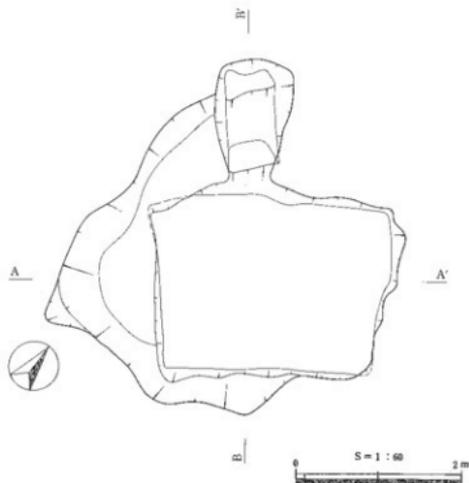
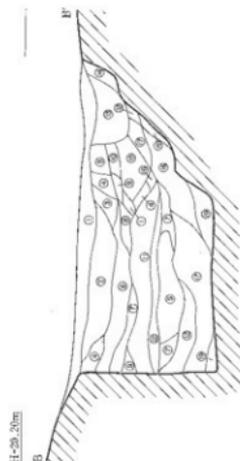
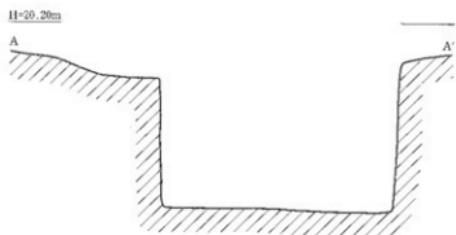


挿図169 SX03遺物実測図

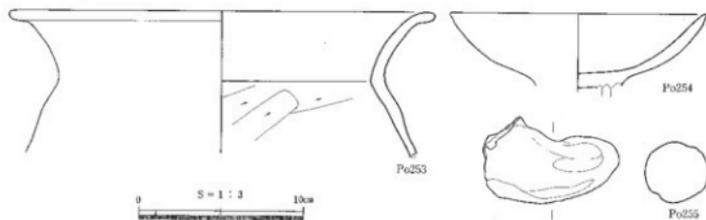
SX04 (挿図171、172・図版33、50)

- 位置 B・C6・7グリッドにあり、標高23.5~24mに位置する。SX03・05と切り合い、SI46・47・59・60と隣接する。
- 形態 平面形は長方形を呈し、検出できた規模は南北約3.4m、東西約2.3mを測る。残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大48cmを測る。北および東壁際で幅14~40cm、深さ7~12cmの溝を検出した。
- 埋土 埋土は4層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物 土師器甕Po253、高坏Po254、把手Po255を図化した。
- 性格 ビット等も検出できず、不明ではあるが、堅穴住居跡となる可能性もある。
- 時期 出土した土器より古墳時代後期後葉と考えられる。

- ① 茶褐色土(地山ブロック粒混)
- ② 暗茶褐色土
- ③ 暗茶褐色土(砂粒混)
- ④ 暗茶褐色土(砂粒多量混)
- ⑤ 黄褐色土(地山)
- ⑥ 暗茶褐色土(砂粒・地山ブロック粒多量混)
- ⑦ 暗茶褐色土(地山ブロック粒多量混)
- ⑧ 黄褐色土
- ⑨ 茶褐色土(砂粒多量混)
- ⑩ 茶褐色土(地山ブロック粒多量混)
- ⑪ 灰茶色土
- ⑫ 灰茶色土(地山ブロック粒多量混)
- ⑬ 黄褐色土(茶褐色土ブロック多量混)
- ⑭ 黄褐色土(茶褐色土ブロック混)
- ⑮ 黄褐色土(灰茶色土ブロック多量混)
- ⑯ 黄褐色土(灰茶色土ブロック混)
- ⑰ 灰茶色土(地山ブロック粒少量混)
- ⑱ 灰茶色土
- ⑳ 暗灰茶褐色土



挿図170 SX02遺構図



挿図171 SX04遺物実測図

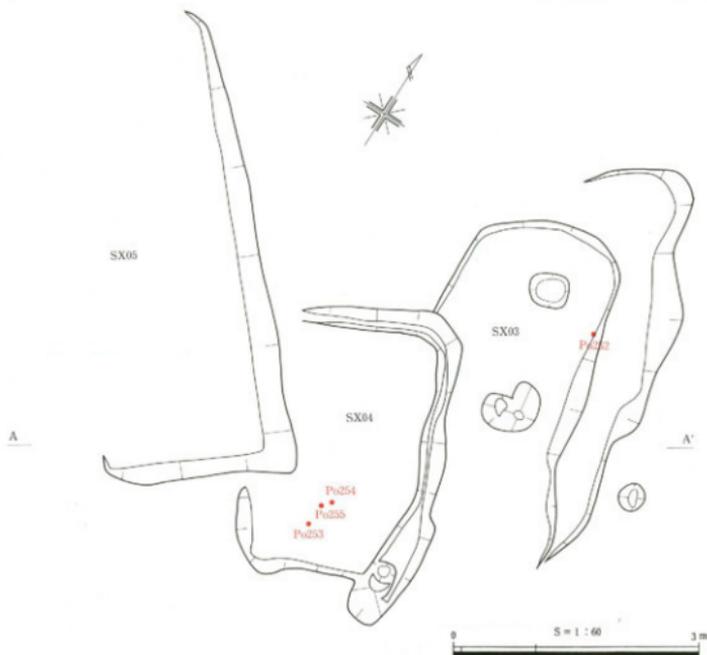
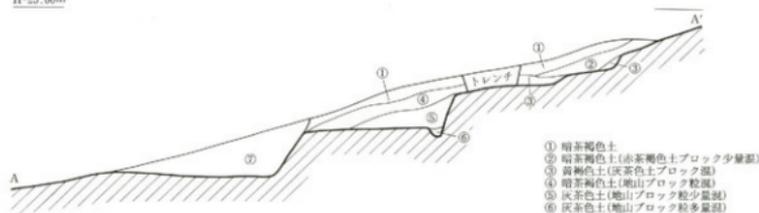
SX05 (挿図172・図版33)

位置 B6グリッドにあり、標高22.9~23.5mに位置する。SX04と切り合い、SI46・47・59・60、SX03と隣接する。

形態 東側を逆L字状にカットし、平坦面を作出している。検出できた規模は南北約5.7m、東西約2.5mを測り、残存壁高は最も遺存状態の良い東壁で最大56cmを測る。

- 埋 土 埋土は茶灰色土1層である。
遺 物 出土しなかった。
性 格 不明である。
時 期 近世もしくは近代であると考えられる。

H=25.00m



挿図172 SX03~05遺構図

第4節 溝状遺構

今回の調査で検出できた溝状遺構は1条のみであった。

SD01 (挿図173、174、175・図版33、50)

位置 B～D3グリッドにあり、標高18.5～22.5mを測る斜面に位置する。SD01内でSK65を検出した。

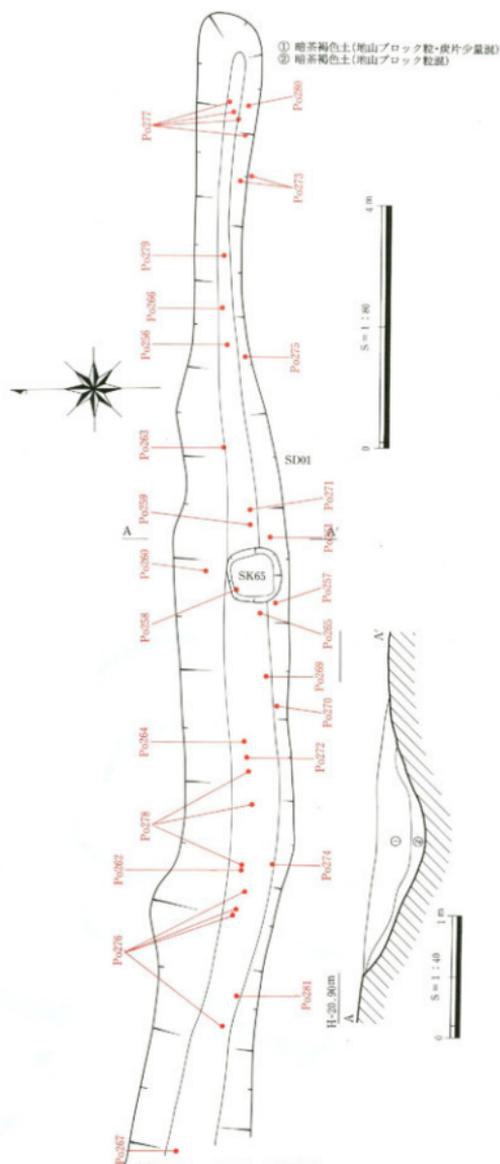
形態 本来であれば調査地を東西に横断するように流れていたものと考えられるが、D3グリッド以東は削平により消失している。検出できた規模は長さ約19m、幅約0.8～2mを測る。断面は浅い皿状を呈し、深さは40cm前後を測るが、削平を受けている東端では10cm前後となる。

埋土 埋土は暗茶褐色土で、①層中には細かい炭片を少量含んでいる。

遺物 周辺から流れ込んだものと考えられる土器が多量に出土した。これらの中から、土師器甕Po256～264、坏Po265・266、脚部Po267、ミニチュア獣形支脚Po268、手捏ね土器Po269、須恵器坏蓋Po270・271、坏身Po272～275、甕Po276、高坏Po277～279、壺Po280、提瓶Po281、脚付碗Po282を図化した。

性格 SD01内で検出され、ほぼ同時期と考えられるSK65の底面、壁面が焼土化しており、祭祀的な性格が考えられること、また、百塚第5遺跡の南に位置する百塚第7遺跡でも同時期の竪穴住居跡が検出されていることから、SD01は集落を区画する溝であった可能性も考えられる。

時期 出土した土器と周囲の竪穴住居跡との関係より古墳時代後期後葉と考えられる。



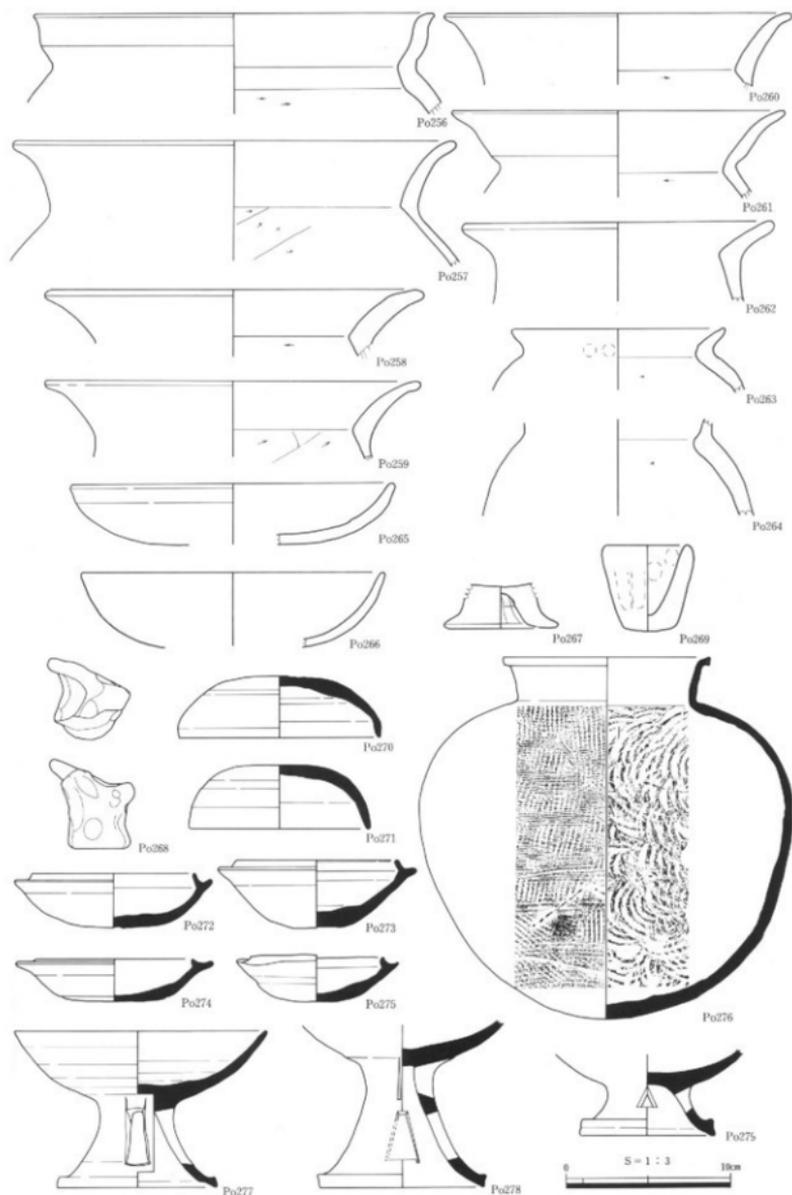
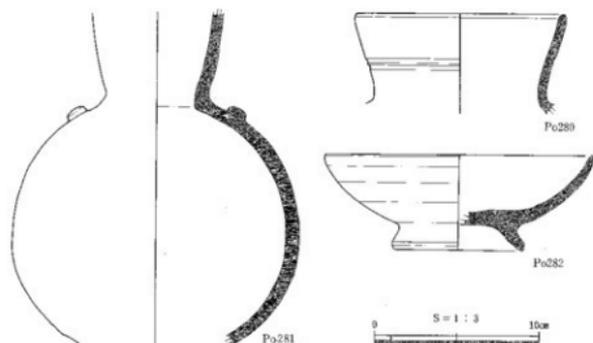


插图174 SD 0 1 遗物实测图(1)

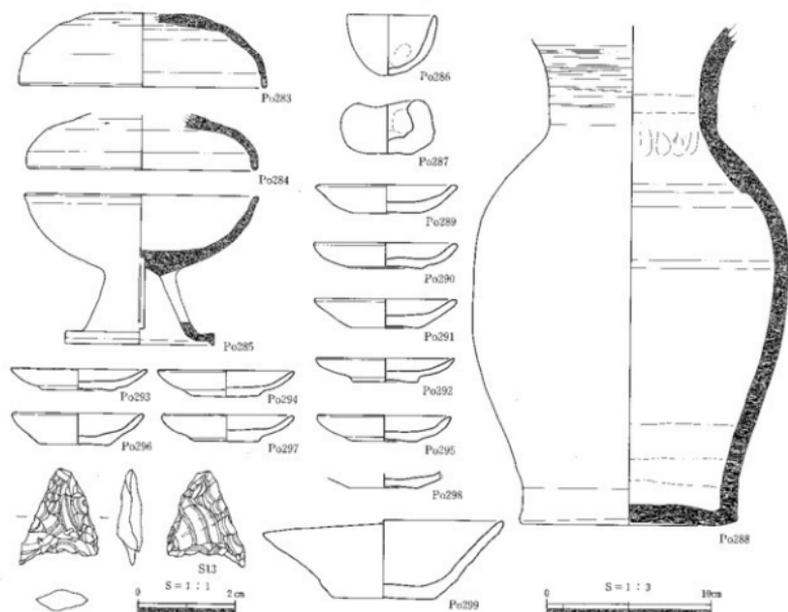


挿図175 SD01遺物実測図②

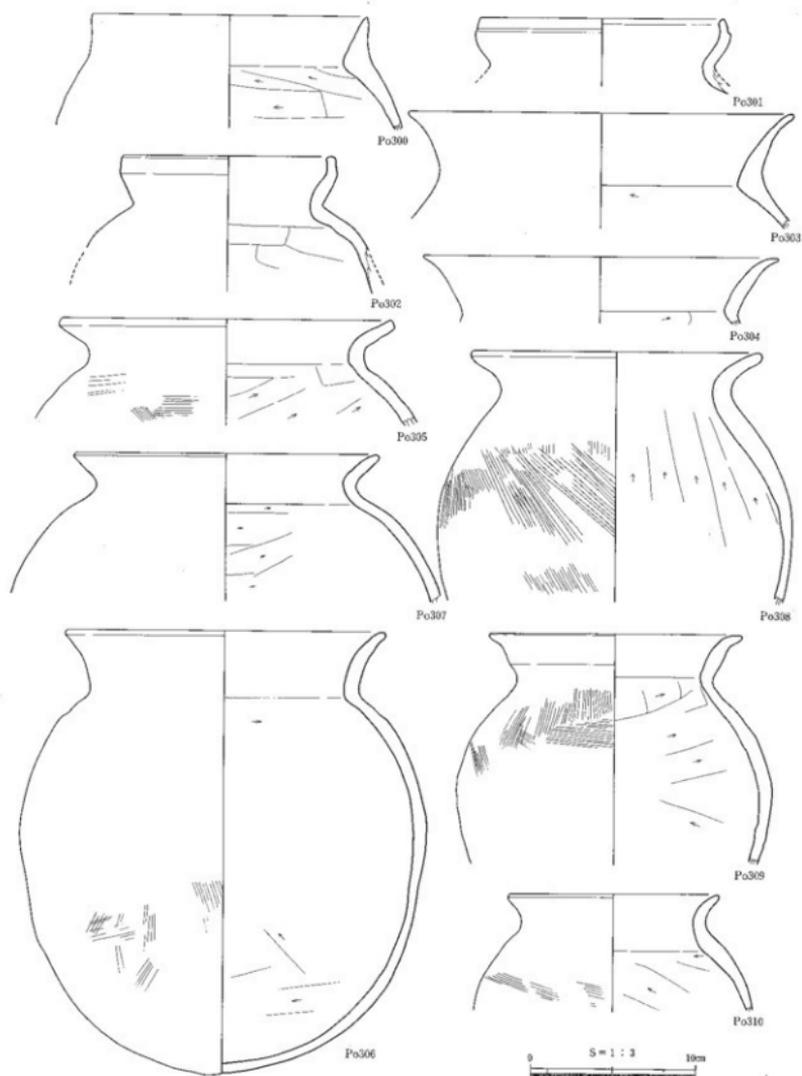
第5節 ピット群 (挿図176・図版51、52)

今回の調査で多数のピットを検出することができた。特にD9～12グリッド、E7・8グリッド、E20・21グリッド、F・G28グリッドの4ヶ所に集中しており、これらはピット群として考えられる。それぞれのピット群の広がり東西×南北で、(11×35)m、(6×16)m、(10×25)m、(13×6)mを測る。ピット内に柱材等が残っているものはなかったが、人為的に積まれたと考えられる石を持つものがいくつか見られた。それぞれのピットの規模は様々で、最大110cmから最小15cmを測るが、概ね30～60cmである。ピットの埋土はほとんどが暗茶褐色土または茶褐色土であった。検出できた多数のピットの内、いくつかは掘立柱建物跡の柱穴として報告したが、互いに対応するピットが見られず、今回の調査で確認した掘立柱建物跡は5棟にとどまった。

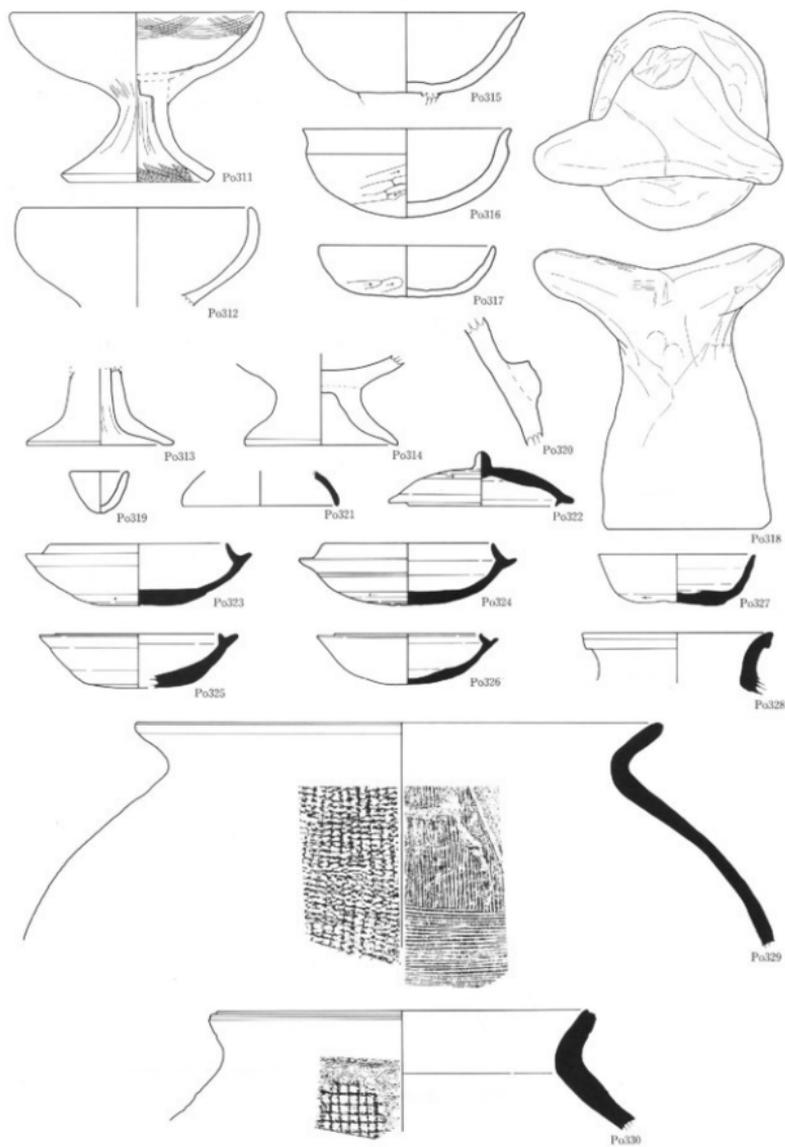
ピット内から出土した遺物として、須恵器坏蓋Po283・284、高坏Po285、手捏ね土器Po286・287、壺Po288、土師質土器皿Po289～298、坏Po299、石鏃S13を図化した。これらの中でPo288～298は同一ピット内から出土したものである。



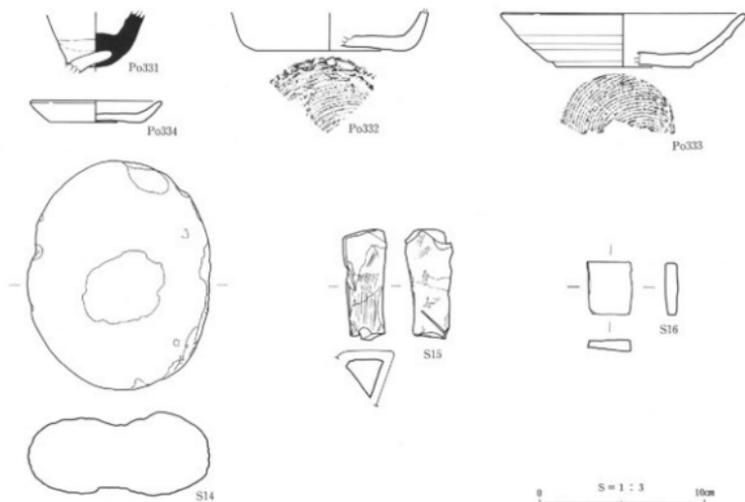
挿図176 ビット内遺物実測図



挿図177 遺構外遺物実測図(1)



挿図178 遺構外遺物実測図(2)



挿図179 遺構外遺物実測図(3)

遺構名	位置	平面形	主軸方向	規模(m)	側溝	柱穴数	礎土	特殊ピット	時期
S101	E2	方	N-34°-W	5.5×2.3	有		有		古墳時代後期後葉
S102	F6	方	N-40°-E	4.8×3.2	有	1			古墳時代後期後葉
S103	E4	方	N-22°-W		有	1			古墳時代後期
S104	C・D16・17	方	N-7°-E	6.9×6.5	有	2		東壁脚 隅丸長方形	古墳時代後期後葉
S105	D19	方	N-41°-W	4.9×3.3	有	2	有		古墳時代後期後葉
S106	C20	方	N-36°-E	3.4×2.5	有	2			古墳時代後期
S107	F19・20	方	N-20°-W	5.6×3	有	4		東壁脚 楕円形	古墳時代後期中葉～後葉
S108	E・F20	方	N-44°-E	3.5×3.5	無	(6)			古墳時代中期後葉
S109	E30・21	方	N-20°-W	5.3×3.5	有	3		東壁脚 円形	古墳時代中期後葉
S110	D22	方	N-35°-W	6.8×5.3	有	2		東壁脚 円形	古墳時代後期前葉～中葉
S111	G20	方	N-4°-W	6.7×4.5	有	2	有	東壁脚 楕円形	古墳時代後期中葉
S112	D23・24	方	N-41°-W	5.2×2.8	有	2			古墳時代後期前葉～中葉
S113	D24	方	N-26°-W	2.5×3.2	無	2			古墳時代中葉
S114	C・D24	方	N-29°-E	2.2×2	無	1			古墳時代中葉
S115	C・D24	方	N-40°-W	6×3.5	有	2			古墳時代後期前葉
S116	C・D24	方	N-40°-W	3.5×2.2	無	2			古墳時代後期中葉
S117	D25	方	N-19°-E	5.1×1.9	有	2	(有)	東壁脚 円形	古墳時代中期後葉
S118	D26	方	N-29°-E	3.7×2	有	2			古墳時代中期後葉
S119	D26	方	N-40°-E	3.7×3.2	有	3	有		古墳時代後期
S120	D27	方	N-30°-E	3.8×2.3	有	1			古墳時代後期
S121	E27	長方形	N-23°-E	3.9×3	有	4	有	南側 双円形	古墳時代後期前葉
S122	E27	方	N-21°-E	4×1.6	有	4		南壁脚 楕円形	古墳時代中期中葉～後葉
S123	E・F27	方	N-4°-W	5.3×6.9	有	4			古墳時代中期後葉
S124	E・F27	方	N-22°-E	4.1×4.4	無	2	有	南側 楕円形	古墳時代中期中葉～後葉
S125	F26・27	方	N-33°-E	3×5.9	有	4			古墳時代後期前葉
S126	G26	方	N-14°-W	2.3×3.8	有	3			古墳時代中期後葉～後期前葉
S127	F27	方	N-16°-W	3.7×1.7	無	2			古墳時代後期後葉
S128	F・G26・27	方	N-16°-W	6.1×4	有	2			古墳時代後期後葉～末
S129	F・G26	方	N-42°-E	2.2×4.5	有	2			古墳時代中期中葉～後葉
S130	G25・26	方	N-56°-W	2.9×2	有	2			古墳時代後期前葉～中葉
S131	G25・26	方	N-19°-W	3.4×2.3	有	2			古墳時代後期前葉～中葉
S132	D・E27・28	方	N-35°-W	7.7×5.5	有	2			古墳時代後期後葉
S133	F29	方	N-29°-E	7.4×6	有	4		東壁脚 円形	古墳時代中期中葉
S134	F29	方	N-36°-E	5.8×4.6	有	4		東側脚 円形	古墳時代中期後葉
S135	F29	方	N-18°-E	2.5×6.4	有	2			古墳時代後期後葉
S136	D・E29	長方形	N-30°-E	4.9×3.6	無	4	有	東壁脚 円形	古墳時代後期前葉～中葉
S137	D・E8・9	方	N-32°-W	4.9×4.2	有	4	有	南壁脚 竇穴状	古墳時代中期後葉
S138	C7	方	N-39°-W	3.7×2.5	有	2	有		古墳時代中期後葉～後期前葉
S139	D・E9	方	N-31°-E	5.9×5.7	有	4	有	東壁脚 円形 西側 長方形	古墳時代中期後葉～後期前葉
S140	D9	方	N-10°-E	4.7×4.7	有	4	有		古墳時代中期中葉～後葉
S141	D・E10	方	N-22°-E	4.2×4	有	4		東壁脚 楕円形	古墳時代中期中葉～後葉
S142	C8・9	方	N-10°-E	4.2×2.9	有	4	有	東壁脚 竇穴状	古墳時代後期中葉
S143	C・D10	方	N-33°-E	6.2×3.5	有	4	有	東壁脚 楕円形	古墳時代後期後葉
S144	C・D10	方	N-6°-W	2.7×5.1	有	4			古墳時代後期中葉
S145	D10	方	N-27°-E	2.1×2.1	有	2		南壁脚 円形	古墳時代中期中葉～後葉
S146	D10	方	N-24°-E	2.6×1.7	有	2		東壁脚 円形	古墳時代中期中葉～後葉
S147	D11・12	方	N-30°-E	4.3×4.3	有	4	有	東壁脚 円形	古墳時代後期中葉
S148	B・C5・6	方	N-37°-W	3.9×2.7	有	3	有		古墳時代中葉
S149	B7	方	N-12°-W	4.1×2.7	有	3	有		古墳時代末～7世紀代
S150	B7・8	方	N-6°-W	6.5×3.4	有	2	有	北東脚 長方形	古墳時代後期中葉～後葉
S151	D・E13	方	N-14°-W	4.5×5.1	有	4	有		古墳時代中期中葉～後葉
S152	D・E13・14	方	N-5°-W	4.8×5.1	有	4			古墳時代後期前葉
S153	D・E13・14	方	N-19°-E	5.9×4.5	有	4		東壁脚 楕円形	古墳時代後期中葉
S154	E14	方	N-36°-E	4.5×3.4	有	4		東壁脚 楕円形	古墳時代後期後葉～後期前葉
S155	E・F15	方	N-45°-E	2.8×2.2	有	4		東壁脚 楕円形	古墳時代中期後葉～後期前葉
S156	C・D4・5	方	N-29°-W	5.2×4	有	4	(有)	東壁脚 双円形	古墳時代末～7世紀代
S157	C3	方	N-41°-W	4.4×2.6	有	2	(有)	東壁脚 隅丸長方形 北側 長方形	古墳時代中期後葉～後期前葉
S158	C・D2	方	N-30°-W	3.5×3	有	3	有		古墳時代後期中葉～後葉
S159	B5	方	N-36°-W	3.2×1.5	有	1		東壁脚 楕円形	古墳時代後期中葉
S160	B8	方	真北	3.2×1.5	有			東壁脚 円形 円形・隅丸長方形 南側 円形	古墳時代中期
S161	C5・6	長方形	N-37°-E	3.4×2.5	無				古墳時代末～7世紀代
S162	C5・6	長方形	N-39°-E	3.5×2.5	無	3	有		古墳時代後期後葉
S163	D・E15・16	方	N-40°-E	4.2×4.7	有	4			古墳時代後期前葉～中葉
S164	D・E15・16	方	N-41°-W	5×6.1	有	3	有		古墳時代後期後葉

挿表2 百塚第5遺跡竇穴住居跡一覽表

※規模は南北×東西軸で表した
※柱穴数は確認できた数を表し、()内は伴うと考えられる柱穴数を調査
※礎土における()は礎土に伴うと考えられるものである

遺構名	位置	梁行×桁行	梁行長×桁行長(m)	主軸方向	時期
SB01	E7	2×3	1.84～2.70×2.20～4.00	N-22°-W	古墳時代
SB02	F・G23	1以上×4以上	2.40以上×9.20以上	N-34°-W	古墳時代
SB03	F・G29	1×4	1.60×8.00	N-76°-W	古墳時代
SB04	E30	2×5	3.20～4.30×5.00～8.40	N-60°-E	古墳時代
SB05	D14	1×2	1.90×2.40～2.50	N-52°-W	古墳時代

挿表3 百塚第5遺跡掘立柱建物跡一覽表

遺構名	位置	平面形	規模(長×短×深さ)m	時期	遺物・時期
S K 0 1	E 3	長方形	0.84×0.56-0.88		
S K 0 2	E 6	隅丸長方形	1.10×0.67-0.67	縄文時代	縄文土器片
S K 0 3	E 7	楕円形	1.20×0.70-0.75	縄文時代	
S K 0 4	E 6	不定形	1.56×0.94-0.34		
S K 0 5	E 7	長方形	2.14×1.15-0.38		
S K 0 6	E 7	不定形	1.90×1.36-1.30	縄文時代	縄文土器片、土師器片、黒曜石
S K 0 7	E 7	隅丸長方形	1.14×0.95-1.08	縄文時代	
S K 0 8	F 8	円形	1.80×0.90-1.12	縄文時代	
S K 0 9	E16	楕円形	0.80×0.62-0.20		
S K 1 0	D16	長方形	0.90×0.64-0.25	縄文時代	張り傘大の石5個
S K 1 1	C17	方形	0.90×0.70-0.40		
S K 1 2	C18	長方形	2.48×0.80-0.22		動物の骨
S K 1 3	C19	楕円形	1.68×1.10-0.35	古墳時代	土師器片、須恵器片
S K 1 4	C19	楕円形	1.74×1.00-0.30	古墳時代	土師器片
S K 1 5	E17	長方形	1.08×0.75-0.20	縄文時代	縄文土器片、須恵器片
S K 1 6	E17	円形	0.80×0.72-0.85		
S K 1 7	E19	円形	0.70×0.70-0.45		
S K 1 8	D19	不定形	0.94×0.65-0.26		
S K 1 9	D19	楕円形	0.80×0.76-0.90	古墳時代	土師器片、須恵器片
S K 2 0	C20	円形	0.90×0.74-1.04		
S K 2 1	E21	長方形	1.42×0.75-0.28		
S K 2 2	E21	長方形	1.10×0.60-0.20		
S K 2 3	E21	不定形	1.00×0.75-0.52		
S K 2 4	D21	円形	0.80×0.68-0.70		
S K 2 5	D26	円形	1.04×1.04-0.25		
S K 2 6	C25	不定形	1.22×1.10-0.15	古墳時代後期	土師器片、須恵器片
S K 2 7	C25	円形	1.64×1.38-0.70		
S K 2 8	G25	楕円形	1.24×0.96-0.46	古墳時代後期	土師器片、須恵器片
S K 2 9	D28	長方形	1.22×1.10-0.15	縄文時代	
S K 3 0	C28	楕円形	1.30×0.92-0.20	古墳時代後期	土師器片口縁部
S K 3 1	E27	隅丸方形	0.96×0.91-0.25	縄文時代	土師器片
S K 3 2	C15	隅丸長方形	1.04×0.75-1.22	縄文時代	
S K 3 3	E 9	方形	1.12×1.00-0.95	縄文時代	
S K 3 4	D10	不定形	1.25×0.65-0.65	縄文時代	土師器片
S K 3 5	D10	長方形	0.72×0.38-0.72	縄文時代	
S K 3 6	C 9	隅丸方形	1.10×0.88-0.85	縄文時代	
S K 3 7	D 9	円形	1.00×1.00-0.94	縄文時代	
S K 3 8	C10	不定形	1.60×0.90-0.20		
S K 3 9	E11	隅丸長方形 楕円形	0.85×0.85-0.80 2.15×1.80-1.84	縄文時代 縄文時代	土師器片
S K 4 0	C11	長方形	1.08×0.72-0.44	縄文時代	
S K 4 1	C10	長方形	0.92×0.45-0.30		
S K 4 2	D12	長方形	0.92×0.60-0.45	縄文時代	
S K 4 3	D13	楕円形	1.34×0.85-0.75	縄文時代	
S K 4 4	D14	方形	1.25×1.06-0.90	縄文時代	
S K 4 5	C 6	方形	0.94×0.75-0.10	縄文時代	
S K 4 6	C 5	円形	1.10×1.00-0.20	古墳時代	土師器片
S K 4 7	C 5	不定形	1.32×1.02-1.20	縄文時代	
S K 4 8	C 4	長方形	1.15×0.78-0.60	縄文時代	張り傘大の石3個
S K 4 9	C 4	不定形	1.75×1.22-1.12	縄文時代	
S K 5 0	C 3	長方形	1.06×0.72-0.70	縄文時代	張り傘大の石9個
S K 5 1	C 3	隅丸長方形	1.00×0.56-0.60	縄文時代	
S K 5 2	C 3	長方形	1.30×0.90-0.95	縄文時代	
S K 5 3	E 9	隅丸長方形	1.22×0.70-1.06	縄文時代	
S K 5 4	C 5	楕円形	0.90×0.70-0.86	縄文時代	
S K 5 5	D 4	隅丸方形	1.18×0.84-0.80		張り傘大の石7個
S K 5 6	D 5	円形	0.68×0.62-0.15		径6~8cmの円礫104個
S K 5 7	D 5	長方形	1.10×0.64-0.70		
S K 5 8	C 5	隅丸長方形	1.15×0.75-0.62	縄文時代	
S K 5 9	B 7	円形	0.94×0.86-0.45		
S K 6 0	B 7	長方形	1.74×0.84-0.16		
S K 6 1	B 8	不定形	1.35×0.84-0.24	古墳時代後期	須恵路環蓋
S K 6 2	D 8	隅丸方形	1.34×0.85-0.96	縄文時代	
S K 6 3	D15	長方形	0.90×0.65-0.22	縄文時代	
S K 6 4	C12	長方形	0.85×0.58-0.32	縄文時代	
S K 6 5	B 4	隅丸方形	0.90×0.88-0.14	古墳時代後期	
S K 6 6	G27	隅丸長方形	1.10×0.80-0.75	縄文時代	

挿表4 百塚第5遺跡土坑一覽表

①口径 ②器高 ③最大径 ④底部径 ⑤脚部径 ⑥長さ ⑦幅 ⑧厚さ ※復元値 △残存値 ○推定値

遺跡番号 発掘番号 器物番号	取上番号	出土位置	器種	口径(cm)	形 態	子 法	胎 土	焼 成	色 調	備 考
Pa1 7 41	21	S 1 0 1	甕	①16.2# ②6.0△	やや外傾する直立した複合口径。口縁部はやや平直な面をなす。屈曲部の縁は鈍い。	脚部内側へラクスリが見られるが、全体に風化のため観察不能。	赤、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色～灰褐色	YZ-17
Pa2 7 41	66	S 1 0 1	甕	①25.2# ②7.9△	やや外傾する「く」の字状口径。口縁部は丸くおさまる。	口縁部内外面ココナダ。肩部内側へラクスリ。	赤、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色～灰褐色	YY-16
Pa3 7 41	31 63	S 1 0 1	甕	①18.2# ②5.2△	外傾する「く」の字状口径。口縁部は外側へつまみ出すようにして丸くおさまる。	口縁部内外面ココナダ。肩部内側へラクスリ。	赤、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色～灰褐色 外側面褐色	内面ス入付 YY-25
Pa4 7 41	21	S 1 0 1	甕	①17.2# ②4.2△	外傾する「く」の字状口径。口縁部は丸くおさまる。	内外面ココナダ。	赤、磁砂を含む	良好	内外面淡褐色	黒面有 YZ-15
Pa5 7 41	21	S 1 0 1	高杯	①5.4△ ②7.0#	内傾する外側部から「ハ」の字状に深く低目の寛脚部。脚縁部はつまみ出すようにして丸くおさまる。	外縁部内外面ココナダ。脚縁部内外面ココナダ。	黒密	良好	内外面淡褐色	YY-26
Pa6 7 41	59	S 1 0 1	ホムフ	①11.1# ②35.3 器高28.1 径17.1 脚部径11.1 最大幅47.1	器縁は筒筒の筒筒をなすものと認められる。器縁は台形状をなす。前面上部の縁は、ほぼ水平方向にのびるものと思われる。脚部は、水平方向にのびる。	口縁部内側、脚縁部にハクイが見られる。他は内側へラクスリが濃いナダ。	赤、磁砂を含む	良好	内外面淡褐色	内面ス入付 黒面有 イ-18
Pa7 7 41	37 61	S 1 0 1	坏壺	①12.0# ②3.2△	ほぼ直立する口縁部。口縁部は丸くおさまる。口縁部と天井部の境界は不明瞭。	内外面回転ココナダ。	黒密	良好	内外面淡褐色	YY-23
Pa8 7 41	66	S 1 0 1	坏壺	①10.8# ②3.7△	やや内傾する口縁部。口縁部はつまみ出すようにして丸くおさまる。口縁部と天井部の境界は不明瞭。天井部は丸部を帯びる。天井部に縁状。	天井部内面ナダ。他内外面回転ココナダ。	赤、砂粒を含む	良好	内面淡褐色 外側淡褐色～灰褐色	YY-11
Pa9 7 41	69	S 1 0 1	有蓋高杯	①10.2# ②8.7 ③8.3	立ち上がりは内傾し、肩部は丸くおさまる。器縁はやや上へのびる。脚縁部は「ハ」の字状に深く傾き、肩部は平直な面をなす。二角形の蓋のしきりこまが入る。	外側口縁部内面回転ココナダ。内面内傾ナダ。他風化のため観察不能。	赤、1～4mmの石実を含む	不貞	内外面淡褐色	YZ-42
Pa10 8 41	67	S 1 0 2	坏壺	①11.4 ②4.3	内傾する口縁部。口縁部は丸くおさまる。口縁部と天井部の境界は不明瞭。天井部は平直。	天井部外面上半1/4(産時針回り)のラクスリ。天井部内面ナダ。他内外面回転ココナダ。	赤、砂粒を含む	不貞	内外面淡白色	YY-43
Pa11 11 41	136	S 1 0 4	坏壺	①12.7# ②3.9	内傾する口縁部。口縁部は内側を凹状に凹ませることにより、鋭くなる。口縁部と天井部の境界は明瞭に凹線が走る。天井部は平直。	天井部外面上半1/4(産時針回り)のラクスリ。天井部内面ナダ。他内外面回転ココナダ。	黒密	良好	内外面淡褐色 内面青灰色 外側青灰色	YY-02
Pa12 11	136	S 1 0 4	坏壺	①11.8# ②3.5△	立ち上がりは内傾し、肩部はつまみ出すようにしておさまる。器縁は上方へのびる。	内外面回転ココナダ。	黒密、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色 外側淡褐色～青灰色	YZ-35
Pa13 12 41	68	S 1 0 5	坏壺	①12.0# ②3.1	内傾する口縁部。口縁部は丸くおさまる。口縁部と天井部の境界は不明瞭。天井部は平直。	天井部外面上半1/4(産時針回り)のラクスリ。天井部内面ナダ。他内外面回転ココナダ。	黒密	良好	内外面淡褐色 外側淡褐色～灰褐色	YY-05
Pa14 14 16	70	S 1 0 7	高杯	①6.9△ ②19.4	器目の前後から深く「ハ」の字状に深く脚部。脚縁部は丸くおさまる。	脚部外側へラミダキ。内面回転ナダ。脚部内外面ナダ。	赤、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色～灰褐色	YY-22
Pa15 16	70	S 1 0 7	高杯	①7.7△ ②17.7	短い高台の付く高杯。	高台内面ナダ。他風化のため観察不能。	赤、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	YZ-37
Pa16 16 42	71	S 1 0 7	甕	①12.2# ②3.2△	外傾する口縁部。口縁部は上へのびる。器縁は平直な面をなす。外側に1本の凸線が走り、その上に凹線が走る。	内外面回転ココナダ。	黒密	良好	内外面淡褐色 外側淡褐色	YZ-39
Pa17 19 42	449	S 1 0 8	甕	①19.0# ②4.5△	外傾する直立した複合口径。口縁部は丸くおさまる。屈曲部の縁は鈍くほとんど突出しない。	内外面ココナダ。	赤、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	YY-49
Pa18 19 42	449	S 1 0 8	甕	①18.2# ②5.1△	ほぼ直立する直立した複合口径。口縁部は丸くおさまる。屈曲部の縁は鈍くほとんど突出しない。	内外面ココナダ。	赤、磁砂を含む	良好	内外面淡褐色～灰褐色	YY-56
Pa19 19 42	448	S 1 0 8	甕	①17.2# ②10.5△	外傾する「く」の字状口径。口縁部は外側へつまみ出すようにして丸くおさまる。	内外面ココナダ。	赤、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	O 16
Pa20 20 42	92	S 1 0 9	甕	①13.1# ②8.4△	外傾する直立した複合口径。口縁部は外側へつまみ出すようにして丸くおさまる。屈曲部の縁は鈍い。	口縁部内外面ココナダ。肩部内側ナダ。内側へラクスリ後ナダ。	黒密	良好	内外面淡褐色	YY-08
Pa21 20	90	S 1 0 9	甕	①15.2# ②4.9△	外傾する「く」の字状口径。口縁部は外側へつまみ出すようにして丸くおさまる。平直な面をなす。	肩部外側ナダ。他口縁部内外面ココナダ。	赤、1～2mmの石実を含む	良好	内外面淡褐色	YZ-34

挿表5 百塚第5遺跡・土器観察表(1)

高砂番号 林道番号 図面番号	取上げ番号	山上位置	形 状	長さ (cm)	形 状	手 法	土 質	地 色	調 色	備 考
Po2 29 42	92	S109	塙	①15.9m ②11.7m	外縁する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさまる。外側に2条の浅縁が延ぶ。	口縁部内外面コナダ。西部内面ヘラケズリ。内面ヘラケズリ。	赤、砂粒を含む	良好	内面淡褐色 外面淡褐色 赤茶褐色	外周スリ溝 YZ-21
Po3 29 42	93	S109	高坪	①9.6m ②4.9m	やや巨匠の腕節から見て「く」の字状に近く開脚。脚端部は平直な面をなす。	底部外面ヘラミガキ。内面取リ。底部内外面コナダ。	赤、1~4mmの石実を含む	良好	内面淡褐色	YZ-39
Po4 20 42	90	S109	高坪	①4.7m ②7.2	「く」の字状に近く短い開脚部。	底部外面ヘラミガキ。内面取リ。脚部内外面コナダ。坪部内外面コナダ。	黒褐色	良好	内外面淡褐色	YZ-27
Po5 20 42	92	S109	塙	①13.9m ②9.2m	内湾する腕。口縁端部は上方へつまみ出すようにおさまる。	口縁部内面コナダ。底部内面ヘラミガキ。内面取リ。坪部内外面コナダ。	赤、1~3mmの石実を含む	良好	内面淡褐色 外面淡褐色	黒底有 YZ-38
Po26 20 42	92	S109	塙	①12.4m ②7.7m	内湾する浅口の腕。口縁端部は内側に平直な面をなす。	内外面コナダ。	黒褐色	良好	内外面淡褐色	YZ-20
Po27 23 42	127	S110	塙	①15.4m ②9.6m	ほぼ直立する複合口縁。口縁端部はつまみ出すようにおさまる。内側に平直な面をなす。外面に彫指平行浅縁を指すナゲダ溝。彫指の縁は鈍い。	内外面コナダ。	赤、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	黒底有 O-14
Po28 23 42	148	S110	底面	①2.1m ②10.3m	平直。	内面ヘラケズリが見られるが、全体は風化のため観察不能。	赤、砂粒を含む	良好	内面淡褐色 外面淡褐色	O-3
Po29 23 42	191	S110	底面	①2.9m ②7.9m	平直。	内面淡褐色。他内外面コナダ。	赤、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	黒底有 Ku-16
Po30 23 42	130	S110	底面	①18.5m ②4.3m	腕部はほぼ直立し、口縁部は外面へ折り返すようにして端部を丸くおさまる。	内外面コナダ。	赤、砂粒を含む	良好	内面淡褐色 外面淡褐色	O-2
Po31 23 42	148	S110	底面	①15.9m ②7.3m	腕部は直立し、口縁部は外反して端部を丸くおさまる。	口縁部内外面コナダ。脚部内面ヘラケズリ。	赤や粗、砂粒を含む	良好	内面淡褐色 外面淡褐色 赤茶褐色	O-6
Po32 23 42	149	S110	底面	①14.8m ②9.2m	外反する口縁部。口縁端部は平直な面をなす。	真作のため観察不能。	赤、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	O-13
Po33 23 42	148 151 150	S110	底面	①17.7m ②6.6m	外縁する退化した複合口縁。口縁端部は平直な面をなす。彫指の縁は鈍く、ほとんど凹出ししない。	口縁部内外面コナダ。脚部内面コナダ。内面ヘラケズリ。	赤、砂粒を含む	良好	内面淡褐色 外面淡褐色 赤茶褐色	I-2
Po34 23 42	148 149	S110	底面	①16.9m ②9.4m	内縁する退化した複合口縁。口縁端部はほぼ直立しおさまる。彫指の縁は鈍く、突出しない。	内外面コナダ。	赤、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	O-4
Po35 23 42	148	S110	底面	①15.9m ②9.8m	外縁する退化した複合口縁。口縁端部はほぼ直立しおさまる。彫指の縁は鈍く、ほとんど凹出ししない。	内外面コナダ。	赤、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	O-16
Po36 23 42	148 151	S110	底面	①11.8m ②10.0m	外反する「く」の字状口縁。口縁端部はやや平直な面をなす。	口縁部内外面および脚部外面コナダ。脚部内面ヘラケズリと思われるが風化のため不明瞭。	赤、1~3mmの石実を含む	良好	内外面淡褐色 赤茶褐色	O-1
Po37 23 42	149 150	S110	底面	①21.6m ②9.6m	外縁する「く」の字状口縁。口縁部は外反し、腕部は丸くおさまる。	口縁部内外面コナダ。西部内面コナダ。内面ヘラケズリ。	赤、砂粒を含む	良好	外面スリ溝 外面淡褐色 赤茶褐色	外周スリ溝 I-3
Po38 23 42	148	S110	底面	①18.1m ②9.9m	外反する「く」の字状口縁。口縁端部はつまみ出すようにおさまる。	内外面コナダ。	赤や粗、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	黒底有 Ku-15
Po39 23 42	159	S110	底面	①17.6m ②1.9m	やや外反する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさまる。	内外面コナダ。	赤、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	黒底有 Ku-14
Po40 23 42	159	S110	底面	①17.2m ②3.9m	外反する口縁部。口縁端部は外面へ折り返すようにして丸くおさまる。	内外面コナダ。	赤、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	黒底有 O-15
Po41 23 42	148	S110	底面	①15.8m ②8.9m	やや外反する「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさまる。	脚部外面ヘラケズリ。他風化のため観察不能。	赤や粗、砂粒を含む	良好	内面淡褐色 外面淡褐色 赤茶褐色	O-5
Po42 23 42	191	S110	底面	①14.8m ②4.2m	外縁する「く」の字状口縁。口縁端部は上方へつまみ出すようにして丸くおさまる。	内外面コナダ。	赤、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	O-17
Po43 23 42	130	S110	小形丸底面	①11.6m ②3.4m	外縁する短い「く」の字状口縁。口縁端部は上面を強くナゲることにより、やや上方へ折り返すようにして丸くおさまる。	口縁部内外面コナダ。脚部内面ヘラケズリ。	赤、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	Ku-4
Po44 23 42	149	S110	小形丸底面	①9.2m ②4.9m	外縁する短い「く」の字状口縁。口縁端部は丸くおさまる。	口縁部内外面コナダ。脚部内面コナダ。内面ヘラケズリ。	赤、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色 赤茶褐色	Ku-3
Po45 23 42	148	S110	高坪	①17.0m ②4.1m	外反する口縁部。口縁端部はほぼ丸くおさまる。	内外面ヘラミガキ。	黒褐色	良好	内外面赤褐色	Ku-17

押表6 百塚第5遺跡・土器観察表(2)

遺物番号 探跡番号 図録番号	取上番号	出土位置	素材	法量(m)	形	用途	手法	法	胎土	焼成	色	調	備考
Pe46 22 42	150 151 156	S 1 1 0	高坏	①13.6M ②7.3D	環帯と底帯との境界で絞をなす。環帯は内湾し、口縁部は底帯を上へへつまみ出すようにしておさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。他内外面丁等なナデ。	密、砂粒を含む	良好	良好	内外面褐色		Ku-8	
Pe47 23 43	149	S 1 1 0	脚部	②5.6D ③8.4	「ハ」の字状に開く脚部。	環・底帯内面ヘラとミサ。他内外面ヨコナデ。	密	良好	良好	内外面褐色		Ku-2	
Pe48 23 43	150	S 1 1 0	高坏	②5.8D ③8.4	「ハ」の字状に開く脚部。脚部は平坦面をなす。	筒筒内に絞りが見られるが、全体に風化のため調態不明。	密、砂粒を含む	良好	良好	内外面褐色		Ku-1	
Pe49 23 43	156	S 1 1 0	脚部	②3.8D ③7.3	「ハ」の字状に開く脚部。脚部はつまみ出すようにして丸くおさめる。	内外面ナデ。	密	良好	良好	内外面褐色		イ-4	
Pe50 23 43	151	S 1 1 0	脚上部	②2.9D ③4.4	上り底帯の脚部。	風化のため調態不明。	密、砂粒を含む	良好	良好	内外面褐色		O-24	
Pe51 23	159	S 1 1 0	手製ね土器	①7.8M ②6.1	指飲み実線型。口縁部は、つまみ出すようにして丸くおさめる。	底帯内面指環状。他内外面ナデ。	密、粗砂を含む	良好	良好	内外面褐色		YZ-05	
Pe52 23	148	S 1 1 0	把手		環の把手。	ハナテが見られるが、全体に風化のため調態不明。	密、砂粒を含む	良好	良好	外面褐色		O-21	
Pe53 24 43	149	S 1 1 0	坏底	①12.3M ②3.8D	ほぼ直立する口縁部。口縁部は内面にわずかに絞をなす。口縁部と天井部の境界は線が強く突出する。天井部は平坦。	天井部外面上約2/3部時計回りのヘラズリ。他内外面ヨコナデ。	密	良好	内外面黄褐色		O-9		
Pe54 24 43	127 181	S 1 1 0	坏底	①12.4M ②4.1D	やや内湾する口縁部。口縁部は内面に絞をもつ。口縁部と天井部の境界は線が小さく突出する。	内外面回転ヨコナデ。	密	良好	内外面褐色		イ-5		
Pe55 24 43	127	S 1 1 0	坏底	①12.4M ②3.5D	ほぼ直立する口縁部。口縁部は内面にわずかに絞をなす。口縁部と天井部の境界は線がわずかに突出する。	内外面回転ヨコナデ。	密	良好	内外面黄褐色		O-8		
Pe56 24 43	127	S 1 1 0	坏底	①14.4M ②3.9D	ほぼ直立する口縁部。口縁部は内面へ折り曲げるようにしておさめ、内面に平坦面をなす。	天井部外面時計回りのヘラズリ。他内外面回転ヨコナデ。	密	良好	内外面黄褐色		Ku-7		
Pe57 24 43	127	S 1 1 0	蓋	①12.8M ②3.5D	やや内湾する口縁部。口縁部は内面にわずかに凹溝し、平坦面をなす。	内外面回転ヨコナデ。	密	良好	内外面黄褐色 外面鉄質灰色		O-7		
Pe58 24 43	127	S 1 1 0	坏身	①10.1M ②3.4D	立ち上がりは外反斜めに内湾し、底帯は内面に絞をもつ。変部はほぼ水平方向にのびる。	内外面回転ヨコナデ。	密	良好	内外面褐色		イ-6		
Pe59 24 43	127	S 1 1 0	高坏	①12.0M ②3.5D	外湾する口縁部。口縁部はつまみ出すようにしておさめる。外湾した縁部で区別した中に、別れ目を施す。下面は縁の下に凹溝がある。	外帯部内湾ナデ。他内外面回転ヨコナデ。	密	良好	内外面褐色		イ-7		
Pe60 24 43	148	S 1 1 0	高坏	①14.8M ②5.5D	やや外湾する口縁部。口縁部は丸くおさめる。環帯外縁に2本の凹溝がある。底面に透かしを入れた環の工具痕が残る。	内帯部外縁時計回りのヘラズリ。他内外面回転ヨコナデ。	密	良好	内外面黄褐色		Ku-5		
Pe61 24	127	S 1 1 0	高坏	①13.7M ②4.9D	内湾する環帯。口縁部は外反し、短縮は丸くおさめる。外縁に2本の凹溝がある。底面に透かしを入れた環の工具痕が残る。	底帯内湾ナデ。底帯内面ヘラズリ後口縁部以下内外面回転ヨコナデ。	密	良好	内外面褐色		イ-14		
Pe62 24 43	127 150	S 1 1 0	脚部	②4.4D ③8.4M	「ハ」の字状に開く脚部。脚部は内面へ折り曲げ、端部をつまみ出すようにしておさめる。透かしを入れる。	内外面回転ヨコナデ。	密	良好	内外面褐色		Ku-6		
Pe63 24 43	151	S 1 1 0	不明土製品	②5.0 ③3.8 ④3.7	中央のくびれた胴部をなす。中心部に貫通する穴がある。	ナデ。	密、粗砂を含む	良好	外面灰白色		Ku-22		
Pe64 25 43	324	S 1 1 1	壺	①19.7M ②7.4D	内湾する直立した筒状口縁。口縁部は内面にやや平坦面をなす。唇部は縁が高く、ほもと突出しない。	口縁部内外面ヨコナデ。肩部外面タテハケ。内面ヘラズリ。	密、粗砂を含む	良好	内外面褐色		Ku-30		
Pe65 25 43	324	S 1 1 1	手製ね土器	②3.7M ③2.2	半球形をなす。	外面ナデ。内面指環状。	密、砂粒を含む	良好	内外面褐色		Ku-31		
Pe66 25 43	324	S 1 1 1	蓋	①12.0M ②5.5D	口縁部は直立し、端部は内面に斜めをもつ。口縁部と天井部の境界は線がなす。天井部は平環で脚部につまみが付く。	天井部外面上約1/3部時計回りのヘラズリ。環部内湾ナデ。他内外面回転ヨコナデ。	密、砂粒を含む	良好	内面灰白色 外面鉄質灰色～灰白色		Ku-33		
Pe67 27	152	S 1 1 2	壺	①15.4M ②10.4D ③41.6M	外湾する口縁部。口縁部は丸くおさめる。	外面ナデ。内面ヘラズリ、指環状。	密、砂粒を含む	良好	内外面褐色		Y2-29		
Pe68 27	153	S 1 1 3	車輪基部	①11.7D ②41.6M	内湾する基部	外面タテハケ。内面ヘラズリ。	やや密、砂粒を含む	良好	内外面褐色		YY-28		
Pe69 29	155	S 1 1 5 ・1 6	高部	②2.0D ③9.4M	やや上り底帯の平坦。	風化のため調態不明。	密、砂粒を含む	良好	内外面褐色		底面ス付 灰褐色 Y2-36		
Pe70 29 43	119 179	S 1 1 5 ・1 6	壺	①22.8M ②5.4D	強く外反する「く」の字状口縁。口縁部は平坦面をなす。	口縁部内外面ヨコナデ。	密、砂粒を含む	良好	内外面褐色～灰褐色		Y2-26		

挿表7 百塚第5遺跡・土器観察表(3)

産出番号 採出番号 図記号	取上番号	出土位置	群 種	法長 (cm)	形 態	手 法	胎 土	着 成	色 調	備 考
Po71 29	157 175	S 1 1.5 - 1.6	甌	①21.0W ②6.4L	ほぼ直立する逆立した複合口縁。口縁部は丸くおさめる。胎土の硬さは強い。	口縁部内外面ヨコナダ。胴部内面ヘラケズリ。	赤、磁砂を含む	良好	内面淡褐色 外面スズ付 意 YY-10	
Po72 29 43	156 159	S 1 1.5 - 1.6	甌	①19.0W ②5.3L	ほぼ直立する逆立した複合口縁。口縁部は丸くおさめる。胎土の硬さは強い。	内外面ヨコナダ。	赤、磁砂を含む	良好	内面淡褐色～灰 外面褐色	YZ-11
Po73 29	156	S 1 1.5 - 1.6	甌	①18.0W ②5.1L	ほぼ直立する逆立した複合口縁。口縁部は丸くおさめる。胎土の硬さは強い。	内外面ヨコナダ。	赤、磁砂を含む	良好	内外面淡褐色	YZ-13
Po74 29 43	155	S 1 1.5 - 1.6	甌	①15.0W ②7.0L	ほぼ直立する逆立した複合口縁。口縁部は内外にわずかに肥厚し、平坦な面をなす。胎土の硬さは強い。胴部はほぼ球形をなすものと思われる。	口縁部内外面ヨコナダ。胴部内面斜形窪注。胴部外面ヨコ・ナメハク。内面ヘラケズリ。	赤、1~4mmの石灰を含む	良好	内面淡褐色～灰 赤褐色 外面淡褐色	YZ-23
Po75 29 43	156	S 1 1.5 - 1.6	甌	①14.0W ②4.3L	内傾する逆立した複合口縁。口縁部は外側へつまみ出すようにし、内面にやや平坦な面をなす。	内外面ヨコナダ。	赤、磁砂を含む	良好	内外面淡褐色～灰 赤褐色	YZ-16
Po76 29 179	156 179	S 1 1.5 - 1.6	甌	①13.2W ②4.3L	ほぼ直立する逆立した複合口縁。口縁部は丸くおさめる。胎土の硬さは強い。	口縁部内外面ヨコナダ。胴部内面ヘラケズリ。	赤、磁砂を含む	良好	内外面淡褐色	YY-12
Po77 29	175	S 1 1.5 - 1.6	甌	①12.0W ②7.3L	直立する逆立した複合口縁。口縁部は平坦な面をなす。胎土の硬さは強い。	口縁部内外面ヨコナダ。胴部内面ヘラケズリ。	赤、磁砂を含む	良好	内外面淡褐色	YZ-14
Po78 29 44 178	156 175 178	S 1 1.5 - 1.6	甌	①12.0W ②11.4L	内傾する逆立した複合口縁。口縁部は内面に平坦な面をなす。胎土の硬さは強い。胴部はほぼ球形をなすものと思われる。	口縁部内面ヨコナダ。胴部内面ヘラケズリ。外周縁化のため高さ不明。	赤、磁砂を含む	良好	内外面淡褐色	YZ-09
Po79 29	155	S 1 1.5 - 1.6	甌	①11.0W ②4.8L	やや内傾して直立する逆立した複合口縁。口縁部は丸くおさめる。胎土の硬さは強い。	胴部内面にヘラケズリが見られるが、全体に夷化のため高さ不明。	赤、1~2mmの石灰を含む	良好	内外面淡褐色	YZ-12
Po80 29 44	157	S 1 1.5 - 1.6	甌	①19.2W ②4.8L	外反する「く」の字状口縁。口縁部は丸くおさめる。	内外面ヨコナダ。	赤、磁砂を含む	良好	内外面淡褐色	YY-27
Po81 29 44	159	S 1 1.5 - 1.6	甌	①17.2W ②10.2L	外反する「く」の字状口縁。口縁部は外側へ寄り返すようにして丸くおさめる。胎土は硬い。	口縁部内外面ヨコナダ。胴部内面ヘラケズリ。	赤、磁砂を含む	良好	内面淡褐色 外面淡褐色～灰 赤褐色	外周スズ付 意 YY 15
Po82 29 44	175	S 1 1.5 - 1.6	甌	①14.0W ②3.7L	やや内傾しながら、大きく外へ開く「く」の字状口縁。口縁部は丸くおさめる。	内外面ヨコナダ。	赤、磁砂を含む	良好	内外面淡褐色	YZ-23
Po83 29	156	S 1 1.5 - 1.6	甌	①15.0L	ほぼ球形をなす割餅。	外周ヨコ・ナメハク。内面ヘラケズリ。胎部に指痕残留。	赤、磁砂を含む	良好	内外面淡褐色～灰 赤褐色	黒底有 意 YZ-32
Po84 29	155	S 1 1.5 - 1.6	甌	①11.2L	ほぼ球形をなす割餅。	高さのため調整不明。	赤、1~3mmの石灰を含む	良好	内外面淡褐色	YZ-41
Po85 30 43	155	S 1 1.5 - 1.6	小型丸底甌	①9.6W ②7.7L	内傾してほぼ直立する口縁部。口縁部は丸くおさめる。胎土は硬い方に強い楕圓形をなすものと思われる。	口縁部内外面ヨコナダ。胴部内面ヨコ・ナメハク。内面ヘラケズリ。	赤、磁砂を含む	良好	内外面淡褐色 外面スズ付 意 YZ-19	
Po86 30 43	157 159	S 1 1.5 - 1.6	高杯	①12.4W ②9.2L ③8.0	内傾する杯部。口縁部は丸くおさめる。胎土は硬い。胴部は「ハ」の字状に開き、底部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナダ。杯部外面ナダ。内面ヘラミダキ。杯部部から胎土上層外側にテナハがわずかに見られる。胴部内外面ヨコナダ。	赤、磁砂を含む	良好	内面淡褐色	YZ 24
Po87 30	155	S 1 1.5 - 1.6	高杯	①14.0W ②6.8L	内傾する杯部。口縁部は丸くおさめる。	高さのため調整不明。	磁砂	良好	内外面淡褐色～灰色	YZ 19
Po88 30	179	S 1 1.5 - 1.6	高杯	①7.2L	杯底部。	外周テナハ後ナダ。内面ヘラミダキ。	磁砂	良好	内面淡褐色 外面淡褐色	YZ-28
Po89 30 43	174	S 1 1.5 - 1.6	碗	①12.4W ②5.8L	内傾する碗。口縁部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナダ。他内外面ナダ。	磁砂、1~3mmの石灰をわずかに含む	良好	内外面淡褐色	YZ-08
Po90 30 43	174 175	S 1 1.5 - 1.6	碗	①11.0W ②4.5L	内傾する碗。口縁部は丸くおさめる。	内外面丁型ナダ。	磁砂	良好	内面淡褐色 外面淡褐色～灰色	YZ-07
Po91 30	155	S 1 1.5 - 1.6	脚部	①3.1L ②8.4W	「ハ」の字状に開く脚部。脚部はつまみ出すようにして丸くおさめる。	内外面ヨコナダ。	赤、磁砂を含む	良好	内外面淡褐色	YZ-25
Po92 30 44	175	S 1 1.5 - 1.6	手捏土甌	①8.4W ②4.5L	口縁部は外側へ寄り返すようにして、底部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナダ。他内外面ナダ。	赤、磁砂を含む	良好	内外面淡褐色～灰 赤褐色	黒底有 意 YZ-26
Po93 30 44	155	S 1 1.5 - 1.6	有蓋高杯	①7.5W ②4.0L	立ち上がりは直立し、底部はつまみ出すようにしておさめる。下部は斜め切り、その下に復次文を施す。	内外面回転ヨコナダ。	磁砂、磁砂を含む	良好	内面淡褐色	YY-13
Po94 30	227	S 1 1.5 - 1.6	脚部	①1.5L ②13.2W	底部を上方へつまみ出すようにしておさめる脚部。透かしを入れる。	内外面ヨコナダ。	磁砂	良好	内面灰色 外面暗青灰色	YZ-45

挿表 8 百塚第 5 遺跡・土器観察表(4)

遺跡番号 探検番号 調査番号	取上番号	出土位置	器 種	数量 (個)	形 態	手 法	胎 土	装 成 色	調 査 考	
Po95 33 44	158	S 1 1 7	甕	①24.2㎝	外脣する複合口縁。口縁部は 平皿状をなす。唇部は縁は 鈍い。胴部はほぼ球形をなす。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外 面ナメハツ。内面ヘラツキ。	密、細砂を 含む	良好	内外両面 灰褐色	内面灰化跡 付着 外周ス付 着 Y2-31
				②5.2㎝						
Po96 33 44	158	S 1 1 7	埴輪	①33.2	内脣する厚手の腕。口縁部は 内側にやや平皿状をなす。	胴部内外面指圧痕。他無化の ため顕微不明。	密	良好	内外両面 灰褐色	表面有 Y2-04
				②5.8						
Po97 33 44	160	S 1 1 8	高杯	①33.4㎝	内脣する杯部。口縁部は丸く おさめる。	口縁部外周ヨコナデ。外周部は 内側ナメハツ。内面ヘラツキ。	締密	良好	内外両面 褐色	無着有 Y2-18
				②5.6						
Po98 36 44	182	S 1 2 1	甕	①17.4㎝	口縁部は内傾し、上方へ拡張 する。外脣に2本の肋骨を挟す。 唇部は外反する。	口縁部内外面ヨコナデ。内面ヘ ラツキ。胴部外周ナメハツ。 内面指圧痕のため顕微不明。	密、砂粒を 含む	良好	内外両面 褐色	Ew-27
				②4.3						
Po99 36 44	193	S 1 2 1	底甕	①20.2	平底。	炭化のため顕微不明。	やや粗。砂 粒を多く含 む	良好	内面陶質 色 外周部灰 褐色	Ew-28
				②5.2						
Po100 36 44	182	S 1 2 1	底甕	①19.9	平底。	ナデ。	密、砂粒を 含む	良好	内外両面 褐色	表面有 Ku-26
				②5.6						
Po101 36	185	S 1 2 1	甕	①13.6	外反する「く」の字状口縁。口 縁部はほぼ球形をなす。「ま た」は強クナデられることより 凹縁部になる。	内外面ヨコナデ。	密、細砂を 含む	良好	内外両面 褐色	Y2-72
				②4.7						
Po102 36 44	185	S 1 2 1	甕	①8.8	ほぼ直立する退化した複合口縁。 口縁部は丸くおさめる。胴部 は張り胴部は丸味をなす。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部 以下外面ナメハツ。内面ヘラツ ズリ。	密、砂粒を 含む	良好	内外両面 褐色	イ-20
				②7.3						
				③3.0						
Po103 36	192	S 1 2 1	甕	①20.4	内脣してほぼ直立する退化した 複合口縁。口縁部はほぼ平皿 状をなす。唇部は縁は鈍く ほとんど突出しないが、上部に 沈線が通る。	胴部内面ヘラツキが見られる が、全体に炭化のため顕微不明。	密、砂粒を 含む	良好	内外両面 褐色	O-26
				②5.6						
Po104 36 44	182	S 1 2 1	甕	①20.0	内脣部はやや外脣する退化し た複合口縁。口縁部は丸くお さめる。唇部は縁は鈍くほと んど突出しないが、上部に沈 線が通る。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外 面ヨコナデに近いハツメ。内 面ヘラツズリ。	密、細砂を 含む	良好	内外両面 褐色	E2H-9
				②5.8						
Po105 36	192	S 1 2 1	甕	①19.6	外脣する退化した複合口縁。口 縁部はほぼ球形をなす。唇部 は鈍く、ほとんど突出しない。	炭化のため顕微不明。	密、砂粒を 含む	良好	内外両面 褐色	表面有 O-25
				②7.3						
Po106 36 44	193	S 1 2 1	甕	①18.8	外脣する退化した複合口縁。口 縁部は丸くおさめる。唇部 の縁は鈍く、ほとんど突出し ない。胴部は球形をなす。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外 面ヨコナデナメハツ。内面ヘ ラツズリ。	密、砂粒を 含む	良好	内外両面 灰褐色	外周ス付 着 イ-19
				②1.8						
Po107 36 44	182	S 1 2 1	甕	①18.8	外脣する退化した複合口縁。口 縁部はほぼ直立するように おさめる。唇部は縁は鈍い。	胴部内面にヘラツキが見られ るが、全体に炭化のため顕微 不明。	密、砂粒を 含む	良好	内外両面 褐色	T-4
				②7.9						
Po108 36 44	187	S 1 2 1	甕	①18.1	外脣する退化した複合口縁。口 縁部は丸くおさめる。唇部 の縁は鈍い。	炭化のため顕微不明。	密、砂粒を 含む	良好	内外両面 褐色	E2H-5
				②9.9						
Po109 36 44	192	S 1 2 1	甕	①18.0	ほぼ直立する退化した複合口縁。 口縁部は平皿状をなす。唇 部は縁は鈍い。胴部は球形を なす。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外 面ヨコナデナメハツ後下平ナツ。 内面ヘラツズリ。唇部指圧痕。	密、砂粒を 含む	良好	内外両面 褐色	外周ス付 着 Ku-29
				②7.2						
Po110 36 44	182	S 1 2 1	甕	①17.0	やや外脣する退化した複合口縁。 口縁部は外脣へつまみ出すよ うにしておさめる。唇部は縁 は鈍い。	内外面ヨコナデ。	密、砂粒を 含む	良好	内面陶質 色 外周部灰 褐色～灰 褐色	T-2
				②6.2						
Po111 36	182	S 1 2 1	甕	①17.0	やや内脣部を外脣する退化し た複合口縁。口縁部は丸くお さめる。唇部は縁は鈍く、ほ んど突出しない。	炭化のため顕微不明。	密、砂粒を 含む	良好	内外両面 褐色	Y2-66
				②4.4						
Po112 36	182	S 1 2 1	甕	①16.6	外脣する退化した複合口縁。口 縁部はほぼ直立するように おさめる。唇部は縁は鈍い。	内外面ヨコナデ。	密、細砂を 含む	良好	内外両面 褐色	Y2-70
				②4.0						
Po113 36	183	S 1 2 1	甕	①16.0	ほぼ直立する退化した複合口縁。 口縁部は丸くおさめる。唇部 の縁は鈍い。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外 面ナメハツ。内面ヘラツズリ。	やや粗。砂 粒を含む	良好	内外両面 褐色	YY-31
				②8.4						
Po114 37 42	193	S 1 2 1	甕	①19.0	外反する「く」の字状口縁。口 縁部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外 面ナツ。内面ヘラツズリ。	密、砂粒を 含む	良好	内外両面 灰白～灰 赤褐色	Y2-46
				②10.6						
Po115 37 45	182	S 1 2 1	甕	①16.4	外反する「く」の字状口縁。口 縁部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	密、砂粒を 含む	良好	内外両面 褐色～灰 褐色	Y2-71
				②4.5						
Po116 37 45	182	S 1 2 1	甕	①16.0	外脣する「く」の字状口縁。口 縁部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部 内面ヘラツズリ。	密、砂粒を 含む	良好	内外両面 褐色	YY-33
				②7.8						
Po117 37 45	182	S 1 2 1	異形甕	①9.8	外脣する口縁部。口縁部は丸 くおさめる。胴部は厚み方に 長い凹縁部をなすものと思われ る。	胴部外面ナメハツ。内面ヨコ ナデ後口縁部内外面ヨコナデ。唇 部外周一部にハツキが見られ るが、全体にナデ。内面反り ナツ。	締密	良好	内外両面 褐色	O-28
				②11.7						

挿表9 百塚第5遺跡・土器観察表(5)

遺跡番号 調査年度 図面番号	取土番号	山台位置	層 相	深さ(m)	形 態	手 法	胎 土	成 色	調 査 号	
Pol18 37 45	182	S 1 2 1	高坪	①16.2m ②10.4 ③7.6	内窪する坪部。口縁部は丸くおさまる。両部は狭く、脚部は狭く「ハ」の字状に開く。脚部はほぼ平坦面をなす。	口縁部内外両ココナダ。坪部は外窪ナダ。内窪ココナダ。両部外窪ヘラミダキ。内窪ココナダ。脚部内窪ココナダ。脚部内窪ココナダ。	縦密	良好	内外両面 灰色	YZ-42
Pol19 37 45	182	S 1 2 1	高坪	①15.0 ②12.1 ③8.6	内窪する坪部。口縁部はつまみ出すようにして丸くおさまる。両部はやや大窪で、脚部は「ハ」の字状に開く。両部はつまみ出すようにして丸くおさまる。	口縁部内外両ココナダ。坪部は外窪ナダ。坪部と脚部の両部外窪傾斜面。両部外窪ナダ。内窪ココナダ。脚部内外両ココナダ。	縦密	良好	内外両面 灰色	YY-38
Pol20 37 45	182	S 1 2 1	高坪	①14.4 ②11.5 ③9.2	内窪する坪部。口縁部は丸くおさまる。両部は丸く、脚部は狭く「ハ」の字状に開く。脚部はほぼ平坦面をなす。	口縁部内外両ココナダ。坪部は外窪ナダ。内窪ココナダ。両部外窪ヘラミダキ。内窪ココナダ。脚部内外両ココナダ。	縦密	良好	内外両面 灰色	YZ-47
Pol21 37	193	S 1 2 1	坪	①14.0m ②4.5m	内窪する両部の外郭。口縁部は内窪し、脚部は丸くおさまる。	口縁部内外両ココナダ。坪部は外窪ヘラミダキ。内窪ココナダ。	密、砂を 含む	良好	内外両面 含む	Ku-25
Pol22 37	192	S 1 2 1	高坪	①13.1 ②5.2m	内窪する坪部。口縁部は丸くおさまる。	口縁部外窪ココナダ。坪部は外窪ナダ。内窪ココナダ。脚部は外窪ココナダ。	密	良好	内外両面 灰色 外側は 褐色～灰 褐色	YZ-48
Pol23 37	182	S 1 2 1	高坪	①7.6m ②4.8	太目の脚部から狭く「ハ」の字状に開く脚部。脚部はつまみ出すようにして丸くおさまる。	脚部外窪ヘラミダキ。内窪ココナダ。脚部は外窪ココナダ。脚部は外窪ココナダ。	縦密	良好	内外両面 灰色	YZ-49
Pol24 37	182	S 1 2 1	高坪	①5.8m ②7.8	やや太目の脚部から「ハ」の字状に開く脚部。	脚部外窪ヘラミダキ。内窪ココナダ。脚部は外窪ココナダ。	縦密	良好	内面は褐色 外側は褐色 ～灰褐色	YZ-49
Pol25 37 45	192	S 1 3 1	脚付傾	①12.8m ②7.4	内窪する脚に「ハ」の字状に開く脚付。口縁部は脚部もつまみ出すようにして丸くおさまる。	口縁部内外両ココナダ。脚部は外窪ヘラミダキ。内窪ココナダ。脚部は外窪ココナダ。	密、砂を 含む	良好	内外両面 灰色	TK-3
Pol26 37 45	192 193	S 1 2 1	傾	①12.6 ②5.1	内窪する口縁部。口縁部は中平窪。	口縁部内外両ココナダ。他内外両ココナダ。	密、砂を 含む	良好	内外両面 灰色 外側は 褐色	黒色 KH 7
Pol27 37 45	173 185 192 214	S 1 2 1	傾	①11.8 ②7.3	内窪して立ち上がり、口縁部は外窪へつまみ出すようにして丸くおさまる。	口縁部内外両ココナダ。他内外両ココナダ。	縦密	良好	内外両面 褐色～褐色	YZ-43
Pol28 37	192 193 217	S 1 2 1	傾	①11.8m ②4.7	内窪する脚。口縁部は脚部を上方へつまみ出すようにして丸くおさまる。	口縁部内外両ココナダ。他内外両ココナダ。	縦密	良好	内外両面 灰色	YY-29
Pol29 37	184	S 1 2 1	傾	①30.8m ②2.2m	外窪する口縁部。口縁部はほぼ平坦面をなす。	口縁部内面ナメハク内側外窪ココナダ。内窪ココナダ。	密、砂を 含む	良好	内外両面 褐色	黒色 KH-15
Pol30 37 45	184	S 1 2 1	坪部	①11.8m ②4.5m	ほぼ直立する口縁部。口縁部はつまみ出すようにして丸くおさまる。脚部はほぼ平坦面をなす。口縁部と天井部の境界は鋭角突出する。天井部は丸味を帯びる。	天井部外窪ナメハク内側外窪ココナダ。天井部は外窪ココナダ。天井部は外窪ココナダ。	密、1-2mm の石灰を含む	良好	内外両面 黄褐色	KH-3
Pol31 37 45	182	S 1 2 1	坪部	①11.8m ②4.4m	やや内窪する口縁部。口縁部は内窪に窪をなす。口縁部と天井部の境界は鋭角突出するが鈍い。天井部はやや平窪。	天井部外窪ナメハク内側外窪ココナダ。天井部は外窪ココナダ。	縦密	良好	内外両面 黄褐色	KH-6
Pol32 37 45	193	S 1 2 1	坪部	①11.0m ②3.2m	立ち上がりは内窪し、脚部は上方へつまみ出すようにして内窪に窪をなす。変部はやや上方へびざる。両部はやや平窪。	内外両面傾斜ココナダ。	縦密	良好	内外両面 灰色	KH-8
Pol33 38	185 215	S 1 2 2	壁	①15.8m ②6.2m	外積する縦壁。口縁部は上方へつまみ上げるようにして丸くおさまる。両部はほぼ水平方向に開く。両部はほぼ直線形をなすものと見られる。	口縁部内外両ココナダ。両部は外窪ナメハク内側外窪ココナダ。脚部は外窪ココナダ。	密、砂を 含む	良好	内外両面 褐色	外側 黒色 O-29
Pol34 38	215	S 1 2 2	切取縁部	①16.2m ②8.8m	しっかりとしたテガが突出する切取縁部。両部はほぼ平坦面をなす。	外窪ナメハク。テガ部は外窪ココナダ。内窪ナダ。両部は外窪ココナダ。	密、砂を 含む	良好	内外両面 褐色～灰 褐色	T 5
Pol35 39	185	S 1 2 3	壁	①15.8m ②4.9m	外積する「く」の字状口縁。口縁部は下側へつまみ出すようにして丸くおさまる。	内外両ココナダ。	密、砂を 含む	良好	内外両面 褐色	YZ-68
Pol36 39 45	185	S 1 2 3	壁	①16.2m ②8.8m	外積する「く」の字状口縁。口縁部は下側へつまみ出すようにして丸くおさまる。両部はほぼ平坦面をなす。	口縁部内外両ココナダ。両部は外窪ナメハク内側外窪ココナダ。	密、砂を 含む	良好	内外両面 褐色	KH-10
Pol37 39 45	185 216	S 1 2 3	坪部	①12.6 ②4.6	立ち上がりは内窪し、脚部は上方へつまみ出すようにして丸くおさまる。変部はやや上方へびざる。両部はほぼ平坦面をなす。	両部外窪ナメハク内側外窪ココナダ。両部は外窪ココナダ。	密、1-3 mmの石灰 を含む	良好	内外両面 褐色 外側は 褐色～灰 褐色	KH-4
Pol38 39 45	182 184	S 1 2 3	坪部	①11.2m ②4.1m	立ち上がりは内窪し、脚部はつまみ出すようにして丸くおさまる。変部は上方へびざる。	内外両面傾斜ココナダ。	縦密	良好	内外両面 灰色	S 17
Pol39 39 45	185	S 1 2 3	坪部	①4.9m	立ち上がりは内窪し、変部は上方へびざる。両部はほぼ平坦面をなす。	両部外窪ナメハク内側外窪ココナダ。両部は外窪ココナダ。	縦密	良好	内外両面 灰色	S 16
Pol40 39 45	185	S 1 2 3	壁	①17.2m ②5.8m	外積する口縁部。口縁部は下側に窪をなす。	口縁部内外両面傾斜ココナダ。両部は外窪ナメハク内側外窪ココナダ。	縦密	やや不良	内面は灰色 外側は褐色 ～灰褐色	O-30

挿表10 百塚第5遺跡・土器観察表(6)

遺物番号 検出番号 図記番号	取上番号	出土位置	形 質	材 質	形 態	手 法	胎 土	焼 成 色	内 装 色	備 考
Pol41 40	276	S 1 2 4	高杯	①20.5W ②5.8d	杯部と底部との境界で段をなす。外側は内装し、口縁部はつまみ出すようにしておさめる。	口縁部内面ヨコナデ。杯部内面ナデ。外装黒化のため調色不明。杯部内面に同色の工痕が見える。	泥、磁粉を含む	良好	内外両面 灰褐色	YZ-58
Pol42 40 45	277	S 1 2 4	高杯	①15.0 ②4.4d	杯部と底部との境界で段をなす。杯部は内装して口縁部は外装して、断面をつまみ出すようにしておさめる。	口縁部内面ヨコナデ。杯部外装ナデ。内面丁字ナデナデ。	磁土	良好	内面灰褐色 外面赤褐色	YZ 52
Pol43 40	278	S 1 2 4	高杯	①13.1W ②4.8d	口縁部を内装へつまみ出すようにして丸くおさめる杯部。	内外面ヨコナデ。	泥	良好	内面灰褐色 外面赤褐色	黒鹿有 YZ 56
Pol44 40 46	278	S 1 2 4	高杯	①7.4W ②4.8d	内装する小型の杯部。口縁部は上方へつまみ出すようにしておさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。他内外面無装飾。	磁土	良好	内外両面 褐色	黒鹿有 YZ 55
Pol45 40 45	283	S 1 2 4	杯	①12.3 ②5.9	内装する杯部。口縁部はやや外反し、断面をつまみ出すようにしておさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。杯部外装ヘラケズリ。内面ナデ。底部内面に黒化跡。内装黒化ハンプナ。	泥、磁粉を含む	良好	内外両面 灰褐色	黒鹿有 YZ 53
Pol46 40	276	S 1 2 4	杯	①11.5W ②5.9d	内装する杯。口縁部はほぼ丸くおさめる。	黒化のため調色不明。	やや粗、磁粉を含む	良好	内外両面 褐色	黒鹿有 YZ-57
Pol47 45 45	297	S 1 2 5	杯	①11.2W ②4.3d	立ち上がりは内装し、底部は内面に段をなす。受部はやや上方へのびる。全体は平気味と想われる。	底面下部1/3部斜切りヘラケズリ。他内外面無装飾ヨコナデ。	磁土	良好	内外両面 青灰色	Ku-34
Pol48 45 46	307	S 1 2 6	杯	①15.2W ②4.5d	内装する杯。口縁部は断面をつまみ出すようにしておさめる。	内面ヘラミギキ。外装黒化のため調色不明。	泥、磁粉を含む	良好	内面灰褐色 外面灰褐色	i-26
Pol49 45 46	263	S 1 2 7	盃	①22.2W ②4.6h	外反する「く」の字状口縁。口縁部はつまみ出すようにして丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	やや粗、磁粉を含む	良好	内面灰褐色 外面赤褐色	i 24
Pol50 45 46	263	S 1 2 7	盃	①22.0W ②4.6h	外反する「く」の字状口縁。口縁部は丸くおさめる。	断面内面ナメハク後口縁部内外面ヨコナデ。断面内面ヘラケズリ。	やや粗、磁粉を含む	良好	内外両面 褐色	T-1
Pol51 45 46	265	S 1 2 8	盃	①19.0W ②3.5d	外反する「く」の字状口縁。口縁部は外側へ折り返すようにして丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	泥、磁粉を含む	良好	内外両面 灰褐色	KH-12
Pol52 45 46	265	S 1 2 8	高杯	①17.0W ②6.6d	浅目の杯部。口縁部はつまみ出すようにして丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。杯部外装ナデ。内面丁字ナデ。	泥、磁粉を含む	良好	内外両面 褐色	YZ-50
Pol53 45	319	S 1 2 8	胴部	①9.7W ②9.7d	「ハ」の字状に開く胴部。胴部は丸くおさめる。	断面内面ヘラミギキ。他内外面ヨコナデ。	磁土	良好	内外両面 褐色	Ku-35
Pol54 45	355	S 1 2 8	胴部	①3.1d ②19.6W	「ハ」の字状に開く胴部。断面は内側へ折り返すようにして丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	泥、磁粉を含む	良好	内外両面 褐色	KH-11
Pol55 45 46	255	S 1 2 9	盃	①39.0W ②4.4d	外装する黒化した複合口縁。口縁部ははやや平気味な面をなす。受部はほぼ丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	泥、1mm程度の石灰を含む	良好	内面黒褐色 外側灰褐色	YY-34
Pol56 46 46	274 293	S 1 3 0	盃	①25.0W ②39.0d	外反する「く」の字状口縁。口縁部は丸くおさめる。胴部はやや前方に長く開張部をなす。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外装ナデ。ナメハク。内面ヘラケズリ。	泥、磁粉を含む	良好	内外両面 褐色一灰 灰褐色	外装、スズ付 O 22
Pol57 46 46	274	S 1 3 0	盃	①34.2W ②6.3d	外反する「く」の字状口縁。口縁部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	やや粗、磁粉を含む	良好	内外両面 灰褐色	YZ-64
Pol58 46 46	352 274 276	S 1 3 0	盃	①16.8 ②31.3d ③21.1	やや外反する「く」の字状口縁。口縁部は丸くおさめる。胴部はほぼ球形をなす。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外装上ナメハク。下半ナデ。内面ヘラケズリ。断面内装。	泥、磁粉を含む	良好	内外両面 灰褐色	外装スズ付 O 27
Pol59 46 45	268	S 1 3 0	瓶	①23.0W ②7.8d	やや外反する口縁部。口縁部は丸くおさめる。	口縁部内外面ヨコナデ。口縁部以下ナメハク。内面ヘラケズリ。	泥、磁粉を含む	良好	内面赤褐色 外面灰褐色	外装スズ付 YY-32
Pol60 46 45	141 268	S 1 3 0	盃	②7.5d	ほぼ球形をなす胴部。内形の透かしを入れる。	外装黒大胴部部カキキ。他内外面無装飾ヨコナデ。	磁土	良好	内面灰褐色 外面赤褐色	Ku-18
Pol61 46 46	269	S 1 3 1	盃	①13.8W ②3.3d	内装する浅目の盃。口縁部は断面をつまみ出すようにして丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	泥、磁粉を含む	良好	内外両面 灰褐色	i-22
Pol62 46 46	269	S 1 3 1	盃	①19.1W ②3.4d	外反する「く」の字状口縁。口縁部は断面をつまみ出すようにして丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	泥、磁粉を含む	良好	内外両面 褐色	i-21
Pol63 50 46	291	S 1 3 2 P 1 0	小丸丸蓋	①8.2W ②6.2d	外反する「く」の字状口縁。口縁部は丸くおさめる。胴部は横方向に長く開張部をなす。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外装ナデ。	泥、磁粉を含む	良好	内外両面 灰褐色	黒鹿有 i-23
Pol64 50 46	288	S 1 3 2 P 1 0	盃	①13.2W ②6.0	内装する浅目の盃。口縁部は丸くおさめる。	口縁部内面ヨコナデ。杯部内面ヘラミギキ。外装黒化のため調色不明。	磁土	良好	内外両面 褐色	YY-37
Pol65 50	322	S 1 3 2	盃	①13.0W ②3.1d	内装する杯。口縁部は丸くおさめる。やや平気味。	口縁部内外面ヨコナデ。他内外面無装飾。	泥、磁粉を含む	良好	内外両面 褐色	YZ-54
Pol66 52 45	284	S 1 3 3	杯	①12.0 ②5.0	内装する口縁部。口縁部は丸くおさめる。内面に洗擦痕がある。口縁部と天井部の境界には、2条の凹線により作られた段が通る。天井部は丸味を帯びる。	天井部断面へラ切り洗擦痕。天井部内面ナデ。外装ヘラケズリ後口縁部まで内外面無装飾ヨコナデ。	磁土	良好	内外両面 灰褐色	i-25

挿表11 百塚第5遺跡・土器観察表(7)

遺跡番号 調査年度 国登録番号	取手番号	出土位置	器種	径長(cm)	形 態	手 法	胎 土	顔 色	備 考
Pa167 52 46	284	S 1 3 3	坏倉	①12.1 ②8.8	立ち上がりは内側し、溝部は丸くおさまる。底部は水平方向にのびる。底部は丸くおさまる。	器底部内面下半1/3部斜計回りのヘラケスリ。器内内面ナシ。器内外面回転コナダ。	密、砂粒を含む	良好	内外面淡灰色 O-33
Pa169 22	284	S 1 3 3	坏倉	①11.8 ②9.6	立ち上がりは内側し、溝部はつまみ出すようにしておさまる。底部はほぼ水平方向にのびる。	内外面回転コナダ。	疎密	良好	内面淡青灰色 外面淡青灰色～灰茶褐色 YY-36
Pa169 52 47	284	S 1 3 3	青蓋高坏	④4.2	取手をなす浅目の坏部。立ち上がりは内側すると思われ。取手は上へつみ出すようにしておさまる。	坏蓋部内面ナシ。他内外面回転コナダ。	密、砂粒を含む	やや不良	内外面淡白色 S-4
Pa170 52 47	284	S 1 3 3	高坏	①12.3	2条の凹線の下に方形の透かしを入れた高坏。	上部内面旋り。内外面回転コナダ。	密、砂粒を含む	やや不良	内外面淡白色 S-5
Pa171 32 47	284	S 1 3 3	脚部	①2.6 ②16.0	「ハ」の字状に低く開く脚部。底部は上方へ拡張される。	内外面回転コナダ。	密、砂粒を含む	やや不良	内外面淡白色 S-2
Pa172 52 47	284	S 1 3 3	蓋	①3.4 ②2.3	外縁する口縁部。口縁部はつまみ出すようにしておさまる。	内外面回転コナダ兼外面ナキ目。	密、砂粒を含む	良好	内外面淡白色 S-1
Pa173 52 47	303	S 1 3 3	腰板	②6.8	取手を把手を缺けける。	内外面回転コナダ兼後縁部ナキ目。	疎密	良好	内外面淡灰色 S-3
Pa174 53 47	285	S 1 3 4	蓋	①37.6 ②4.3	外縁する退化した複合口縁。口縁部は外側へつまみ出すようにしておさまる。	内外面コナダ。	密、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色 YY-35
Pa175 56 47	341	S 1 3 5	蓋	①14.4 ②6.5	やや内面凹部に外縁する退化した複合口縁。口縁部はつまみ出すようにしておさまる。凹線部の線は無い。	風化のため調整不明。	密、1～2mmの石莖を含む	良好	内外面淡褐色 I-30
Pa175 56 47	344	S 1 3 5	碗	①19.8 ②5.5	手縁部をなす後。口縁部はつまみ出すようにしておさまる。底部は平型。	風化のため調整不明。	密、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色～灰褐色 Ku-39
Pa177 57 47	346	S 1 3 6	碗	①21.6 ②9.6	外縁する「く」の字状口縁。口縁部はつまみ出すようにしておさまる。	器内内面ヘラケスリが見られるが全体に風化のため調整不明。	密、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色 I-28
Pa178 57	346	S 1 3 6	蓋	①20.4 ②6.4	外縁する「く」の字状口縁。口縁部は外側へつまみ出すようにしておさまる。上部部や凹線部をなす。厚縁は認めない。	外面コナダ。内面風化のため調整不明。	密、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色 KH-16
Pa179 37 47	347	S 1 3 6	蓋	①19.4 ②5.4	外縁する「く」の字状口縁。口縁部は丸くおさまる。	内外面コナダ。	密、細砂を含む	良好	内外面淡褐色 O-26
Pa180 57	346	S 1 3 6	碗	①15.8 ②4.2	外縁する「く」の字状口縁。口縁部は丸くおさまる。	口縁部内外面コナダ。器内内面ヘラケスリ後ナシ。	密、砂粒を含む	良好	内外面淡茶褐色 KH-15
Pa181 60 47	348	S 1 3 7	蓋	①17.2 ②4.7	外縁する退化した複合口縁。口縁部は外側へつまみ出すようにしておさまる。凹線部は認めない。厚縁は無い。	風化のため調整不明。	密、細砂を含む	良好	内外面淡褐色 I-29
Pa182 60 47	348	S 1 3 7	碗	①17.0 ②3.5	外縁する「く」の字状口縁。口縁部は丸くおさまる。	内外面コナダ。	密、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色 O-35
Pa182 60 47	359	S 1 3 7	脚部	①8.6 ②9.0	「ハ」の字状に開く脚部。脚部は上方へつまみ出すようにしておさまる。外側上面は凹線状に出る。透かしを入る。	内外面回転コナダ。	疎密	良好	内外面青灰色 O-38
Pa184 61 47	353	S 1 3 8	蓋	①17.0 ②2.2	外縁する退化した複合口縁。口縁部は平型な蓋をなす。凹線部の線は無い。	口縁部内外面コナダ。器内内面回転コナダ。内面ヘラケスリ。	密、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色～灰褐色 YZ-46
Pa185 61 47	353	S 1 3 8	蓋	①16.2 ②14.5	ほぼ直立する退化した複合口縁。口縁部は丸くおさまる。器底部の線はその上部を強くナゲることにより突出するが強い。器底部は無い。	口縁部内外面コナダ。器内内面回転コナダメハケ。内面ヘラケスリ。	密、砂粒を含む	良好	内面淡褐色 外面淡褐色～灰茶褐色 YZ-43
Pa186 61 47	353	S 1 3 8	碗	①13.0 ②4.4	平型な器底部から、内面凹部に外上方へ開く。口縁部はつまみ出すようにしておさまる。	風化のため調整不明。	密	良好	内外面淡褐色～灰茶褐色 O-44
Pa187 65 47	454	S 1 4 0	碗	①15.4 ②9.8	外縁する退化した複合口縁。口縁部は外側へつまみ出すようにしておさまる。凹線部は無い。厚縁部は無い。	風化のため調整不明。	密、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色 外側縁付筒 YY-55
Pa188 65 47	477	S 1 4 0	高坏	②6.8 ③9.4	「ハ」の字状に低く開く脚部。底部は丸くおさまる。	器内内面ヘラケスリ後ナシ。他風化のため調整不明。	疎密	良好	内外面淡褐色 YY-56
Pa189 65	458	S 1 4 0	脚部	①5.0 ②6.0	「ハ」の字状に開く脚部。	器部外面ヘラミダキ。内面旋り。器内内面ナシ。	疎密	良好	内外面淡褐色 YY-59
Pa190 65	460	S 1 4 0	脚部	①5.8 ②8.0	「ハ」の字状に開く脚部。底部は丸くおさまる。	風化のため調整不明。	密	良好	内外面淡褐色 YY-57
Pa191 65 47	456	S 1 4 0	坏蓋	①23.0 ②4.7	やや内側する1脚部。口縁部は丸くおさまる。口縁部と天井部の境界は線が小さく突出する。天井部は平型。	天井部外周上半1/3部斜計回りのヘラケスリ。天井部内面回転コナダ。他内外面回転コナダ。	疎密	良好	内外面淡白色 外面淡白色～灰白色 YY-52

挿表12 百塚第5遺跡・土器観察表(8)

施設番号 詳細番号 施設番号	取上番号	出土位置	器種	法量(cm)	形 態	手 法	胎 土	焼 成	色 調 質	備 考
Pa192 67 47	462	S 1 4 0	高杯	①16.9cm ②4.1cm	杯部は内折し、口縁部は外反して 縁部をつまみ出すようにして つくおさめる。杯部内面に2本の 凸帯が施す。その下部に線状文 を施す。	内外面回転コナテ。	磁器	良好	内面黒灰 色 外面赤色	YZ-50
Pa193 67 47	359	S 1 4 1	壺	①19.2cm ②7.9cm	外積する「く」の字状口縁。口 縁部は丸くおさめる。	杯部内面ヘラケズリ。他腐化の ため調査不明。	やや粗、砂 粒を含む	良好	内外面淡 褐色～灰 褐色	YZ-47
Pa194 67 48	358	S 1 4 2	壺	①18.1cm ②4.5cm	外積する退化した複合口縁。口 縁部は丸くおさめる。唇部は 直曲の線は鈍い。	口縁部内外面コナテ。肩面外 面ヘラケズリ。内面ヘラケズリ。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	黒帯有 O-42
Pa195 67	358	S 1 4 2	壺	①14.6cm ②11.2cm	外積する「く」の字状口縁。口 縁部は丸くおさめる。唇部は ほぼ球形をなすと認められる。	口縁部内面コナテ。杯部内面 ヘラケズリ。肩部焼成不均。外 面腐化のため調査不明。	密、1～2 mmの石英 を含む	良好	内外面淡 褐色～灰 褐色	O-45
Pa196 67 48	357 358	S 1 4 2	高杯	①15.0cm ②5.5cm	内面する杯部、口縁部は直立し、 唇部はつまみ出すようにして丸 くおさめる。	口縁部内面コナテ。他腐化の ため調査不明。	磁器	良好	内外面淡 褐色	黒帯有 O-43
Pa197 67 48	424	S 1 4 2	杯身	①11.2cm ②3.7cm	立ち上がりは外反気味に内折し、 唇部は上方へつまみ出すように しておさめる。変部はやや上方 へのびる。	内外面回転コナテ。	磁器	良好	内外面淡 青灰色	YY-42
Pa198 67 48	357	S 1 4 1 ・ 4 2	杯身	①13.8cm ②4.1cm	内折する口縁部。口縁部は内 面に鋭い稜をなす。唇部と天 井部の境目は鋭く突出する。	内外面回転コナテ。	磁器	良好	内外面淡 褐色	S-19
Pa199 67 48	357	S 1 4 1 ・ 4 2	杯身	①11.9cm ②4.0cm	内折して直立する口縁部。口縁 部は内面にわずかに稜をなす。 口縁部と天井部の境目は鋭く 突出する。	天井部上半1/3部斜行のヘラ ケズリ。他内外面回転コナテ。	磁器	良好	内外面淡 青灰色	O-39
Pa200 67 48	357	S 1 4 1 ・ 4 2	杯身	①11.0cm ②3.5cm	立ち上がりは外反気味に内折し、 唇部は上方へつまみ出すように しておさめる。変部はほぼ水 平方向へのびる。	内外面回転コナテ。	磁器	良好	内外面淡 青灰色	O-41
Pa201 67 48	357	S 1 4 1 ・ 4 2	杯身	①19.8cm ②3.3cm	立ち上がりは内折し、唇部は内 面にかなり鋭い稜をなす。変部 はやや上方へのびる。	内外面回転コナテ。	磁器	良好	内外面淡 青灰色	自然剥付電 S-18
Pa202 67 48	357	S 1 4 1 ・ 4 2	高杯	①14.3cm ②4.2cm	杯部は内折し、口縁部は外反し て縁部をつまみ出すようにして つくおさめる。杯部外 面に線が施す。その下部に線状文 を施す。	内外面回転コナテ。	密	やや不良	内外面内 白色	O 40
Pa203 67 48	337	S 1 4 1 ・ 4 2	施	②3.1cm	短み目と線状文を施す銅箔片。 円形の透かしを入れる。	内外面回転コナテ。	磁器	良好	内外面淡 青灰色	S-20
Pa204 70 48	414	S 1 4 3	脚台部	②3.5cm ②12.4cm	「ハ」の字状に開く脚台部。	腐化のため調査不明。	やや粗	良好	内外面淡 褐色～灰 褐色	YY-44
Pa205 70 48	416	S 1 4 5	脚部	②8.8cm	「ハ」の字状に開く太目の脚部 部。脚部はつまみ出すように してつくおさめる。	内面平。外面腐化のため調査 不明。	密	良好	内外面淡 褐色	YY 43
Pa206 70 48	416	S 1 4 5	杯身	①13.0cm ②5.1cm	直立する口縁部。口縁部は内 面に鋭い稜をなす。唇部と天井 部の境目は鋭く小さく突出する。	内外面回転コナテ。	磁器	良好	内外面淡 青灰色	YY-40
Pa207 74 48	436	S 1 4 7	高台付杯	②4.5cm ②8.6cm	「ハ」の字状に開く高台部。	杯部内外面平。杯部外面およ び高台内外面回転コナテ。意 図的に磨り落テテ。	磁器	良好	内外面淡 青灰色	YY-39
Pa208 76 48	435	S 1 4 8	脚部	②4.5cm ②10.4cm	「ハ」の字状に開く太目の脚部 部。脚部はつまみ出すように しておさめる。	杯部内面ヘラケズリ後ナゲ。他 腐化のため調査不明。	密	良好	内外面淡 褐色	YY-41
Pa209 76 48	435	S 1 4 8	実	①32.0cm ②7.0cm	頸部は外積し、口縁部は強く外 反して、唇部は上下にやや広 げられ、杯部外縁部の急激な区 違された中に線状文を施す。	内外面回転コナテ。	磁器	良好	内外面淡 青灰色	自然剥付電 YY-46
Pa210 76 48	443	S 1 4 8	実	②56.8cm ②48.2cm	短形をなす脚部。	杯部内外面回転コナテ。脚部 外縁平リタテ。内面同心文。	磁器	良好	内外面淡 褐色 外縁灰色 ～青灰色	Ka-55
Pa211 76 48	435	S 1 4 8	施	①8.8cm ②2.3cm	外反する唇部から鋭く立ち上 る口縁部。口縁部は内面に 鋭い稜をなす。唇部部に線が 施す。その下部に線状文を施す。	内外面回転コナテ。	磁器	良好	内外面淡 青灰色	O 62
Pa212 79 48	408	S 1 5 0	杯身	①10.0cm ②5.4cm	立ち上がりはほぼ直立し、唇部 は内面に鋭い稜をなす。変部は上 方へのびる。唇部は丸味を帯びる。	変部部外下1/3部斜行の ヘラケズリ。他内外面コナ テ。	磁器	良好	内外面淡 青灰色 淡褐色～灰 褐色	O-58
Pa213 80 48	415	S 1 5 1	高杯	②9.3cm ②9.2cm	内面して外上方へのびる杯部部。 唇部は鋭く「ハ」の字状に開く。	杯部部外下1/3部ヘラケズリ。 杯部内面平。肩部内面 鋭り。肩部内面平。	磁器	良好	内外面淡 褐色	O 55
Pa214 80	415	S 1 5 1	脚部	②4.8cm ②9.2cm	やや上目の脚部から鋭く「ハ」 の字状に開く脚部。	腐化のため調査不明。	磁器	良好	内外面淡 褐色～灰 褐色	O 54
Pa215 83 48	427	S 1 5 4	実	①15.8cm ②7.9cm	外積する退化した複合口縁。口 縁部は丸くおさめる。唇部部 の線は鈍い。	口縁部内外面コナテ。肩面内 面ヘラケズリ。	密、1～2 mmの石英 を含む	良好	内外面淡 褐色	Ka 49

挿表13 百塚第5遺跡・土器観察表(9)

遺物番号 調査番号	取上番号	出土位置	器 種	数量 (cm)	形 態	手 法	胎 土	焼 成 色 調	備 考	
Pa-216 83 48	427	S 1 5 4	甕	①18.7 ②9.3	外反する「C」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部内外面ココナダ。肩部外面テラクスラ。内面ヘラクスラ。	密、砂粒を含む	良好	内面灰褐色 外面黒褐色	Ku-48
Pa-217 83 48	426	S 1 5 4	甕	②7.8	肩部の腹がやや下座する突部と腹口の突部。	風化のため観察不明。	密、1-3mmの石炭を含む	良好	内外面淡褐色	内外面赤褐色彩彩有
Pa-218 83 48	426	S 1 5 4	甕	①14.2 ②3.7 ③19.8	やや太目の管部から低く「ハ」の字状に開く頸部。口縁端部は丸くおさめる。	管部内面に較り見られるが、全体に風化のため観察不明。	密、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色～灰褐色	Ku-47
Pa-219 83 48	425 427	S 1 5 4	甕	①17.4 ②4.1 ③19.8	内筒する管部。口縁部は直立し、頸部はつまみ出すようにしておく。	内外面陶製ココナダ。	密、細砂を含む	良好	内外面淡褐色	Ku-41
Pa-220 83 48	427	S 1 5 4	甕	①14.0 ②3.7 ③19.8	内筒する管部。口縁部は直立し、頸部は外面へつまみ出すようにしておく。	肩部内面ナダ。管部内外面陶製ココナダ。底面陶製赤切り。	密、砂粒を含む	良好	内面灰褐色 外面灰褐色	Ku 40
Pa-221 83 48	427	S 1 5 4	甕	①13.6 ②5.5 ③9.8	下座から一箇外筒して立ち上がり、内筒しながらのびる管部。口縁部は直立する。口縁端部は丸くおさめる。	肩部内外面ナダ。他内外面陶製ココナダ。	密	良好	内外面淡褐色	Ku 43
Pa-222 83 48	425	S 1 5 4	甕	①12.9 ②3.5 ③9.4	外筒する管部。口縁端部は丸くおさめる。	肩部内外面ナダ。管部内外面陶製ココナダ。	密、細砂を含む	良好	内外面淡褐色	Ku-45
Pa-223 83	425	S 1 5 4	甕	①12.0 ②3.5 ③7.9	内筒する管部。口縁部は直立し、頸部は外面へつまみ出すようにしておく。	肩部内面ナダ。管部内外面陶製ココナダ。	密、細砂を含む	良好	内面淡褐色 外面灰褐色	Ku 44
Pa-224 83 48	425	S 1 5 4	甕	②12.1	外面に「N」印のヘタ型が入る意匠。	外面ヘラクスラ。内面ナダ。	密	良好	内外面淡褐色	Ku 50
Pa-225 83 49	317	S 1 5 4	高台付甕	②2.4 ③8.9	「ハ」の字状に開く短い高台の付く甕。	外面および高台内外面陶製ココナダ。管部内面ナダ。外面陶製赤切り。	密	良好	内面淡褐色 外面淡褐色	Ku-46
Pa-226 87 49	429	S 1 5 6	甕	①29.6 ②4.6	外反する「C」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	風化のため観察不明。	密、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	YY-47
Pa-227 87 49	429	S 1 5 6	手摺ね土甕	①4.9 ②2.5	浅い筒状をなす。	内外面ナダ。底面7度。	やや粗、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	O-61
Pa-228 87 49	429	S 1 5 6	鉄形支脚	①16.35	太柱でしっかりした脚部。底面は平坦。	ナダ。	密、砂粒を含む	良好	外面淡褐色	YZ-48
Pa-229 87 49	429	S 1 5 6	環蓋	①12.6 ②4.6	ほぼ直立する口縁部。口縁端部は丸くおさめる。口縁部と支脚部との境厚は不明瞭。天井部は平坦。	天井部陶製外面へ切り付ナダ。内面ナダ。他内外面陶製ココナダ。	密	良好	内外面淡褐色	Ku-42
Pa-30 87 49	444	S 1 5 6	甕	②8.2 ③10.4	「ハ」の字状に開く筒部。頸部は直立し、下方へやや広張する。口縁部で厚しな口字の切り込みを2箇所に入れる。	管部内面ナダ。他内外面陶製ココナダ。	密	良好	内面淡褐色 外面淡褐色 外面灰褐色～灰褐色	Ku-52
Pa-31 87 49	429	S 1 5 6	高坪	②8.3	三角形の蓋をかまそ形に入れ、その下部に浅縁が通る。	内面内面ナダ。他内外面陶製ココナダ。	密	良好	内外面淡褐色～灰褐色	YY-51
Pa-32 90 49	363-369	S 1 5 9	甕	①24.6 ②5.6	外反する「C」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	1) 肩部内外面ココナダ。管部内面ヘラクスラ。	密、細砂を含む	良好	内外面淡褐色	S-10
Pa-33 90 49	363	S 1 5 9	手摺ね土甕	①4.8 ②3.5	口縁部が袋状となる手摺ね土甕。	内外面ナダ。	密	良好	内外面淡褐色～灰褐色	S-7
Pa-34 90 49	379	S 1 5 9	甕	①18.1 ②2.7	「ハ」の字状に開く筒部。口縁端部は丸くおさめる。内筒のかまそ形口縁部より下方へわずかに突出する。筒部は縁状のつまみが付く。	天井部外面上平1/4造形計器のヘラクスラ。天井部内面ナダ。他内外面陶製ココナダ。	密	良好	内外面淡褐色	S 6
Pa-35 90	363	S 1 5 9	甕	②20.1	胴部片。	外部略字タタキ。内面陶製赤文。	密	良好	内面淡褐色 外面淡褐色～灰褐色	YZ-74
Pa-36 91 49	369	S 1 6 0	甕	①23.2 ②4.7	外反する「C」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	風化のため観察不明。	密、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	YZ-73
Pa-37 91 49	369 370	S 1 6 0	甕	①20.2 ②5.6	外反する「C」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。	口縁部内外面ココナダ。肩部内面ヘラクスラ。	密、細砂を含む	良好	内外面淡褐色	S-14
Pa-328 91 49	364	S 1 6 0	環蓋	①15.0 ②3.7	外反する口縁部。口縁端部はつまみ出すようにしておく。	内外面陶製ココナダ。	密	良好	内面淡褐色 外面淡褐色～灰褐色	S-15
Pa-329 92 49	419	S 1 6 1 - 6 2	甕	①15.8 ②5.6	ほぼ直立する筒状口縁。口縁端部はほぼ直立をなす。頸部の腹は丸く突出する。	口縁部内外面ココナダ。管部内面ヘラクスラ。	やや粗、砂粒を含む	良好	内面淡褐色 外面淡褐色 外面灰褐色	O-48
Pa-240 92 49	422	S 1 6 1 - 6 2	甕	①16.2 ②5.6	短く外反する「C」の字状口縁。口縁端部は丸くおさめる。肩部は平坦。	口縁部内外面ココナダ。肩部内面ヘラクスラ。	密、1-3mmの石炭を含む	良好	内外面淡褐色～灰褐色	O 46

挿表14 百塚第5遺跡・土器観察表(10)

遺物番号 附録番号 図録番号	R.L.番号	出土位置	器 種	数量 (個)	形 態	手 法	胎 土	焼 成 色	調 査 備 考	
Pa241 92 49	417	S I 6 1 ・ 6 2	土鍋	①106.8# ②13.4	内筒分岐の口縁部、口縁部は やや平坦な面をなす。肩部は整 らず、そのままやや平坦な面 へつがる。	口縁部内外面コナデ。肩部外 面不定方向ハナメ。内面リコハ テ。	赤、磁粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	肩面スズ付 含む YY-52
Pa242 92 49	419	S I 6 1 ・ 6 2	坏身	①12.1# ②9.3	立ち上がりは内傾し、肩部はつ まみ出すようにしておける。 変部はやや上方向へびる。	内外面凹面コナデ。	赤、磁粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	O-51
Pa243 92 49	419	S I 6 1 ・ 6 2	坏身	①10.6# ②9.1	立ち上がりは内傾し、肩部はつ まみ出すようにしておける。 変部は水平方向にのびる。	肩部外下側1/3部時計回り のヘラケズリ。他内外面凹面 コナデ。	赤	良好	内面淡褐 色 外表面淡 褐色～淡 青色	O-50
Pa244 128 49	332	S K 3 0	壺	①13.0# ②4.3	外反する「く」の字状口縁。口 縁縁部は丸くおきめる。	真化のため調査不明	赤、1-2mm の石英を含む	良好	内外面淡 褐色	O-37
Pa245 129 49	500	S K 6 1	坏壺	①13.8# ②4.7	やや内筒する口縁部。口縁部は 丸くおきめる。口縁部と天井 部の境界は不明瞭。	天井部外面上平1/3部時計回り のヘラケズリ。肩部外面へつ切り コナデ。内面コナデ。他内外面 粗面コナデ。	赤黄	良好	内外面淡 褐色	YY-53
Pa246 166 49	139	S X 0 1	皿	①8.4# ②1.5 ③0.1	平底から外上方へびる。口縁 縁部は丸くおきめる。	真化のため調査不明。	赤	良好	内外面淡 褐色	YY-19
Pa247 166 49	149	S X 0 1	煎餅	②1.8	平底。	内面コナデ。底部即縁部切り。	赤、磁粒を 含む	良好	内外面淡 褐色 外表面淡 褐色～淡 青色	YY-21
Pa248 166 49	336	S X 0 2	把手	②10.4	枕縁とR.L.の織文を施す把手。 把手下部に内面のみを入れ、そ こを底点として、内外面びる の字を管線するように露骨を貼 付ける。	内外面コナデ。	赤、磁粒を 含む	良好	内外面淡 褐色 黒褐色 H-1	
Pa249 168 49	164	S X 0 2	蓋	②13.3	輪状のつまみがつく蓋。	肩部内面コナデ。他内外面粗面 コナデ。	赤、磁粒を 含む	良好	内面淡茶 灰色 外表面淡 褐色～淡 青色	kw-38
Pa250 168 49	170 333	S X 0 2	土鍋	①35.2# ②4.5	外方へ折れ曲がる頸部から、内 筒先端に外筒する口縁部。口縁 縁部は上部が平坦な面をなす。	内面内面コナテ。他内外面 コナテ。	赤、1-5mm の石英を含む	良好	内外面淡 褐色	外表面スズ 付 含む Ks-37
Pa251 169 49	367	S X 0 3	蓋	②10.4	輪状のつまみが付く蓋。	外面時計回りのヘラケズリ。 内面コナテ。	赤、磁粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	S-9
Pa252 169 49	366	S X 0 3	底部	②10.6	「X」印のヘラ記号がある底部。	外面時計回りのヘラケズリ。 内面コナテ。	赤、磁粒を 含む	良好	内面淡青 色 外表面淡 褐色～淡 青色	S-8
Pa253 171 50	361 366	S X 0 4	蓋	①36.6# ②8.9	外反する「く」の字状口縁。口 縁縁部は外面へ折り返すように して丸くおきめる。肩部は整ら ない。	口縁部内外面コナテ。肩部外 面コナテ。内面ヘラケズリ。	赤、磁粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	S-13
Pa254 171 50	361 368	S X 0 4	高杯	①16.0# ②4.7	狭い輪状の頸部。口縁部はつ まみ出すようにしておきめる。	真化のため調査不明	やや赤、磁 粒を含む	良好	内外面淡 褐色	S-12
Pa255 171	361	S X 0 4	把手		瓶の把手。	コナテ。	赤、磁粒を 含む	良好	外表面淡 褐色 ～淡褐色	S-11
Pa256 174 50	364	S D 0 1	壺	①25.0# ②6.3	外筒する逆化した筒合口縁。口 縁縁部は外面へ折り返すように しておきめる。器底の縁は鈍 く、ほとんど突出しない。	口縁部内外面コナテ。肩部内 面ヘラケズリ。	赤、1-2mm の石英を含む	良好	内外面淡 褐色	I-36
Pa257 174 50	388	S D 0 1	壺	①27.4# ②7.9	外反する「く」の字状口縁。口 縁縁部は丸くおきめる。	口縁部内外面コナテ。肩部内 面ヘラケズリ。	赤、磁粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	YZ-40
Pa258 174	385	S D 0 1	壺	①23.6# ②4.1	外反する「く」の字状口縁。口 縁縁部は丸くおきめる。	内外面コナテ。	赤、磁粒を 含む	良好	内面淡褐 色 外表面淡 褐色 ～淡青色	I-34
Pa259 174 50	434	S D 0 1	壺	①23.2# ②4.9	外反する「く」の字状口縁。口 縁縁部は丸くおきめる。	口縁部内外面コナテ。肩部内 面ヘラケズリ。	赤、磁粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	O-36
Pa260 174	385	S D 0 1	壺	①21.6# ②4.2	外反する口縁部。口縁部はつ まみ出すようにして丸くおき める。	内外面コナテ。	赤、磁粒を 含む	良好	内面淡褐 色 外表面淡 褐色	I-35
Pa261 174 50	434	S D 0 1	壺	①26.6# ②5.6	やや外反する「く」の字状口縁。 口縁縁部は丸くおきめる。	口縁部内外面コナテ。肩部内 面ヘラケズリ。	赤、磁粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	黒褐色 O-57
Pa262 174 50	388	S D 0 1	壺	①19.2# ②5.1	外筒する「く」の字状口縁。口 縁縁部は丸くおきめる。肩部は 整らない。	真化のため調査不明。	赤、磁粒を 含む	良好	内面淡青 褐色 外表面淡 褐色～淡 青色	黒褐色 YZ-45
Pa263 174	385	S D 0 1	壺	①13.2# ②3.4	外筒する「く」の字状口縁。口 縁縁部は上方へ折れ曲がったつ まみ出すようにしておきめる。	口縁部内外面コナテ。肩部外 面粗面注。肩部内面ヘラケズ リ。	やや赤、磁 粒を含む	良好	内外面淡 褐色	YZ 47

挿表15 百塚第5遺跡・土器観察表(1)

遺物番号 調査番号	取上番号	出土位置	品 種	流量 (cm)	形 態	手 法	胎 土	施 成 色 調	備 考
Po264 174	386	S D 0 1	要	②5.5.△	胴部片。	炭化のため腐蝕不明。	やや粗、砂粒を含む	内面灰褐色 外面淡褐色～灰褐色	YZ-36
Po266 174 50	385	S D 0 1	杯	①10.0W ②3.5△	狭い腕状の杯。口縁部は丸くおさまる。	内外面ヨコナデ。	滑、細粒を良好	内面赤色 外面赤色	YZ-31
Po266 174 50	384	S D 0 1	杯	①18.8W ②4.7△	内湾する杯部。口縁部はつまみ出すように丸くおさまる。	内外面ヨコナデ。	滑、細粒を良好	内外面赤褐色	YZ-34
Po267 174	368	S D 0 1	胴部	②2.8△ ②7.8W	「ハ」の字状に広く開く胴部。胴端部はつまみ出すようにして丸くおさまる。	胴部内面ヘラクスリ後全体をヨコナデ。	やや粗、砂粒を含む	内面暗灰褐色 外面赤褐色	YZ-42
Po268 174 50	431	S D 0 1	線形支脚	②5.7	ミニチュアの線形支脚。	ナデ、指環匠焼。	滑、砂粒を良好	内外面淡褐色	YZ-91
Po269 174 50	366	S D 0 1	手摺り土器	①5.9 ②5.5 ③3.2	コップ型。	内外面ナデ、指環匠焼。	滑、砂粒を良好	内外面淡褐色	泉延古 YZ-43
Po270 174 50	433 434	S D 0 1	杯蓋	①12.4W ②3.9	ほぼ直立する1唇部。口縁部はつまみ出すようにして丸くおさまる。口縁部と天井部の境界は不明瞭。天井部は丸座を帯びる。	天井部内面ヘラ切り後ナデ。つまみ出すようにして丸くおさまる。他内外面ヨコナデ。	滑焼	内外面淡青灰色	YZ-48
Po271 174 50	385	S D 0 1	杯蓋	①11.0 ②4.0	内湾する口縁部。口縁部は丸くおさまる。天井部はほぼ平坦。	天井部外面ヘラ切り後ナデ。内面ナデ。他内外面ヨコナデ。	滑焼	内外面淡灰褐色	YZ-28
Po272 174 50	386	S D 0 1	杯身	①10.0 ②3.4	立ち上がりは内湾し、胴部はつまみ出すようにして丸くおさまる。受部は上方へのびる。底部は丸みを帯びるが、ほぼ平坦。	底面ヘラ切り後全体調整。裏面内面ナデ。他内外面ヨコナデ。	滑焼	内面淡青褐色 外面淡褐色	YZ-27
Po273 174 50	384	S D 0 1	杯身	①9.8W ②4.3	立ち上がりは内湾し、胴部は丸くおさまる。受部はほぼ水平方向へのびる。底部は平坦。	底面内面ナデ。外面ヘラ切り後ナデ。他内外面ヨコナデ。	滑焼	内外面淡青灰色	I-31
Po274 174	366	S D 0 1	杯身	①9.6W ②7.7△	立ち上がりは短く内湾し、胴部は丸くおさまる。受部は上方へのびる。底部はほぼ平坦。	底面内面ナデ。外面ヘラ切り後ナデ。他内外面ヨコナデ。	滑焼	内外面淡青灰色	YZ-29
Po275 174 50	384	S D 0 1	杯身	①8.3 ②3.0	立ち上がりは内湾し、胴部は丸くおさまる。受部はやや上方へのびる。底部はほぼ平坦。	底面内面ナデ。外面ヘラ切り後ナデ。他内外面ヨコナデ。	滑焼	内外面淡青灰色	I-32
Po276 174 50	388	S D 0 1	要	①12.7 ②1.9 ③2.0	外壁する口縁部。口縁部は外側へ折り返され、上下におさまる。胴部はほぼ平坦な面をなす。胴部はほぼ平坦。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外側をナデ。天井部は丸くおさまる。内面同心文。	滑焼	内外面淡灰褐色	T-61
Po277 174 50	384	S D 0 1	高杯	①16.0 ②9.4 ③9.2W	狭い腕状の杯部。口縁部は丸くおさまる。胴部は上口で「ハ」の字状に開く。胴部は上方へおさまるに厚みし、下方へつまみ出すようにして丸くおさまる。方形の底かしを2ヶ所に入れる。	内湾内面ナデ。他内外面ヨコナデ。	滑、細粒を良好	内外面淡青灰色	O-63
Po278 174 50	386	S D 0 1	高杯	①19.5△ ③19.1W	「ハ」の字状に広く開く胴部。胴端部はやや外傾し、上下におさまる。胴部はほぼ平坦な面をなす。胴部はほぼ平坦。	内湾内面ナデ。他内外面ヨコナデ。	滑、細粒を良好	内面暗灰褐色 外面淡青褐色	YZ-26
Po279 174 50	384	S D 0 1	高杯	②5.4△ ③2.4	尖目の筒筒状。胴部は直立し、上下にやや外傾する。三角形の底かしを2ヶ所に入れる。	杯部内面ナデ。他内外面ヨコナデ。	滑焼	内外面赤褐色	YZ-75
Po280 175 50	384	S D 0 1	要	①13.0W ②6.3△	内湾する口縁部。口縁部はやや内湾へ折り返すようにして丸くおさまる。外面に3条の凹線が刻まれる。	内外面ヨコナデ。	滑焼	内外面赤褐色	自然発汗管 I-33
Po281 175 50	388	S D 0 1	線板	②15.3△	寛帯に1対の円形浮文を刻付ける。	口縁部内外面ヨコナデ。他内外面ナデ。	不良	内面淡茶褐色 外面灰白褐色～灰茶褐色	Ku-54
Po282 175 50	272	S D 0 1	脚付杯	①16.6W ②7.4 ③8.2W	「ハ」の字状に広く開く脚付杯。胴部はつまみ出すようにして丸くおさまる。胴部は直立する。	杯部内面ナデ。他内外面ヨコナデ。	滑、細粒を良好	内外面赤褐色	Ku-32
Po283 176 31	324	P504	杯蓋	①15.1W ②4.6	ほぼ直立する口縁部。口縁部は丸くおさまる。口縁部と天井部の境界は不明瞭。天井部はほぼ平坦。	天井部外面上平/3割計りのヘラクスリ。内内外面ヨコナデ。	滑焼	内外面淡青灰色	KH-1
Po284 176 51	234	P504	杯蓋	①14.0W ③15.△	ほぼ直立する口縁部。口縁部は丸くおさまる。口縁部と天井部の境界は不明瞭。	天井部上平/2割計りのヘラクスリ。他内外面ヨコナデ。	滑、細粒を良好	内外面淡灰褐色	KH-2
Po285 176	237	P510	高杯	①14.3W ②8.4 ③9.1W	やや内湾する杯部。口縁部は丸くおさまる。胴部は上方へ開く杯蓋。口縁部は外側へつまみ出すようにして丸くおさまる。胴部は丸く、胴部は胴部を折り出すようにしてつまみ出す。切り込みによる底かしを2ヶ所に入れる。	杯部内面ナデ。他内外面ヨコナデ。	滑焼	内面淡青褐色 外面淡青褐色	YZ-44

挿表16 百塚第5遺跡・土器観察表(1)

産物名称 陶器種別 図版番号	取手番号	出土位置	部 類	法量 (cm)	形 態	手 造	胎 土	焼 成	色 調	備 考
Po286 176 51	378	P573	手摺ね土器	①5.6R ②10.8Δ	手摺筒形をなす。	外側ナデ、内面ナデ、指腹凹溝。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	黒川町 S-23
Po287 176 51	378	P573	手摺ね土器	①4.6 ②2.5	瓶丸状形をなす。	外側ナデ、内面ナデ、指腹凹溝。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	S-22
Po288 176 51	442	P604	甕	①11.5Δ ②13.5	外反する傾斜から倒筒形をなす 胴部、平底。	内外面外口ナデ、胴部と胴部の 境界内面指腹凹溝、加蓋ナデ。 指内面指腹凹溝コソナデ。	締密	良好	内外面淡 褐色	Ka-53
Po289 176 51	442	P604	甕	①8.8R ②2.8 ③4.2	平底からやや内反気味に外上方 へ広がる口縁部。口縁部は丸く おさめらる。	風化のため調査不明。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	I-44
Po290 176 51	442	P604	甕	①8.8 ②2.7 ③4.4	平底から短く立ち上がり、やや 内反気味に外上方へ廣く口縁 部。口縁部はほぼ丸くおさめ らる。	蓋面凹部未切り。他風化のため 調査不明。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	I-41
Po291 176 51	442	P604	甕	①8.7R ②2.8 ③4.0	平底から外上方へ廣く口縁部。 口縁部は丸くおさめらる。	風化のため調査不明。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	I-39
Po292 176 51	442	P604	甕	①8.5R ②1.5 ③4.1	平底から短く立ち上がり、やや 内反気味に外上方へ廣く口縁 部。口縁部は丸くおさめらる。	蓋面凹部未切り。他風化のため 調査不明。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	I-42
Po293 176 51	442	P604	甕	①8.6R ②2.3 ③4.6	平底から短く立ち上がり、やや 内反気味に外上方へ廣く口縁 部。口縁部は丸くおさめらる。	蓋面凹部未切り。他風化のため 調査不明。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	I-46
Po294 176 51	442	P604	甕	①8.4 ②2.7 ③4.1	平底から短く立ち上がり、やや 内反気味に外上方へ廣く口縁 部。口縁部は丸くおさめらる。	風化のため調査不明。	密、1~3mm の石を 含む	良好	内外面淡 褐色	I-38
Po295 176 51	442	P604	甕	①8.4R ②1.6 ③4.0	平底から短く立ち上がり、やや 内反気味に外上方へ廣く口縁 部。口縁部は丸くおさめらる。	風化のため調査不明。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	I-45
Po296 176 51	442	P604	甕	①8.2R ②2.0 ③4.3	平底から短く立ち上がり、やや 内反気味に外上方へ廣く口縁 部。口縁部は丸くおさめらる。	風化のため調査不明。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	I-43
Po297 176 51	442	P604	甕	①8.2R ②2.7 ③4.1	平底から短く立ち上がり、やや 内反気味に外上方へ廣く口縁 部。口縁部は丸くおさめらる。	風化のため調査不明。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	I-40
Po298 176 51	442	P604	甕	①9.0Δ ②4.3	平底。	蓋面凹部未切り。他風化のため 調査不明。	密、1~3mm の石を 含む	良好	内外面淡 褐色	I-47
Po299 176 51	394	P707	杯	①14.8 ②6.9 ③6.2	平底から外上方へ広がる杯部。 口縁部は丸くおさめらる。	杯部内外面コソナデ。杯底内 面ナデ。底面凹部未切りとわ れるが不明瞭。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	I-37
Po300 177	72	B・C18	甕	①17.0R ②7.1Δ	直立する口縁部。口縁部はつ まみ出すようにしておさめらる。	口縁部内外面コソナデ。胴部外 面ナデ。内面ヘラケズリ。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色 外口縁部 色一淡褐色	O-19
Po301 177	72	B・C18	甕	①15.0R ②4.6Δ	やや傾斜する逆化した廣口縁部。 口縁部は内面に平坦面をなす。 底面凹部は浅く、ほとんど 突出しないが、上部に沈没が ある。	内外面コソナデ。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	Ka-9
Po302 177	32	E19	甕	①13.0R ②8.6Δ	ほぼ直立する逆化した廣口縁部。 口縁部は平坦面をなす。底 面凹部は浅く、ほとんど突出 しない。	口縁部内外面コソナデ。胴部外 面ナデ。内面ヘラケズリ後ナデ。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色一淡 灰褐色	外間スス付 蓄 Ka-11
Po303 177	72	B・C18	甕	①14.0R ②7.1Δ	やや外反する「く」の字状口縁部。 口縁部は丸くおさめらる。	風化のため調査不明。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	I-9
Po304 177	439	B15	甕	①21.8R ②4.2Δ	外反する「く」の字状口縁部。口 縁部はつまみ出すようにして おさめらる。	内外面コソナデ。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	O-47
Po305 177	32	E19	甕	①20.6R ②8.6Δ	外傾する「く」の字状口縁部。口 縁部は平坦面をなす。	口縁部内外面コソナデ。胴部外 面コソナデメハク。内面ヘラ ケズリ。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	O-12
Po306 177 51	32	E19	甕	①19.8 ②27.9 ③25.0R	外反する「く」の字状口縁部。口 縁部は外側へつまみ出すよう にして丸くおさめらる。胴部は ほぼ球形をなす。	口縁部内外面コソナデ。胴部外 面不定方向メハク。内面ヘラ ケズリがそれぞれ見られるが、風 化のため不明瞭。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色一淡 灰褐色	O-18
Po307 177	33	E19	甕	①18.8R ②2.2Δ	外傾する「く」の字状口縁部。口 縁部はほぼ丸くおさめらる。	口縁部内外面コソナデ。胴部外 面コソナデ。内面ヘラケズリ。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色一淡 灰褐色	I-1
Po308 177 51	34	K19	甕	①18.0 ③15.7R	外傾する「く」の字状口縁部。口 縁部は丸くおさめらる。胴部は ほぼ球形をなす。	口縁部内外面コソナデ。胴部外 面メハク。内面ヘラケ ズリ。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色	黒川町 Ku 12
Po309 177 51	32	E19	甕	①15.6R ③14.5Δ	外反する口縁部。口縁部はつま み出すようにして丸くおさめ らる。胴部はほぼ球形をなす。	口縁部内外面コソナデ。胴部外 面コソナデ。内面ヘラケズリ。	密、砂粒を 含む	良好	内外面淡 褐色 外口縁部 色一淡褐色	O-11

挿表17 百塚第5遺跡・土器観察表(1)

遺跡番号 発掘年度 図記番号	取上番号	出土位置	形 種	法量(m)	形 態	手 法	胎 土	焼 成 色 澤	備 考	
Ps010 177 31	439	B 5	壺	①15.0× ②9.3× ③8.3	内径する「く」の字状口縁。口縁部は丸くおさまる。	口縁部内外面コナテ。肩部外側ヘラテズ。内面ヘラテズ。	やや軟、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色～灰褐色	O-09
Ps011 178 51	33	E 19	高杯	①15.4× ②10.7× ③8.3	内湾する浅目の杯部。口縁部は丸くおさまる。肩部はやや中台で短く、脚部は「ハ」の字状に開く。脚部は平湾な面をなす。	外面は風化のための調整不明。脚部外面にヘラテギがわずかに見られる。肩部は口縁部内面コナテ。基部1帯のみナテ。基部内湾あり。脚部内面ハメス。	灰赤、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	YZ-01
Ps012 178	64	E 5	高杯	①14.0× ②6.3×	内湾する杯部。口縁部は丸くおさまる。	口縁部内外面コナテ。杯部内外面丁寧ナテ。	緻密	良好	内外面淡褐色	YZ-22
Ps013 178	439	H 3	脚部	②4.8× ③5.9	やや太目の脚部から短く「ハ」の字状に開く脚部。	脚部内湾面が見られるが、全体に風化のための調整不明。	緻密	良好	内外面淡褐色	黒鹿野 O-53
Ps014 178	135	D25～27	高杯	②5.6× ③6.6×	「ハ」の字状に開くやや太目の脚部。脚部は平湾な面をなす。	口縁部内外面コナテ。杯部内外面丁寧ナテ。基部ナテ。	緻密	良好	内面淡褐色～淡緑色 外面淡褐色	I-8
Ps015 178 51	35	E 19	白付碗	①14.8× ②5.5×	平湾な面部から外上方へのび、口縁部はつまみ出すようにしておさまる。肩部は面部を縁取り付けていたものと推定される。	内面ナテ。外面風化のための調整不明。	緻密	良好	内外面淡褐色～淡緑色	YY-06
Ps016 178	63	K 5	碗	①13.0× ②5.5	丸みを帯びた面部から内湾して外上方へのびる。口縁部は外反し、肩部はつまみ出すようにしておさまる。	1線部内外面コナテ。肩部外側ヘラテズ後ナテ。内面ナテ。	緻密、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	YY-01
Ps017 178	64	E 5	碗	①11.9× ②3.2	項目小。口縁部はつまみ出すようにして丸くおさまる。	口縁部内外面コナテ。基部外側ヘラテズ後ナテ。内面ナテ。	やや軟、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	YY-17
Ps018 178 51	11	E 22	獣形支脚	①18.1×	脚部内面がえぐれたわんがうしの支脚。	外側面にハメが見られるが全体にナテ。基部内湾。内面ヘラテズ後ナテ。	灰、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色～淡緑色	黒鹿野 Kc-23
Ps019 178 31	63	E 5	手組お土器	①5.4× ②2.7	平湾内面をなす。	内面ナテ。	滑	良好	内外面淡褐色	YY-02
Ps020 178	39	E・F 17・18	的形煎餅輪	①20.3× ②9.3×	幅広いタガを軸付ける的形煎餅輪片。タガの突出は短く。	風化のための調整不明。	灰、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	O-22
Ps021 178	36	B・C 17・18	坏蓋	①9.5× ②3.3×	内湾する口縁部。口縁部はつまみ出すようにしておさまる。	内外面回転コナテ。	緻密	良好	内外面淡褐色～淡緑色	I-23
Ps022 178 51	72	H・C 16	蓋	①9.2× ②3.4	「ハ」の字状に短く開く蓋。口縁部は丸くおさまる。内面のかまよりは口縁部より下方へつまみ出されるように突出する。肩部につまみがつく。	外側外周上1/3部は口縁部のヘラテズ。肩部内湾ナテ。他内外面回転コナテ。	緻密、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	YY-05
Ps023 178 51	72	B・C 16	坏身	①11.0× ②3.9	立ち上がりは内傾し、肩部はつまみ出すようにしておさまる。肩部はやや上方へのびる。底部は平湾。	肩部外側下1/4部は脚部回りのヘラテズ。肩部内湾ナテ。他内外面回転コナテ。	緻密	良好	内外面淡褐色	YZ-03
Ps024 178 51	70	B・C 16	坏身	①10.4× ②3.8	立ち上がりは内傾し、肩部はつまみ出すようにして丸くおさまる。肩部はやや上方へのびる。底部は丸みを帯びる。	肩部外側下1/3部は脚部回りのヘラテズ。肩部内湾ナテ。外側下部の下にカメが見られるが他は内外面回転コナテ。	緻密	良好	内面淡褐色 外面淡褐色～淡灰色	YY 04
Ps025 178	188	E 19	坏身	①10.4× ②3.4×	立ち上がりは短く内傾し、肩部はつまみ出すようにして丸くおさまる。肩部は上方へのびる。底部はほぼ平湾。	底部内湾ナテ。他内外面回転コナテ。	緻密	良好	内面淡褐色 外面淡褐色～淡灰色	Kc-10
Ps026 178 51	188	E 19	坏身	①9.1× ②2.1	立ち上がりは内傾し、肩部は上方へつまみ出すようにしておさまる。肩部は上方へのびる。底部は丸みを帯びる。	基部外側ヘラテ切り後ナテ。内面ナテ。他内外面回転コナテ。	緻密、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	I-10
Ps027 178 51	439	B 5	坏	②9.3× ③2.3	平湾から外上方へのびる杯部。口縁部はつまみ出すようにしておさまる。	底部内湾ナテ。基部ヘラテズ。他内外面回転コナテ。	緻密、砂粒を含む	良好	内外面淡褐色	O 52
Ps028 178	72	B・C 16	壺	①11.8× ②3.5×	外反する口縁部。口縁部は平湾な面をなす。つまみ出すようにしておさまる。	内外面回転コナテ。肩部内面ナテ。	緻密	良好	内面淡褐色 外面淡褐色～淡灰色	Kc-19
Ps029 178	189	K 16	壺	①32.8× ②14.9×	外湾する口縁部。口縁部は丸くおさまる。	口縁部内外面回転コナテ。肩部外側格子状タガ。内面ナテ。	緻密	良好	内外面淡褐色	I-12
Ps030 178	30	E・F 6	壺	①24.2× ②11.4× ③8.2×	外湾する口縁部。口縁部はほぼ平湾な面をなす。3条の凹線がある。	底部内外面回転コナテ。肩部外側格子状タガ。内面ナテ。	緻密	良好	内外面淡褐色～淡灰色	I-11
Ps031 179 51	63	E 5	裝飾煎餅蓋	②3.8×	片持ち蓋の一部。	底部内外面回転コナテ。基部内湾ナテ。	緻密	良好	内面淡褐色 外面淡褐色	Kc 24
Ps032 179	24	E・F 6～8	煎餅	②2.5× ③2.3×	平湾。	底部内外面回転コナテ。基部内湾ナテ。外側面内湾ナテ。	緻密	良好	内外面淡褐色	YY 24
Ps033 179	64	E 5	坏	①15.2× ②11.2× ③8.2×	平湾から短く立ち上がり、外上方へのびる口縁部。口縁部は丸くおさまる。	杯部内外面コナテ。基部内湾ナテ。肩部回転ナテ。	滑	良好	内外面淡褐色	YY-20
Ps034 179	64	E 5	皿	①8.1× ②6.4×	平湾から外上方へのびる。口縁部は丸くおさまる。	口縁部内外面コナテ。他内外面ナテ。	滑	良好	内外面淡褐色	YY-18

挿表18 百塚第5遺跡・土器観察表(14)

遺物番号	押戻番号	図版番号	取上番号	出土地点	器種	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
S 1	24	52	150	S I 1 0	砥石	凝灰岩	12.1	5.8	4.6	214	全面砥面。両端欠損。
S 2	24	52	150	S I 1 0	砥石	流紋岩質凝灰岩	10.2	4.8	2.5	96	3面砥面。両端欠損。
S 3	24	52	148	S I 1 0	砥石	凝灰岩	7.7	3.7	2.0	106	全面砥面。両端欠損。
S 4	24	52	150	S I 1 0	砥石	凝灰岩	7.6	3.4	2.7	142	全面砥面。両端欠損。
S 5	45	52	260	S I 2 5	砥石	凝灰岩	8.5	4.5	2.4	88	全面砥面。縁部欠損。
S 6	45	52	267	S I 2 9	砥石	角閃石安山岩	13.9	7.1	3.6	567	両面に敲打痕。
S 7	50	52	321	S I 3 2	砥石	凝灰岩	6.7	3.2	2.8	85	3面砥面。縁部欠損。
S 8	57	52	343	S I 3 6	磨製石斧	角閃石安山岩	15.6	6.5	4.8	670	刃部欠損。
S 9	65	52	463	S I 4 0	砥石	角閃石安山岩	11.8	7.5	4.3	495	縁部欠損。
S 10	65	52	453	S I 4 0	石部	角閃石安山岩	9.3	6.6	4.2	318	
S 11	83	52	427	S I 5 4	石鏃	黒曜石	1.62	1.37	0.27	0.4	凹基部並縁。先端部、左側部欠損。
S 12	166	52	140	S X 0 1	砥石	凝灰岩	5.3	4.7	2.6	86	全面砥面。縁部欠損。
S 13	176	52	352	P 705	石鏃	黒曜石	2.02	1.58	0.49	1.1	凹基部並縁。右側部欠損。
S 14	179	52	39	E・F 17・18	石部	角閃石安山岩	14.2	11.3	5.2	1098	
S 15	179	52	72	B・C 16	砥石	凝灰岩	6.8	2.7	2.3	46	2面砥面。両端欠損。穿孔有。
S 16	179	52	72	B・C 16	砥石	凝灰岩	3.3	2.8	0.8	14	全面砥面か。

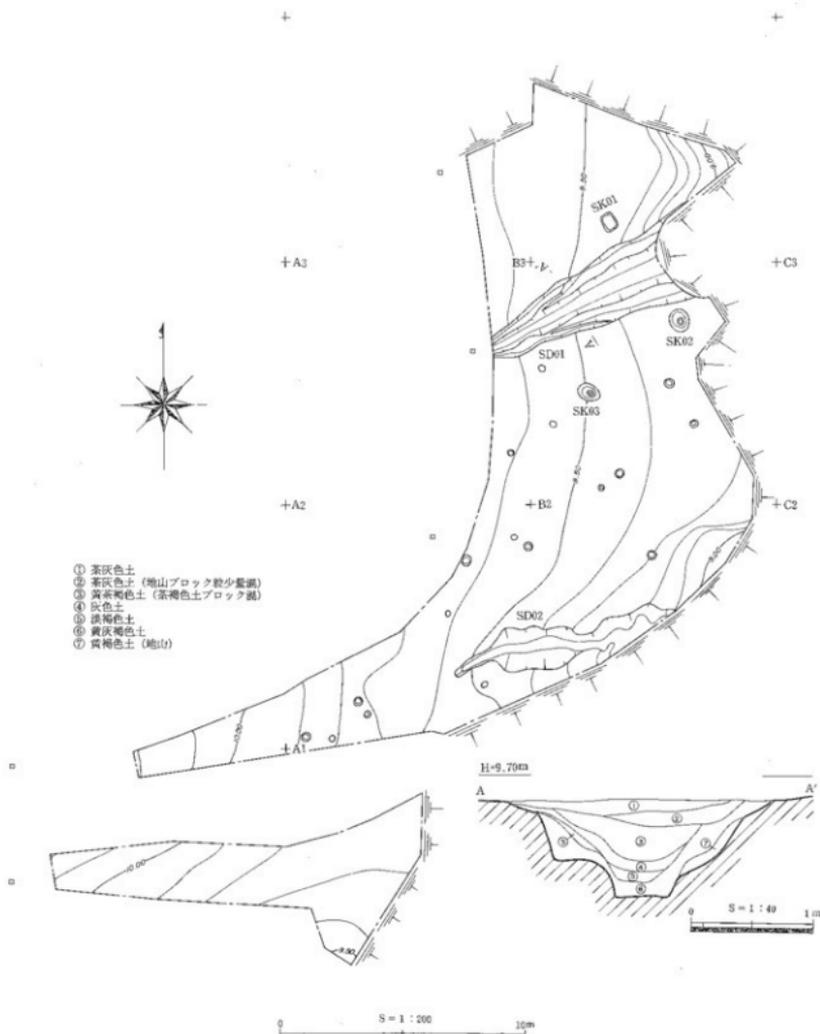
挿表19 百塚第5遺跡石器・石製品観察表

遺物番号	取上番号	押戻番号	図版番号	出土位置	種類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	形 態 の 特 徴
J 1	177	39	52	S I 2 3	勾玉	2.4	0.97	0.55	メノウ製。片側穿孔。
J 2	289	50	52	S I 3 2	双孔円板	5.4	4.9	0.4	滑石製。厚薄均等。
F 1	261	45	52	S I 2 5	鑿先	20.7	5.7	1.5	約1/2残存。刃部U字形、断面Y字形の木台挿入部を持つ。
F 1	13	186	53	S I 0 1	刀子	15.6	3.3	1.2	断面がやや扁平な長方形を呈す。

挿表20 百塚第5遺跡・泉上経前遺跡 勾玉・双孔円板・鉄製品観察表

第4章 小波狭間谷遺跡の調査結果

今回の調査では、土坑3基、溝状遺構2条、ピットを検出した。ここでは、各遺構ごとに調査の結果を述べることにする。

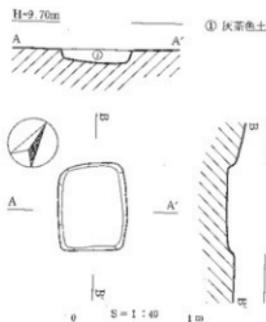


挿図180 小波狭間谷遺跡全体遺構図
 およびSD01断面図

第1節 土坑

SK 01 (挿図181・図版38)

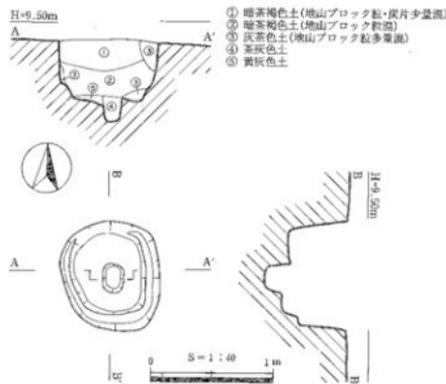
- 位置 C 4 グリッドにあり、標高9.6m付近に位置する。
 形態 平面形、底面形いずれも長方形を呈し、断面形は皿状を呈する。規模は (0.72×0.56-0.12) mを測る。
 埋土 埋土は1層のみで、自然堆積したものと考えられる。
 遺物 出土しなかった。
 性格 不明である。
 時期 不明である。



挿図181 SK 01 遺構図

SK 02 (挿図182・図版38)

- 位置 C 3 グリッドにあり、標高9.4m付近に位置する。
 形態 平面形、底面形いずれも楕円形を呈し、断面形は逆梯状を呈する。規模は (0.90×0.80-0.68) mを測り、底面で (24×18-20) cmの小ピットを検出した。
 埋土 埋土は5層に分層でき、④は杭痕跡、他の層は自然堆積したものと考えられる。
 遺物 出土しなかった。
 性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。
 時期 形態より縄文時代と考えられる。



挿図182 SK 02 遺構図

SK 03 (挿図183・図版38)

- 位置 C 3 グリッドにあり、標高9.6m付近に位置する。
 形態 平面形、底面形いずれも楕円形を呈し、断面形は逆梯状を呈する。規模は (0.92×0.55-0.72) mを測り、底面で (30×20-26) cmの小ピットを検出した。
 埋土 埋土は5層に分層でき、⑤は杭痕跡、他の層は自然堆積したものと考えられる。
 遺物 出土しなかった。
 性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。
 時期 形態より縄文時代と考えられる。

第2節 溝状遺構

SD 01 (押図180、184・図版38、53)

位置 C 3 グリッドにあり、標高8.9~9.6mに位置し、調査区を南北に横切るように掘り込まれている。

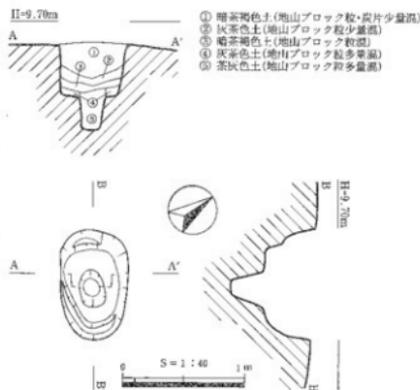
形態 規模は全長12.3m、幅0.90~4.2m、深さは最大80cmを測る。断面形は階段状をなす。走向はS-28°-Eであり、北側は調査区域外に延び、南側は切られている。

埋土 埋土は7層に層分け、自然堆積したものと考えられる。

遺物 磁器皿Po 1を図化した。

性格 不明である。

時期 近世から近代にかけてであると考えられる。



押図183 SK 03 遺構図

SD 02 (押図180、184・図版39、53)

位置 C 2 グリッドにあり、標高9.10~9.50mに位置する。

形態 規模は全長約8m、幅0.40~3.2mを測る。走向はS-12°-Eであり、南側は調査区域外に延びる。

遺物 陶器播鉢Po 2を図化した。

性格 不明である。

時期 近世から近代にかけてであると考えられる。



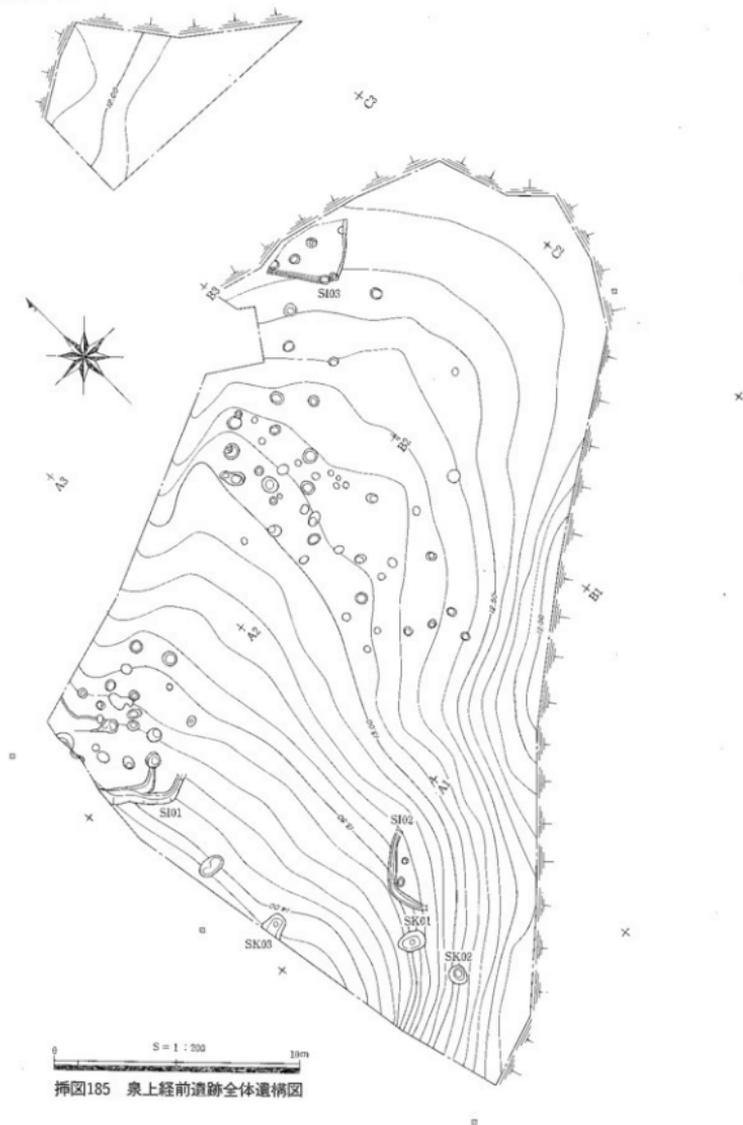
挿図184 SD 01・02 遺物実測図

第3節 ピット

当遺跡で検出したピットは、径20~30cm、深さ30cm程度のもが多く、対応するピットは見られず、掘立柱建物跡の柱穴として確認できたものはなかった。

第5章 泉上経前遺跡の調査結果

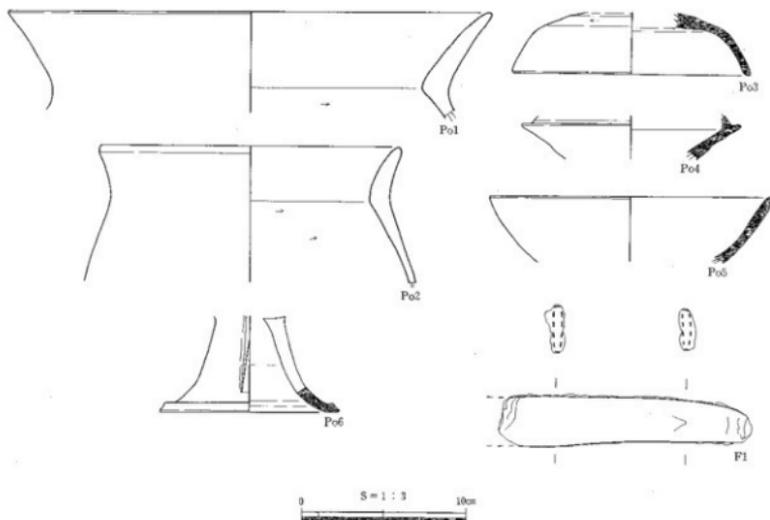
今回の調査では、竪穴住居跡3棟、土坑3基、ピットを検出した。ここでは、各遺構ごとに調査の結果を述べることにする。



第1節 竪穴住居跡

S101 (挿図186、187・図版39、53)

- 位置** A 2・3グリッドにあり、標高12.6~13.4mの緩やかな斜面に位置し、北側を農道に切られている。
- 形態** 東側壁は流失しており、北側は農道に切られているため、遺存状態は良くないが、平面形は方形を呈すると考えられる。また、建て替えが行われたと考えられる。規模は東西4.50m、南北4.00mを測り、床面積は約16㎡である。残存壁高は最も遺存状態の良い南壁で最大45cmを測る。
側溝は幅20~30cm、深さ10~20cmを測る。
主柱穴はP 1~P 4の4個で、規模はP 1 (38×37-50) cm、P 2 (20×14-48) cm、P 3 (36×35-66) cm、P 4 (36×36-25) cmを測り、柱穴間距離はP 1-P 2間から順に1.52m、2.34m、1.66m、2.37mである。
- 中央ピット** 中央ピットはP 5で、平面形は楕円形を呈する。規模は(70×50-31) cmを測り、シルト層の堆積が見られる幅50cm、深さ10cm程度の溝を持っている。
- 焼土面** P 5の周辺およびP 4の中央より厚さ12~20cm、直径60cm程度の焼土塊が検出された。
- 埋土** 埋土は11層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
- 遺物** 土器器壺Po 1・2、須恵器坏蓋Po 3、坏身Po 4、高坏Po 5・6、壺口縁Po 7、刀子F 1を図化した。
- 時期** 出土した土器より古墳時代後期後葉と考えられる。



挿図186 S101遺物実測図

S102 (挿図188、189・図版40、53)

位置 A1グリッドにあり、標高12.0~12.6mに位置する。丘陵の南側急斜面にあり、土砂の流失が著しい。
 形態 遺存状態が悪く、わずかに流失を免れた北側壁と西側の側溝の検出により住居跡と判断できた。平面形は、側溝より方形と推定される。検出できた規模は東西2.80m、南北2.00m、床面積2.80㎡である。残存壁高は最大25cmを測る。

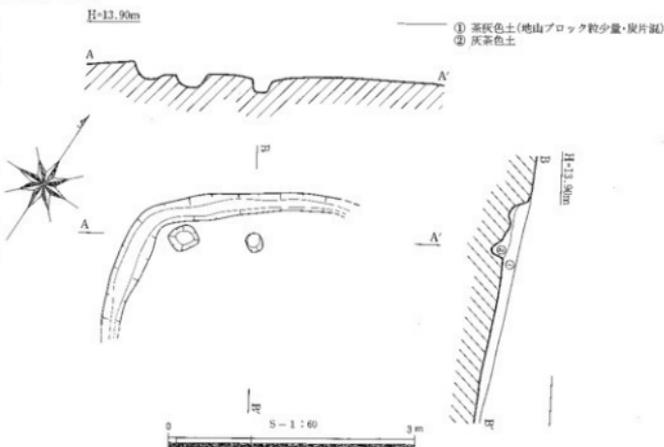
側溝は、幅20~38cm、深さ4cmを測る。

主柱穴は検出できなかった。

埋土 埋土は2層に分層でき、①は土砂の流れ込みと考えられる。

遺物 P1基底部より手捏ね土器Po8が出土した。

時期 出土した土器および他の住居との関係より、古墳時代後期と考えられる。



挿図188 S102遺構図



挿図189 S102遺物実測図

S103 (挿図190、191・図版40、53)

位置 C3グリッドにあり、北側を農道に切られている。標高12.3~12.6mの丘陵の先端部に位置する。
 形態 攪乱のため遺存状態が悪く、住居の南側の角部を検出できたのみである。平面形は方形と推定される。検出できた規模は東西2.25m、南北2.75m、床面積3.1㎡である。残存壁高は最大18cmを測る。

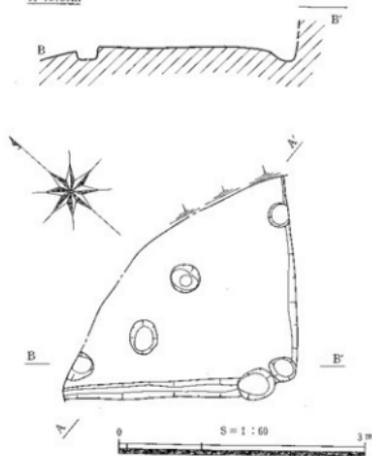
側溝は幅14~22cm、最大15cmの深さを測り、西側壁際のみ検出できた。

主柱穴は検出できなかった。

遺物 手捏ね土器Po9・10を同化した。

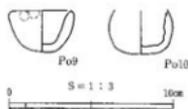
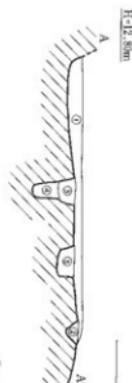
時期 出土した土器より古墳時代後期と考えられる。

H=12.80m



挿図190 SIO3遺構図

- ① 赤灰色土(地山ブロック少量・破片混)
- ② 黄茶褐色土(地山ブロック混)
- ③ 灰茶色土(地山ブロック少量混)
- ④ 灰茶色土(地山ブロック少量混)



挿図191 SIO3遺物実測図

第2節 土坑

SK01 (挿図192・図版40)

位置 A1グリッドにあり、標高13.2~13.6mに位置する。

形態 平面形、底面形いずれもいびつな隅丸方形を呈し、断面形は長方形の漏斗状を呈する。規模は(1.08×0.76~1.03)mを測り、底面で(18×18~26)cmの小ピットを検出した。

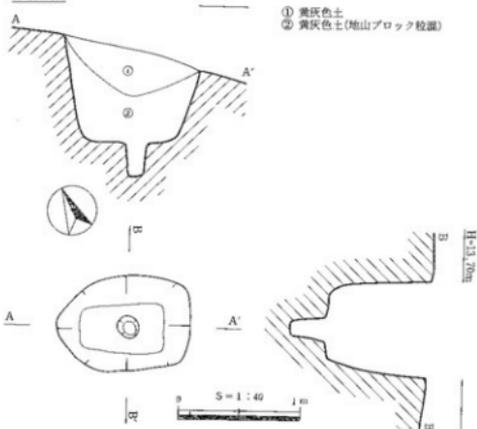
埋土 埋土は7層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。

遺物 出土しなかった。

性格 形態より落し穴的な性格が考えられる。

時期 形態より縄文時代と考えられる。

H=13.70m



挿図192 SK01遺構図

SK02 (挿図193・図版40)

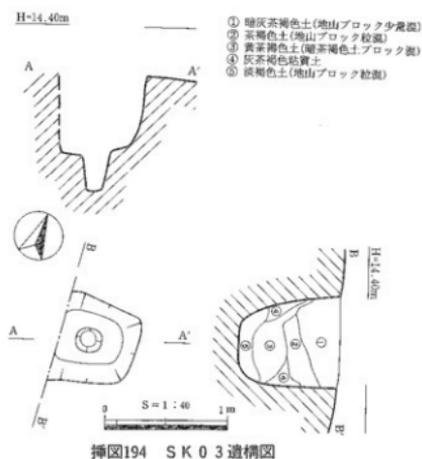
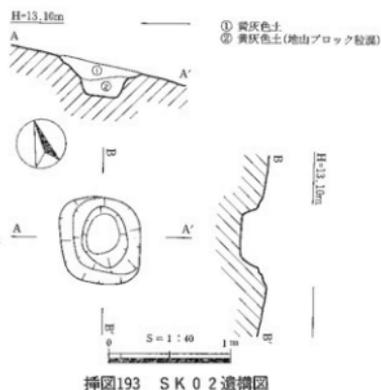
位置 A1グリッドにあり、標高12.6~12.9mに位置する。

形態 平面形は隅丸方形、底面形は楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。規模は(0.72×0.65~0.25)mを測る。

埋 土 埋土は2層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
 遺 物 出土しなかった。
 性 格 不明である。
 時 期 不明である。

SK 0 3 (挿図194)

位 置 A 2 グリッドにあり、標高14.2mに位置する。
 形 態 平面形、底面形いずれも隅丸長方形を呈すると考えられ、断面形は長方形の漏斗状を呈する。規模は(0.68×0.64-0.83)mを測り、底面で(22×20-28)cmの小ピットを検出した。
 埋 土 埋土は5層に分層でき、自然堆積したものと考えられる。
 遺 物 出土しなかった。
 性 格 形態より落とし穴的な性格が考えられる。
 時 期 形態より縄文時代と考えられる。



第3節 ピット

当遺跡で検出したピットは、径20~30cm、深さ30cm程度のもが多く、対応するピットは見られず、孤立柱建物跡の柱穴として確認できたものはなかった。

遺物番号 調査番号 図記番号	取上番号	出土位置	器 種	法量 (cm)	形 態	手 法	胎 土	焼 成	色 調	備 考
Pa1 184 53	5	S D 0 1	皿	①11.2W ②2.2Δ	内面に青色の染付を施す。	内外面模造。	細密	良好	内外両面 白色	I-1
Pa2 184 53	4	S D 0 2	酒杯	①10.6W ②2.6Δ	口縁端部は肥厚し、上方にやや 拡張される。内面に10cm以下の おろし目。	内外両面に紅コナダ。	細密	良好	内外両面赤 茶褐色	YZ 01

挿表21 小波狭間谷遺跡・土器観察表

遺物番号 調査番号 図記番号	取上番号	出土位置	器 種	法量 (cm)	形 態	手 法	胎 土	焼 成	色 調	備 考
Pa1 185 53	4	S I 0 1	壺	①18.3W ②6.5Δ	外腹する「く」の字状口縁。口 縁端部はつまみ出すようにして おさめる。	口縁部内外面にコナダ。肩部内 面にヘラズリ。	密、砂粒を含む	良好	内外両面 褐色	I-4
Pa2 185 53	4	S I 0 1	壺	①18.6W ②6.5Δ	やや外反する「く」の字状口縁。 口縁端部は丸くおさめる。肩部 は張らない。	胴部内面にヘラズリが見られ るが全体に風化のため観察不明。	やや粗、砂 粒を含む	良好	内面灰 褐色 外面灰茶 褐色	I-5
Pa3 186 53	4	S I 0 1	坏蓋	①14.7W ②3.9Δ	内腹する口縁部。口縁端部は丸 くおさめる。口縁部と天弁部の 境界は不明瞭。	天弁外周上半1/3部斜り のヘラズリ。他内外面に紅コ ナダ。	細密	良好	内面灰色 外面灰 色	I-2
Pa4 186 53	4	S I 0 1	坏身	②2.7Δ	立ち上がりは内傾し、受部は球 ば水平方向にのびる。	内外面に紅コナダ。	細密	良好	内外両面 青灰色	I-3
Pa5 186 53	4	S I 0 1	坏部	①17.4W ②4.2Δ	内傾した口の坏部。口縁端部はつ まみ出すようにして丸くおさめ る。	内外面に紅コナダ。	細密	やや不良	内面灰 色 外面灰白 色	I-1
Pa6 186 53	4	S I 0 1	脚部	⑦5.9Δ ⑧11.0W	「ハ」の字状に開く脚部。肩 部は上方へやや拡張される。 透かしを2ヶ所に入れる。	内外両面にコナダ。	細密	良好	内面に青 灰色 外面灰色	I-6
Pa7 189 53	3	S I 0 2	罍	①22.6W ②5.3Δ	外反する口縁部。口縁端部は肥 厚する。	内外面に紅コナダ。	密	良好	内面灰色 外面褐色	I-7
Pa8 189 53	11	S I 0 2 P 1	手捏ね土器	①5.6 ②4.6	腹面がくびれ、口縁部はやや外 反して端部を丸くおさめる。	腹部外面に指痕。他内外面ナ ダ。	やや粗、細 砂を含む	良好	内外両面 褐色	黒磁有 I-8
Pa9 191 53	5	S I 0 3	手捏ね土器	①4.6 ②2.6	半楕円形状をなす。	外面ナダ、指痕旺盛。内面ナダ。	密	良好	内外両面 褐色	黒磁有 YZ 01
Pa10 191 53	5	S I 0 3	手捏ね土器	②2.8Δ	楕円形に長い楕円形をなす。	内外面ナダ。	密	良好	内面茶褐 色 外面砂褐 色	YZ 02

挿表22 泉上経前遺跡・土器観察表

第6章 まとめ

今回の百塚第5遺跡・小波狭間谷遺跡・泉上経前遺跡の調査で、各遺跡より竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、地下式横穴、溝状遺構などを検出することができた。ここでは、主に古墳時代中期から後期にかけての竪穴住居跡が62棟検出できた百塚第5遺跡について、その集落のあり方を考えてみたい。

百塚第5遺跡での竪穴住居の初現は古墳時代中期中葉～後葉の時期に求められる。この時期の竪穴住居の配置は、調査地内に存在する谷部を境界として、北部と南部とで差異が認められる。北部では標高19～22mを測る、緩やかな尾根を利用し、竪穴住居は標高19m付近のみに環状（半円状）に配置されている。標高19.5～22m部分では竪穴住居跡を含め、遺構は見られない。このことから、集落造営時に中央部のオープンスペースを意識していたことが窺える。また、各竪穴住居もその空間に面する形に軸を向けている。S I 0 9 は他の竪穴住居に比べ、やや軸が異なるが、これは谷部に面しているために地形的な制約を受けたものと考えられることができる。これら環状に配された竪穴住居を範囲を狭めて見た場合に、A～C群の3小群に分けることができると考える。各小群はおそらく2ないし3棟を単位として構成されていると思われる、この小群が集落を構成する際の基本的単位であると考える。

次にA～C群と、その全面に広がる空間について考えてみたい。集落内に広がる空間は、祭祀を行う場や農耕に伴う作業場としての性格が、従来言われてきている。当遺跡について考えた場合、前者については、実際の内容についてまで言及することは不可能であるが、この空間内で何等かの祭祀的行為が行われていたと可能性は考えられる。後者については、今回検出したS I 0 8 内出土の炭化米が大きく関係してくる。S I 0 8 はC群に含まれるが、住居ではなく貯蔵庫的な性格を持つ土坑と考えるもので、規模的には当該期の小型竪穴住居と大差ないものである。S I 0 8 出土炭化米の出土状況を見ると、脱穀前のものであることが考えられる。この炭化米を食用とした場合、量的には、かなり大量であったが、集落全体を満たすには不十分であり、また、C群のみについて考えた場合でも、A・B群においてS I 0 8 と同様の性格を持つと考えられる遺構が存在しないことから、食用の為の貯蔵施設とは考え難い。これに対し、炭化米を種籾など食用以外の利用目的を持つものとして考えた場合では、C群に伴うものとするより、A～C群共同の施設であると考えられ、C群そのものが作業場としての空間に付随することも考えられる。

谷部北側には以上の他、調査地北端にS I 3 2 が存在する。S I 3 2 は建て替えに伴い縮小されているが、当初は古墳時代中期中葉～後葉段階において、最も大型の竪穴住居である。これが何を意味するのかは不明だが、A～C群とは別のD群として捉えたい。

谷部南側については北側で見られたような環状の住居配置は見られない。しかし、北側で小群に分類したのと同様に2ないし3棟を単位とするE～G群に分類可能であると考える。E群はS I 4 9 の軸が異なるが、ほぼ直線的に竪穴住居を配しており、F群は「L」字状に配している。これらE・F群についても、A～C群と同様に空間に面していることが考えられるが、東側丘陵地が調査区域外となるため不明である。G群は小型の竪穴住居であるが、このことは、他の竪穴住居と離れた位置に配置されていることと何等かの関係があると考えられる。古墳時代後期前葉～中葉段階についても前段階と同様の住居配置が見られ、全体的に前段階より住居は大型化する傾向がある。この段階で新たにH群が見られる。H群は調査地南端に配されており、その北側でS D 0 1 を検出している。よって、H群はE～G群とはS D 0 1 により区別された、別の単位群であると考えられる。

なお、前段階で見られたS I 0 8 が、この時期にまで存続しているとは考え難い。しかし、C群自体は存続しており、C群の性格が変化してきていると考えられる。

古墳時代後期後葉段階においても前段階までと同様の住居配置である。しかし、全体的に閑散とした状況が窺え、集落の衰退期であると考えられる。しかし、I群が調査地南東部に見られるようになり、E・F群が見られた場

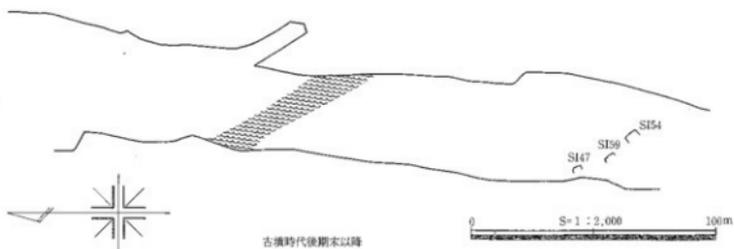
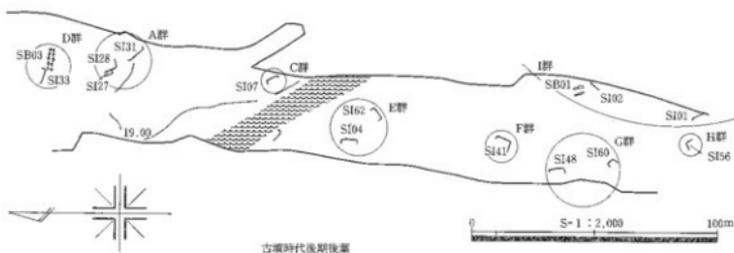
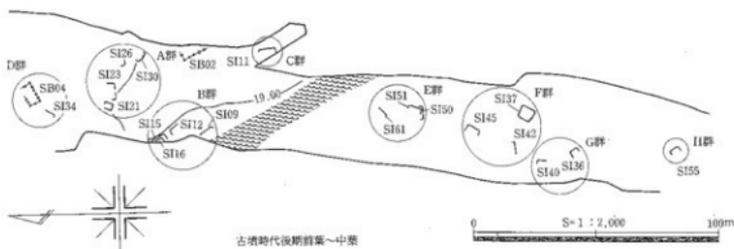
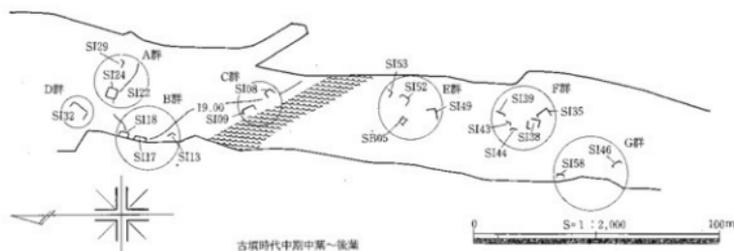
所に竪穴住居が見られないことと考え併せて、集落全体が東側に移動したことが想定される。このことは、続く段階で顕著に現れており、古墳時代後期末以降は集落としての機能を失っている。

次に、竪穴住居と関連する掘立柱建物について考えてみたい。今回確認できた掘立柱建物跡は5棟にとどまった。調査地内には多数のピットが存在しており、それらの中には掘立柱建物の柱穴も含まれる可能性があるが、互いに対応するピットが見られないため、ここでは5棟についてふれることにする。まず確認できた掘立柱建物跡の時期であるが、いずれも時期決定の資料を欠くものである。柱穴内から出土した遺物は、土師器片・須恵器片であり、また、古墳時代前期に位置づけられる遺物が今回の調査で出土していないため、掘立柱建物はいずれも古墳時代中期以降のものであるといえる。検出できた場所を見ると、SB01はI群、SB02はA群もしくはC群、SB03・04はD群、SB05はE群の竪穴住居にそれぞれ近い位置にある。これらの内、SB01はI群が現れる古墳時代後期後葉の時期を想定することができる。大型のSB02については、柱穴内から須恵器片が出土しており、古墳時代後期以降のものと考えるが、古墳時代中期中葉～後葉にC群で見られたSI08と同様の性格を持つものが続く時期には見られないため、倉庫的な性格を兼ね併せた居館的な可能性があるものとして、後期前葉以降存続したと考えたい。同じく大型のSB04についても、中期中葉～後葉段階において大型の竪穴住居であったD群が建て替えに伴い縮小していることと、後期前葉～中葉段階において、他の竪穴住居が大型化する傾向にある中で、小型のままであることを考えると、大型の竪穴住居に代わるものとして、後期前葉～中葉に建てられたことが考えられる。SB03・05については周囲の竪穴住居との関係から、それぞれ古墳時代後期後葉D群、中期中葉～後葉E群に含まれるものであろう。

以上、百塚第5遺跡における古墳時代中期中葉以降の集落について簡単に所感を述べた。この集落は古墳時代後期末には集落としての機能を失っている。その後は、谷部南側のピット内から出土した土器に鎌倉時代と考えるものがあり、谷部北側では鎌倉時代と考える地下式横穴を検出していることから、掘立柱建物跡等は確認できなかったが、この時代に集落として、また墓地として利用していることが推定される。

本来であれば、百塚第5遺跡周辺に存在する同時代の集落、これらの集落で暮らした人々が築いたと考えられる古墳群とを併せて検討することが必要であるが、調査員の力量不足と時間的制約から、事実報告だけにとどまってしまう、今後の調査研究に委ねる課題を多く残してしまった。ただ、本書に納めた内容が今後の研究の一助となれば幸いである。

最後に、調査の実施、報告書作成にあたり、指導・助言・協力をいただいた各位に深く感謝の意を表します。



挿圖195 百塚第5遺跡時期別
竪穴住居配置図